

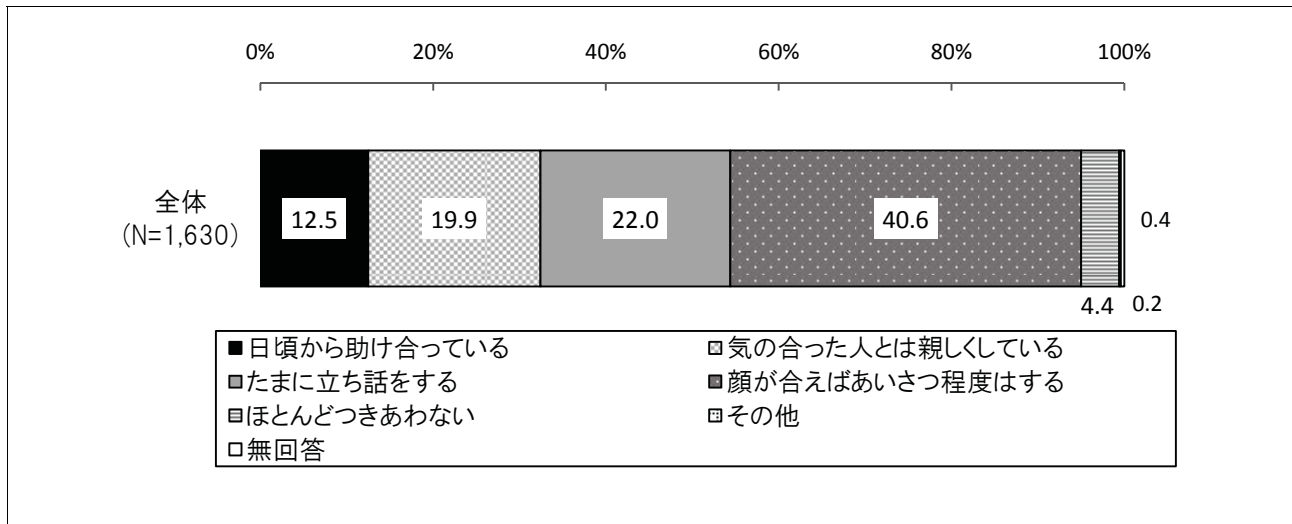
IV 調查結果

IV 調査結果

「富士市地域福祉計画、富士市社会福祉協議会地域福祉活動計画」策定に関する市民アンケート

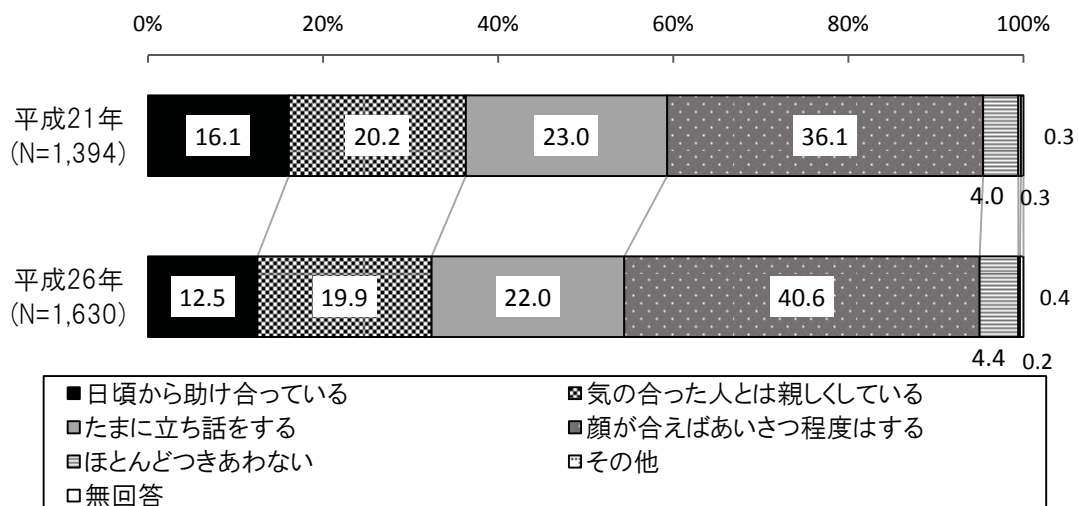
<地域生活に関すること>

問1 あなたは、普段ご近所の方と、どの程度のおつきあいをしていますか。(○は1つだけ)



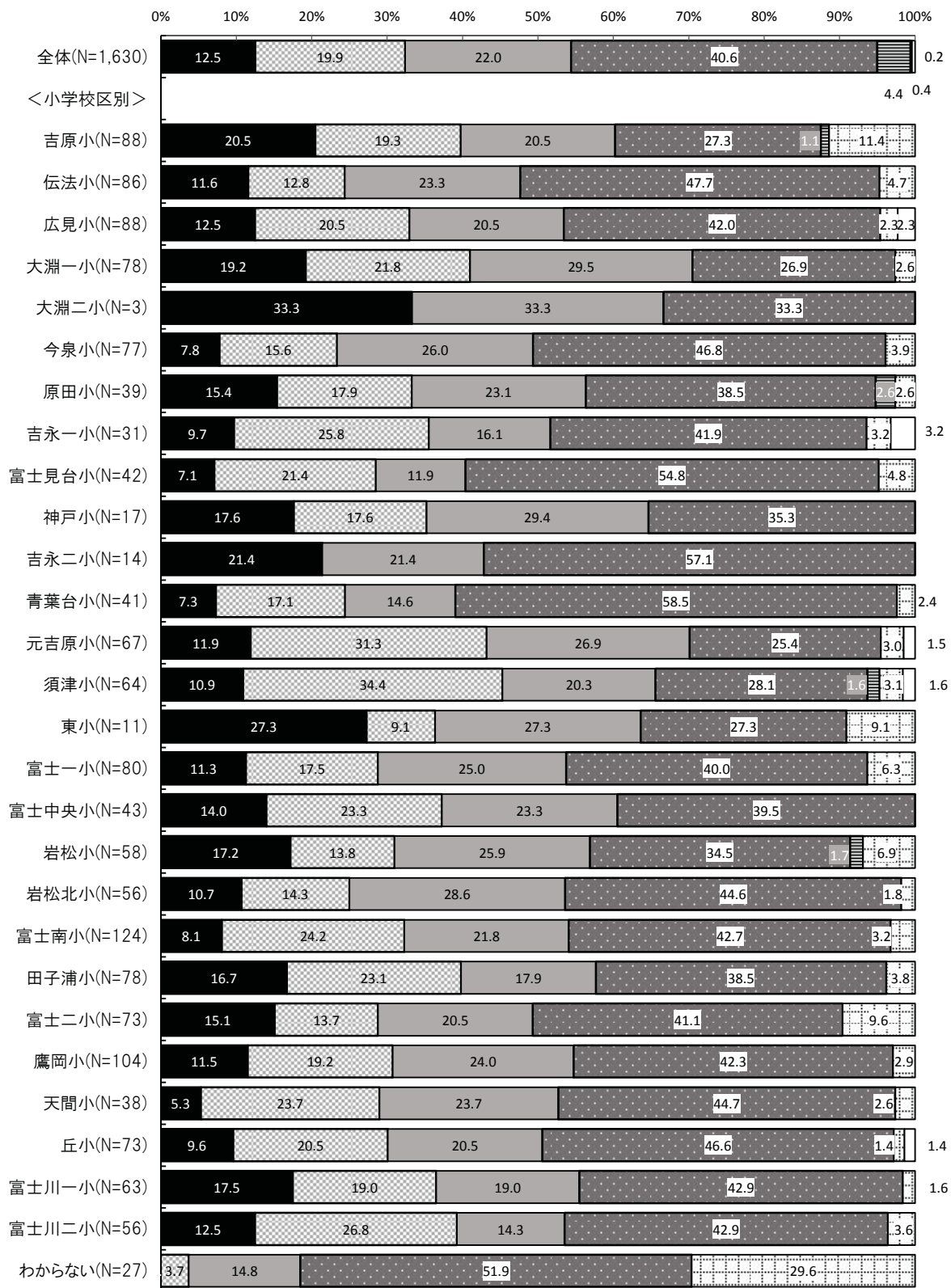
「顔が合えばあいさつ程度はする」が40.6%と最も高く、次いで「たまに立ち話をする」が22.0%、「気の合った人とは親しくしている」が19.9%となっている。

【経年変化】



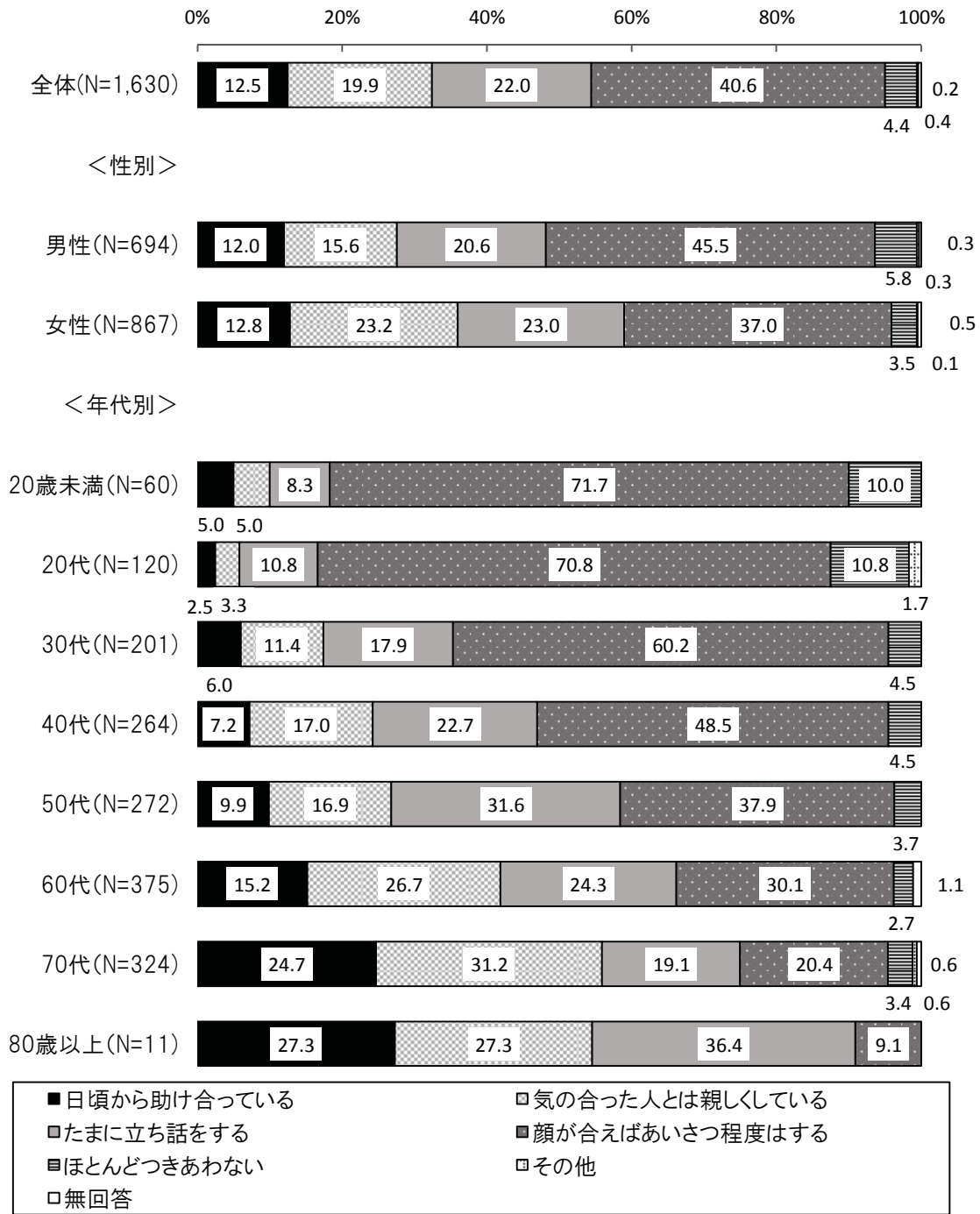
前回の調査結果と比較すると、「日頃から助け合っている」は、平成21年が16.1%、平成26年が12.5%と、3.6ポイント低くなっている。「顔が合えばあいさつ程度はする」は、平成21年が36.1%、平成26年が40.6%と、4.5ポイント高くなっている。

【小学校区別】



- 日頃から助け合っている
- たまに立ち話をする
- ▨ その他
- 無回答
- 気の合った人とは親しくしている
- ▨ 顔が合えばあいさつ程度はする
- ほとんどつきあわない

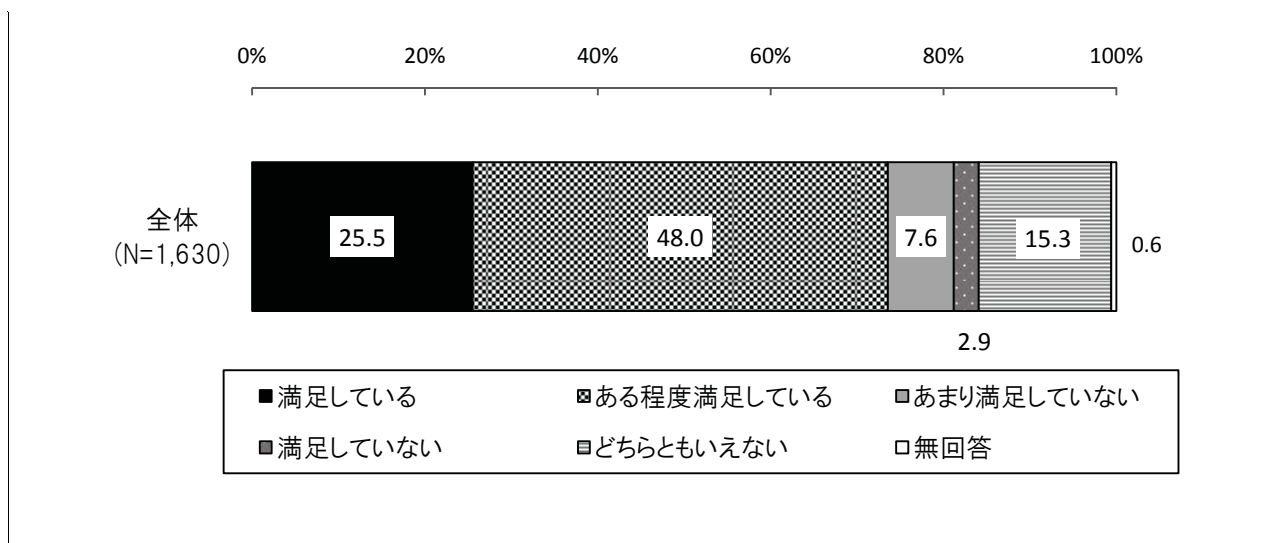
【性別・年代別】



性別で見ると、「顔が合えばあいさつ程度はする」は男性が45.5%、女性が37.0%となっており、男性の方が女性より高く、「気の合った人とは親しくしている」は男性が15.6%、女性が23.2%となっており女性の方が高い。

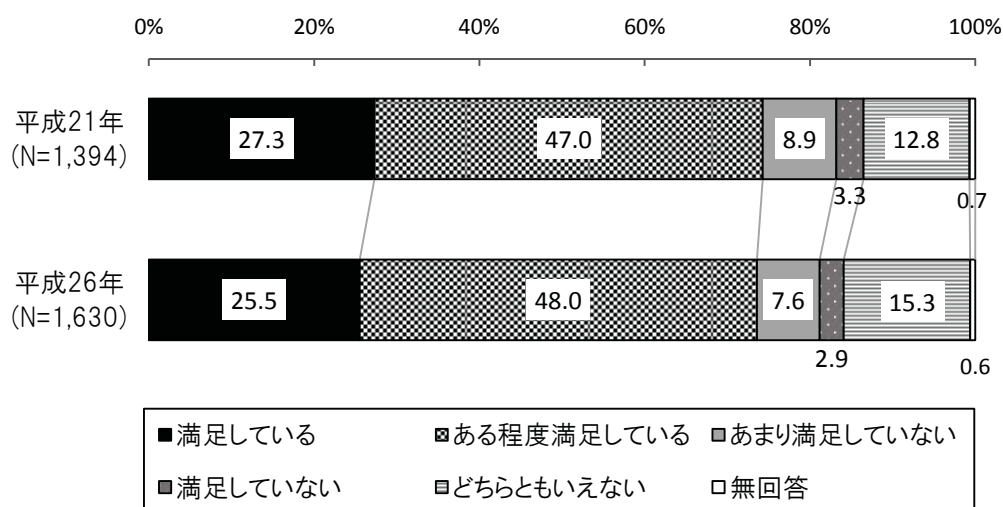
年代別で見ると、「日頃から助け合っている」は若年層ほど低い傾向になっている。「気の合った人とは親しくしている」については、高齢層ほど高い傾向になっている。

問2 あなたは、今の近所づきあいに満足していますか。(○は1つだけ)



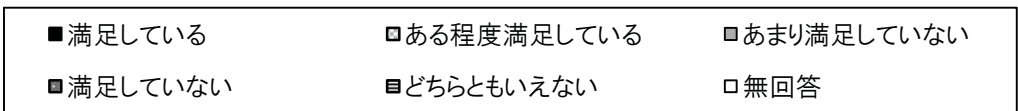
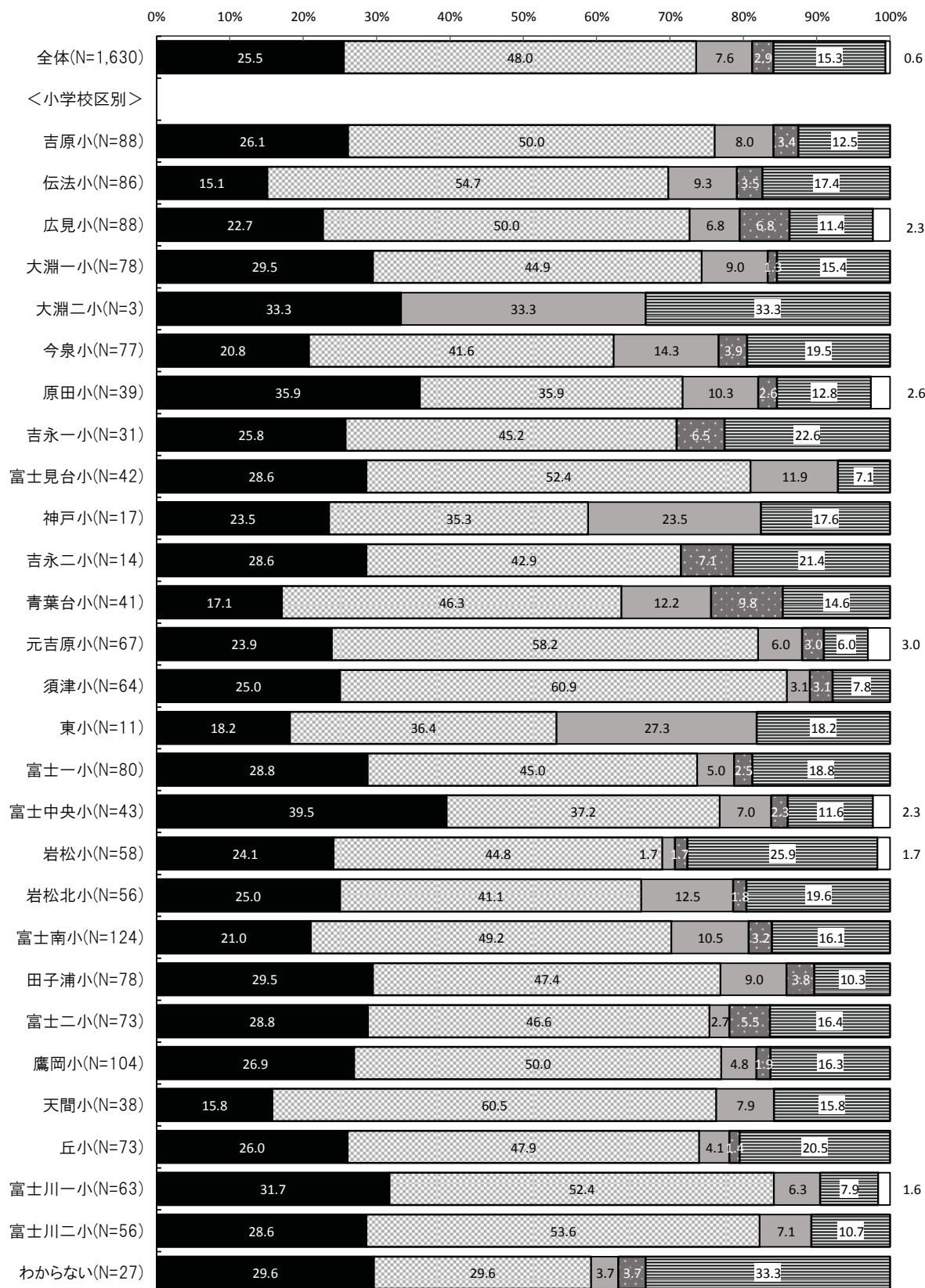
「満足している」が25.5%、「ある程度満足している」が48.0%で、これらを合わせた“満足度”は73.5%となっている。

【経年変化】

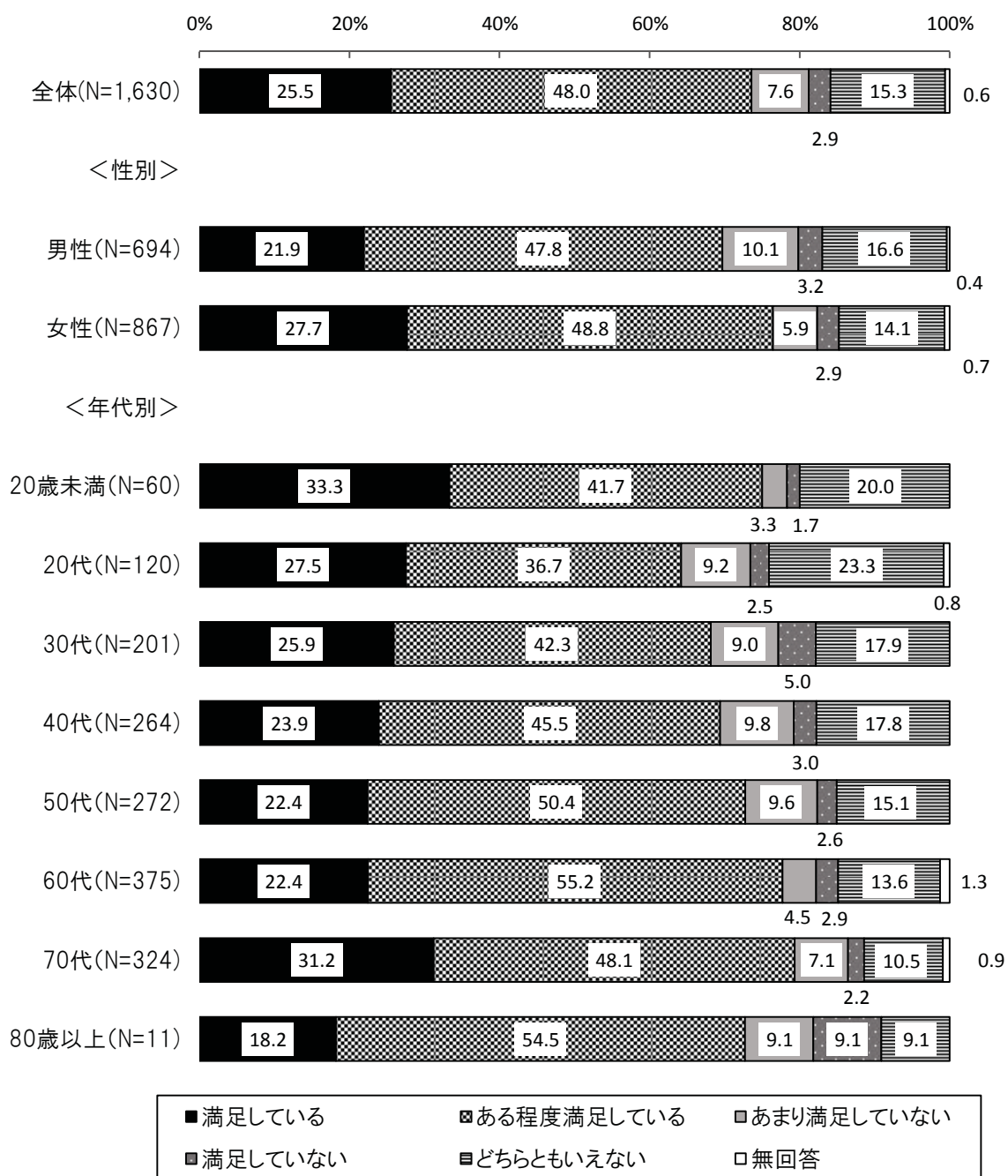


前回の調査結果と比較すると、平成21年は「満足している」については27.3%、「ある程度満足している」については47.0%で、これらを合わせた“満足度”は74.3%であった。平成26年は平成21年とほぼ同様の傾向となっている。

【小学校区別】



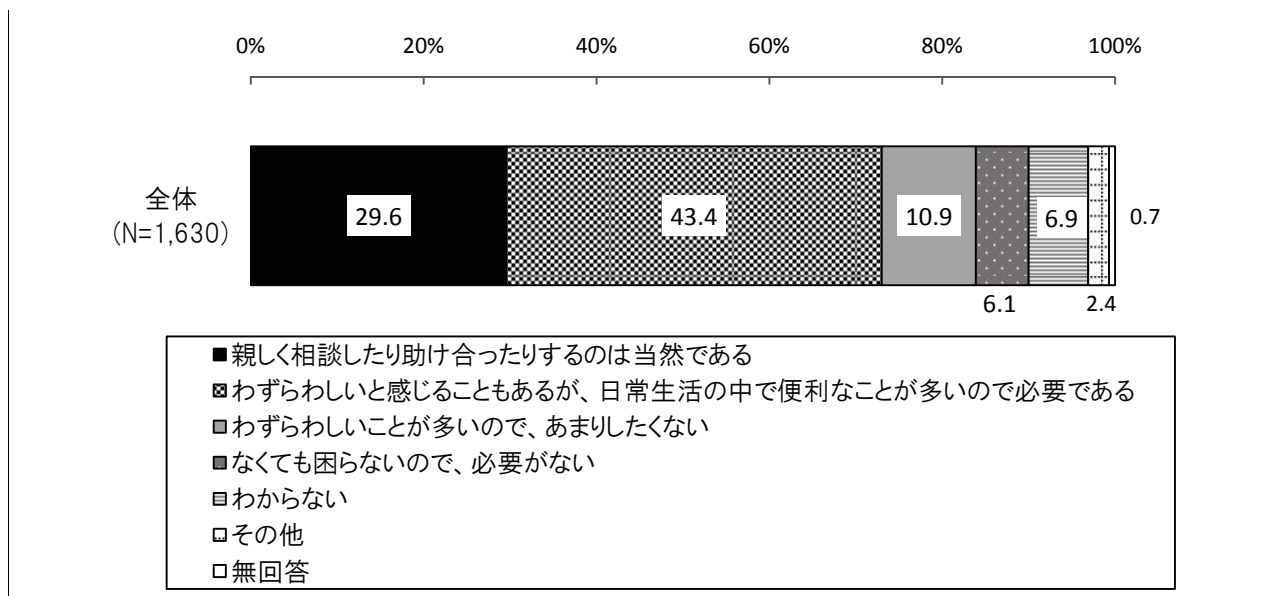
【性別・年代別】



性別で見ると、「満足している」は男性が21.9%、女性が27.7%、「ある程度満足している」は男性が47.8%、女性が48.8%、これらを合わせた“満足度”は男性が69.7%、女性が76.5%となっている。

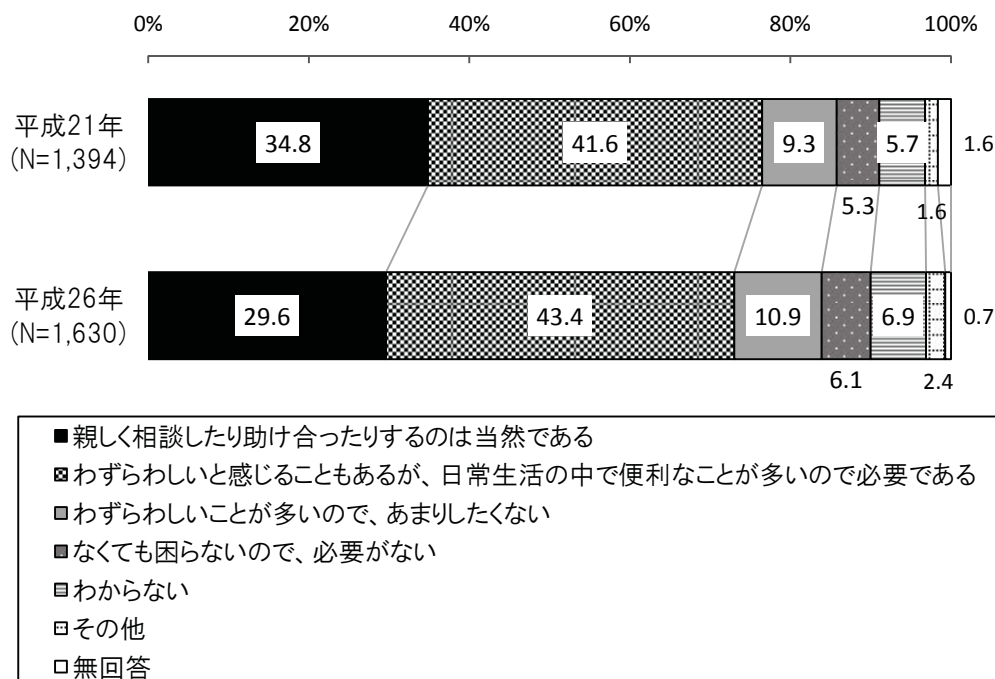
年代別で見ると、高齢層ほど「ある程度満足している」が高い傾向にあり、70代では「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた“満足度”が72.7%で最も高い。

問3 あなたの近所づきあいの考え方は、次のどれに近いですか。（○は1つだけ）



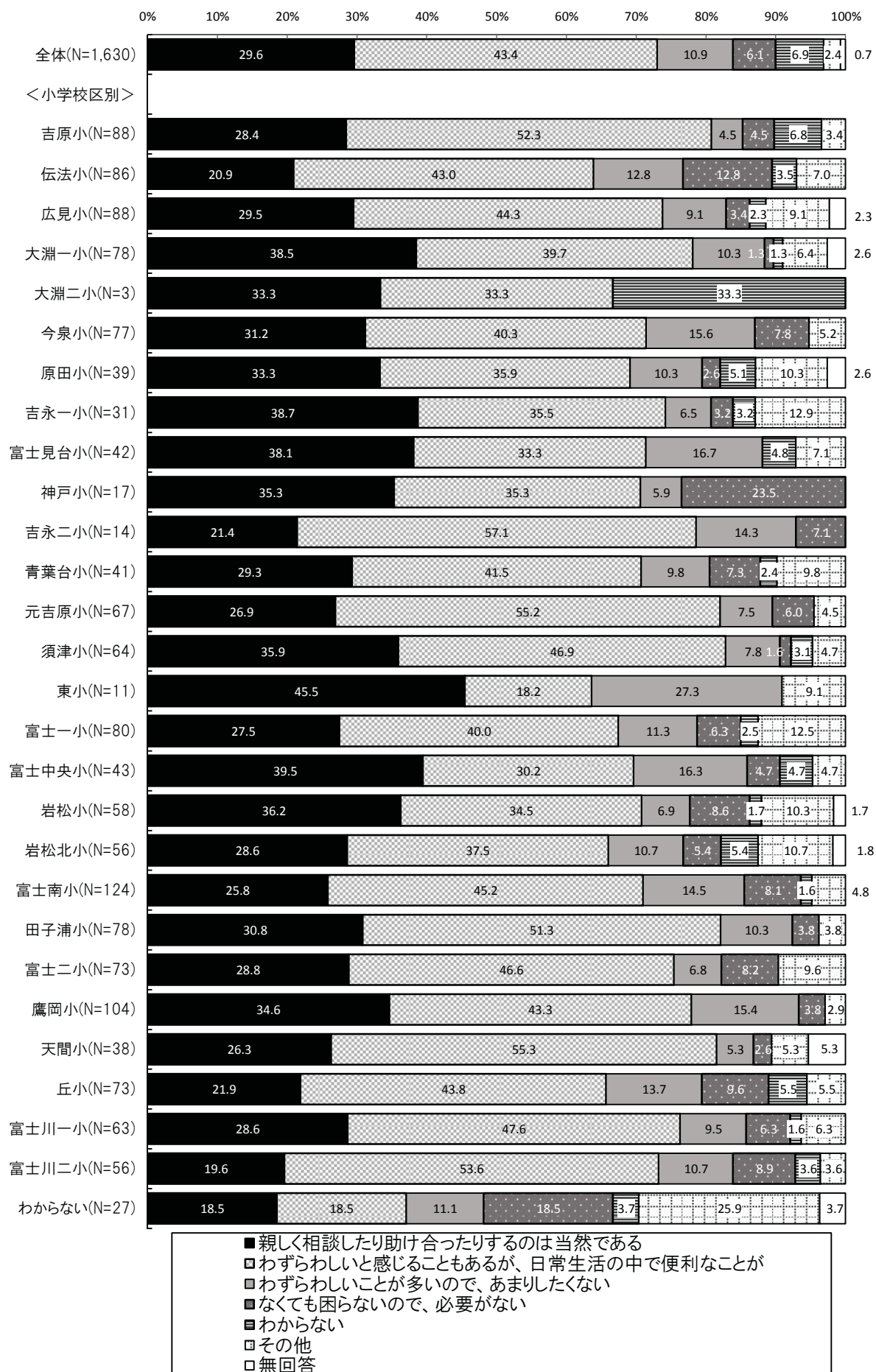
「わずらわしいと感じることもあるが、日常生活の中で便利なことが多いので必要である」が最も高く43.4%、次いで「親しく相談したり助け合ったりするのは当然である」が29.6%となっている。

【経年変化】

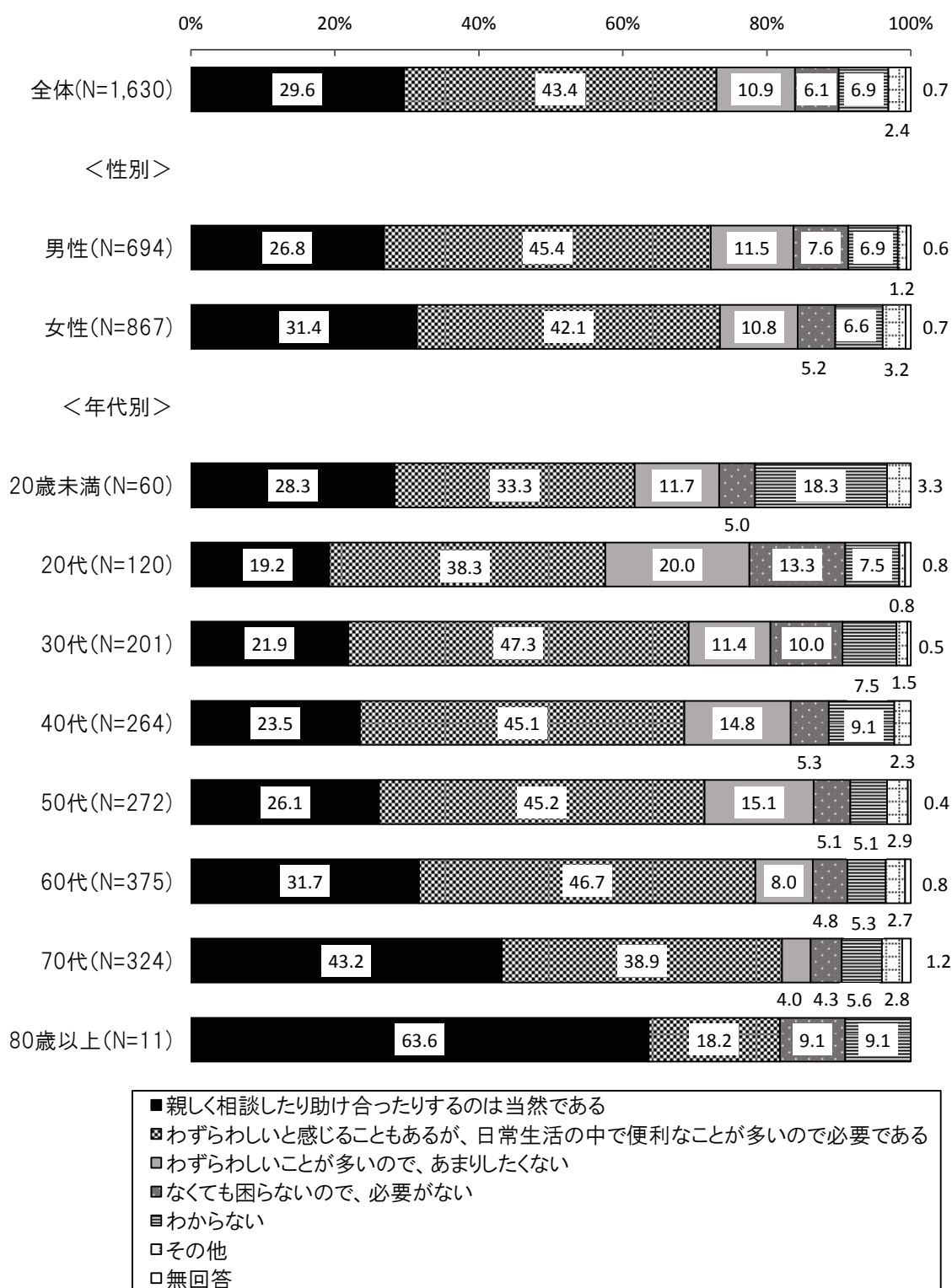


前回の調査結果と比較すると、「わずらわしいと感じることもあるが、日常生活の中で便利なことが多いので必要である」は平成21年と平成26年ともに最も高く、平成21年は41.6%、平成26年は43.4%となっている。「親しく相談したり助け合ったりするのは当然である」は平成21年が34.8%、平成26年が29.6%と、平成21年より5.2ポイント低くなっている。

【小学校区別】



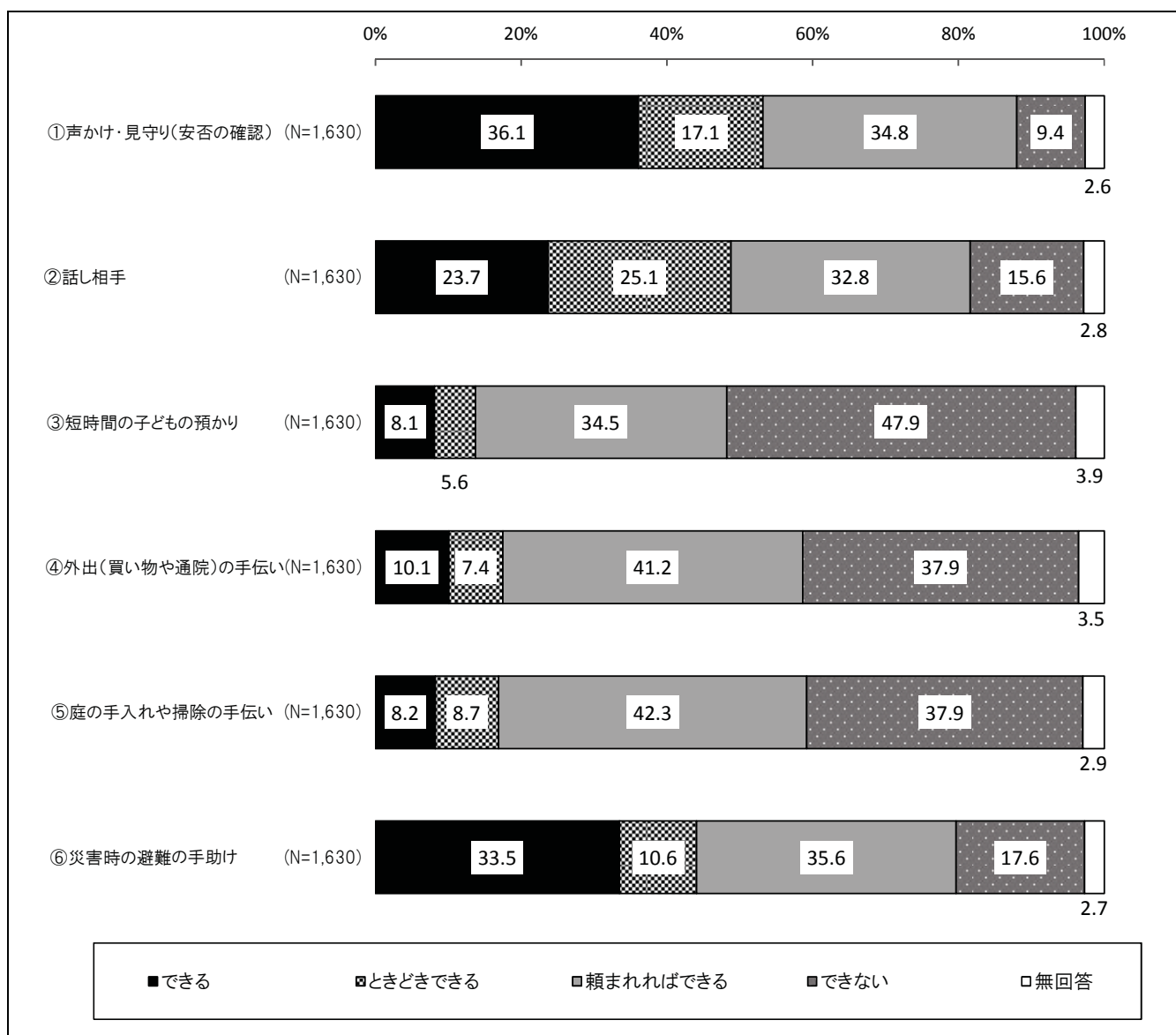
【性別・年代別】



性別でみると、「わずらわしいと感じることもあるが、日常生活の中で便利なことが多いので必要である」は男女ともにトップで、男性が45.4%、女性が42.1%となっている。

年代別でみると、「親しく相談したり助け合ったりするのは当然である」は20代では19.2%だが、20代以上では年代が高くなるにつれ割合が高くなり70代では43.2%となっている。

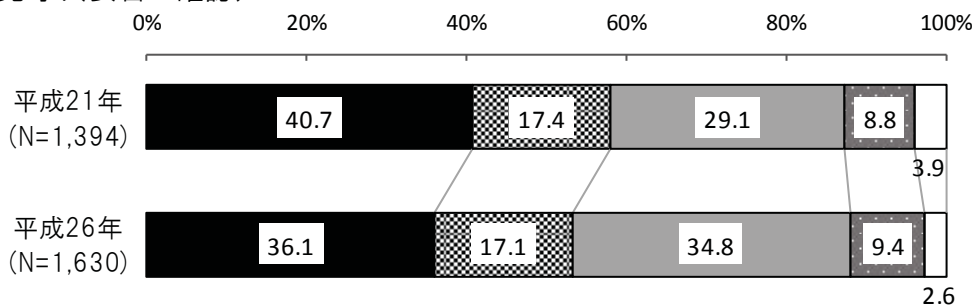
問4 あなたが、「こんなことであれば私にもできる」と思うことはありますか。
 (それぞれ〇は1つずつ)



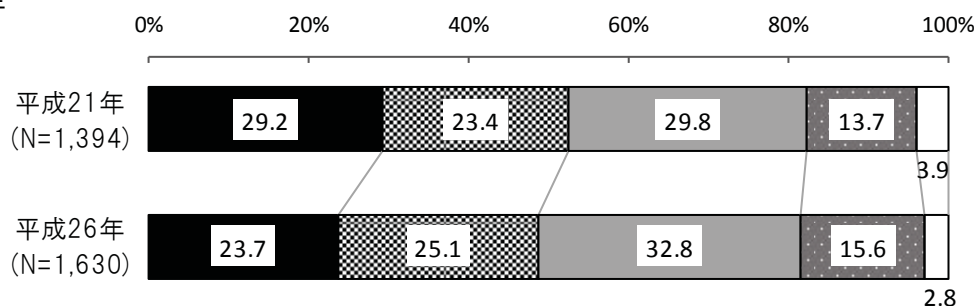
「できる」の割合が高かった項目は「①声かけ・見守り(安否の確認)」が36.1%、「⑥災害時の避難の手助け」が33.5%となっている。また、「できない」の割合が高かった項目は「③短時間の子どもの預かり」が47.9%となっている。

【経年変化】

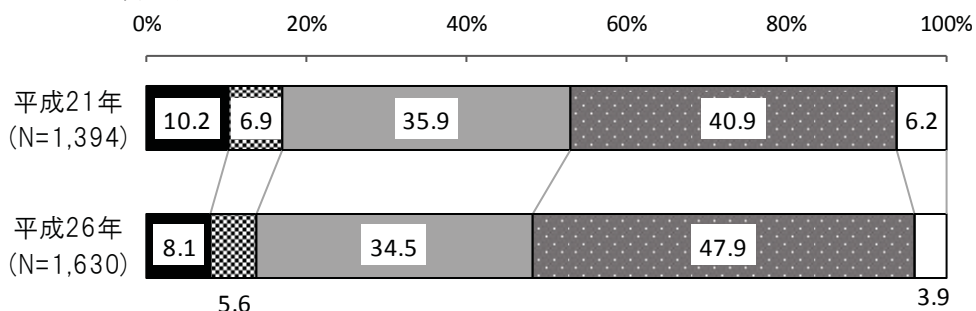
①声かけ・見守り(安否の確認)



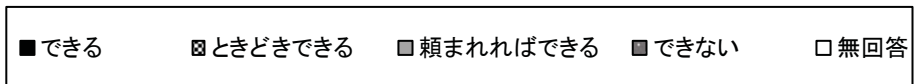
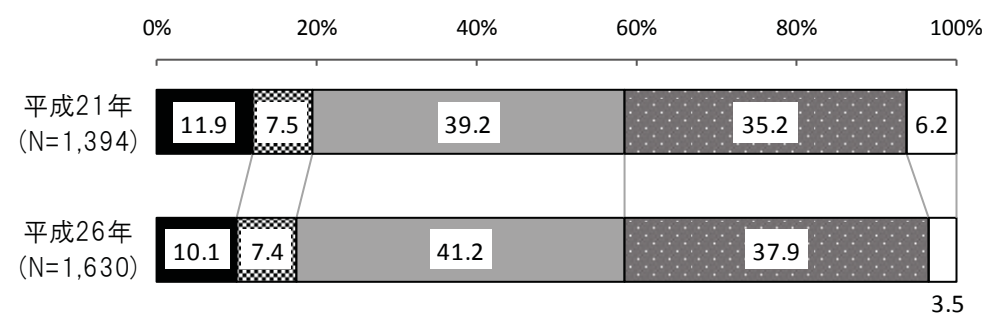
②話し相手



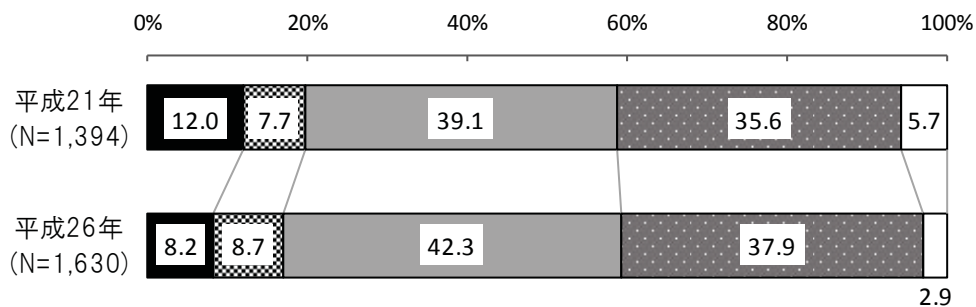
③短時間の子どもの預かり



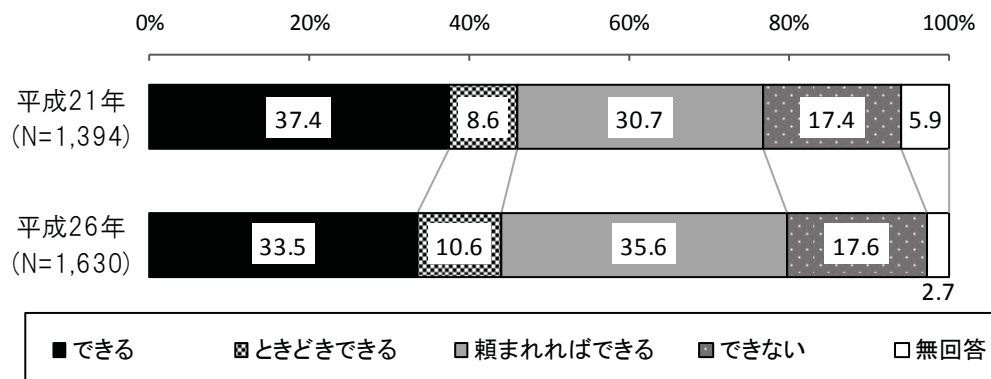
④外出(買い物や通院)の手伝い



⑤庭の手入れや掃除の手伝い

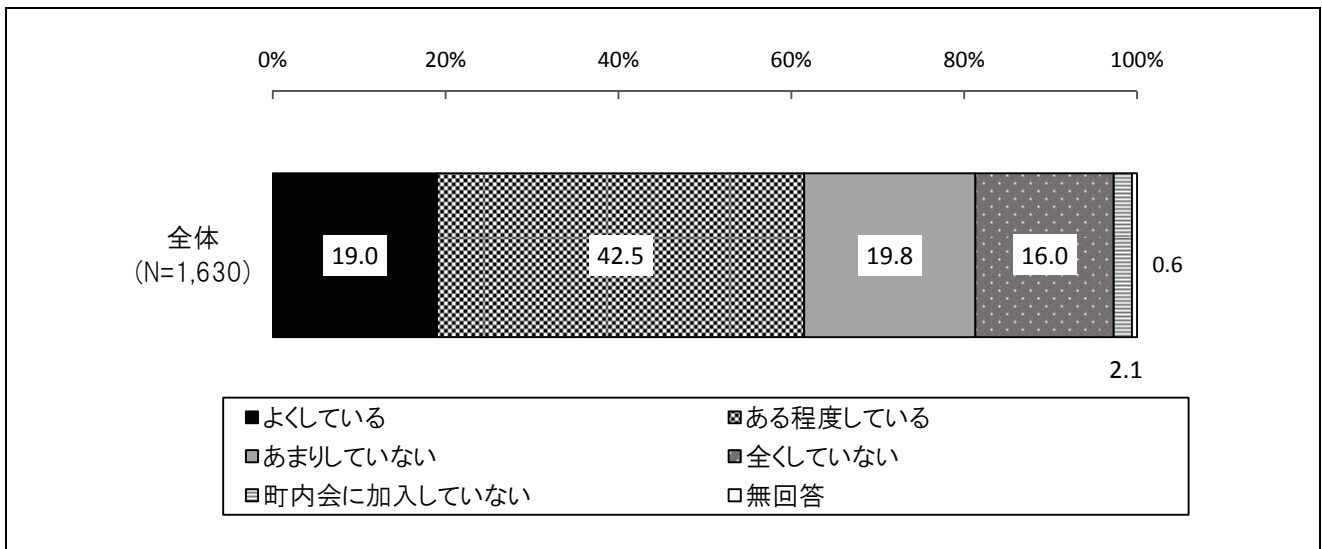


⑥災害時の避難の手助け



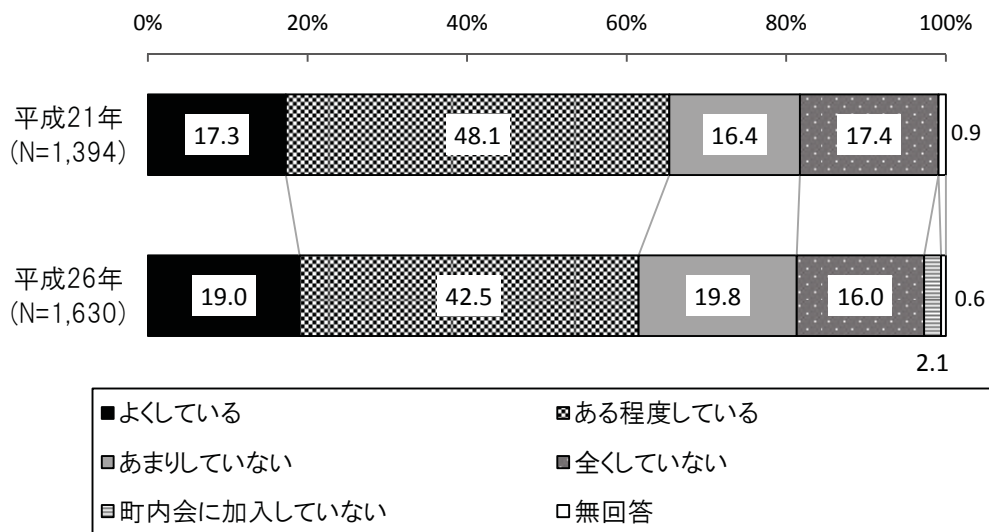
前回の調査結果と比較すると、「①声かけ・見守り（安否の確認）」は「できる」の項目について、平成21年が40.7%、平成26年が36.1%と、4.6ポイント低くなっている。「③短時間の子どもの預かり」は「できない」の項目について、平成21年が40.9%、平成26年が47.9%と、7.0ポイント高くなっている。

問5 あなたは現在、地域内の行事や町内会活動（祭り、清掃・美化、運動会、防災訓練等）に参加・協力していますか。（○は1つだけ）



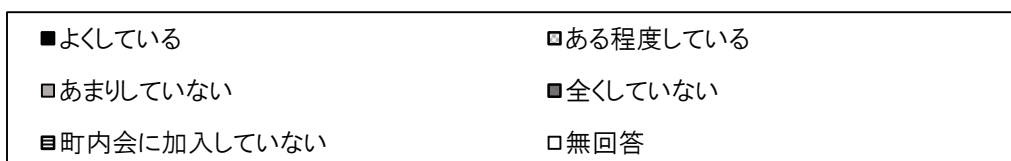
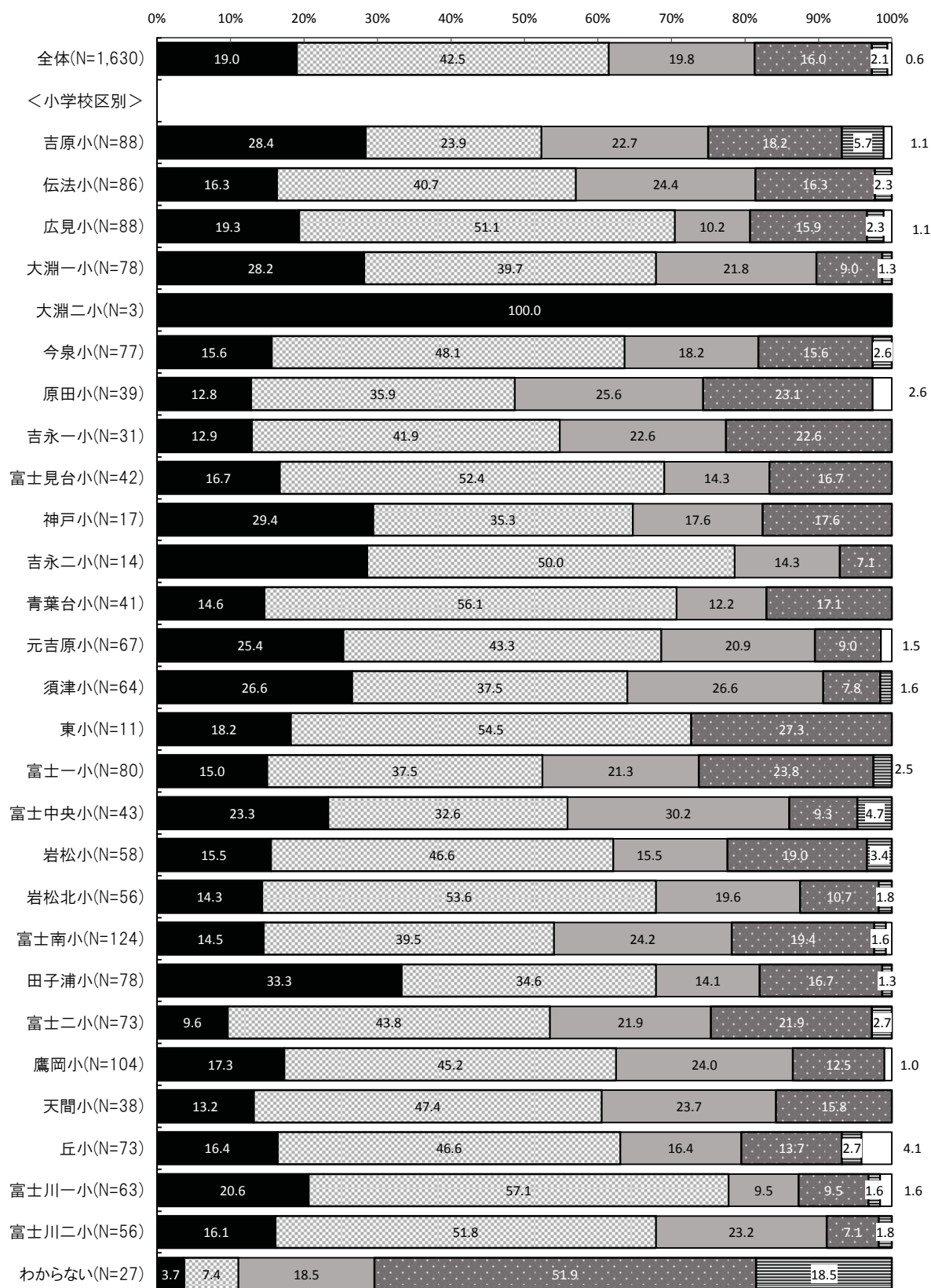
「よくしている」が19.0%、「ある程度している」が42.5%で、これらを合わせた“活動をしている人”は61.5%となっている。

【経年変化】

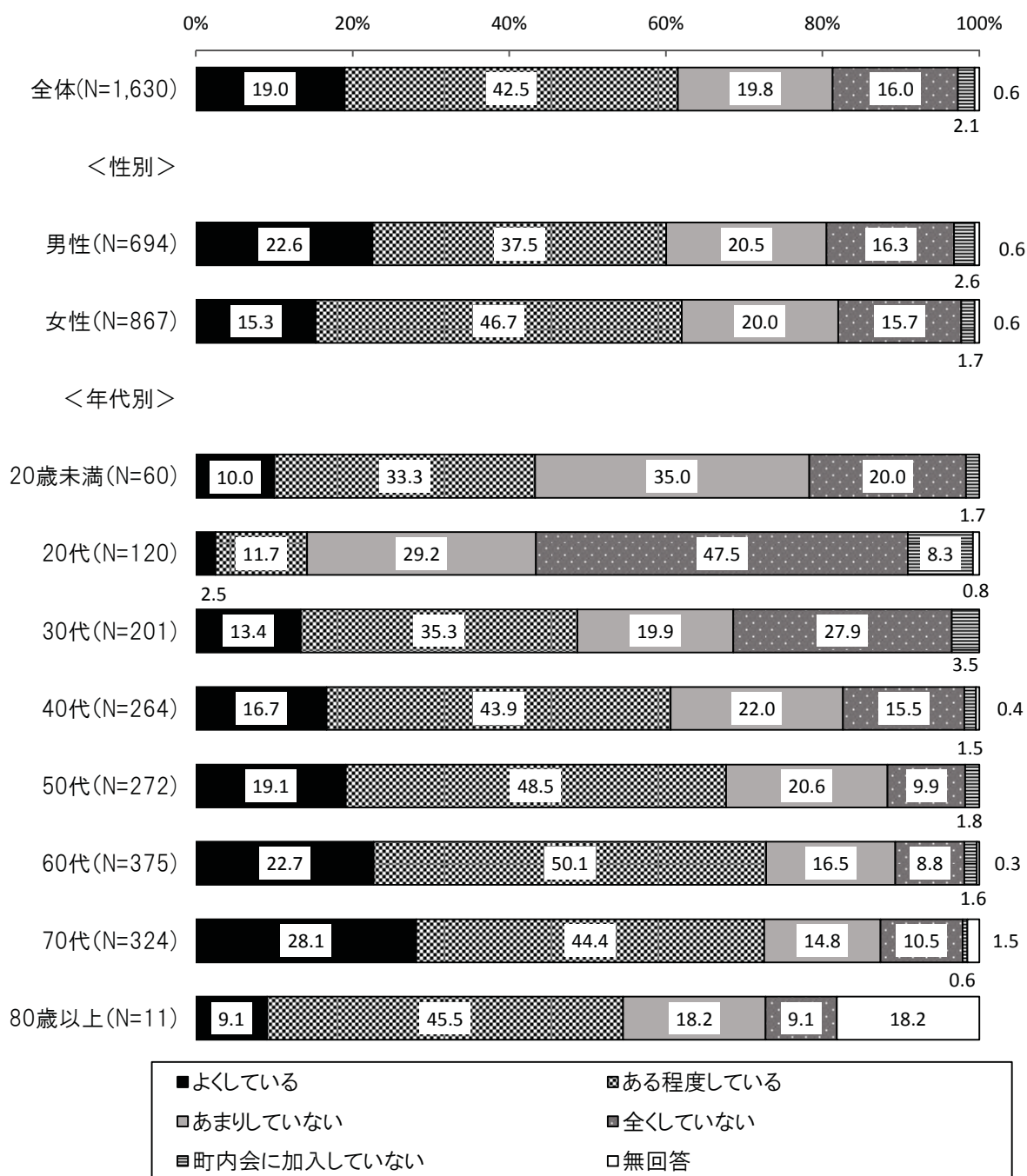


前回の調査結果と比較すると、平成21年は「よくしている」が17.3%、「ある程度している」が48.1%で、これらを合わせた“活動をしている人”は65.4%となっていた。“活動をしている人”については、平成21年より平成26年は3.9ポイント低くなり、「あまりしていない」が3.4ポイント高くなっている。

【小学校区別】



【性別・年代別】

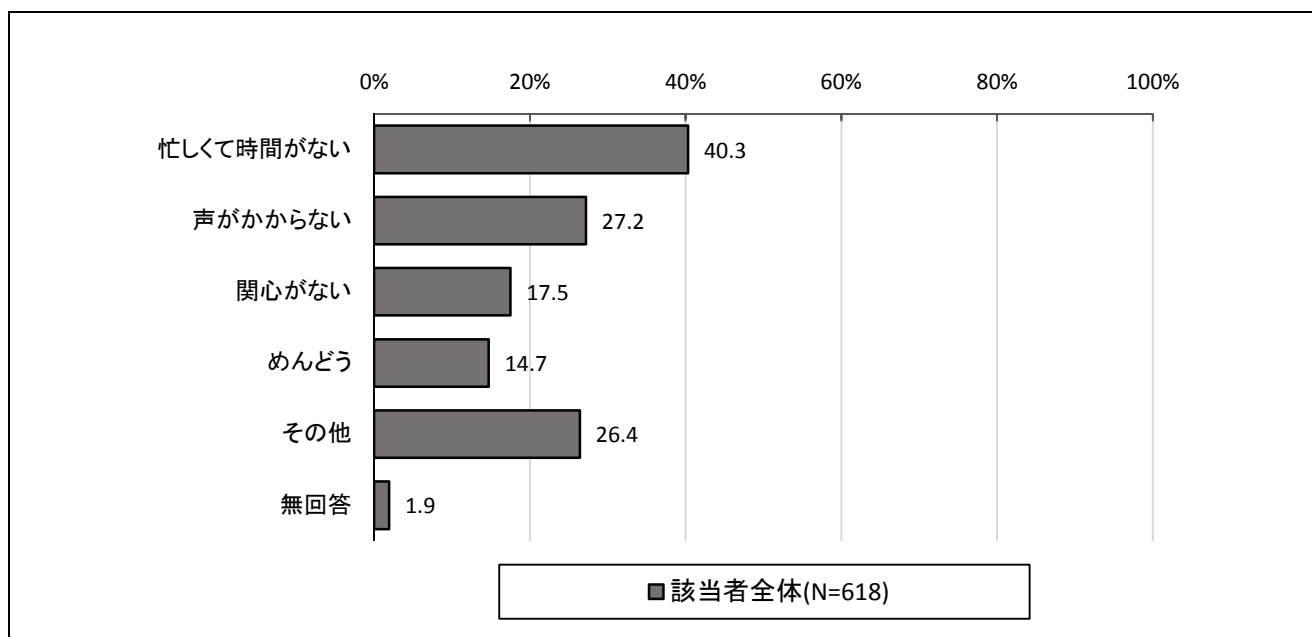


性別で見ると、「よくしている」は男性が 22.6%、女性が 15.3%、「ある程度している」は男性が 37.5%、女性が 46.7%で、これらを合わせた“活動をしている人”は男性が 60.1%、女性が 62.0%と、いずれも 6 割を超えている。

年代別で見ると、「よくしている」は 70 代が最も高く 28.1%、一方 20 代は最も低く 2.5%に留まった。「よくしている」と「ある程度している」を合わせた“活動をしている人”は、60 代では 72.8%、70 代では 72.5%、50 代では 67.6%となっており、地域内行事の参加・協力は 50 代～70 代が中心となっている。

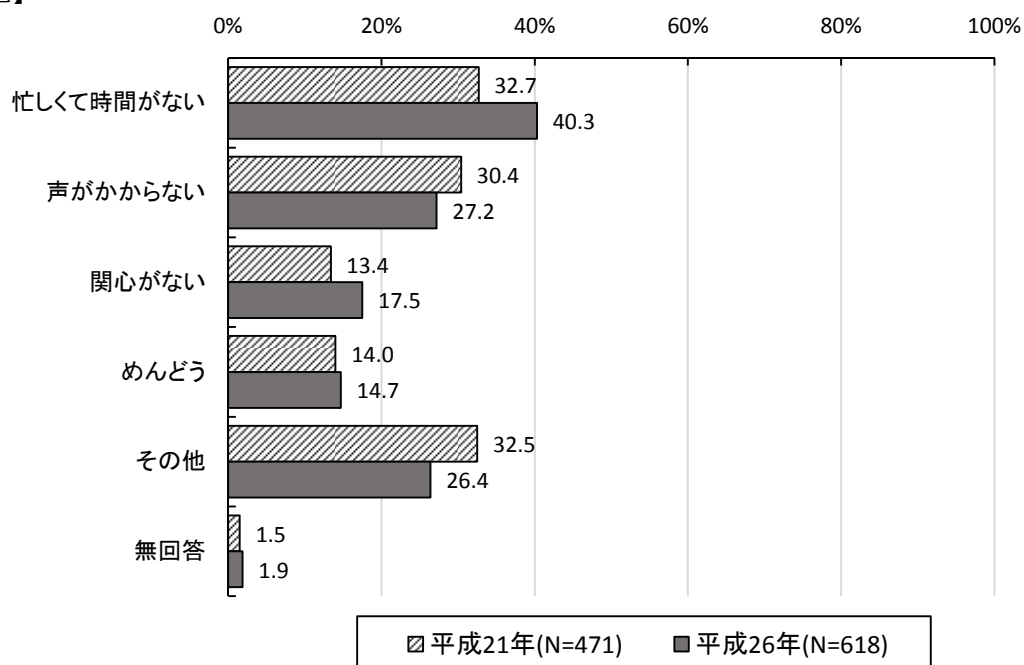
問5で「3 あまりしていない」、「4 していない」と回答した方に伺います。

問5.1 その理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



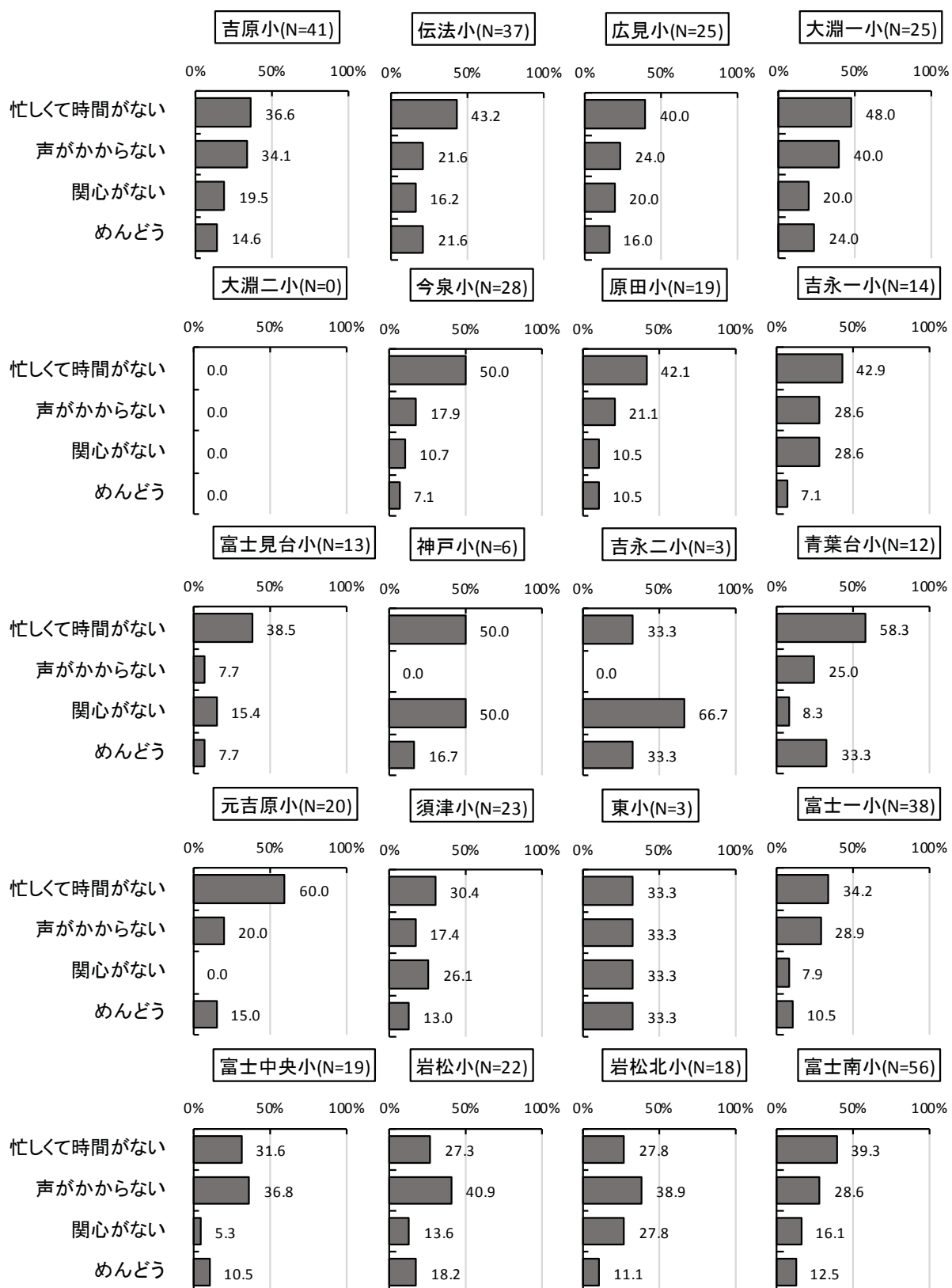
「忙しくて時間がない」が最も高く 40.3%、次いで「声がかからない」が 27.2%となっている。また、その他については、「自分ではない家族が代表で出ているから」と「体が不自由だから」の意見が多かった。

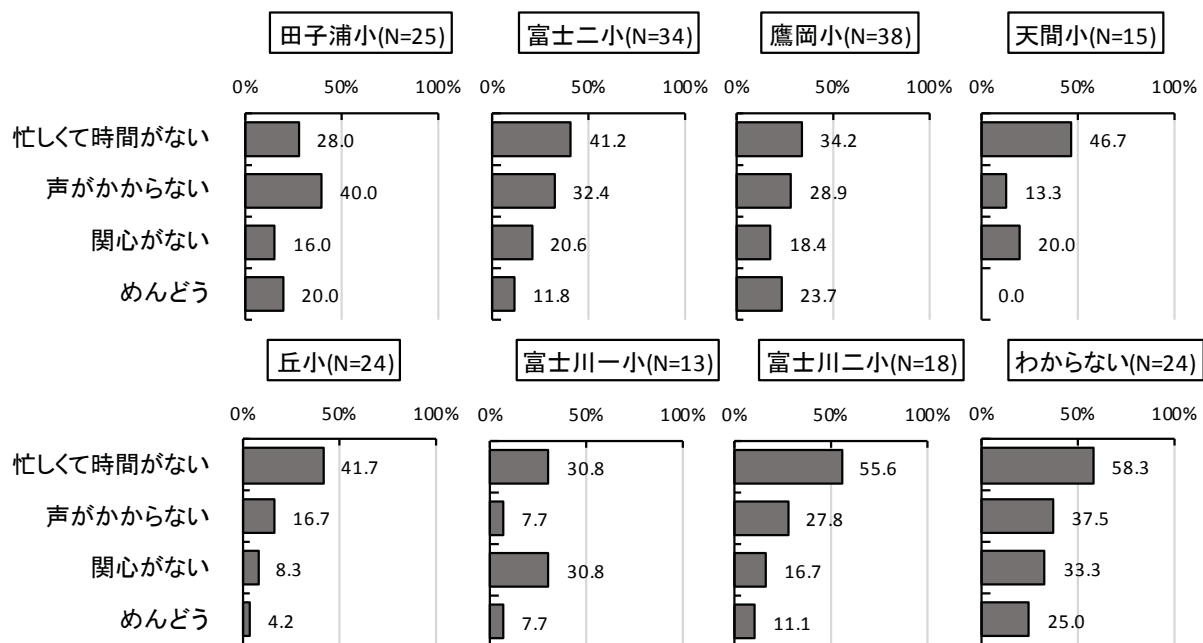
【経年変化】



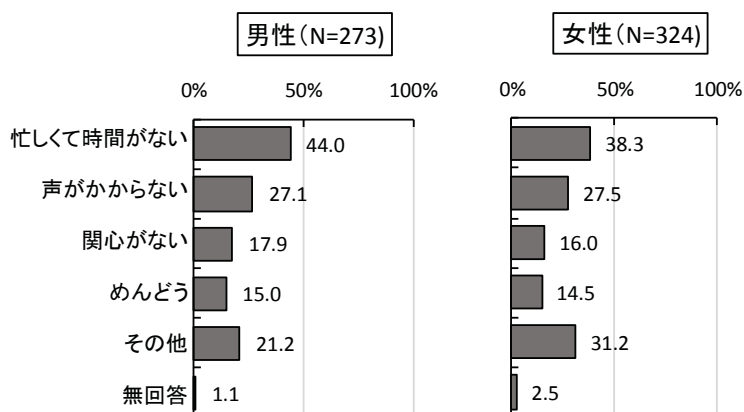
前回の調査結果と比較すると、「忙しくて時間がない」は平成 21 年が 32.7%、平成 26 年が 40.3%と、平成 21 年より 7.6 ポイント高くなっている。「関心がない」は、平成 21 年が 13.4%、平成 26 年が 17.5%と、平成 21 年より 4.1 ポイント高くなっている。

【小学校区別】

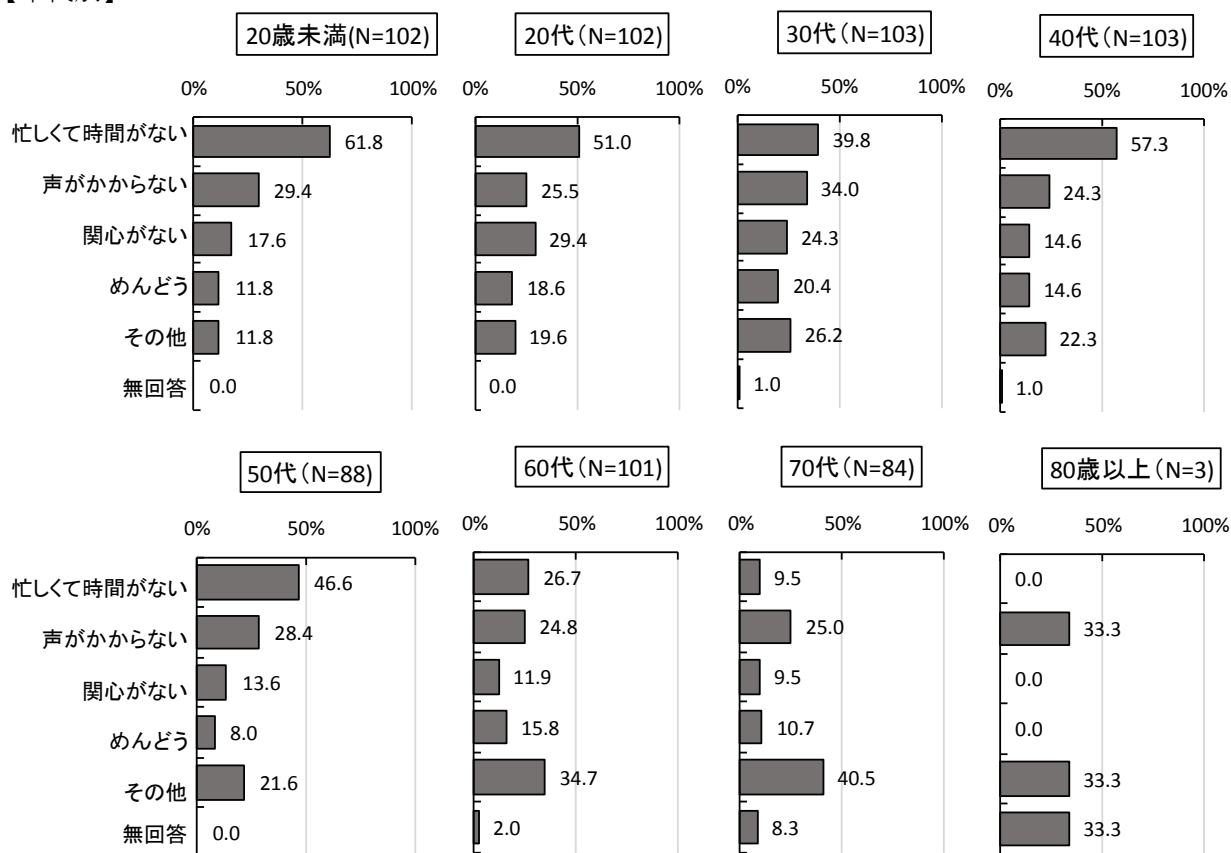




【性別】



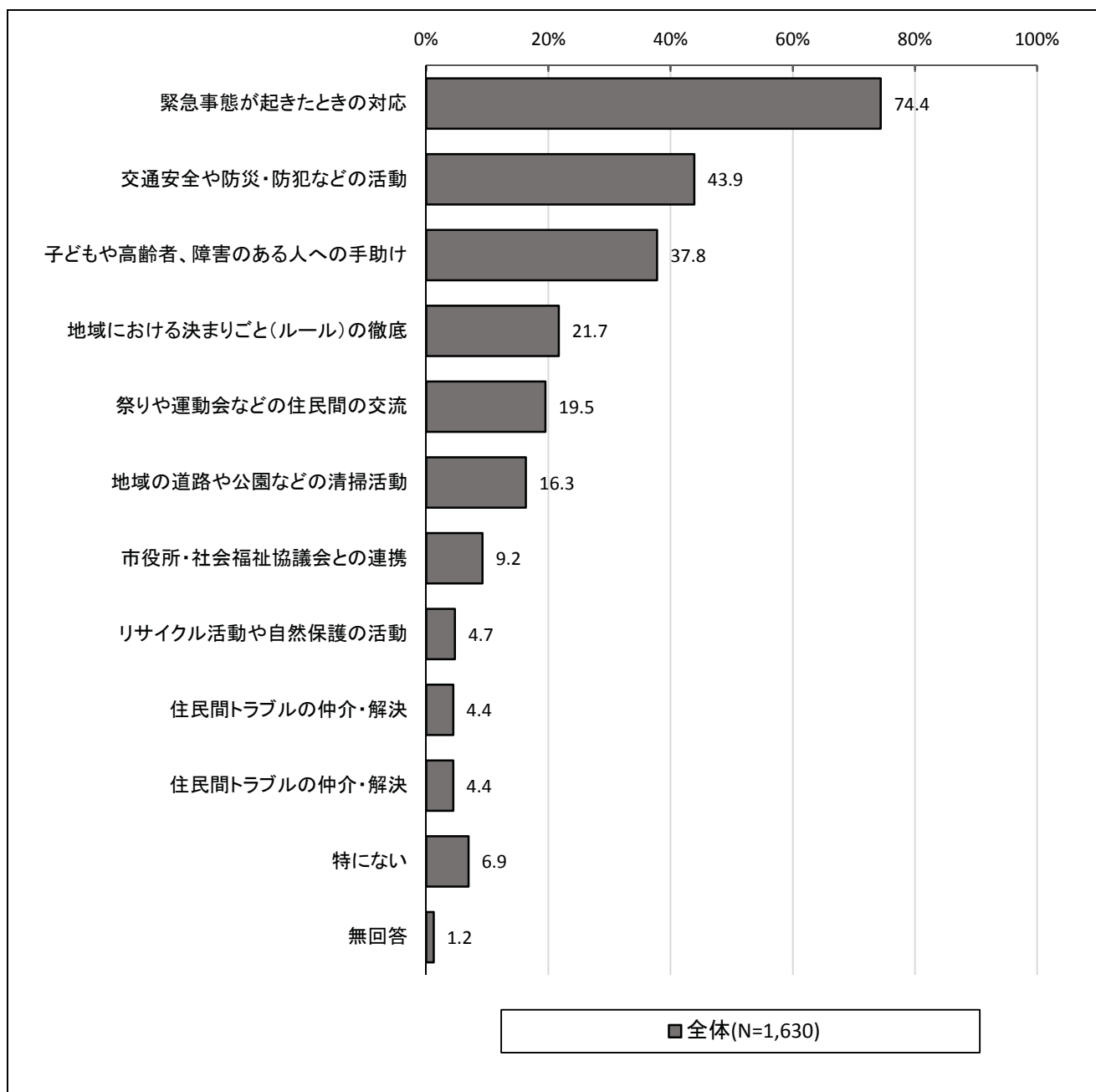
【年代別】



性別で見ると、「忙しくて時間がない」は、男性が44.0%、女性が38.3%となっている。「声がかからない」は、男性が27.1%、女性が27.5%となっている。

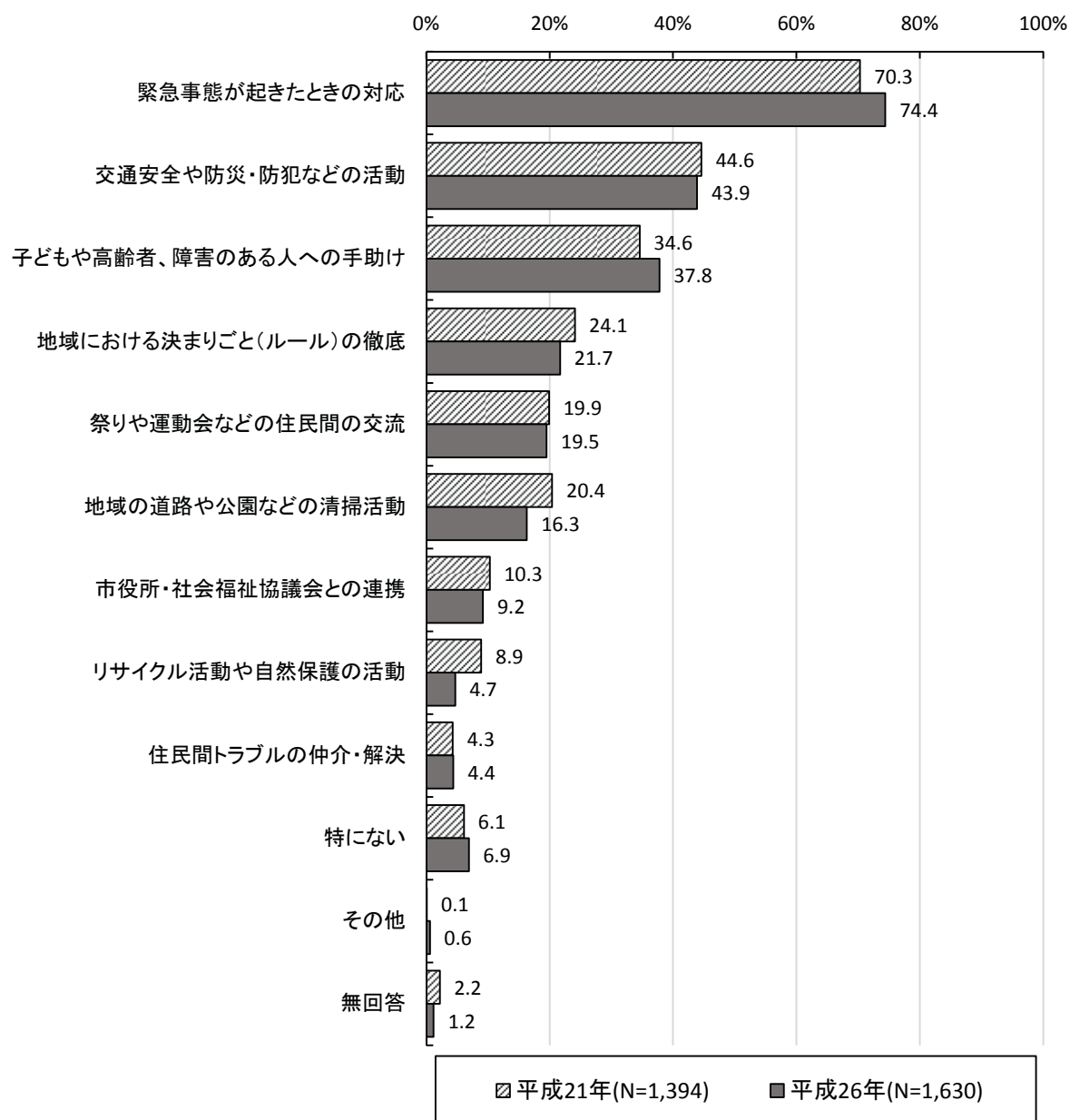
年代別で見ると、「忙しくて時間がない」は20歳未満が61.8%、40代が57.3%、20代が51.0%と、3つの世代で5割を超えている。

問6 あなたは、地域の役割についてどのようなことを期待しますか。(〇は3つまで)



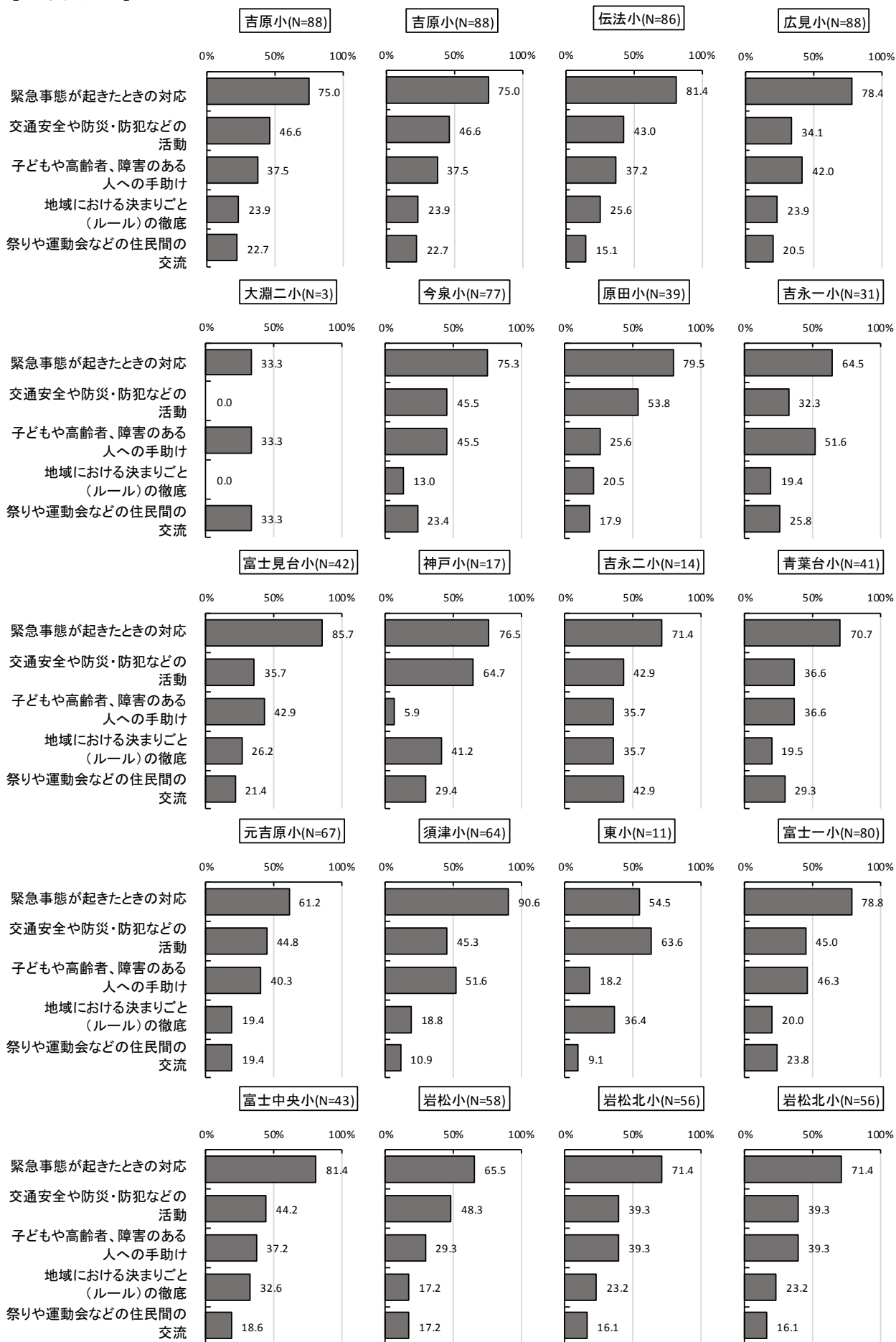
「緊急事態が起きたときの対応」が最も高く 74.4%と圧倒的。次いで、「交通安全や防災・防犯などの活動」が 43.9%、「子どもや高齢者、障害のある人への手助け」が 37.8%と続いている。

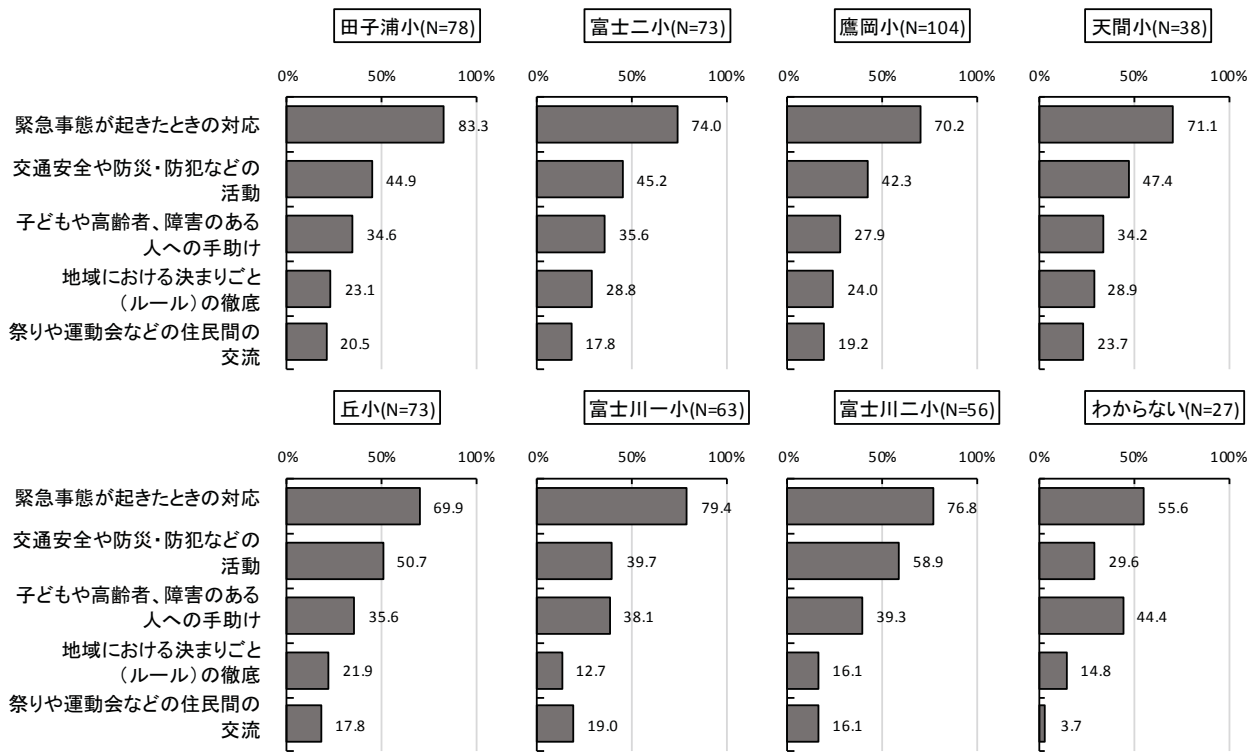
【経年変化】



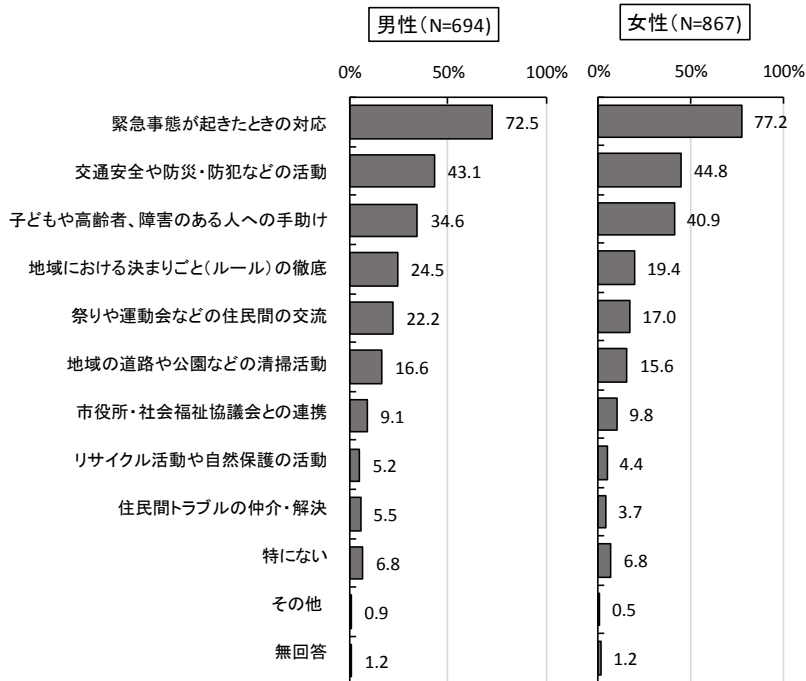
前回の調査結果と比較すると、「緊急事態が起きたときの対応」は平成 21 年が 70.3%、平成 26 年が 74.4%と、平成 21 年より 4.1 ポイント高くなっている。「地域の道路や公園などの清掃活動」は平成 21 年が 20.4%、平成 26 年が 16.3%と、平成 21 年より 4.1 ポイント低くなっている。

【小学校区別】

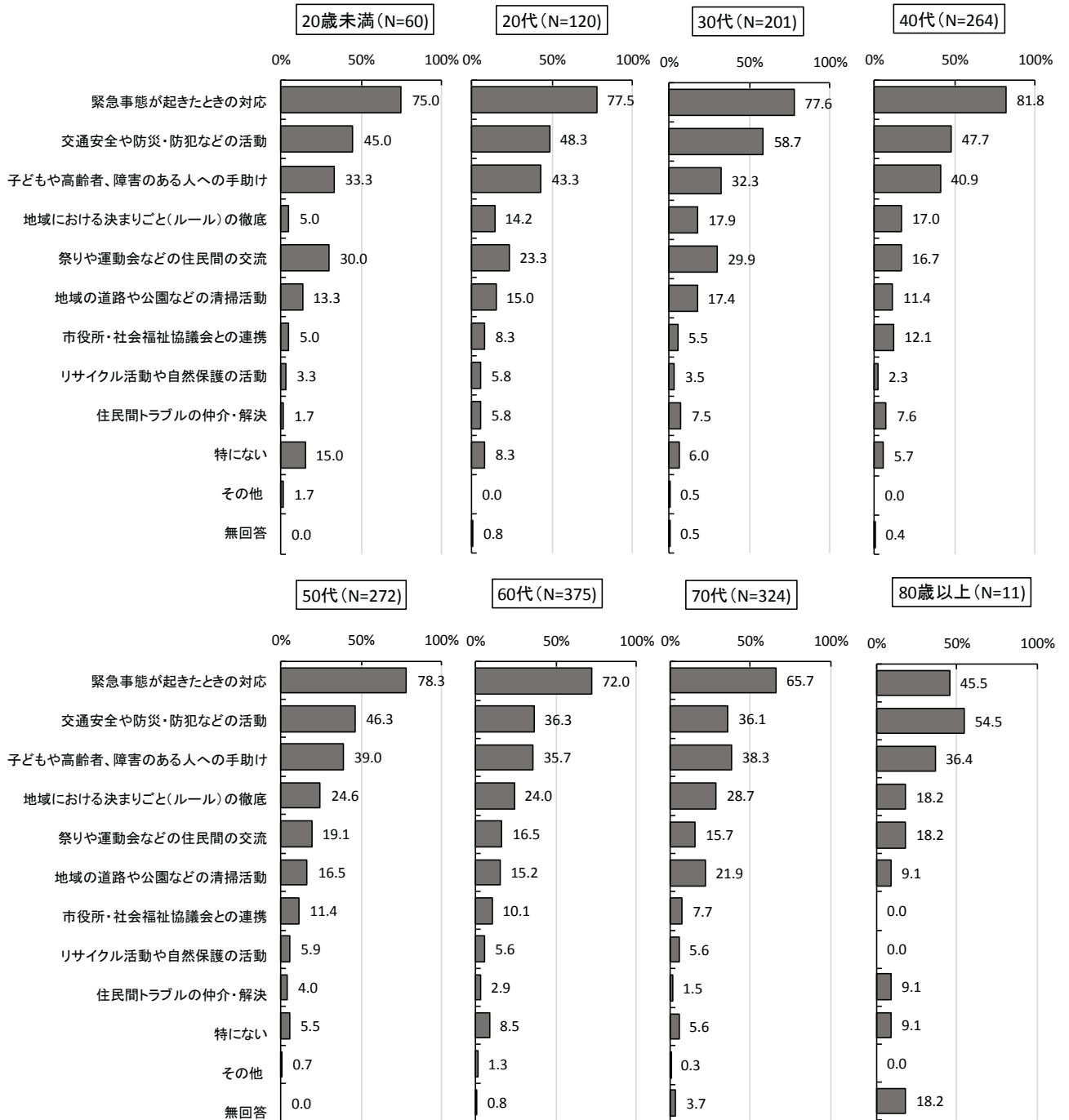




【性別】



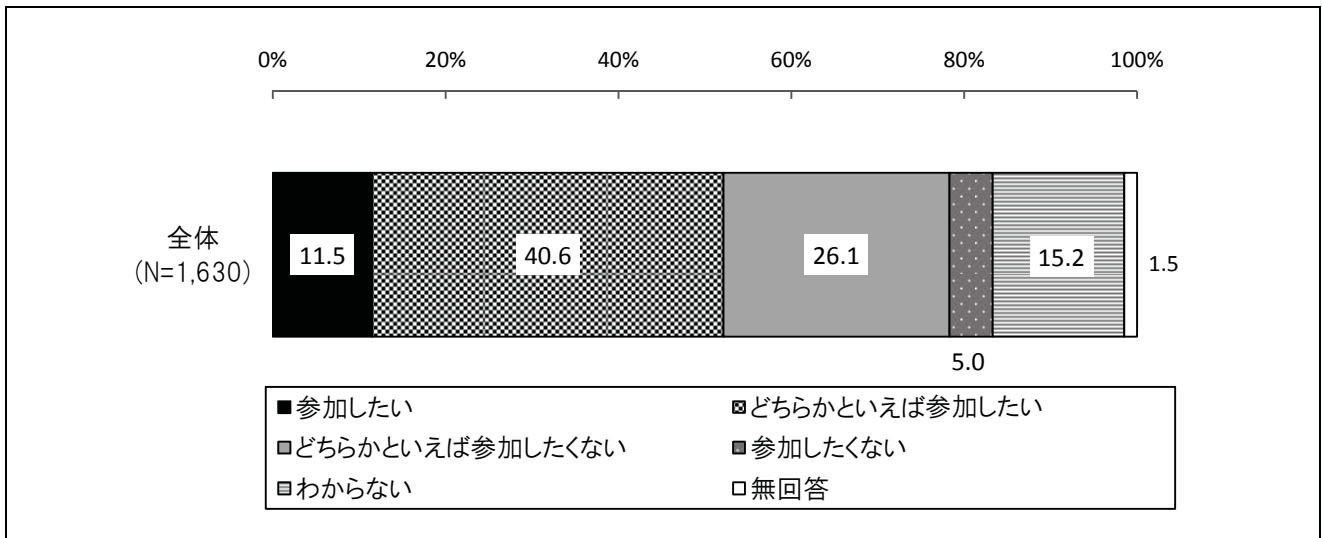
【年代別】



性別でみると、「子どもや高齢者、障害のある人への手助け」は男性が 34.6%、女性は 40.9%となっており、女性の方が高い傾向にある。「地域における決まりごと（ルール）の徹底」は男性が 24.5%、女性は 19.4%となっており、男性の方が高い傾向にある。

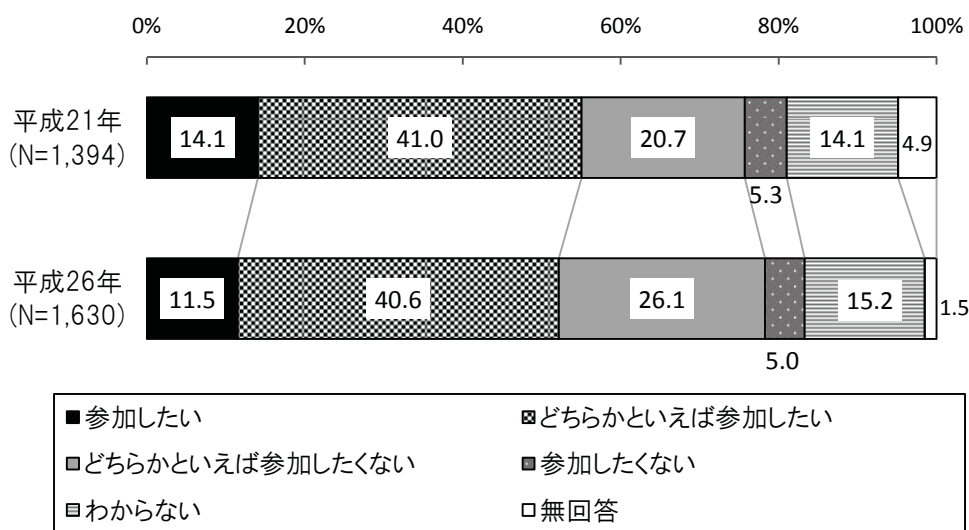
年代別でみると、「地域における決まりごと（ルール）の徹底」は 20 歳未満で 5.0%、20 代で 14.2%となっており、他の世代より低くなっているのが目立つ。一方、「祭りや運動会など住民間の交流」は 20 歳未満で 30.0%と最も高くなっている。

問7 今後、地域内の活動への参加について、あなたはどのように思いますか。(○は1つだけ)



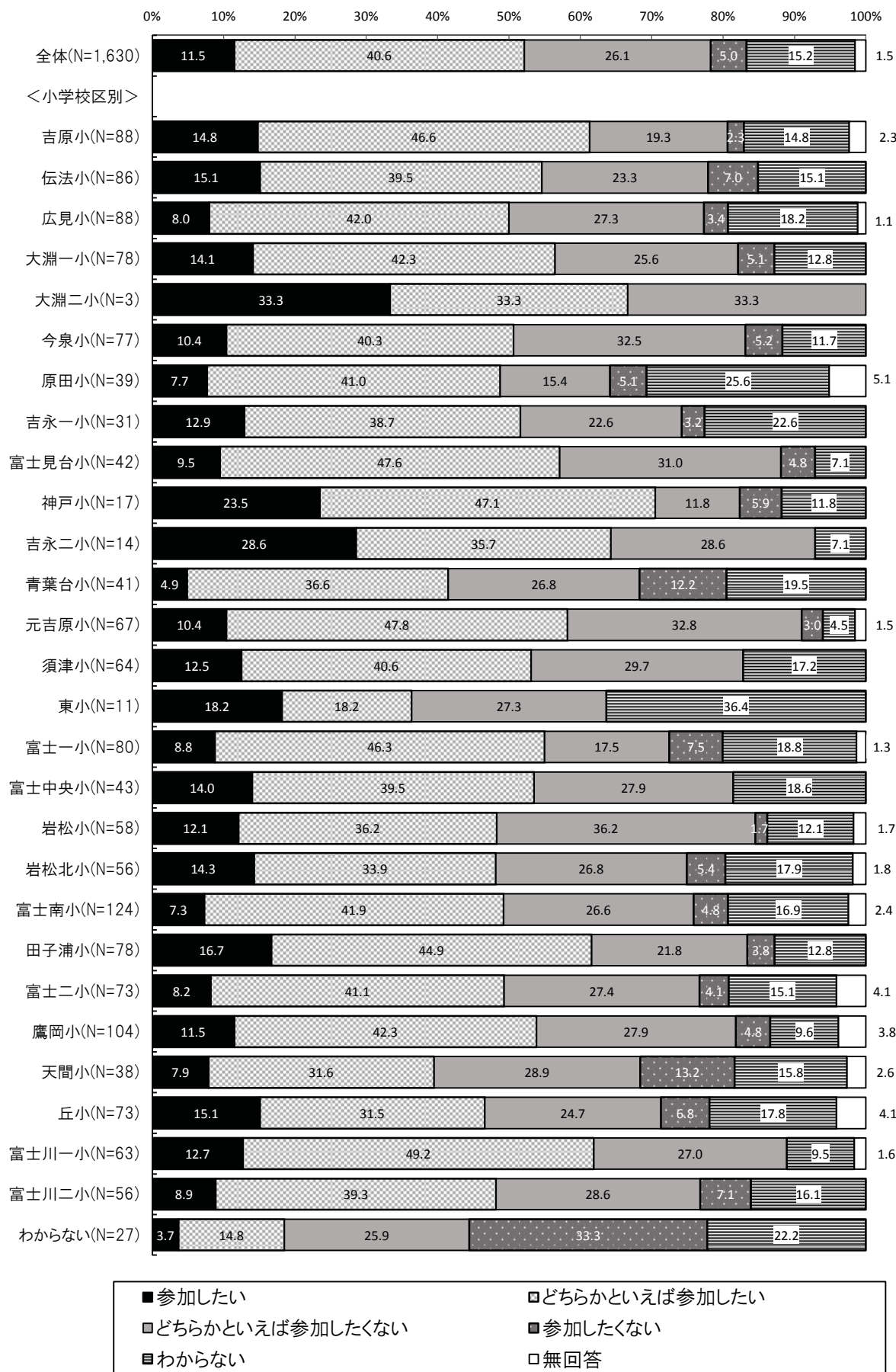
「参加したい」が 11.5%、「どちらかといえば参加したい」が 40.6%となっており、これらを合わせた“参加の意思がある人”は 52.1%となっている。

【経年変化】

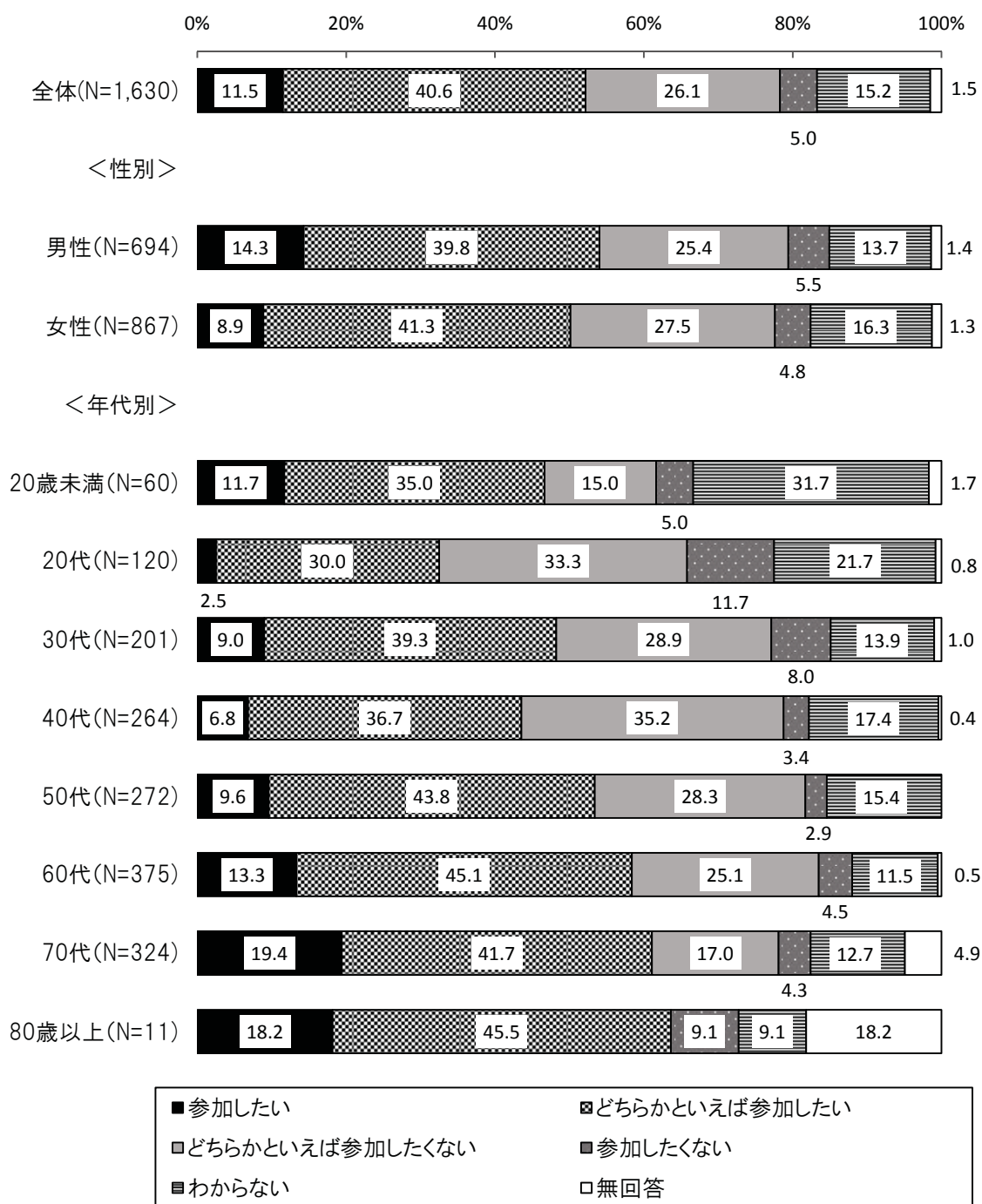


前回の調査結果と比較すると、平成 21 年は「参加したい」が 14.1%、「どちらかといえば参加したい」が 41.0%となっており、これらを合わせた“参加の意思がある人”は 55.1%と、平成 21 年より平成 26 年は 3.0 ポイント低くなっている。「どちらかといえば参加したくない」について平成 21 年は 20.7%、平成 26 年は 26.1%と、5.4 ポイント高くなっている。

【小学校区別】



【性別・年代別】

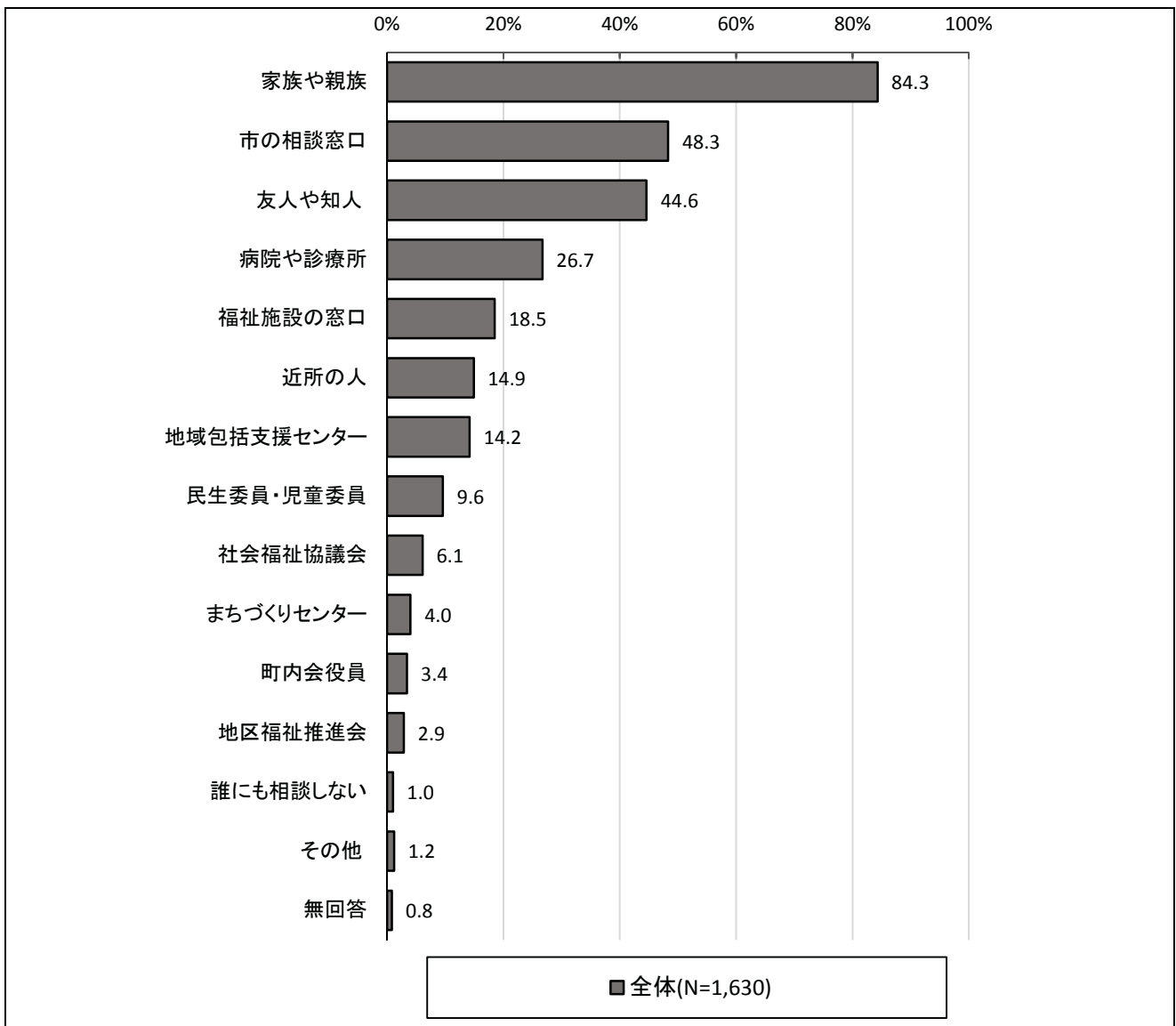


性別でみると、「参加したい」は男性が14.3%、女性が8.9%となっており、男性が女性より高い傾向がある。

年代別でみると、「参加したい」は70代が最も高く19.4%、次いで60代が13.3%、20歳未満が11.7%となっている。「どちらかといえば参加したい」は60代が最も高く45.1%となっている。「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた“参加”は70代が最も高く61.1%、20代が最も低く32.5%となっており、20代は70代の約半数となっている。

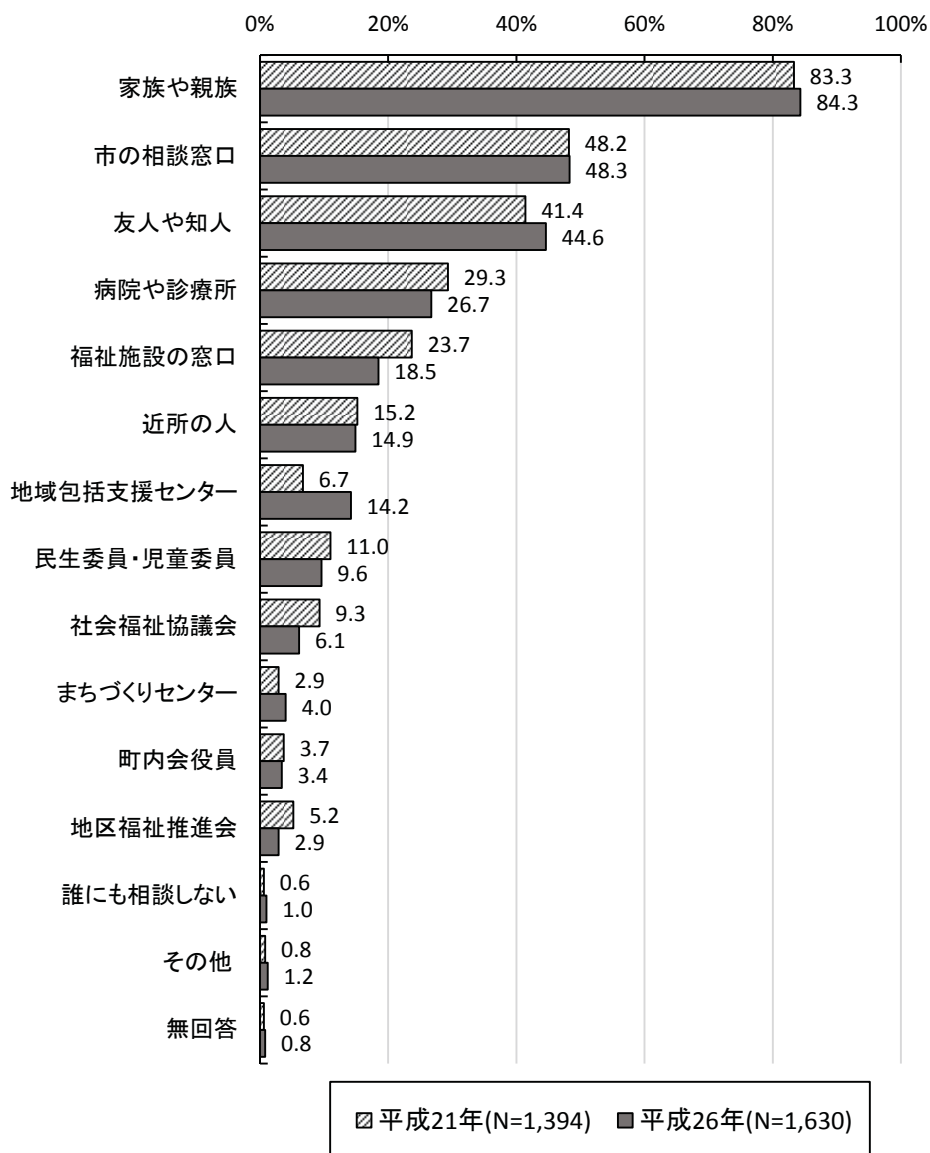
<福祉サービスに対する意識>

問 8 あなたが生活上で困ったり、福祉サービスが必要になったりしたとき、誰(どこ)に相談しますか。(あてはまるものすべてに○)



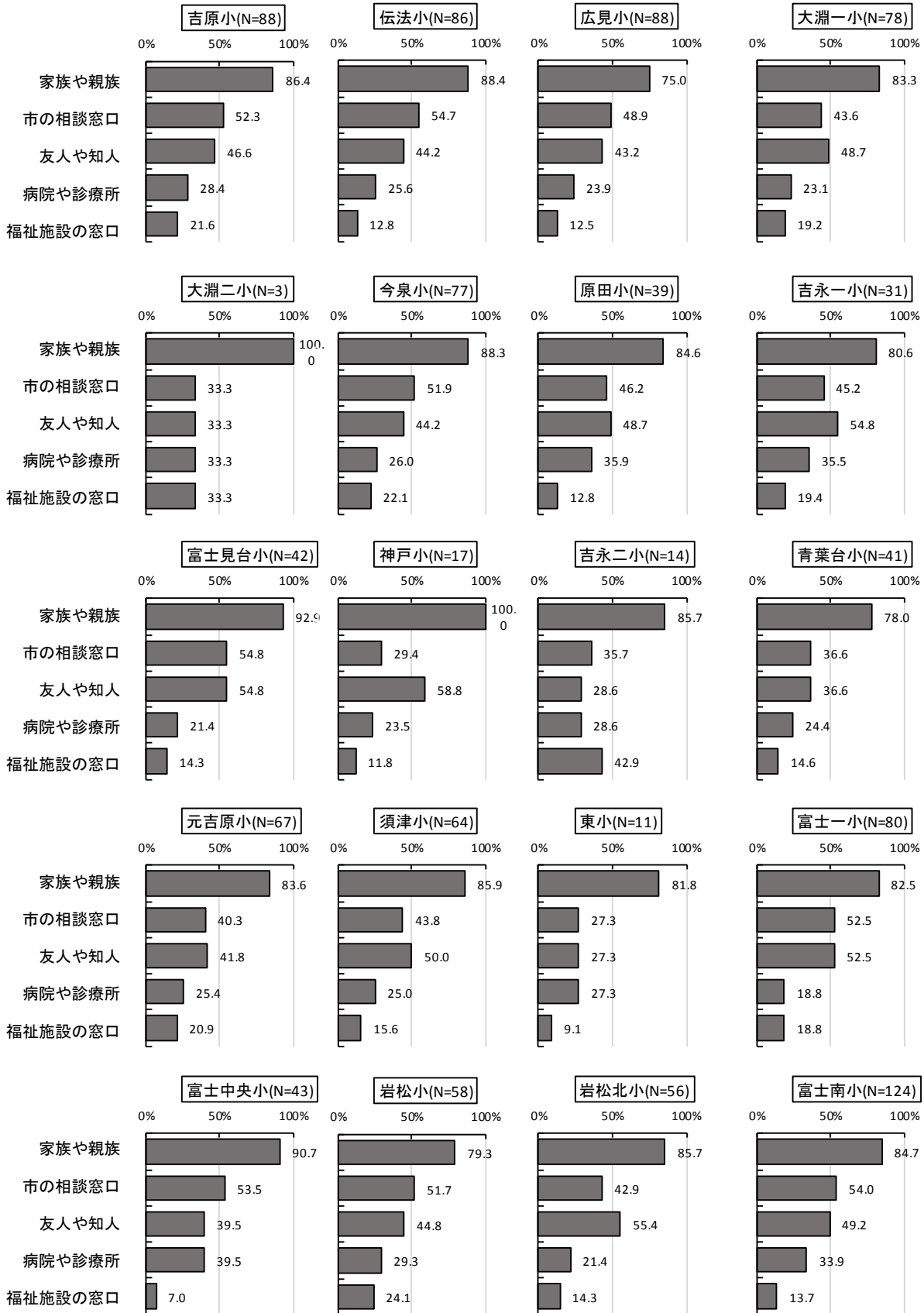
「家族や親族」が最も高く、84.3%となっている。次いで、「市の相談窓口」が48.3%、「友人や知人」が44.6%と続いている。

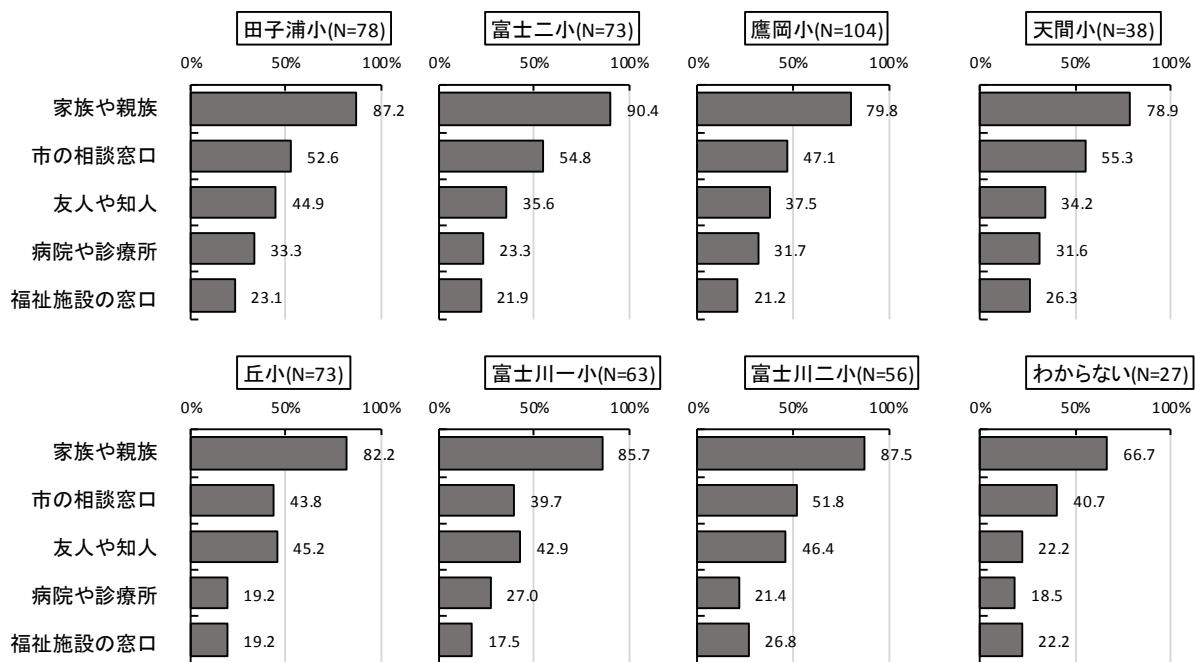
【経年変化】



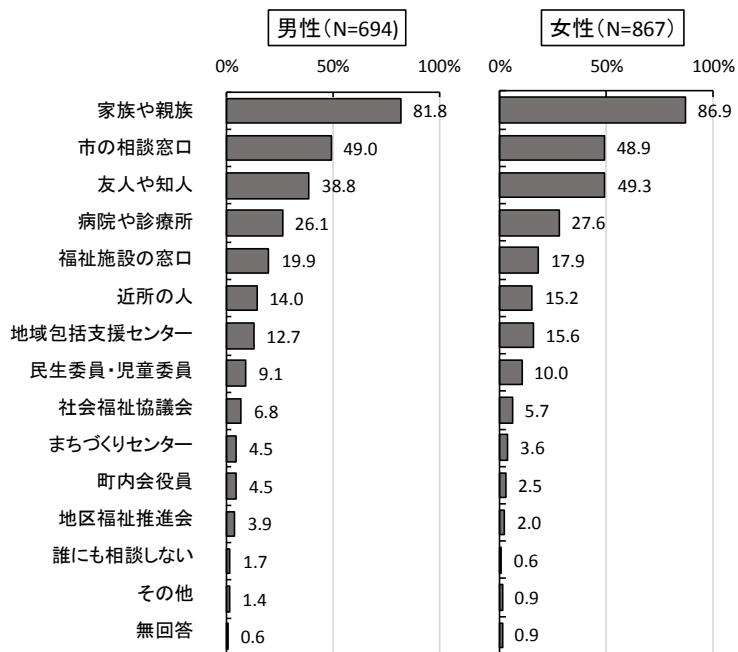
前回の調査結果と比較すると、「家族や親族」は平成21年もトップとなっていて、平成21年は83.3%、平成26年は84.3%とほぼ同様の結果になっている。「地域包括支援センター」について平成21年は6.7%だったが、平成26年は14.2%と7.5ポイント高くなっている。

【小学校区別】

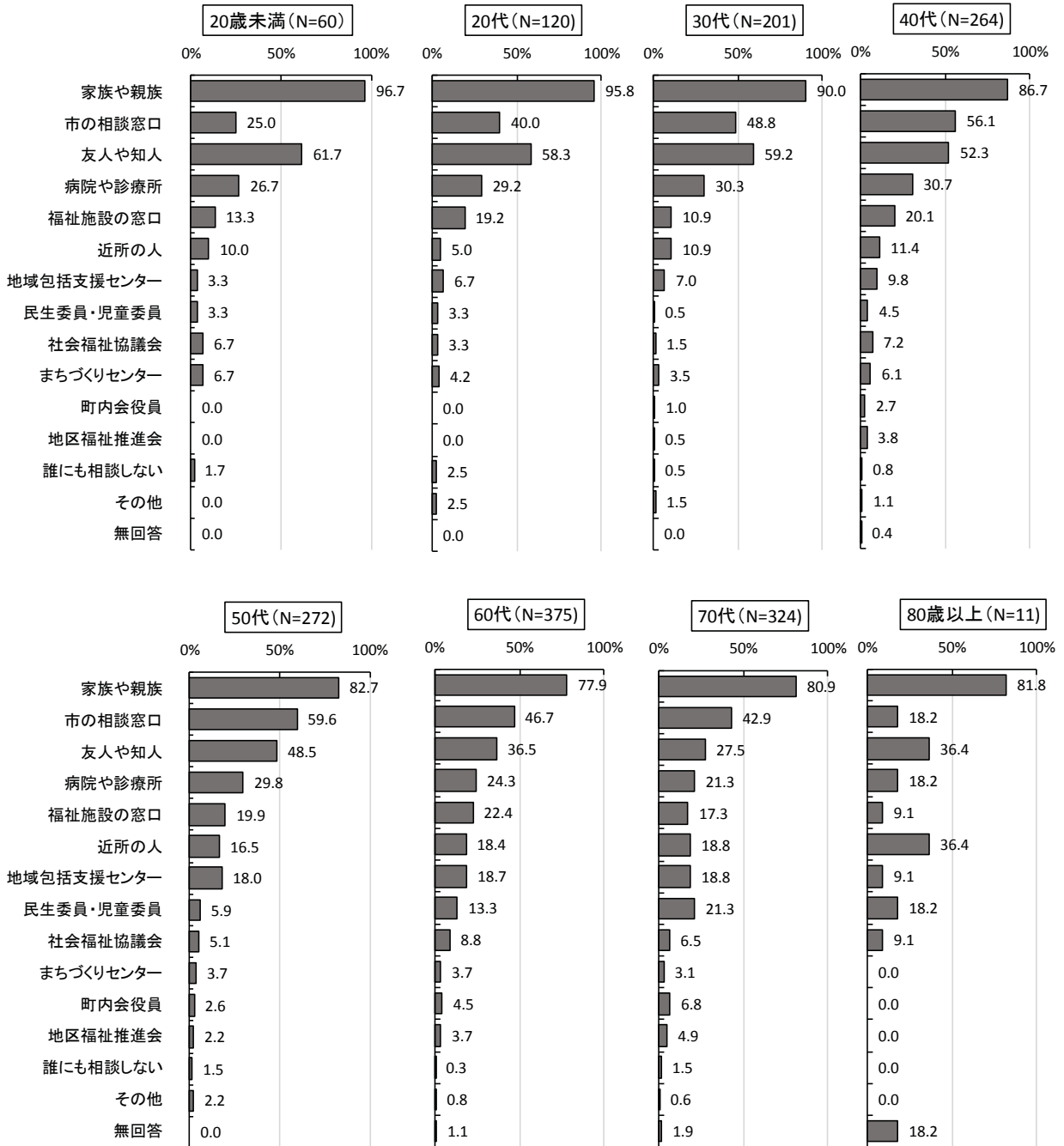




【性別】



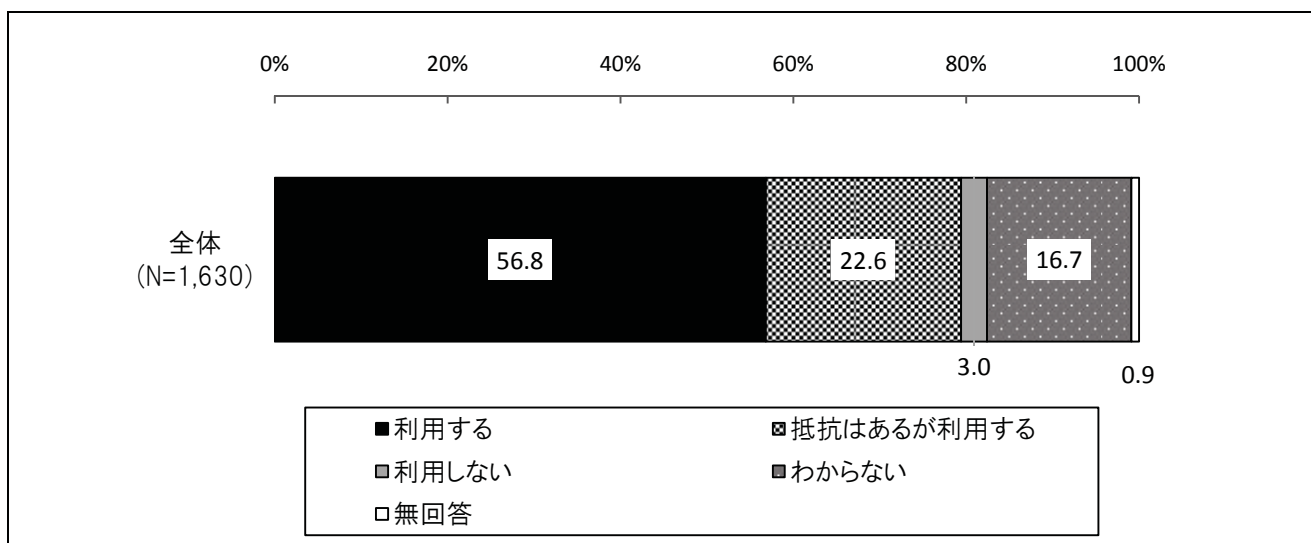
【年代別】



性別で見ると、「家族や親族」は男性が 81.8%、女性が 86.9%とともに高い割合になっている。「友人や知人」については、男性の 38.8%に対し、女性は 49.3%と男性より高くなっている。

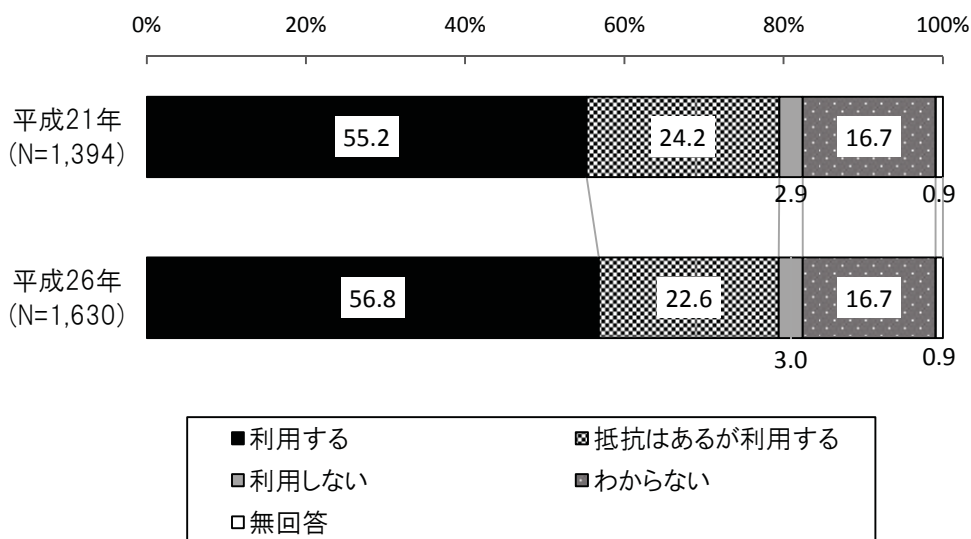
年代別にみると、20歳未満から30代では「市の相談窓口」の割合が「友人や知人」より低い傾向だが、40代以上の年代では逆転し「市の相談窓口」の方が「友人や知人」より高くなっている。

問 9 あなた自身やあなたの家族に、福祉サービスが必要になったとき、すぐにサービスを利用しますか。(〇は1つだけ)



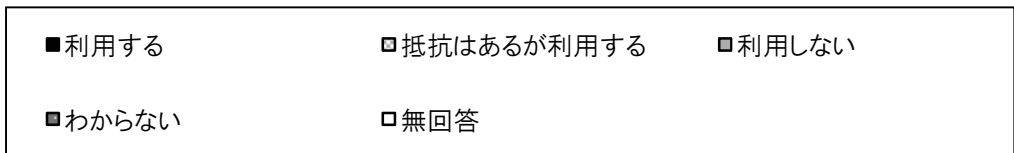
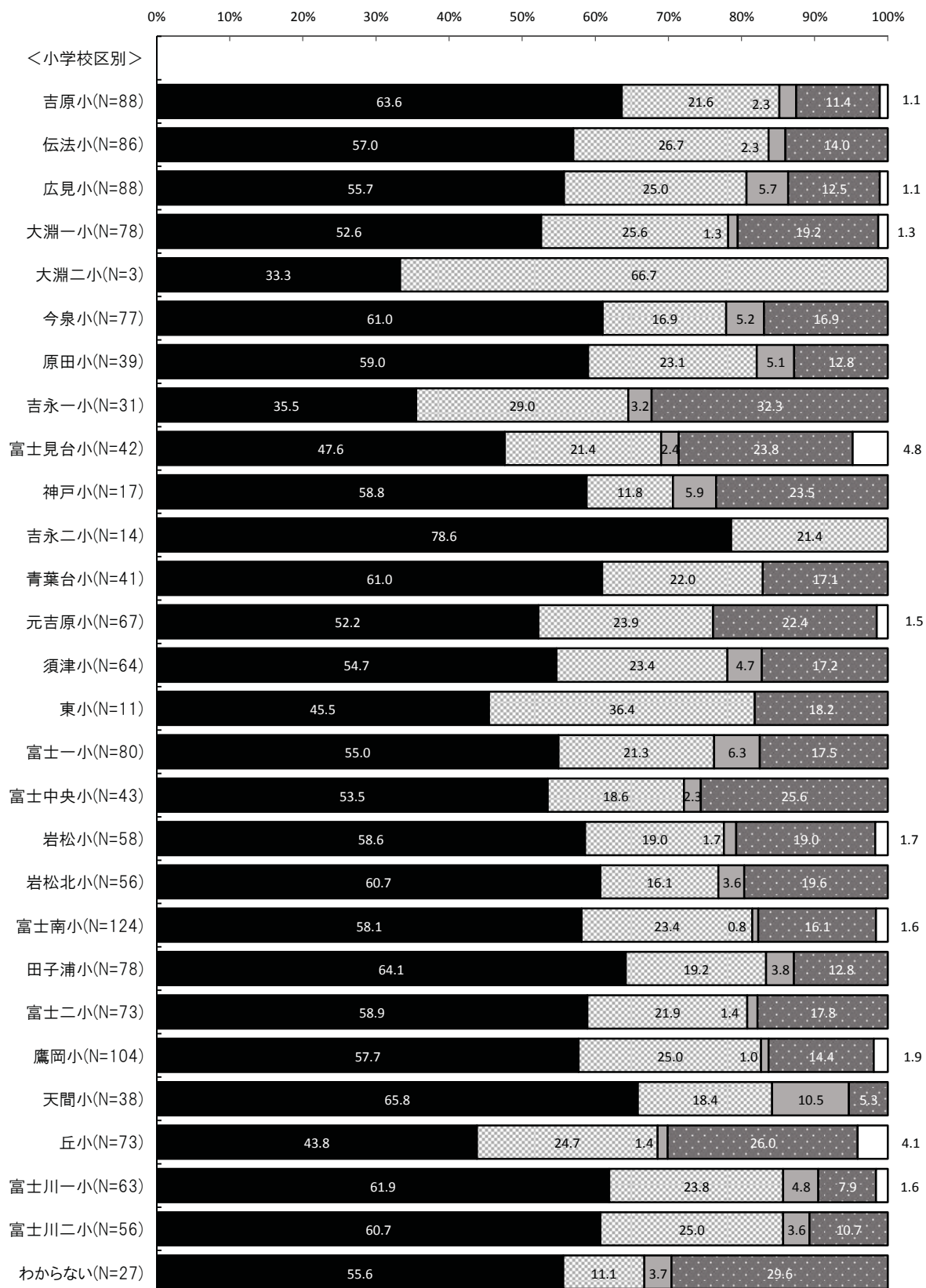
「利用する」は 56.8%、「抵抗はあるが利用する」は 22.6%となっている。これらを合わせた”利用”は、79.4%となっている。

【経年変化】

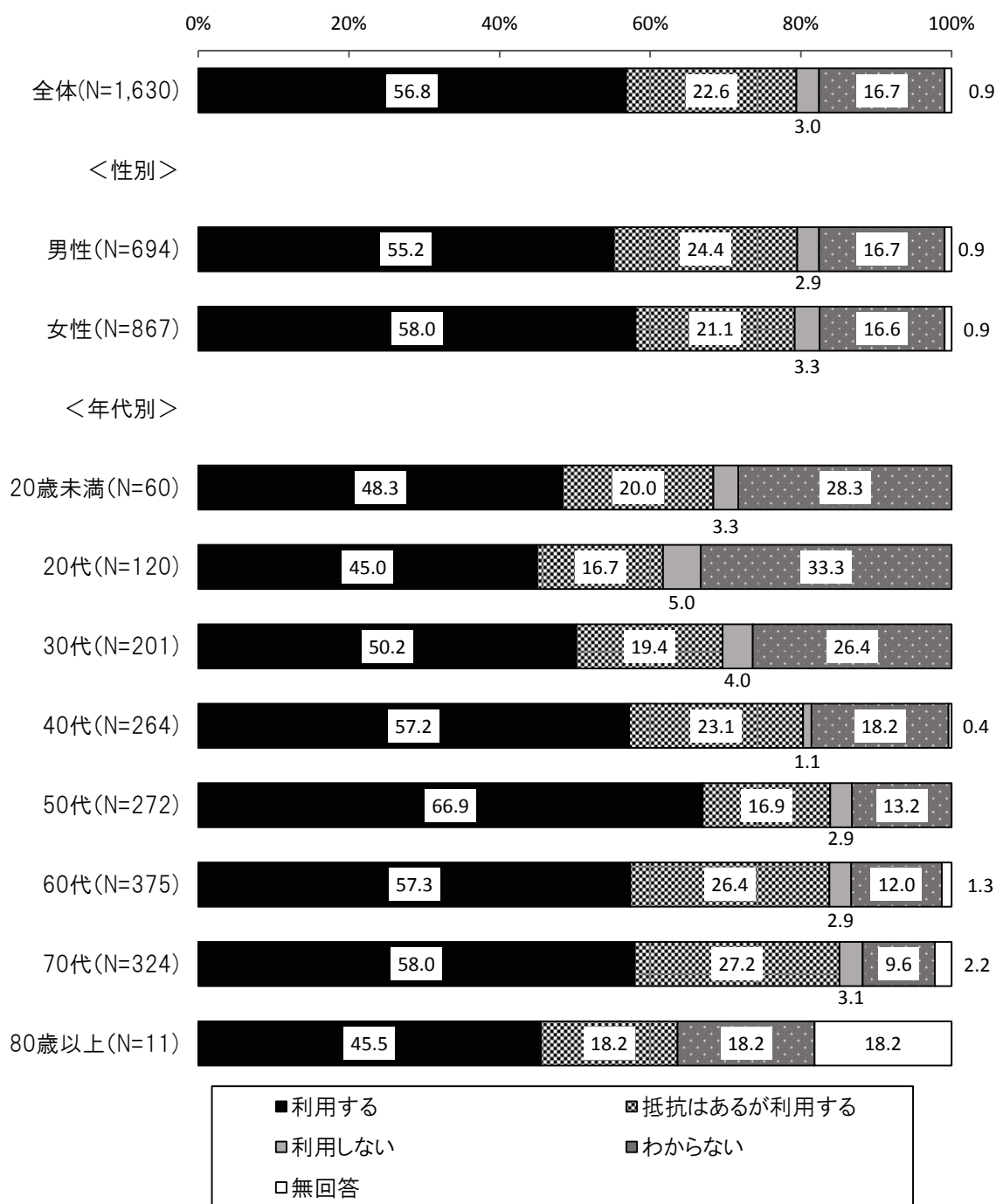


前回の調査結果と比較すると、平成 21 年の「利用する」は 55.2%、「抵抗はあるが利用する」は 24.2%、これらを合わせた”利用”は 79.4%となっており、平成 26 年と同様の結果になっている。

【小学校区別】



【性別・年代別】

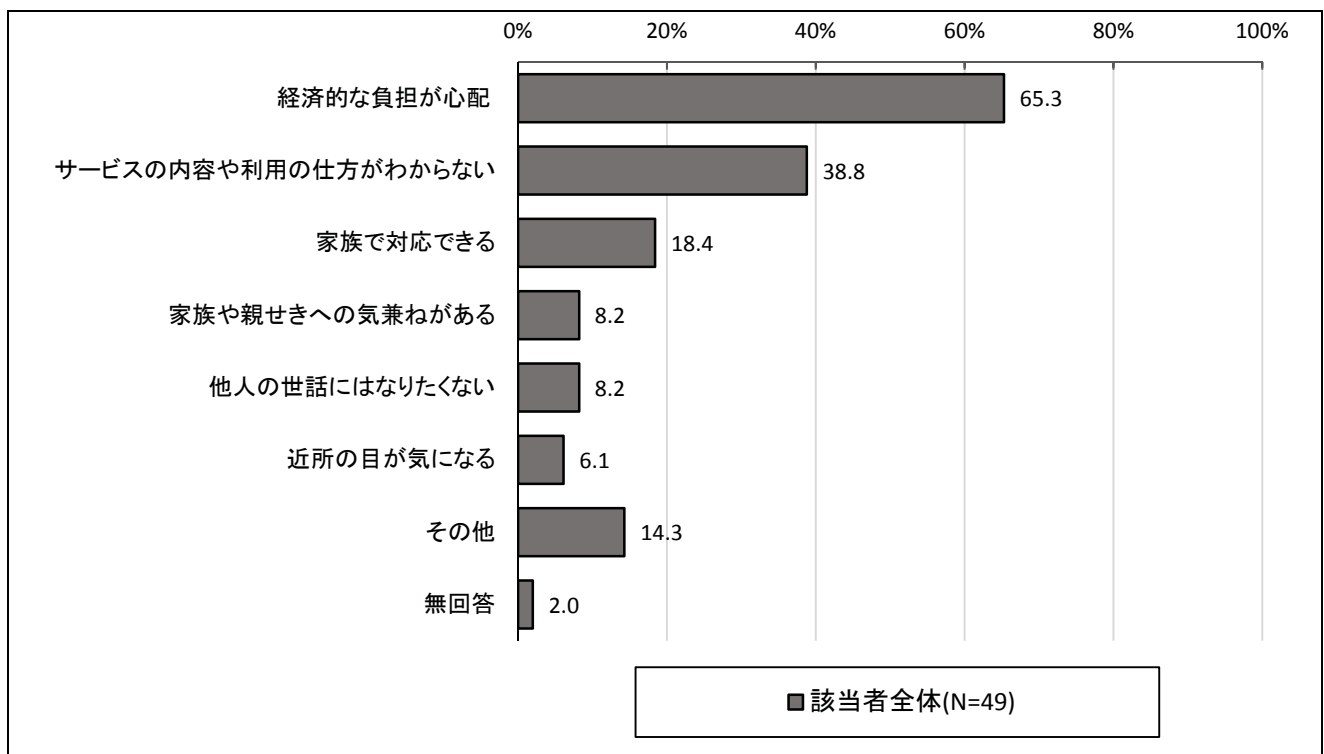


性別でみると、「利用する」は男性が 55.2%、女性が 58.0%、「抵抗はあるが利用する」は男性が 24.4%、女性が 21.1%でほぼ同様の傾向となっている。

年代別でみると、「利用する」は 50代で最も高く 66.9%となっているが、60代では 57.3%、70代では 58.0%と 60代よりも低くなり、一方「抵抗はあるが利用する」は 60代が 26.4%、70代が 27.2%となっている。

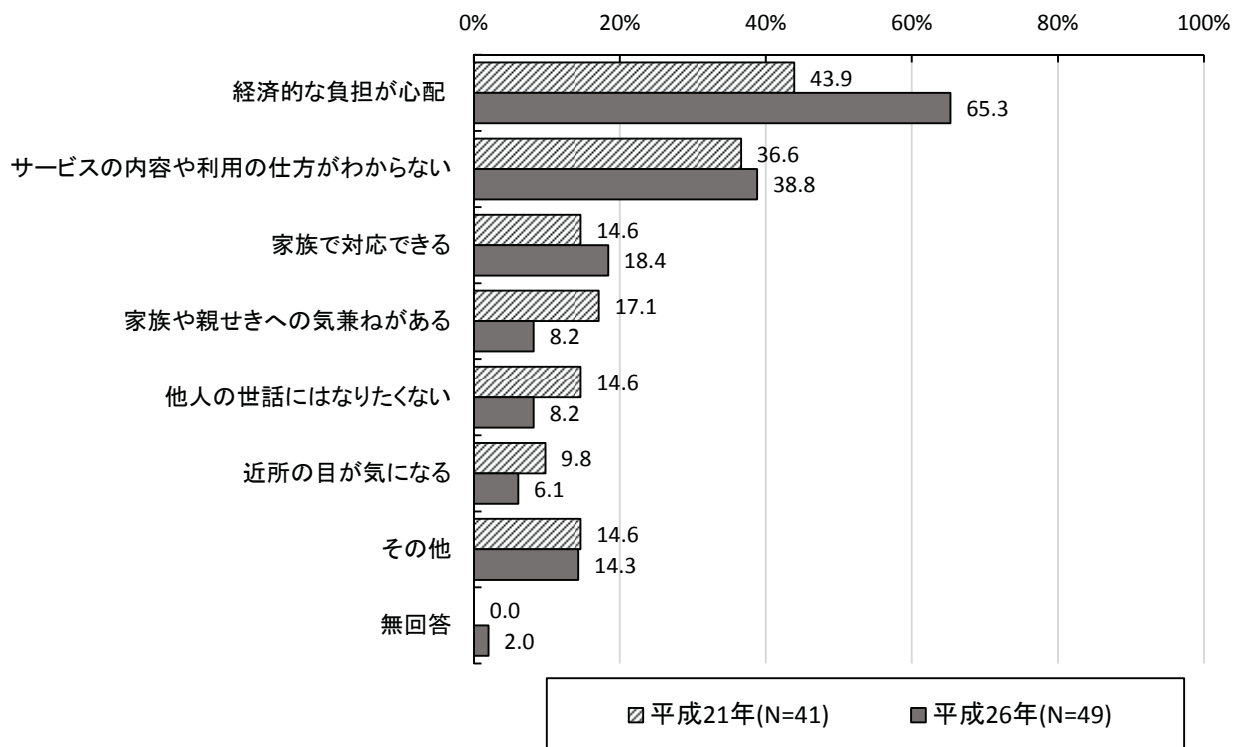
問9で「3 利用しない」と回答した方に伺います。

問9-1 すぐにサービスを利用しない理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



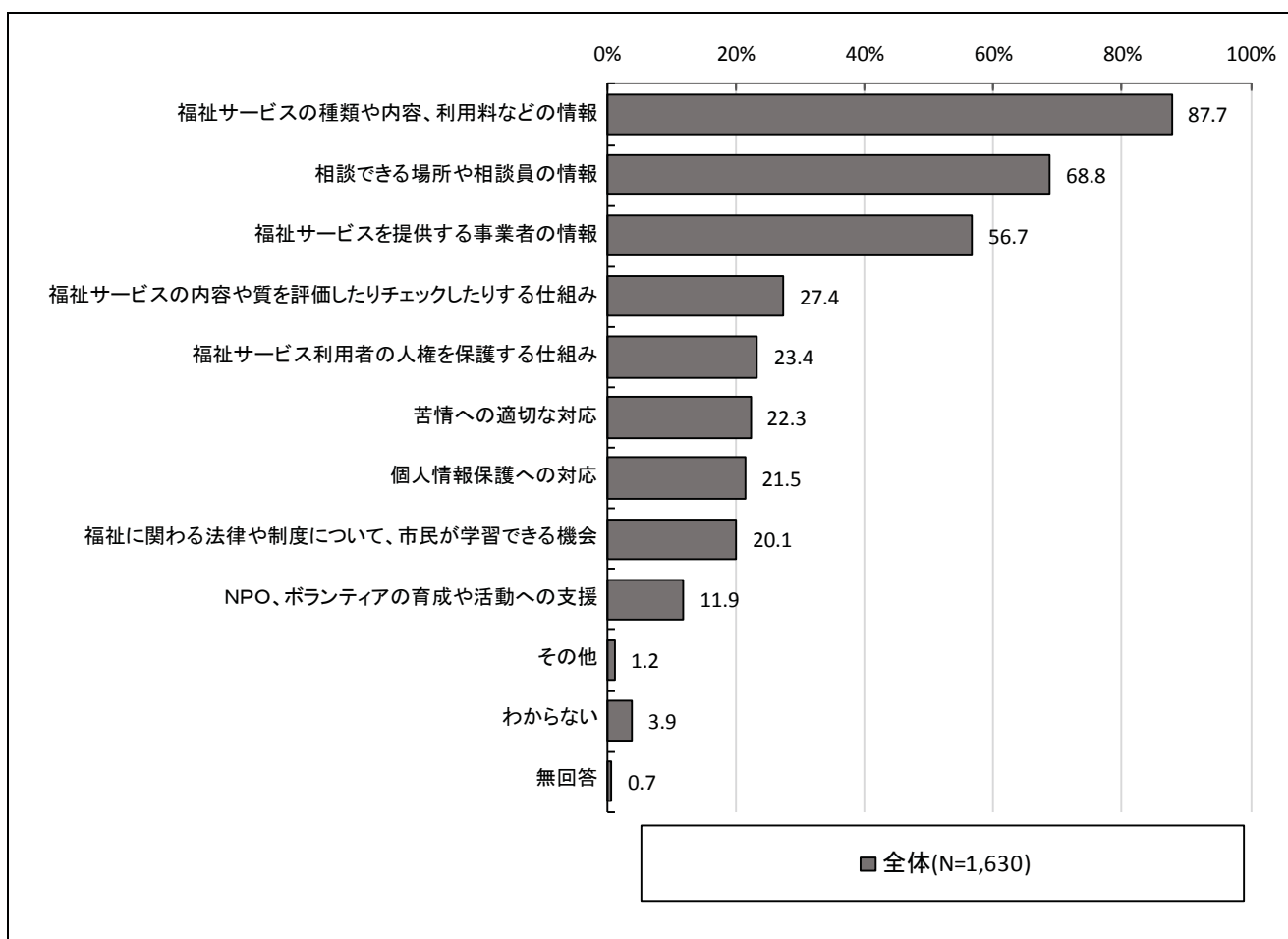
「経済的な負担が心配」が 65.3%と圧倒的に高く、「サービスの内容や利用の仕方がわからない」が 38.8%、「家族で対応できる」が 18.4%と続いている。

【経年変化】



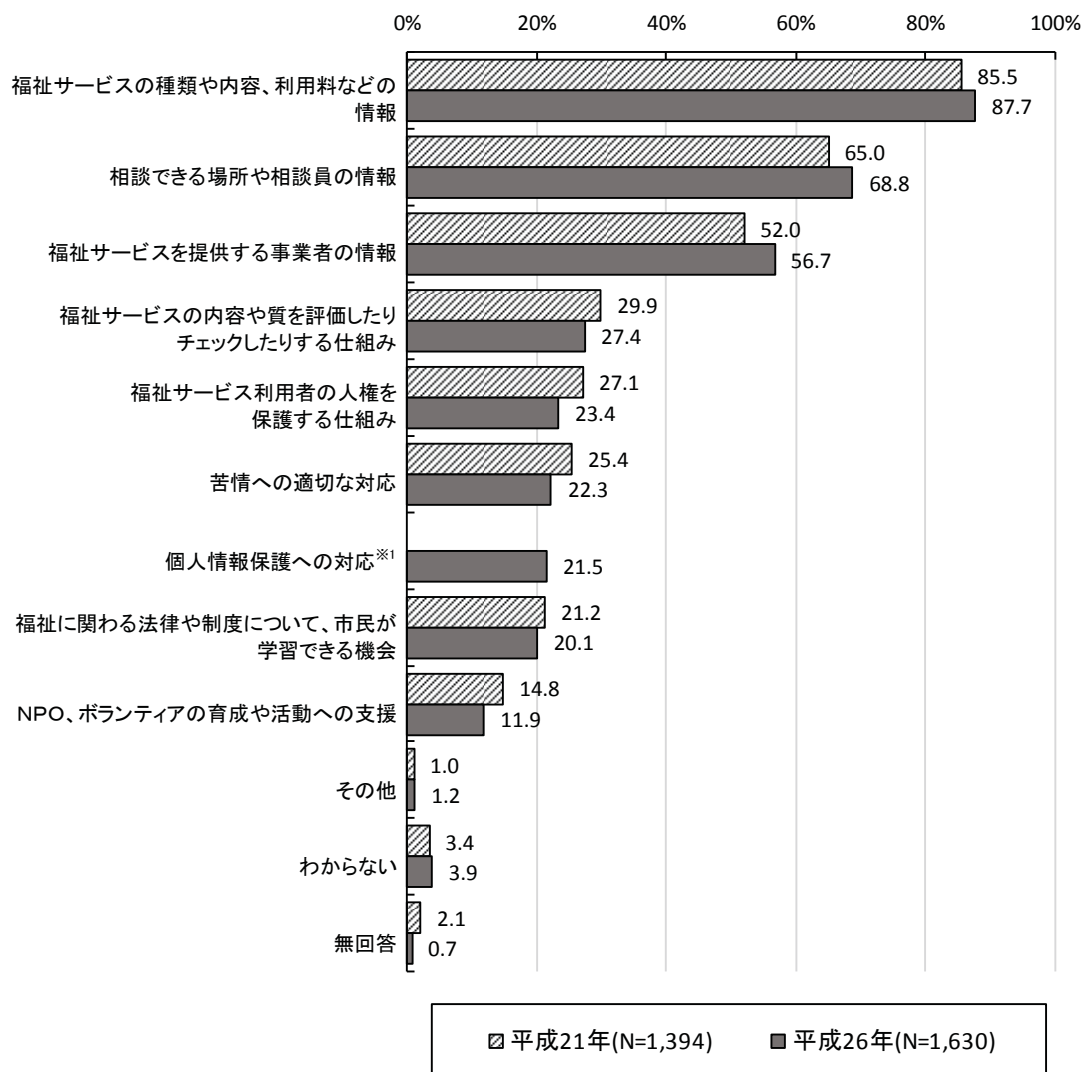
前回の調査結果と比較すると、「経済的な負担が心配」は平成 21 年が 43.9%、平成 26 年が 65.3%と、21.4 ポイント大幅に高くなっている。

問 10 福祉サービスを安心して利用できる状況をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)



「福祉サービスの種類や内容、利用料などの情報」が 87.7%と最も高く、次いで「相談できる場所や相談員の情報」が 68.8%、「福祉サービスを提供する事業者の情報」が 56.7%となっている。

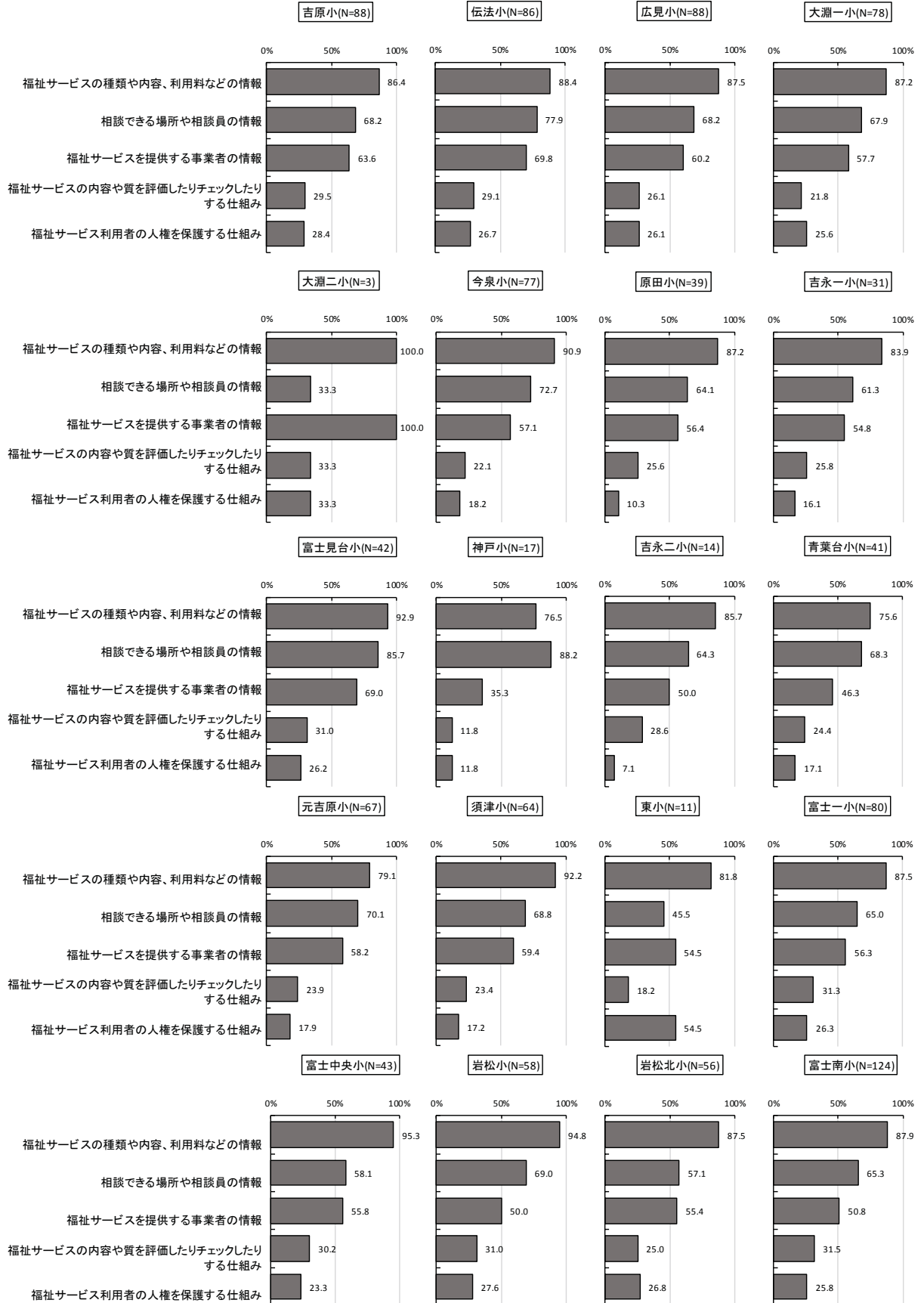
【経年変化】

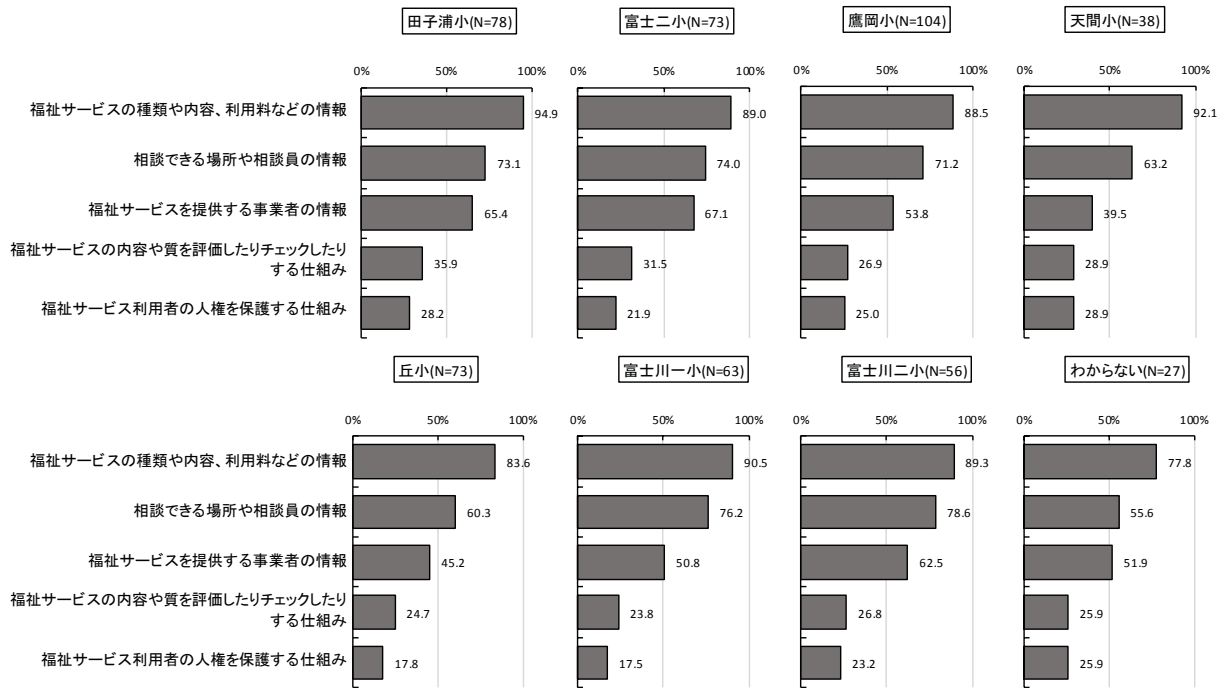


※1「個人情報保護への対応」は平成26年の新設項目

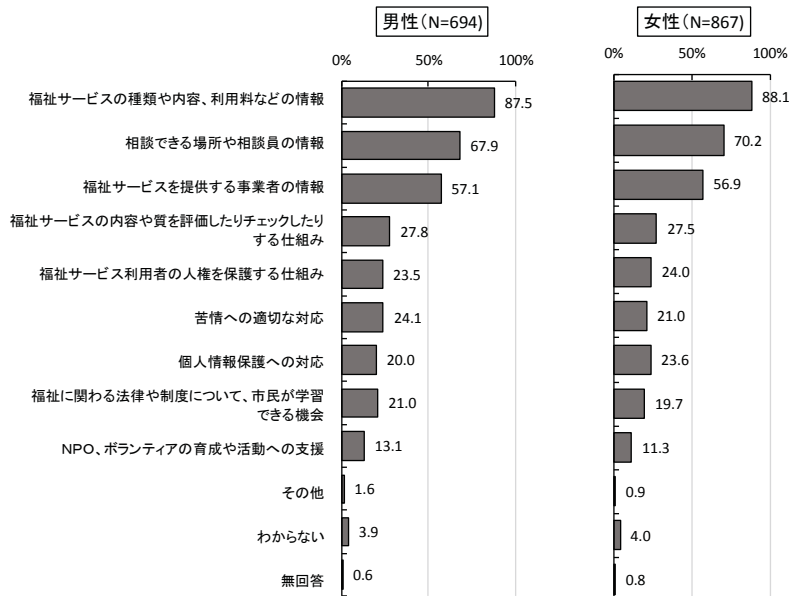
前回の調査結果と比較すると、「福祉サービスの種類や内容、利用料などの情報」は平成21年が85.5%、平成26年が87.7%となっており、全体的に同様の傾向となっている。

【小学校区別】

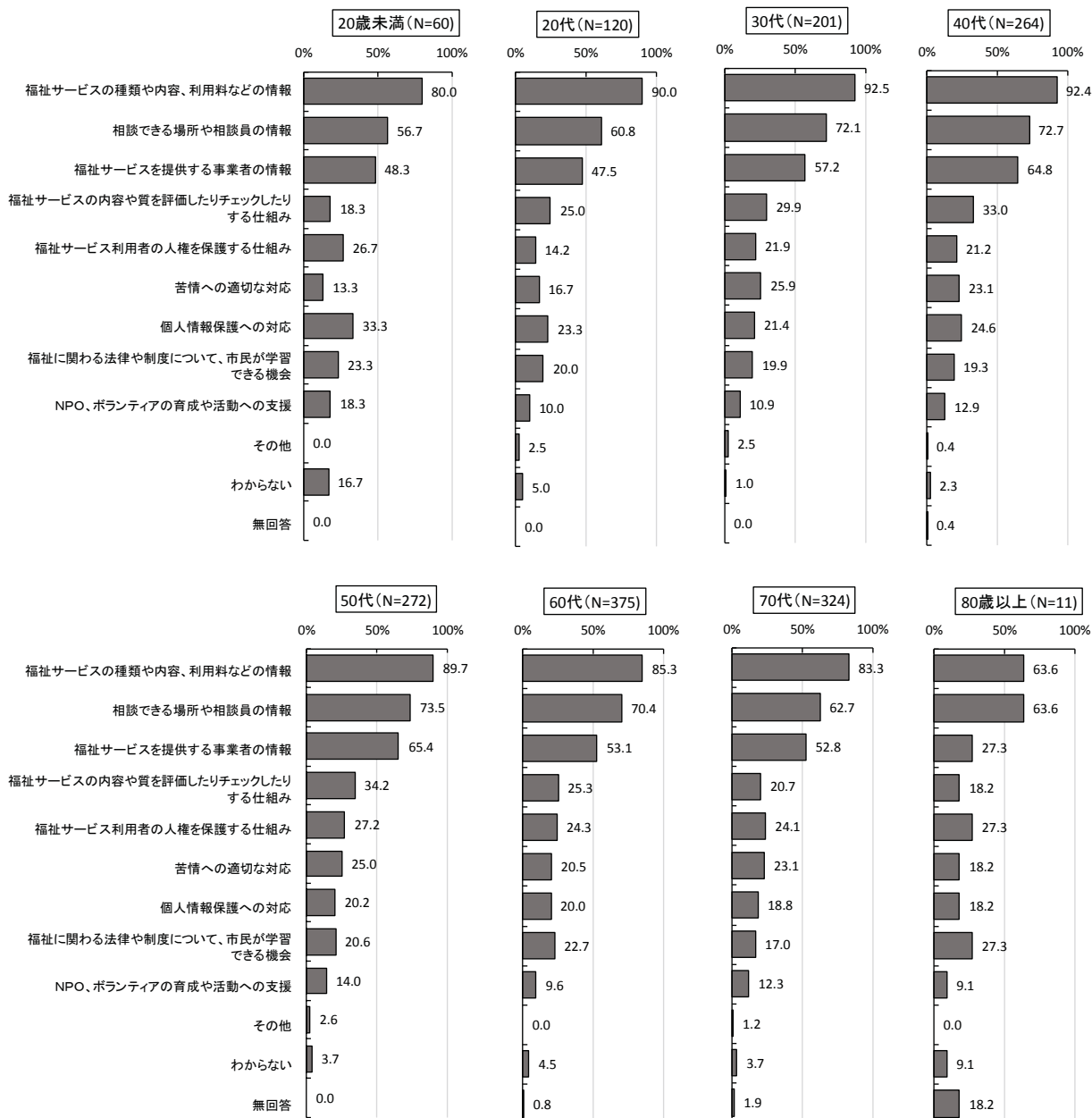




【性別】



【年代別】

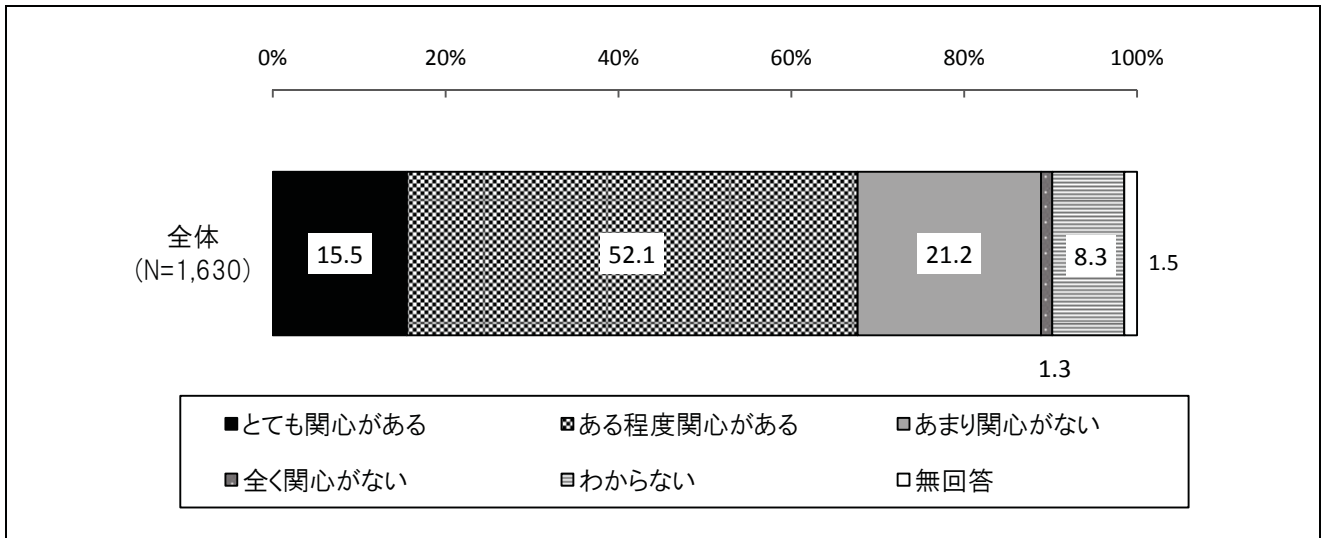


性別でみると、「福祉サービスの種類や内容、利用料などの情報」は男性が 87.5%、女性が 88.1%となっており、その他の項目でもほぼ同様の傾向にある。

年代別でみると、「福祉サービスの種類や内容、利用料などの情報」は 20代で 90.0%、30代で 92.5%、40代で 92.4%と、3つの年代で 9割を超えている。

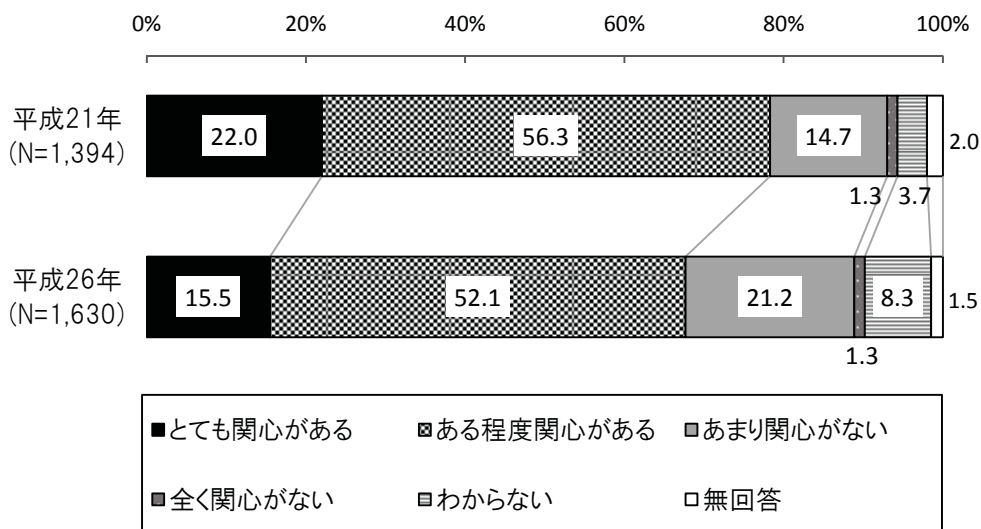
<福祉施策に関すること>

問 11 あなたは「福祉」に関心がありますか。(○は1つだけ)



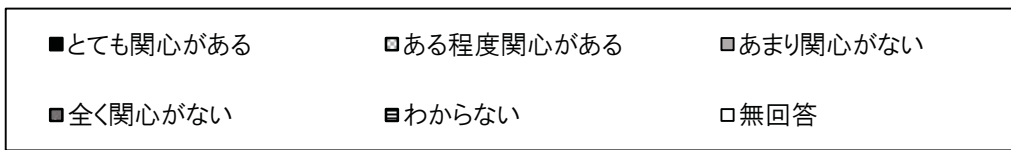
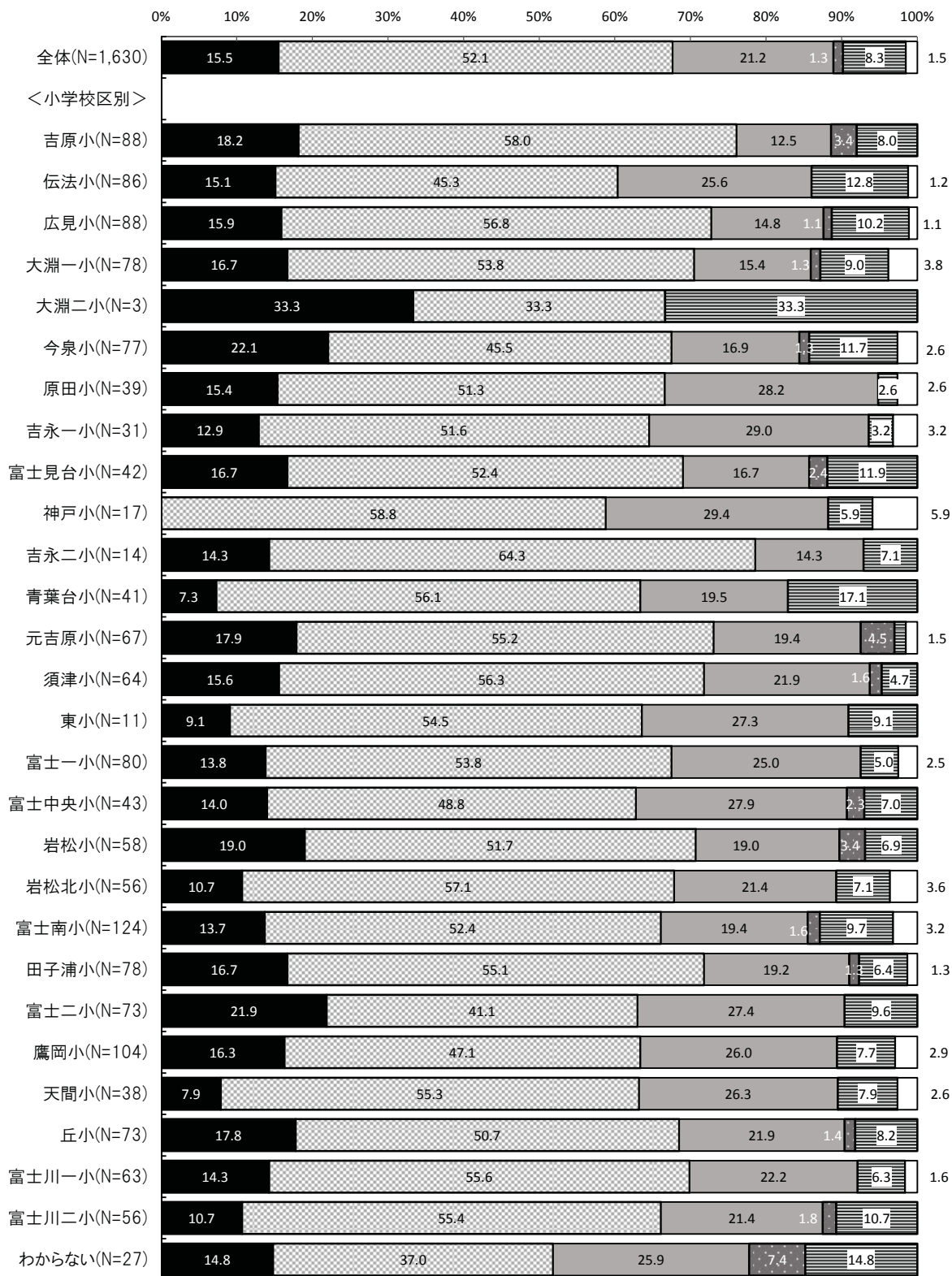
「とても関心がある」は 15.5%、「ある程度関心がある」は 52.1%となっており、これらを合わせた“関心度”は 67.6%となっている。

【経年変化】

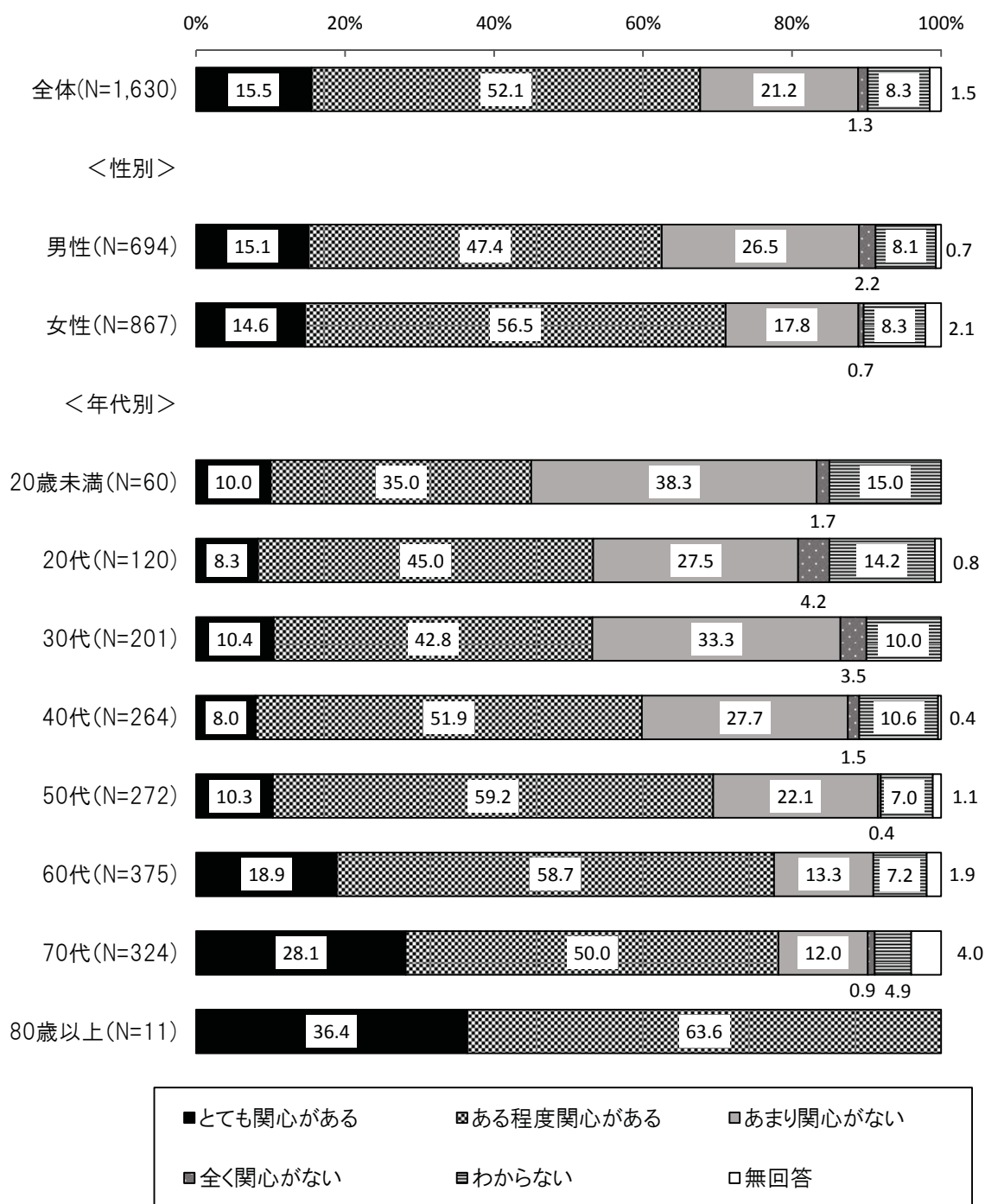


前回の調査結果と比較すると、平成 21 年の「とても関心がある」は 22.0%、「ある程度関心がある」は 56.3%、これらを合わせた”関心度”は 78.3%だった。平成 26 年は 10.7 ポイント低下し 67.6%となっている。「あまり関心がない」は平成 21 年が 14.7%、平成 26 年が 21.2%と、6.5 ポイント高くなっている。

【小学校区別】



【性別・年代別】

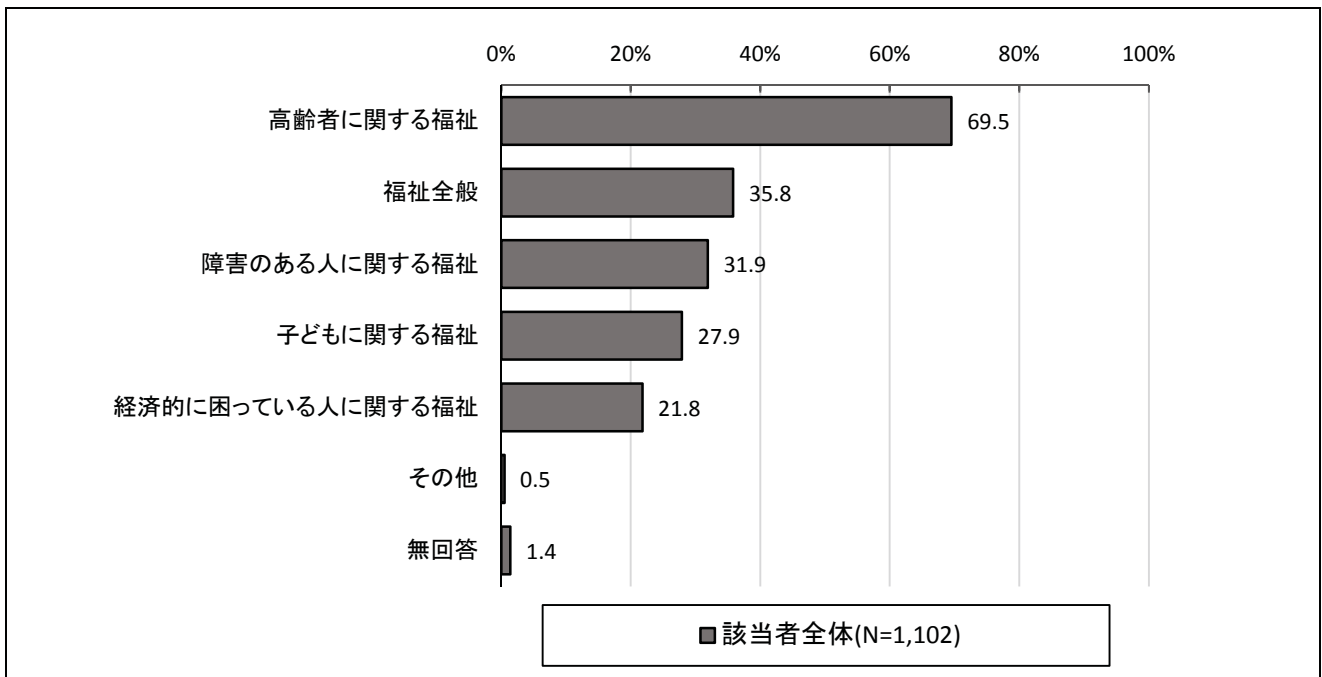


性別でみると、「とても関心がある」は男性が15.1%、女性が14.6%となっており同程度であるが、「ある程度関心がある」は男性が47.4%、女性が56.5%となっており、女性の方が高い。

年代別でみると、「とても関心がある」は20代から50代まで10%前後だが、60代では18.9%、70代では28.1%となっている。「ある程度関心がある」については、50代が最も高く59.2%となっている。

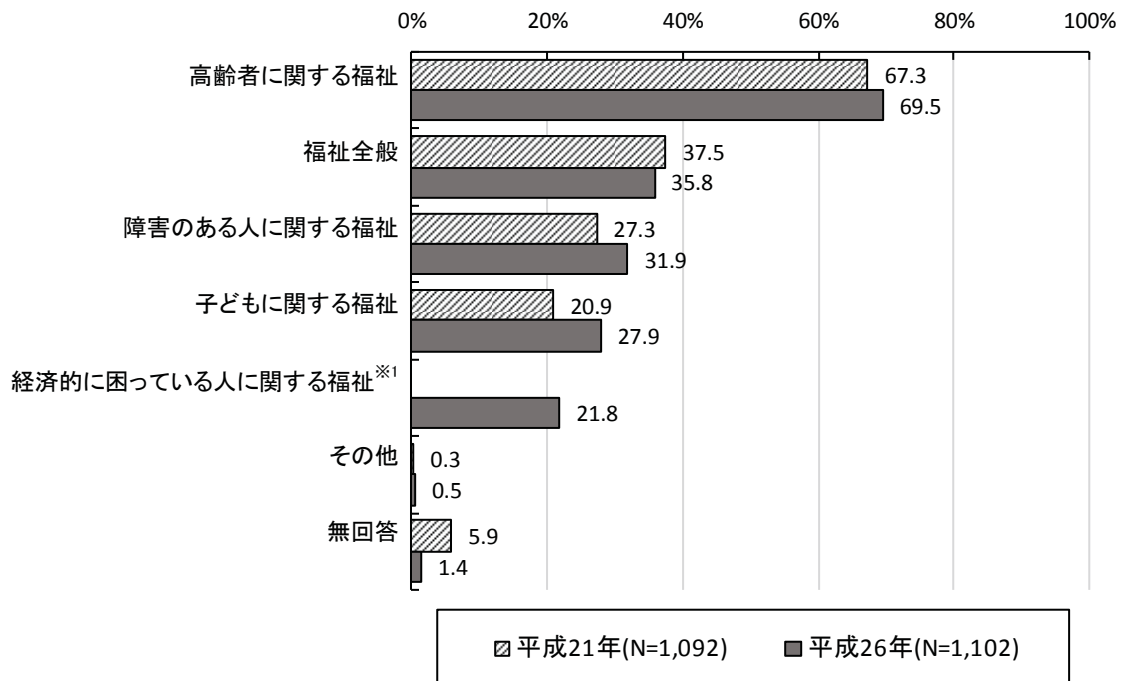
問 11 で「1 とても関心がある」、「2 ある程度関心がある」と回答した方に伺います。

問 11-1 関心がある福祉はどのような分野ですか。(あてはまるものすべてに○)



「高齢者に関する福祉」は 69.5%と最も高く、「福祉全般」は 35.8%、「障害のある人に関する福祉」は 31.9%と続いている。

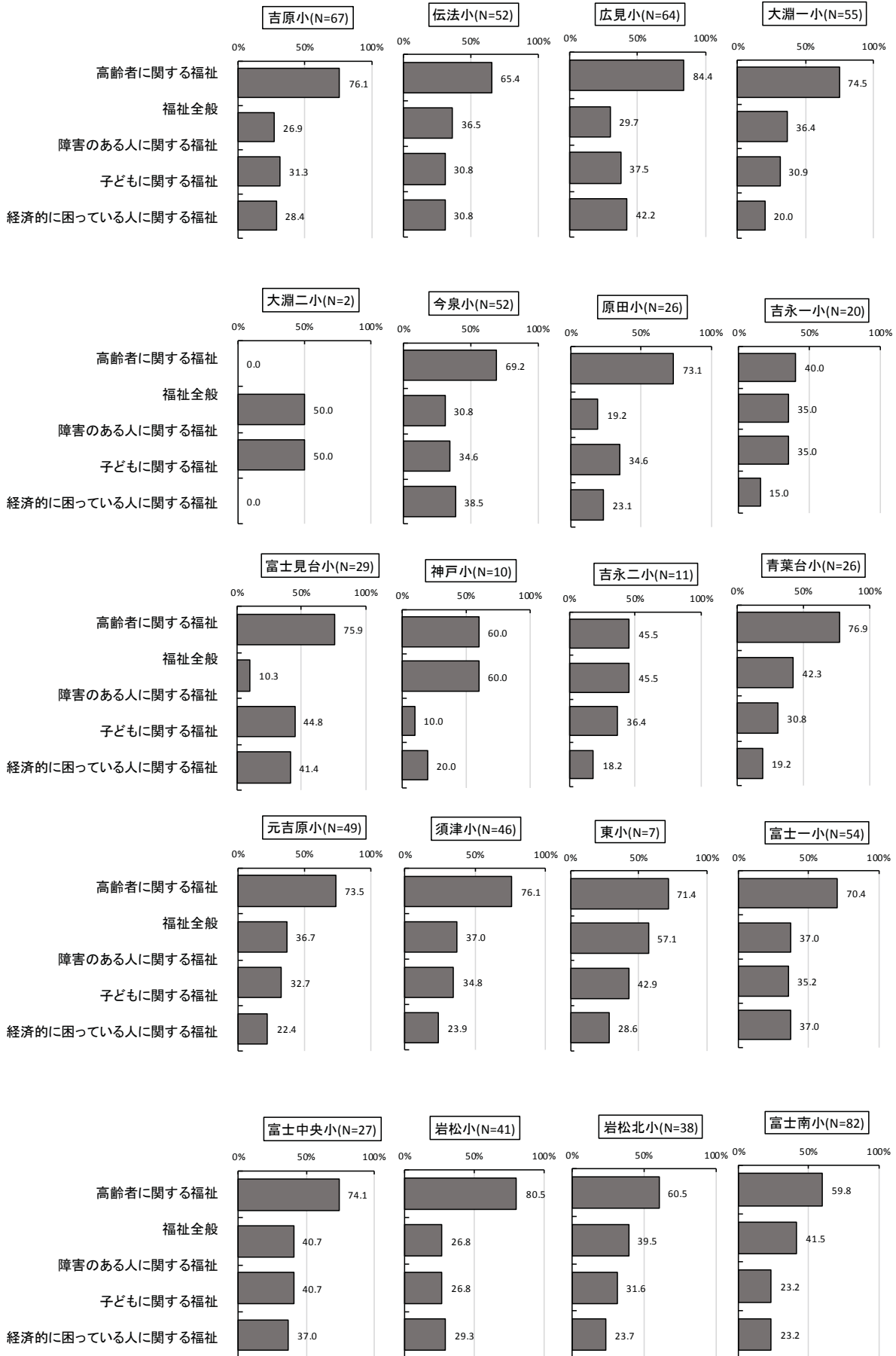
【経年変化】

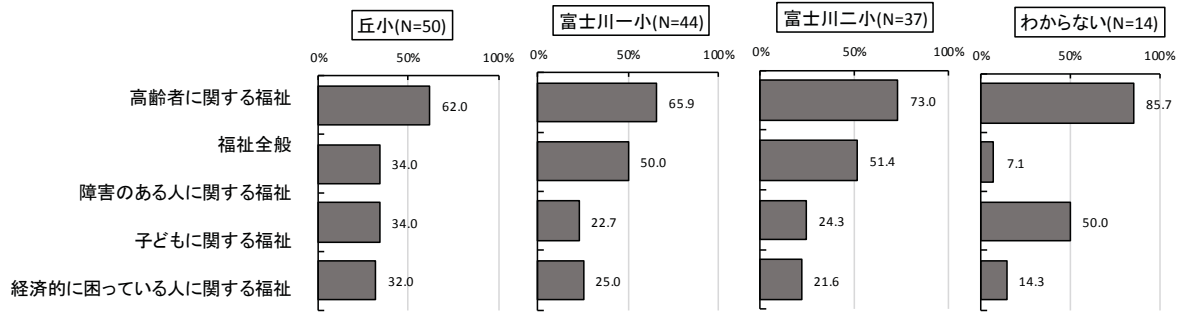
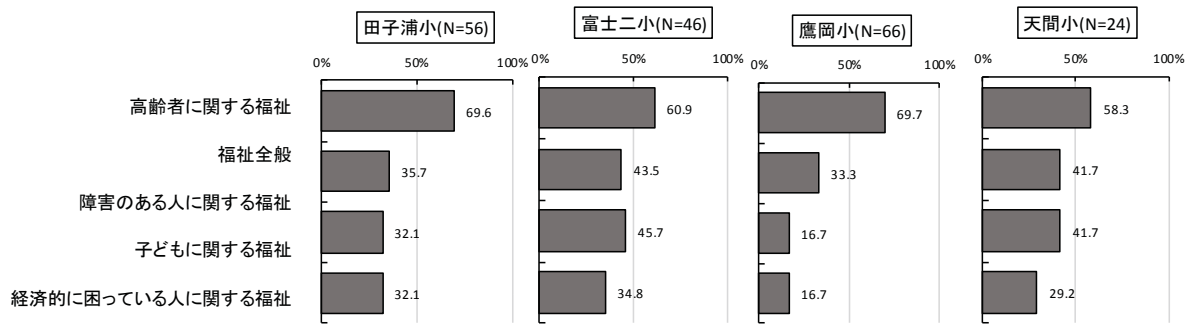


※1 「経済的に困っている人に関する福祉」は平成 26 年の新設項目

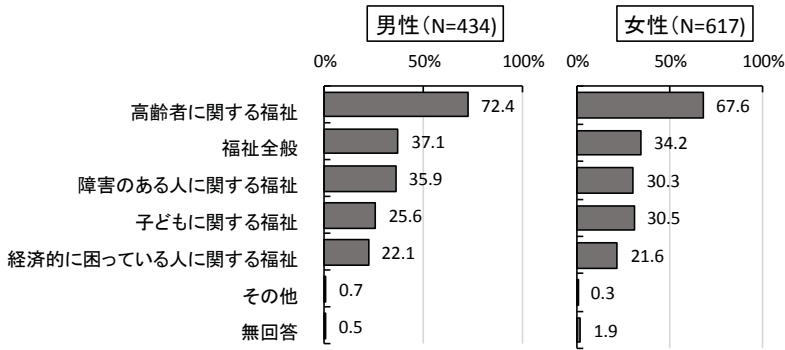
前回の調査結果と比較すると、「高齢者に関する福祉」は平成 21 年が 67.3%、平成 26 年が 69.5%となっておりほぼ同程度である。「子どもに関する福祉」は平成 21 年が 20.9%、平成 26 年が 27.9%と、7.0 ポイント高くなっている。

【小学校区別】

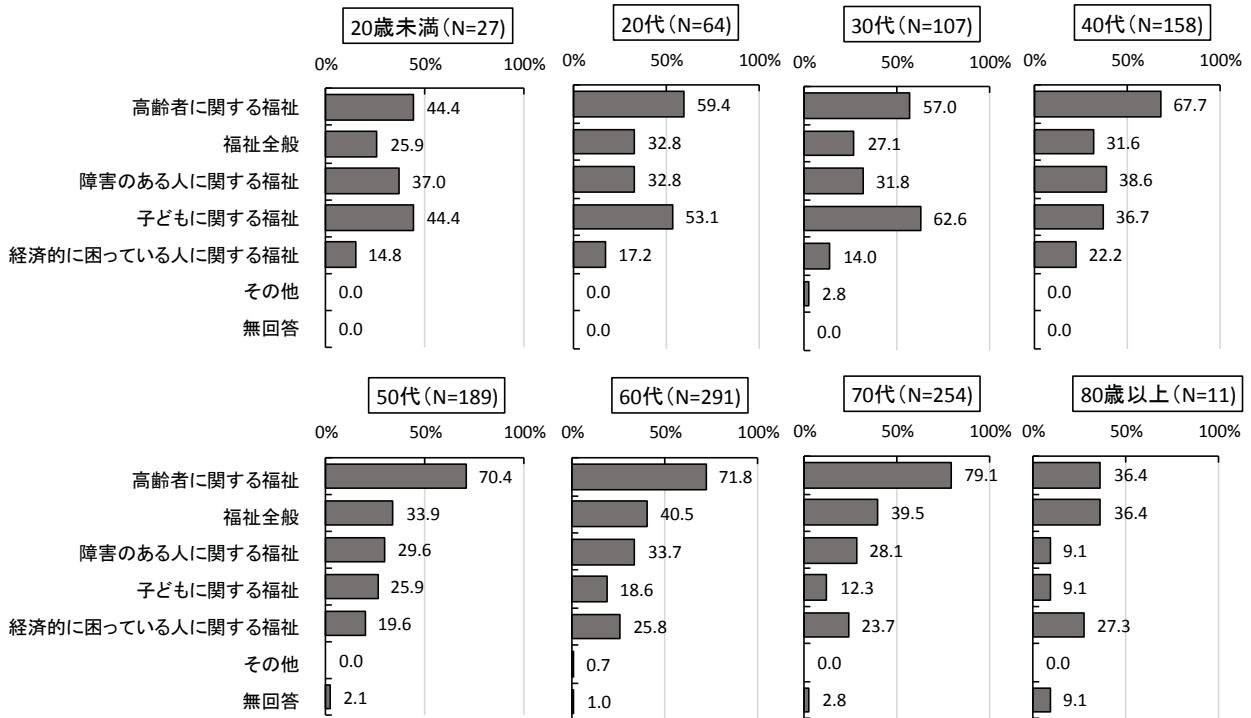




【性別】



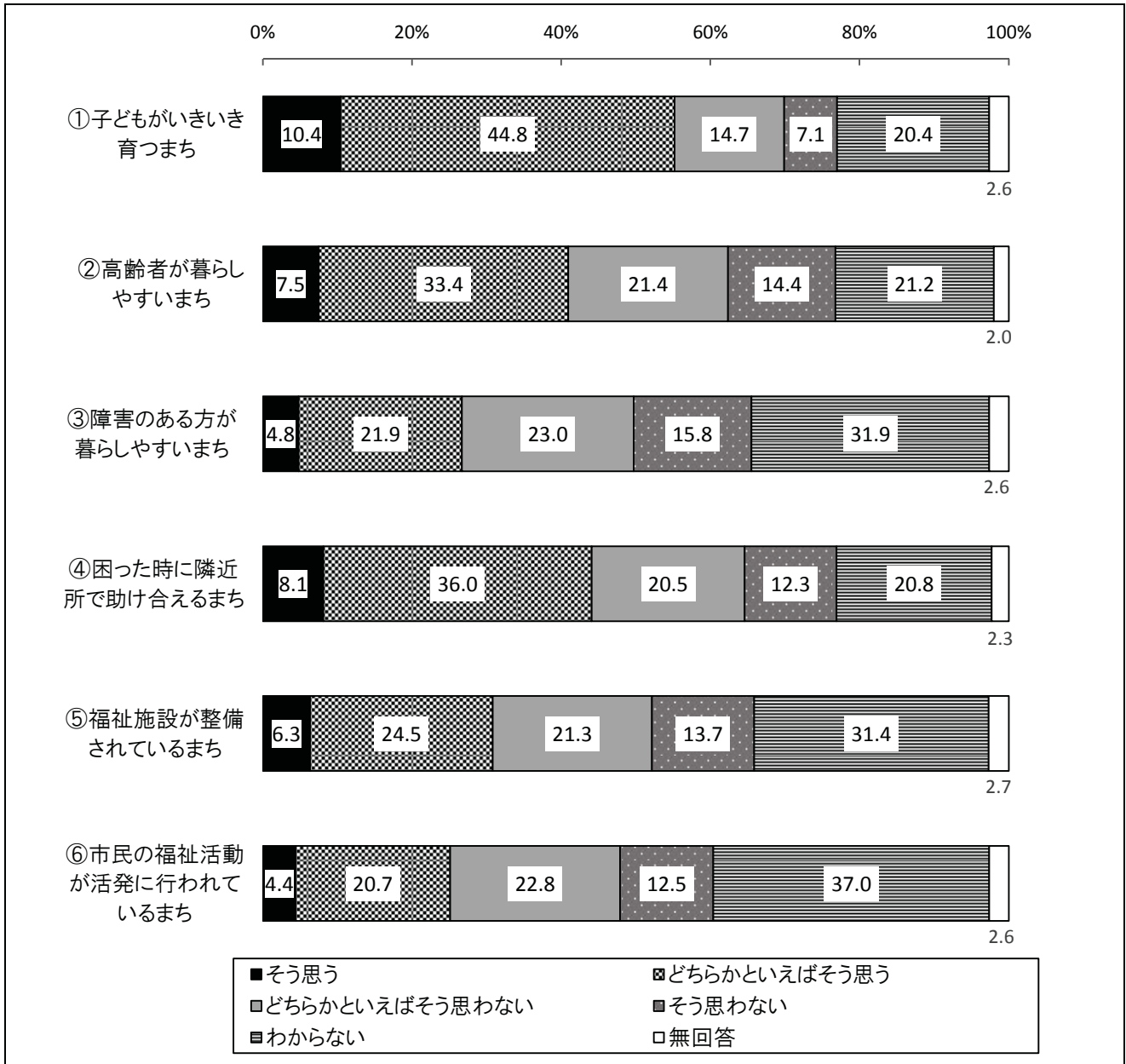
【年代別】



性別でみると、「高齢者に関する福祉」は男性が72.4%、女性が67.6%となっており同程度である。「子供に関する福祉」は男性が25.6%、女性が30.5%となっており、女性の方が高い。

年代別でみると、「高齢者に関する福祉」は高齢層ほど割合が高くなる傾向にあり、70代では79.1%となっている。一方、若年層では「障害のある人に関する福祉」と「子供に関する福祉」の割合が高い傾向がある。

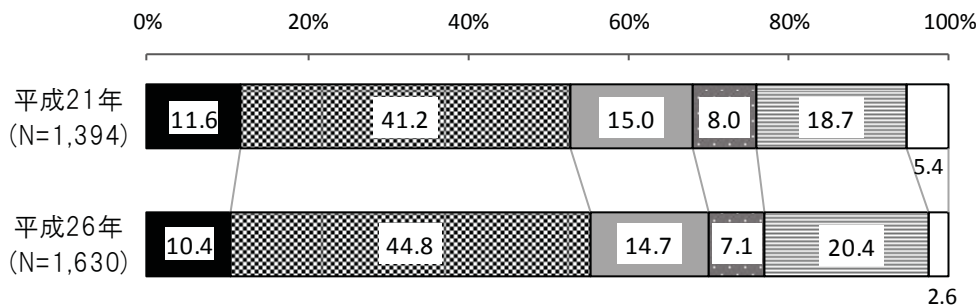
問 12 あなたは、富士市がどのようなまちだと思いますか。(〇はそれぞれ1つだけ)



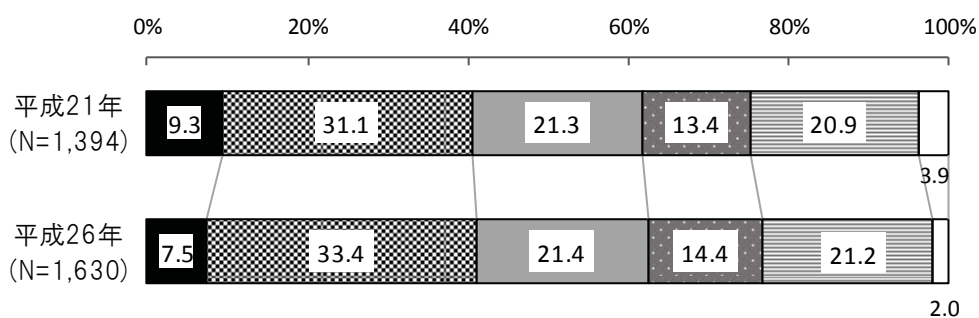
「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数値が最も高かった項目は、「①子どもがいきいき育つまち」が55.2%となった。次いで、「④困った時に隣近所で助け合えるまち」が44.1%、「②高齢者が暮らしやすいまち」が40.9%となっている。

【経年変化】

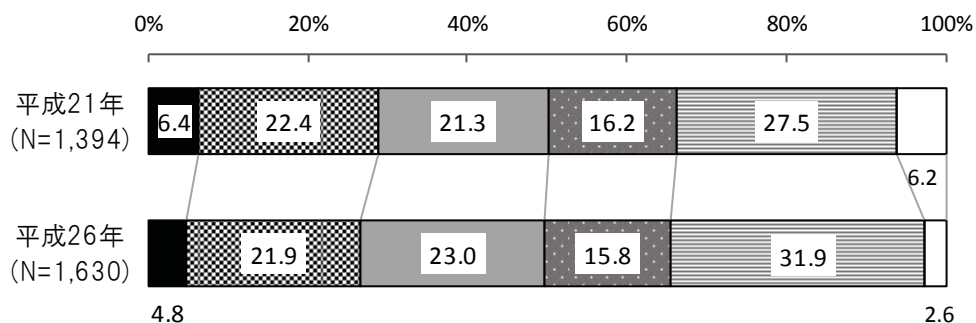
①子どもがいきいき育つまち



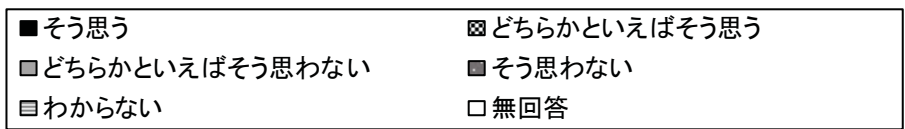
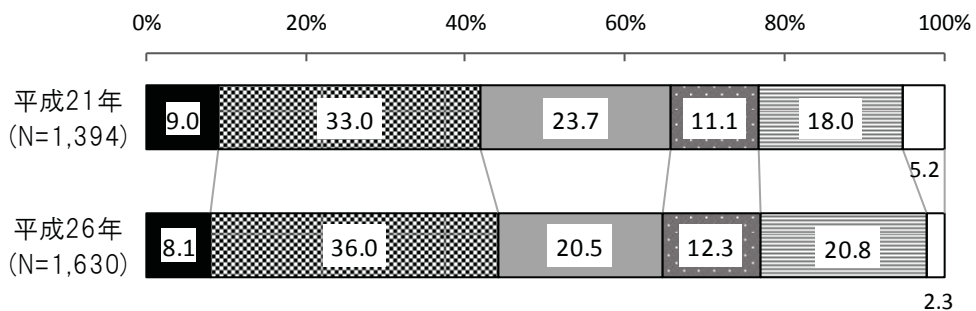
②高齢者が暮らしやすいまち



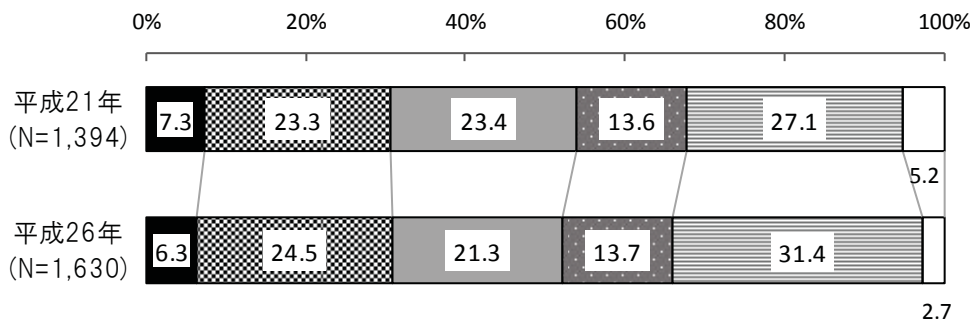
③障害のある方が暮らしやすいまち



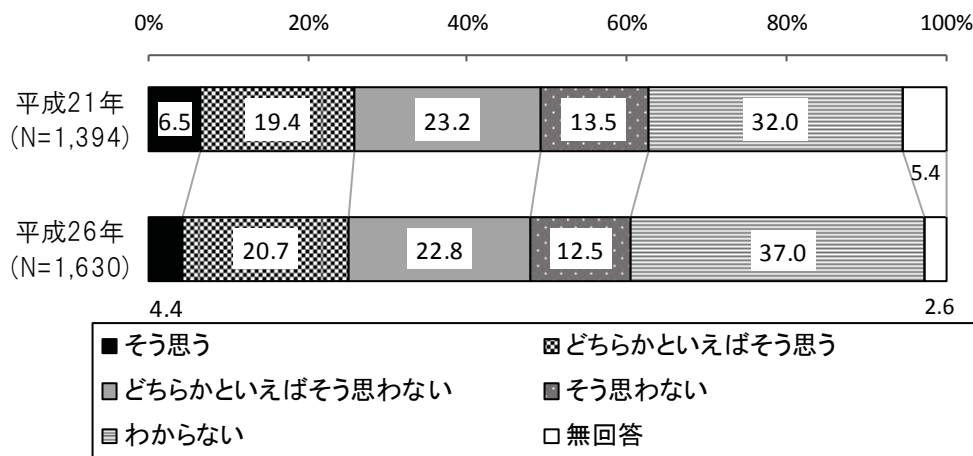
④困った時に隣近所で助け合えるまち



⑤福祉施設が整備されているまち

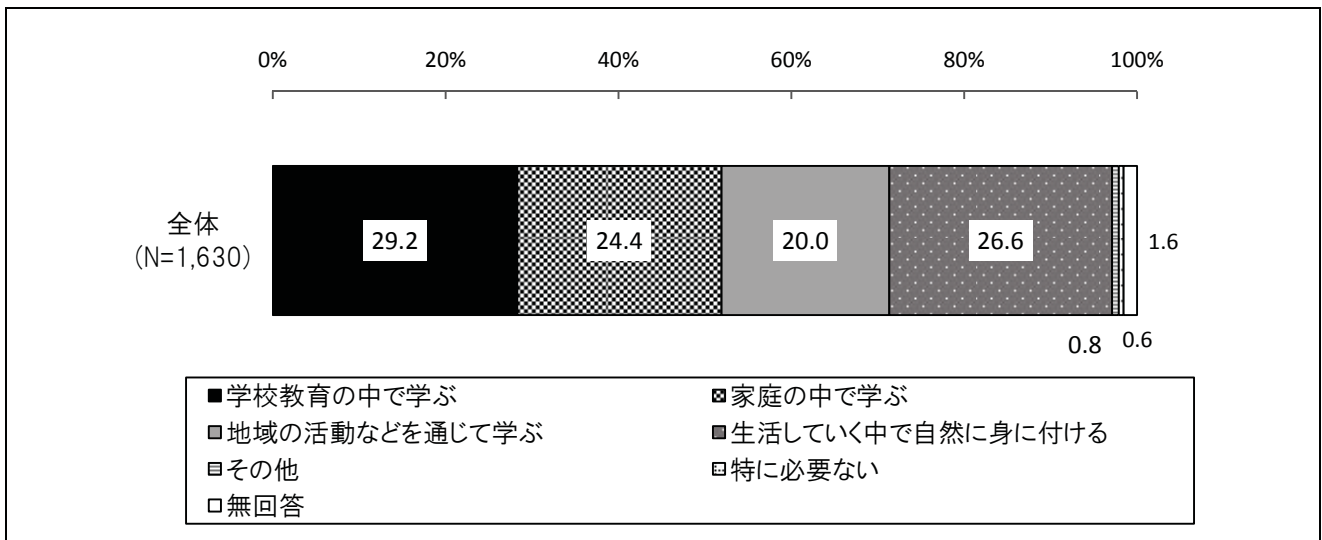


⑥市民の福祉活動が活発に行われているまち



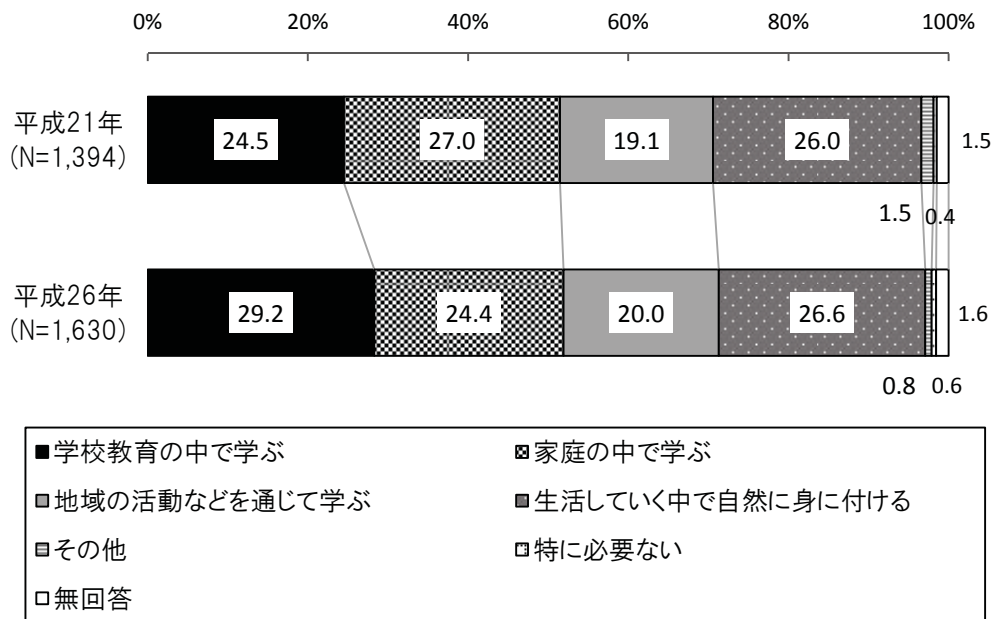
前回の調査結果と比較すると、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた数値が高くなったのは「①子どもがいきいき育つまち」と「④困った時に隣近所で助け合えるまち」の2項目となっている。「①子どもがいきいき育つまち」は平成21年が52.8%、平成26年が55.2%と、平成21年より2.4ポイント僅かに高くなっている。「④困った時に隣近所で助け合えるまち」は平成21年が42.0%、平成26年が44.1%と、こちらも平成21年より2.1ポイント僅かに高くなっている。

問 13 子どもたちに対する福祉教育(思いやりの心や福祉への理解と参加の心を育てる教育)について、あなたが最も大切だと思うものは何ですか。(〇は1つだけ)



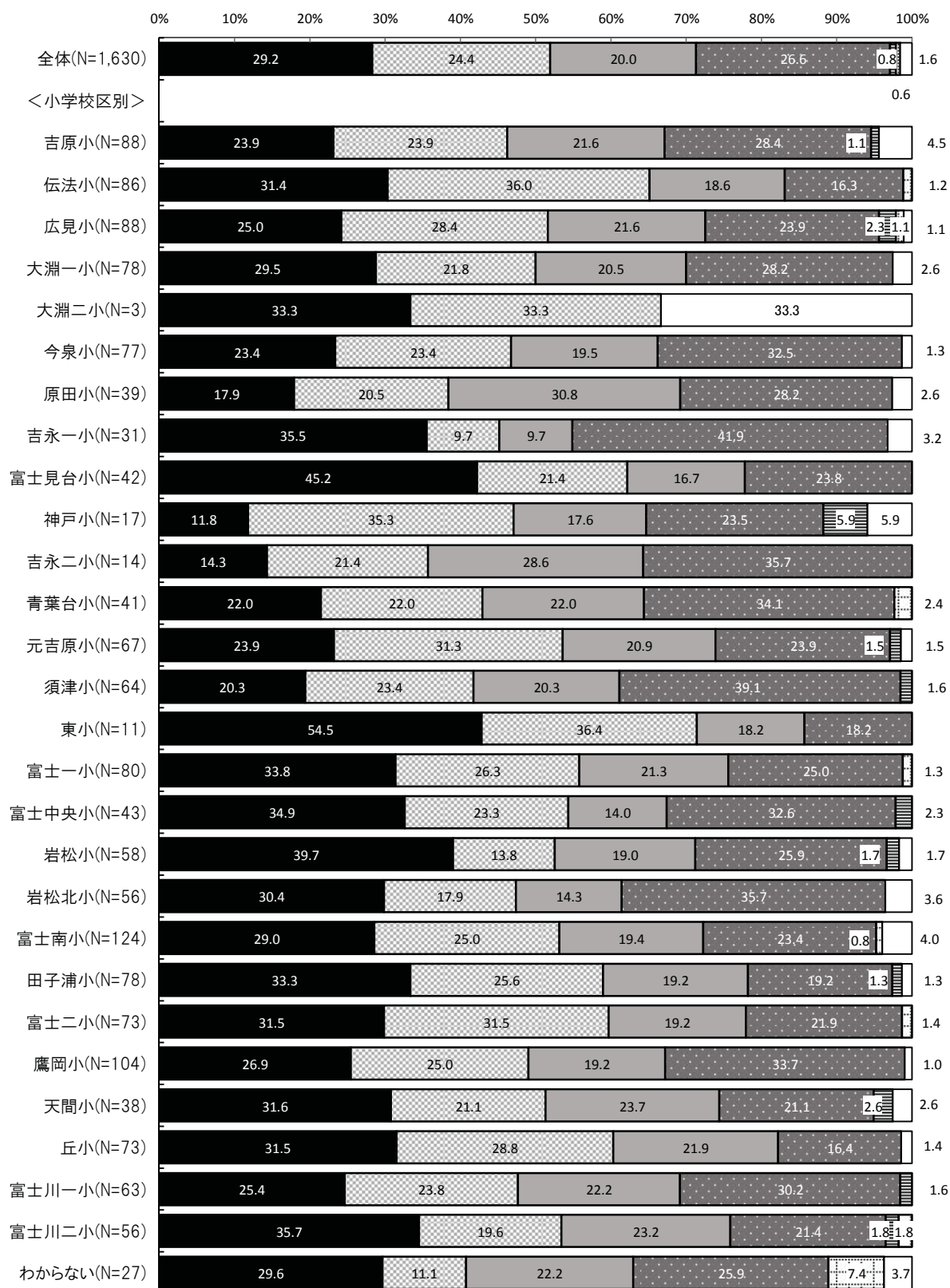
「学校教育の中で学ぶ」が最も高く 29.2%、次いで「生活していく中で身に付ける」が 26.6%、「家庭の中で学ぶ」が 24.4%と続いている。

【経年変化】



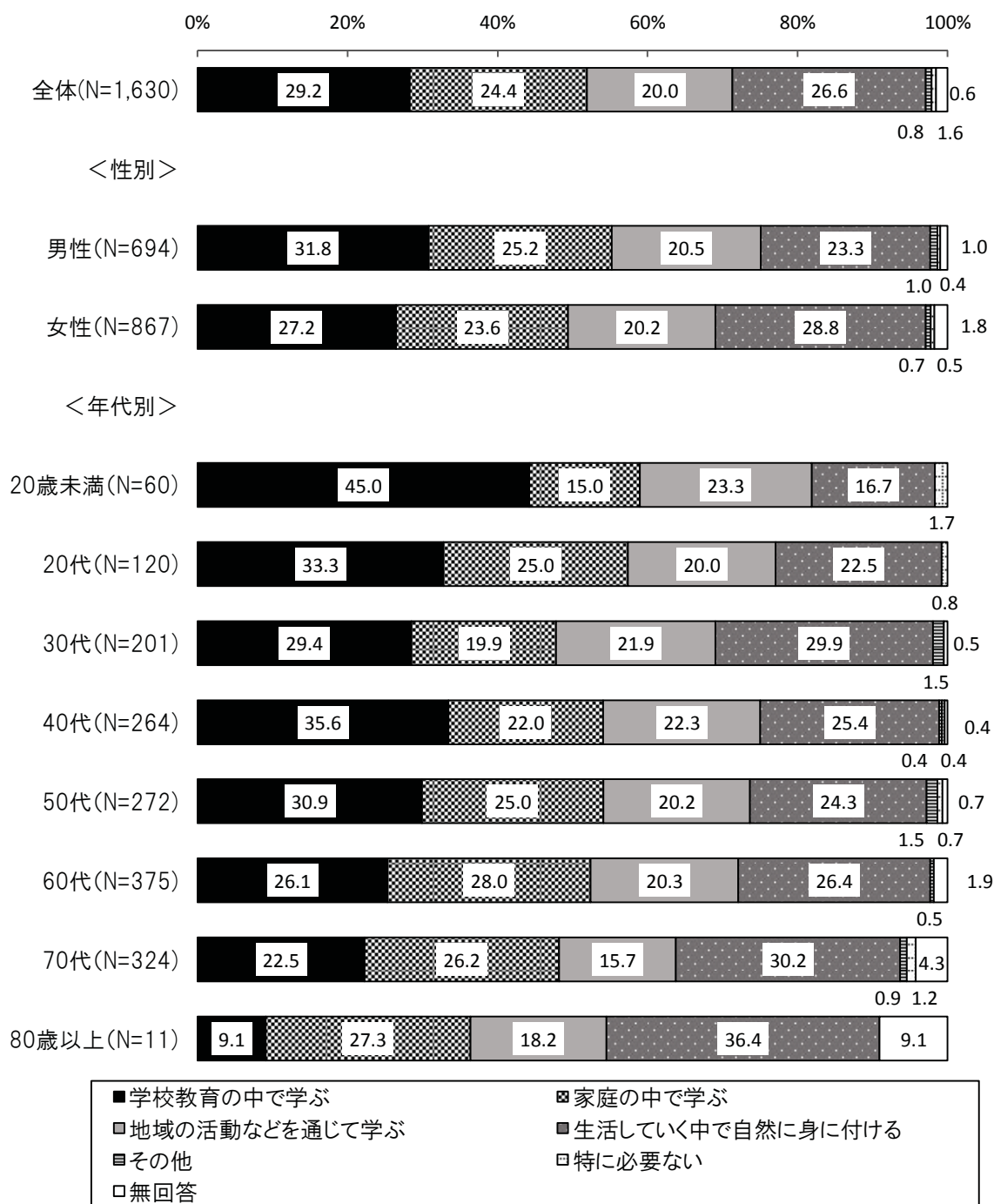
前回の調査結果と比較すると、「学校教育の中で学ぶ」は平成 21 年が 24.5%、平成 26 年が 29.2%となっており 4.7 ポイント高くなっている。一方、「家庭の中で学ぶ」は平成 21 年が 27.0%、平成 26 年が 24.4%と、2.6 ポイント低くなっている。

【小学校区別】



- 学校教育の中で学ぶ
- 家庭の中で学ぶ
- 地域の活動などを通じて学ぶ
- 生活していく中で自然に身に付ける
- その他
- 特に必要ない
- 無回答

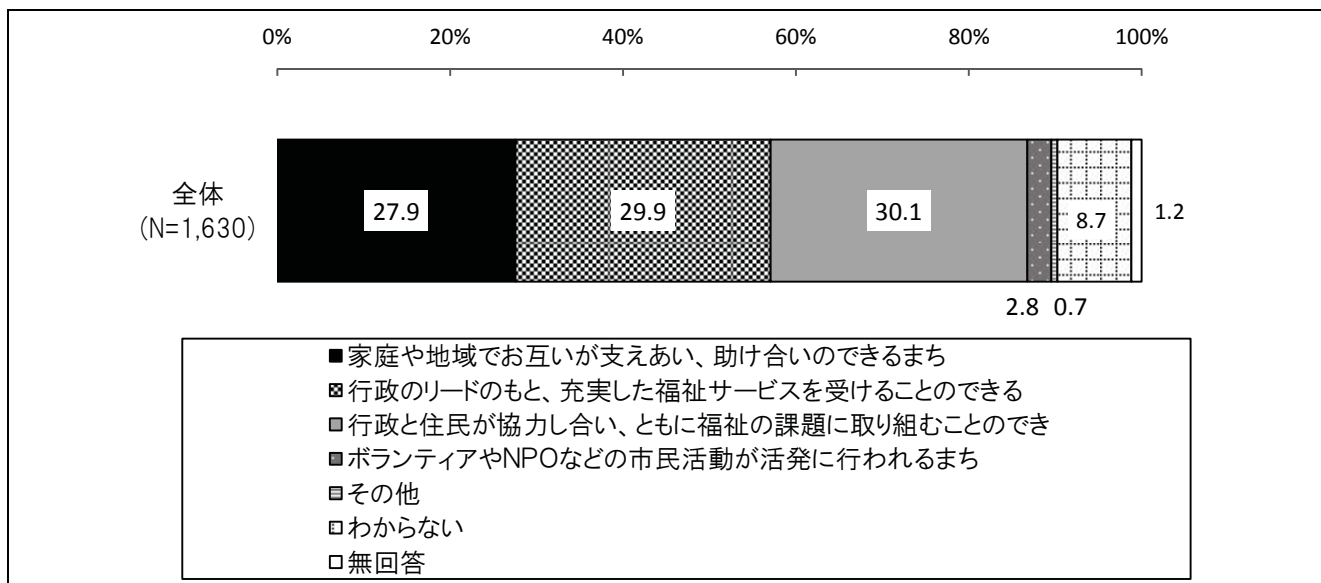
【性別・年代別】



性別でみると、男性は「学校教育の中で学ぶ」が最も高く 31.8%であるのに対し、女性は「生活していく中で身に付ける」が最も高く 28.8%となっている。

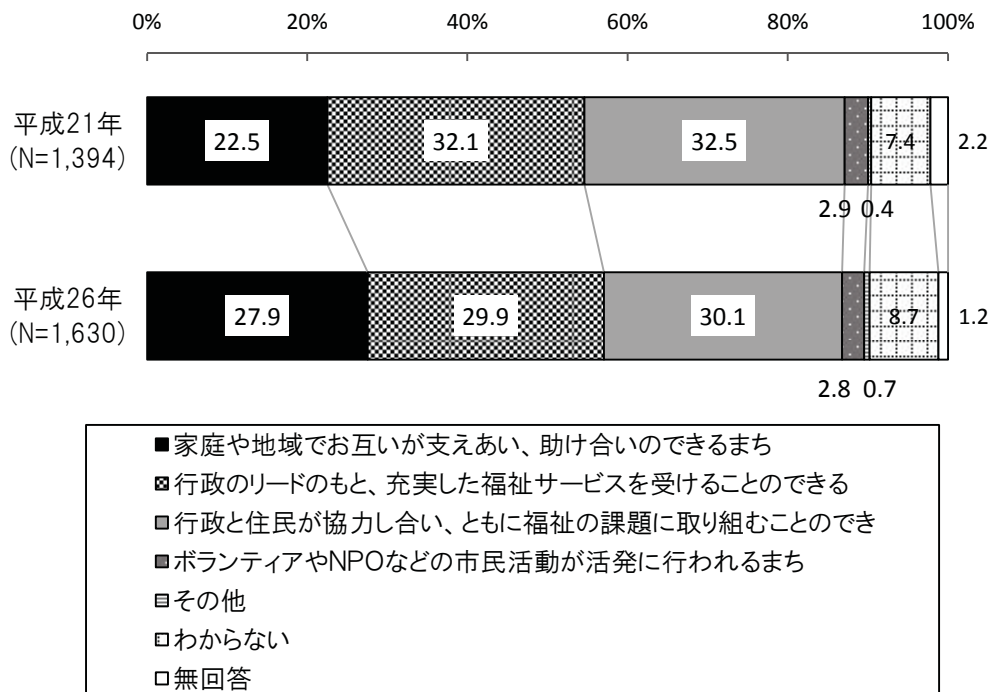
年代別でみると、「学校教育の中で学ぶ」は 20 歳未満では 45.0%、40 代では 35.6%と高い。

問 14 あなたは、富士市がどのような『福祉のまち』になると良いと思いますか。
 (〇は主なものに1つ)



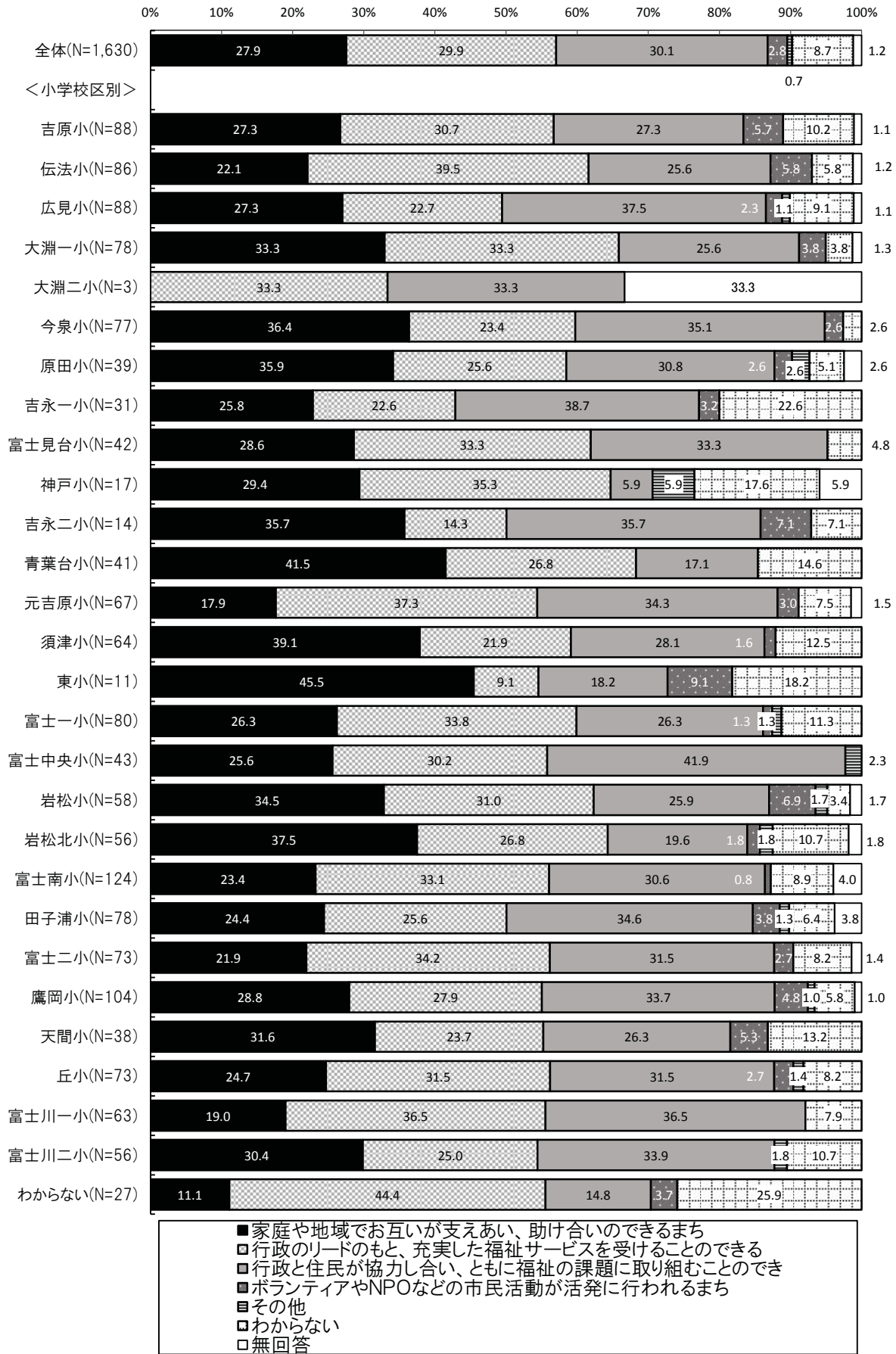
「行政と住民が協力し合い、ともに福祉の課題に取り組むことのできるまち」が最も高く 30.1%、次いで「行政のリードのもと、充実した福祉サービスを受けることのできるまち」が 29.9%、「家庭や地域でお互いが支えあい、助け合いのできるまち」が 27.9%と続いている。

【経年変化】

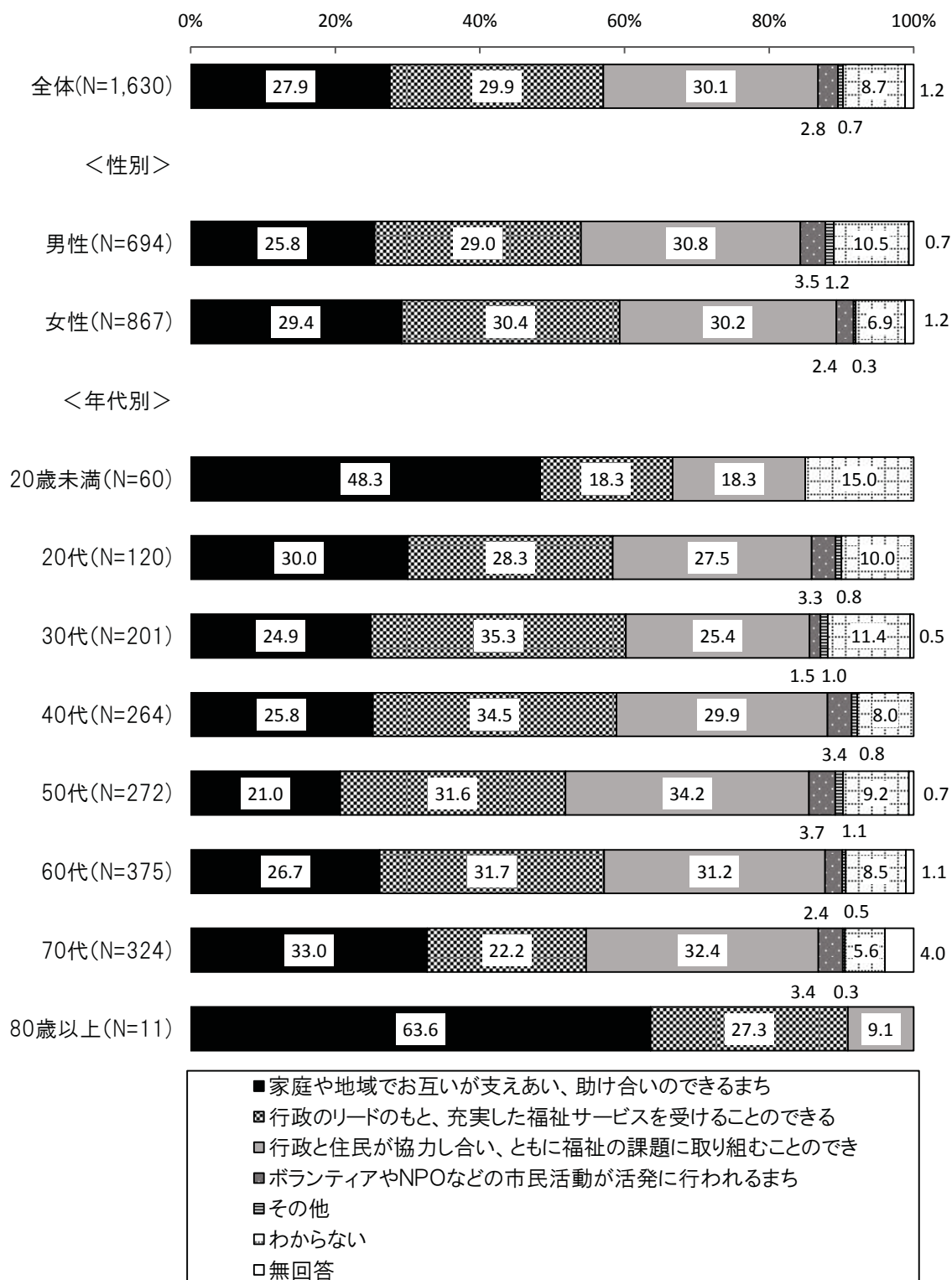


前回の調査結果と比較すると、「行政と住民が協力し合い、ともに福祉の課題に取り組むことのできるまち」は平成 21 年が 32.5%、平成 26 年が 30.1%となっており 2.4 ポイント低くなっている。

【小学校区別】



【性別・年代別】

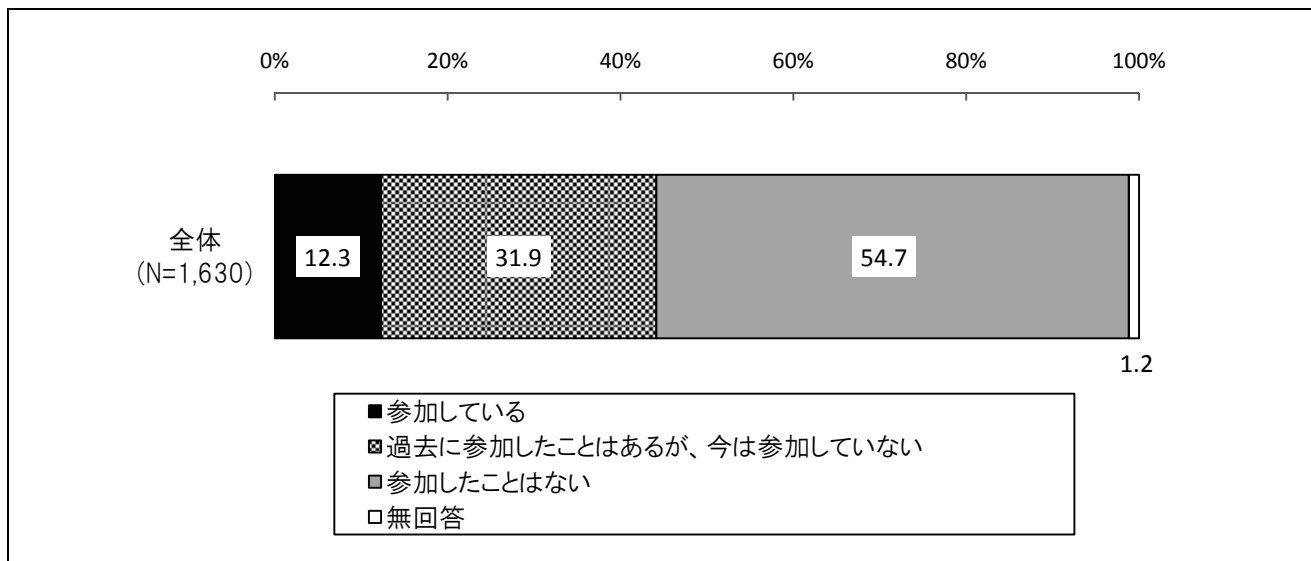


性別でみると、男性は「行政と住民が協力し合い、ともに福祉の課題に取り組むことのできるまち」が最も高く 30.8%であるのに対し、女性は「行政のリードのもと、充実した福祉サービスを受けることのできるまち」が最も高く 30.4%となっている。

年代別でみると、「行政と住民が協力し合い、ともに福祉の課題に取り組むことのできるまち」は 20歳未満では 48.3%と高いが 20代から 50代にかけて低下し、50代の 21.0%を境に高くなり 70代では 33.0%となっている。

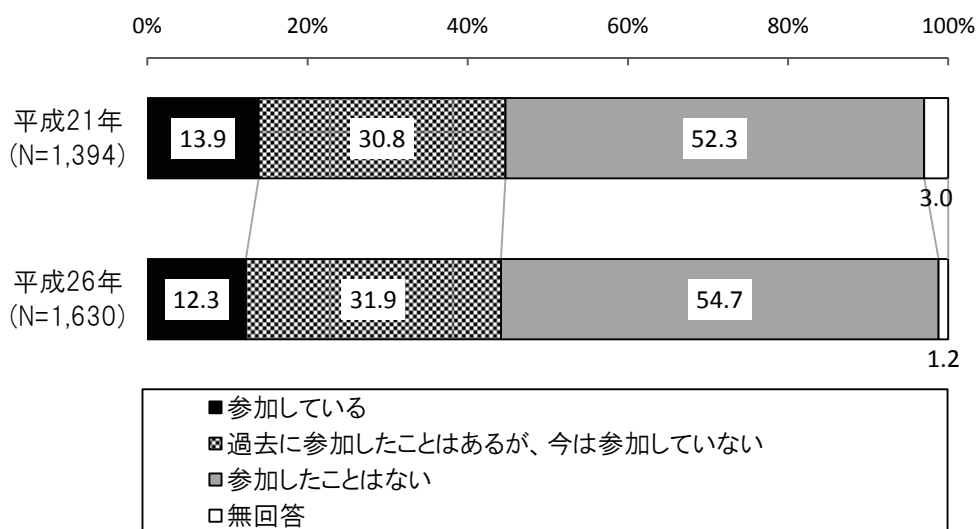
< ボランティア活動などに関すること >

問 15 あなたは、ボランティア活動に参加したことがありますか。(○は1つだけ)



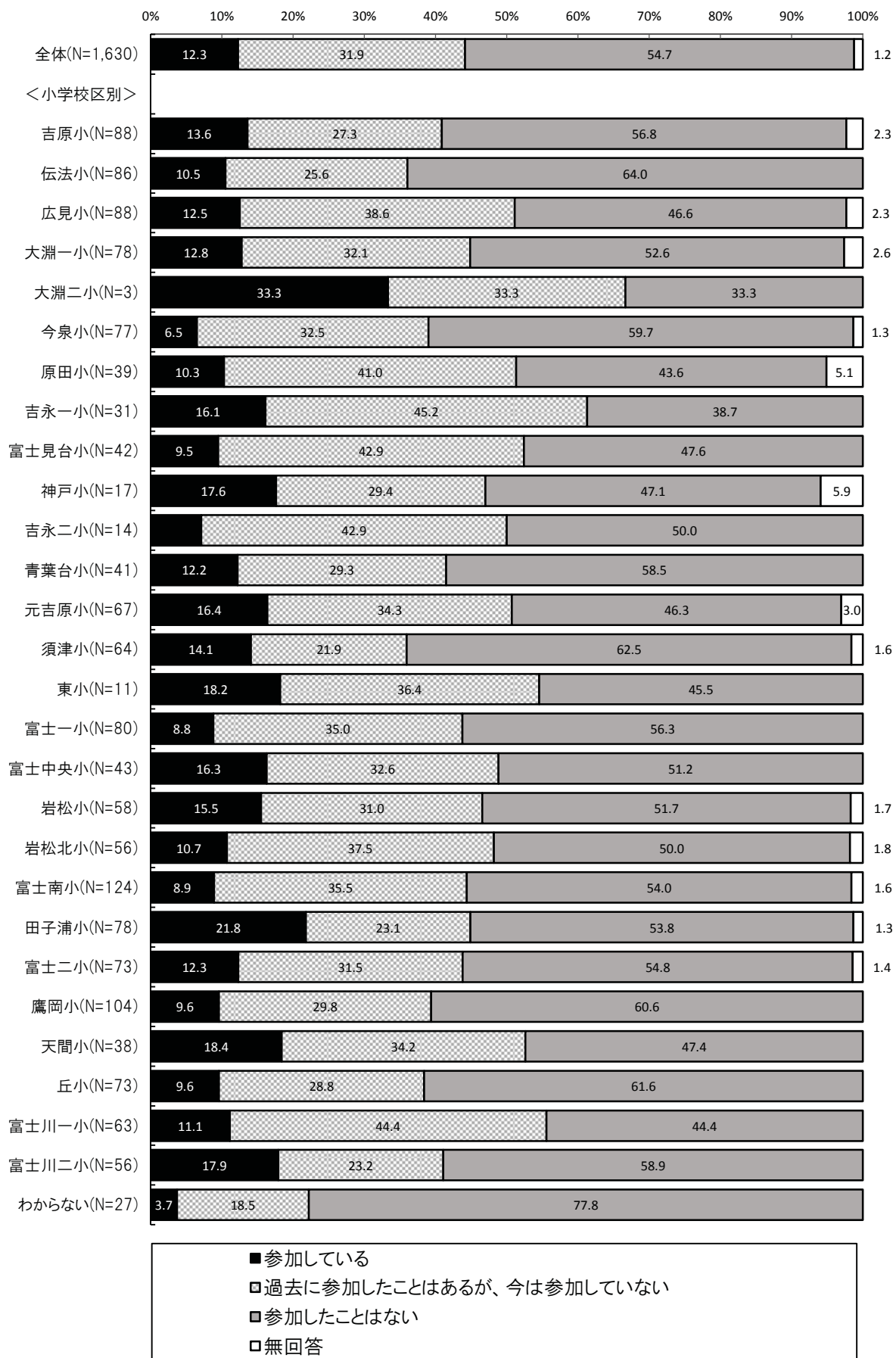
「参加している」は 12.3%、「過去に参加したことはあるが、今は参加していない」が 31.9%、「参加したことはない」が 54.7%となっている。

【経年変化】

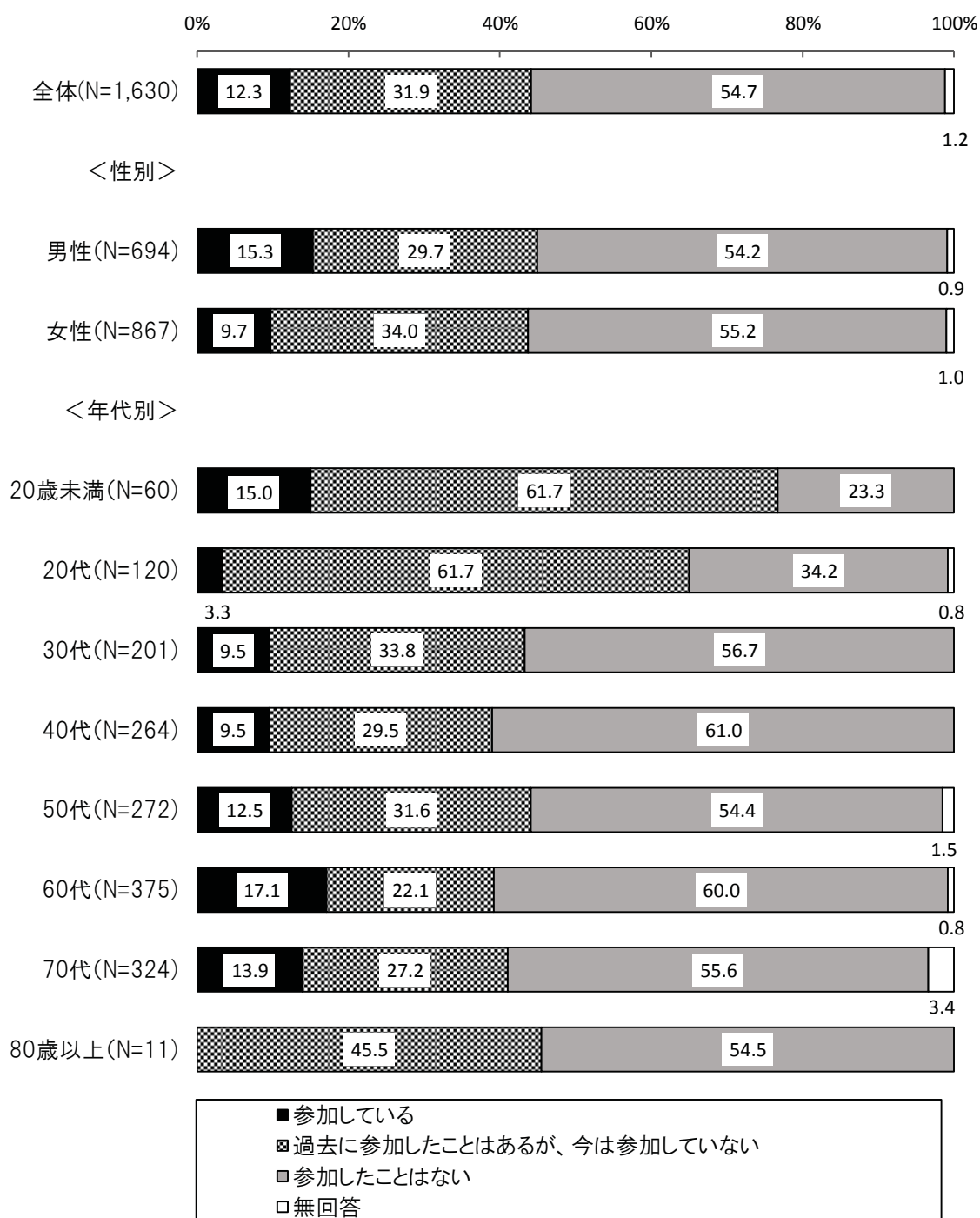


前回の調査結果と比較すると、「参加している」は平成 21 年が 13.9%、平成 26 年が 12.3%となっており 1.6 ポイント低くなっている。「参加したことはない」は平成 21 年が 52.3%、平成 26 年が 54.7%となっており 2.4 ポイント高くなっている。

【小学校区別】



【性別・年代別】

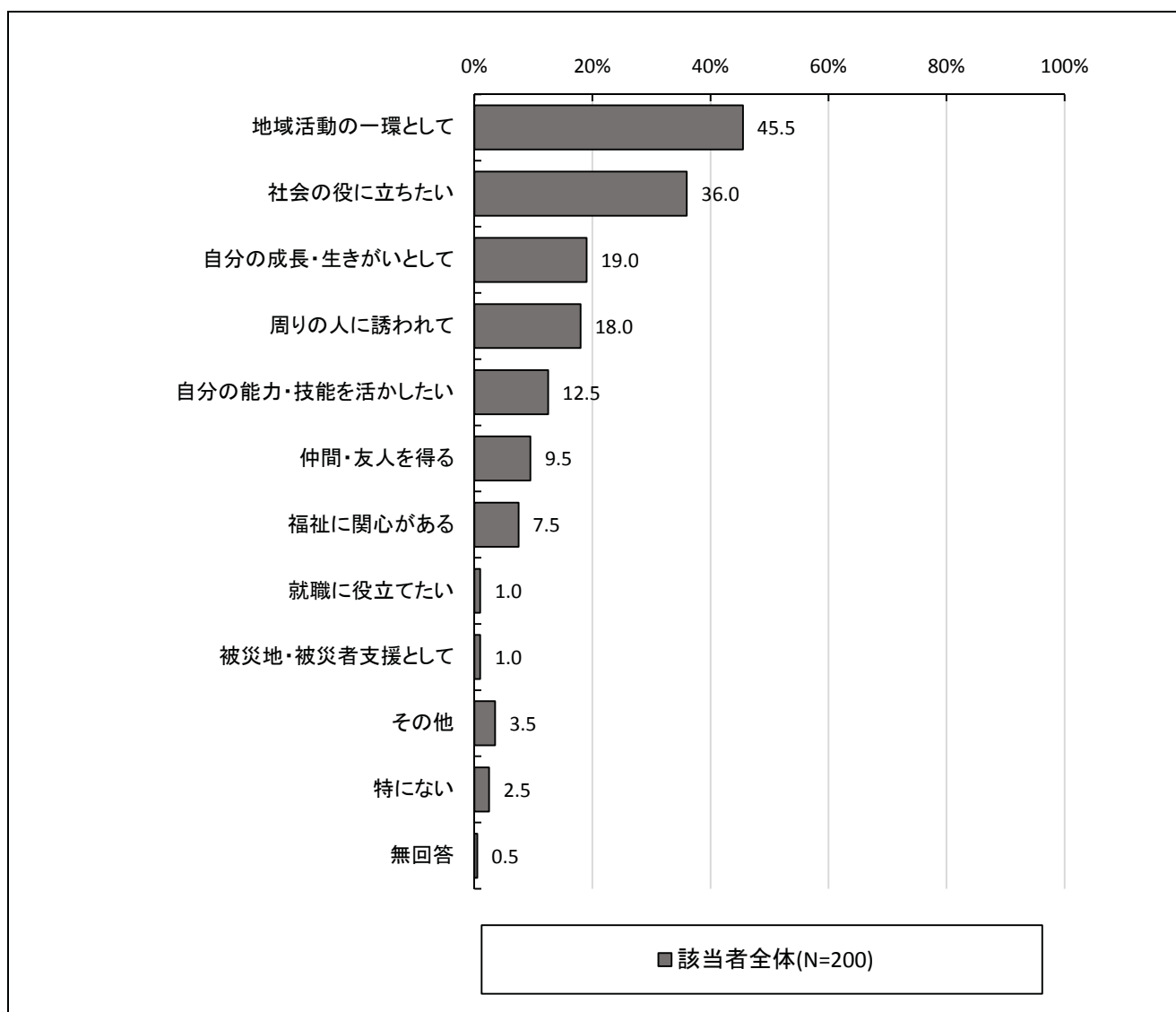


性別で見ると、「参加している」は男性が 15.3%、女性は 9.7%と、女性より男性が高い。

年代別で見ると、「過去に参加したことはあるが、今は参加していない」が 20 歳未満と 20 代では 6 割以上だが、30 代以上の年代では「参加したことはない」の割合が 5 割から 6 割となっている。

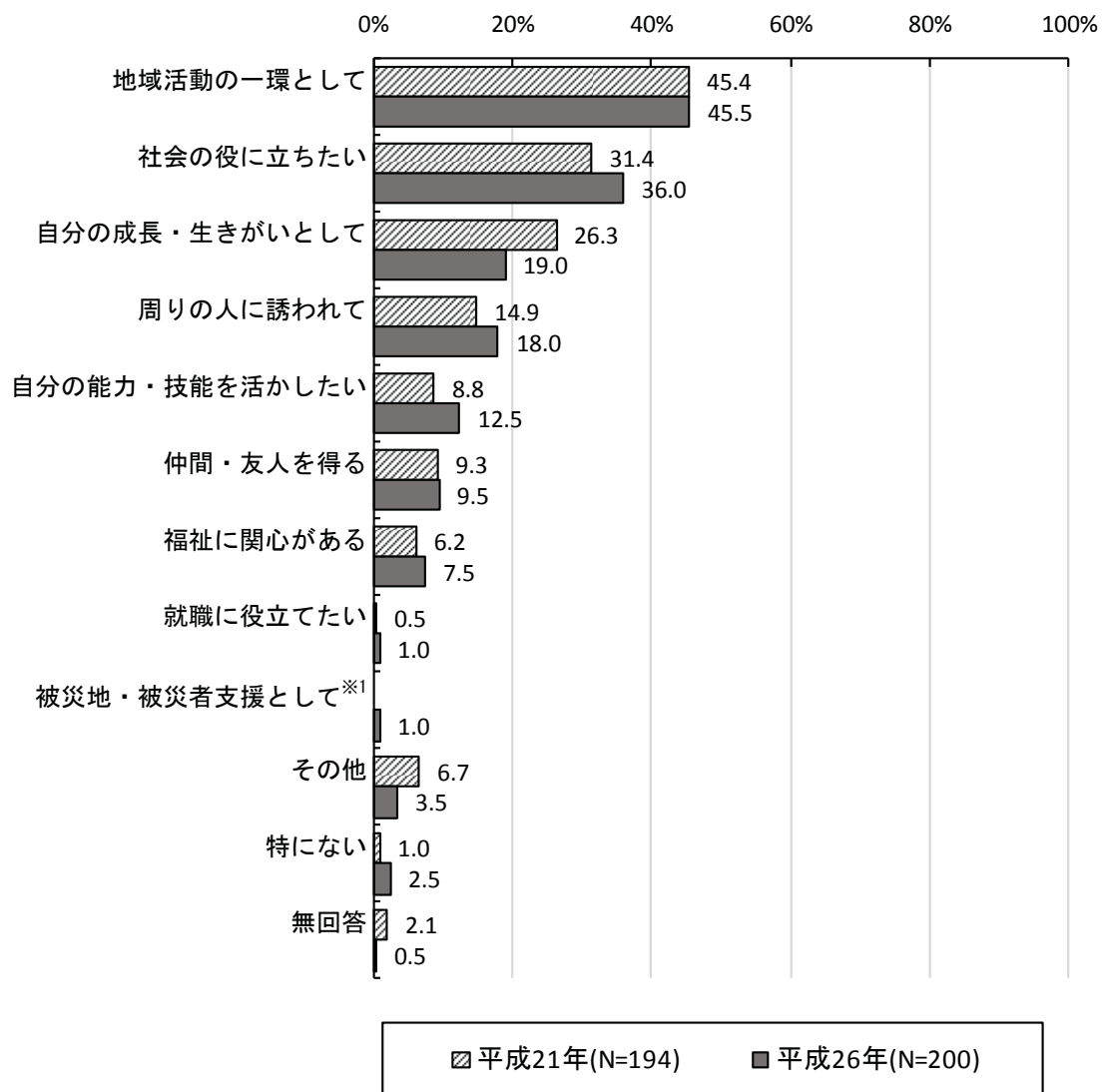
問 15 で「1 参加している」と回答した方に伺います。

問 15-1 あなたがボランティア活動に参加しているきっかけはどのようなことですか。(〇は2つまで)



「地域活動の一環として」が最も高く 45.5%、次いで「社会の役に立ちたい」が 36.0%、「自分の成長・生きがいとして」が 19.0%と続いている。

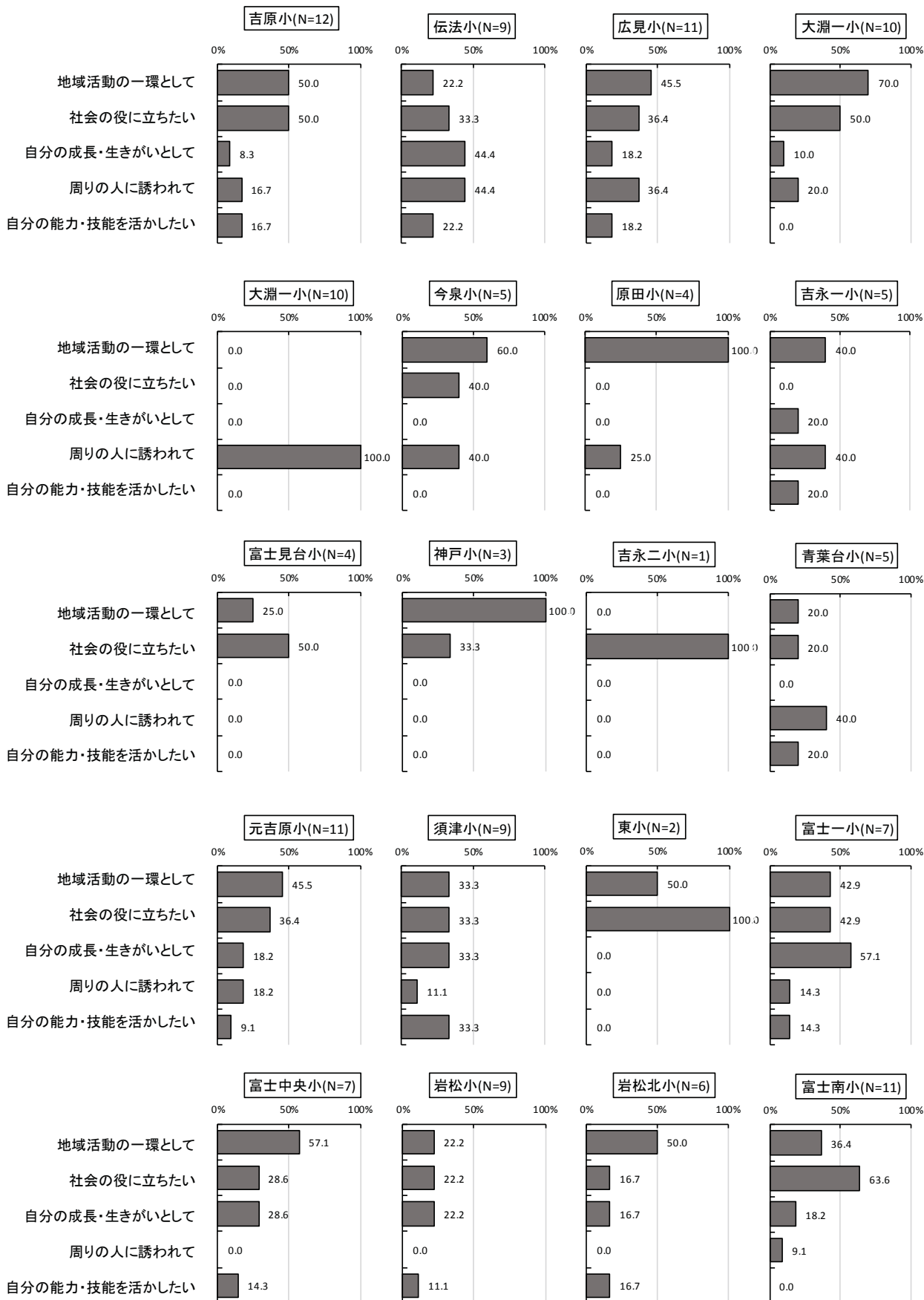
【経年変化】

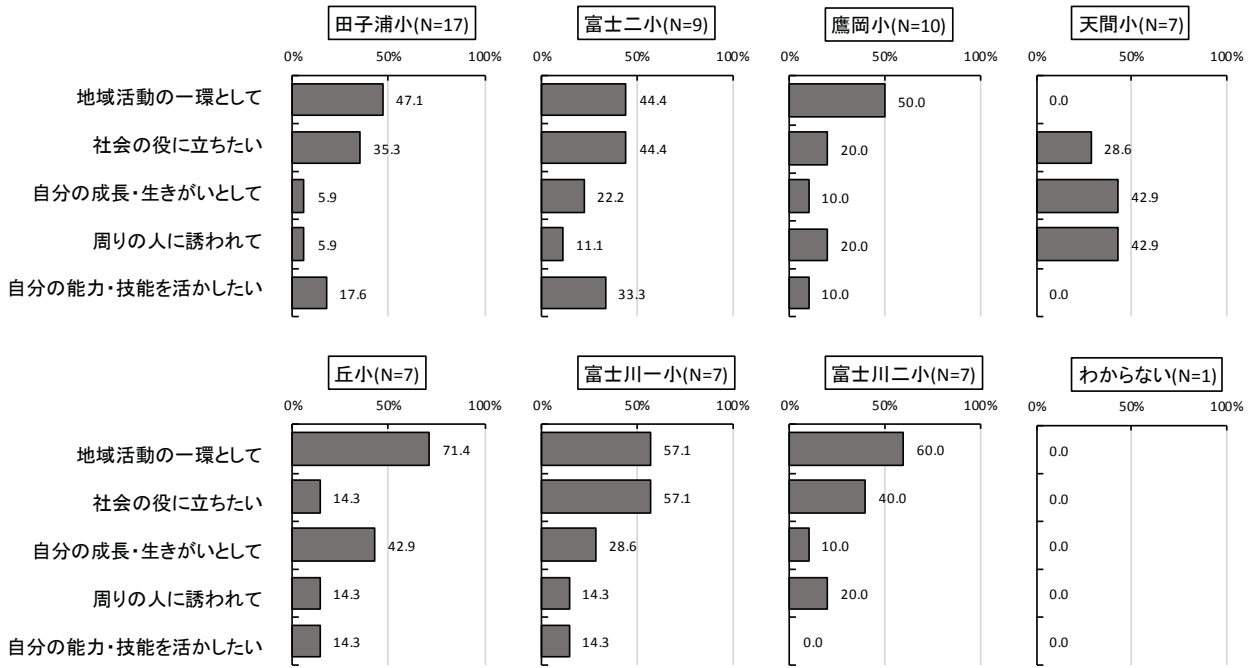


※1「被災地・被災者支援として」は平成26年の新設項目

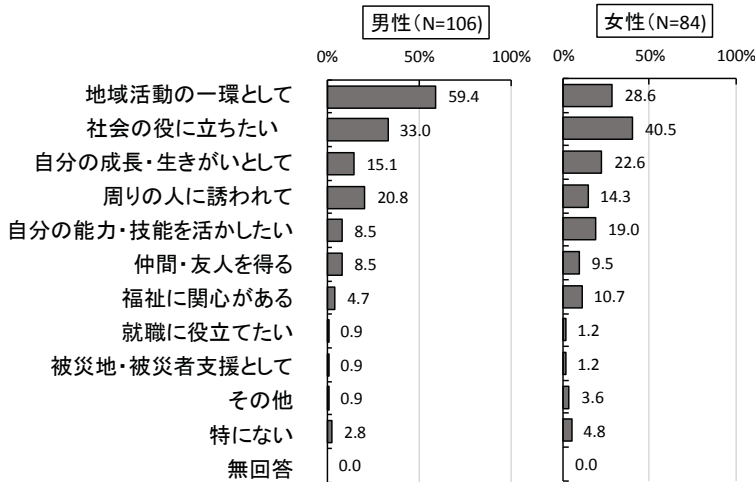
前回の調査結果と比較すると、「地域活動の一環として」は平成21年が45.4%、平成26年が45.5%とほぼ同様の結果になっている。「社会の役に立ちたい」は平成21年が31.4%、平成26年が36.0%と、4.6ポイント高くなり、「自分の成長・生きがいとして」は平成21年が26.3%、平成26年が19.0%と、7.3ポイント低くなっている。

【小学校区別】

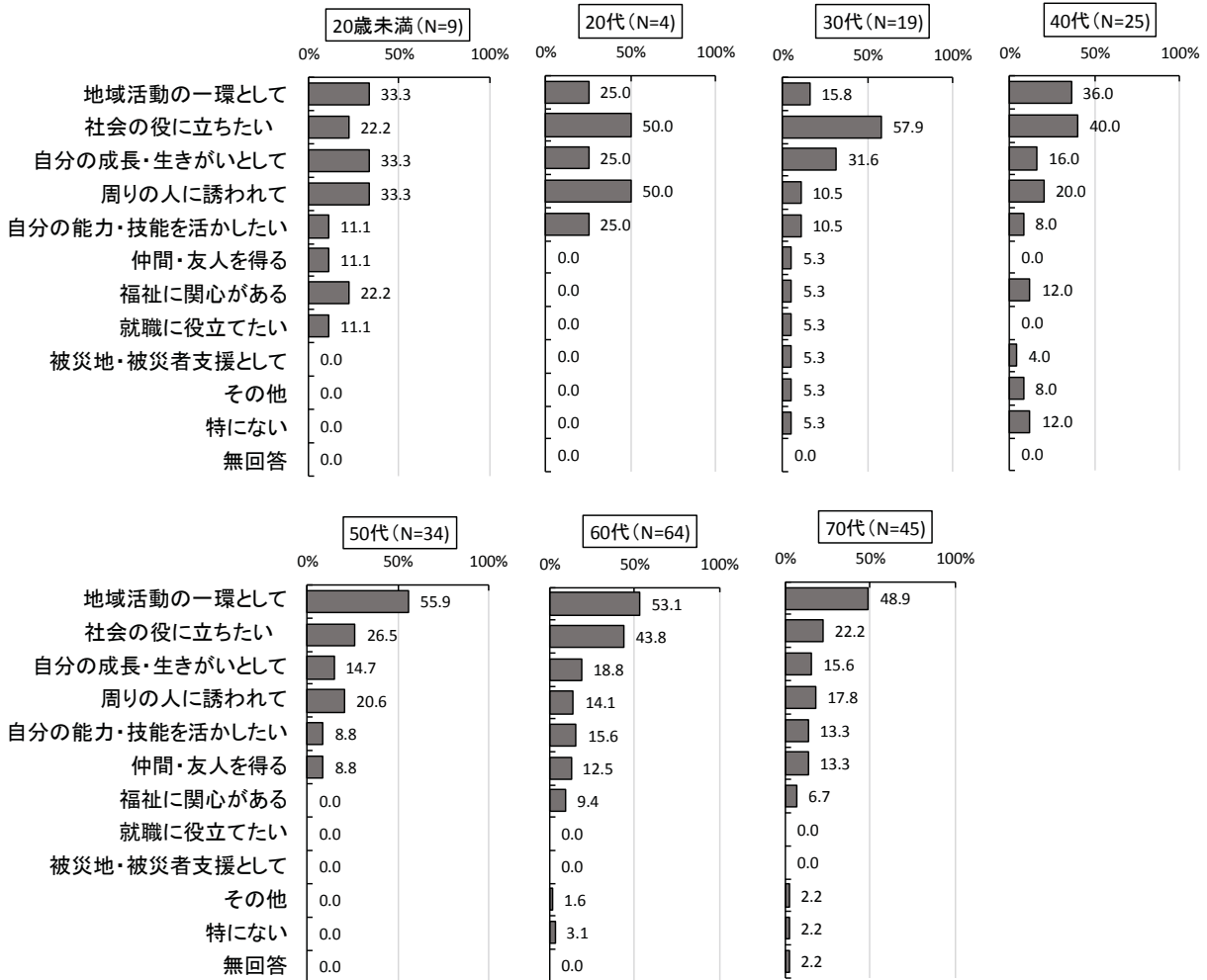




【性別】



【年代別】

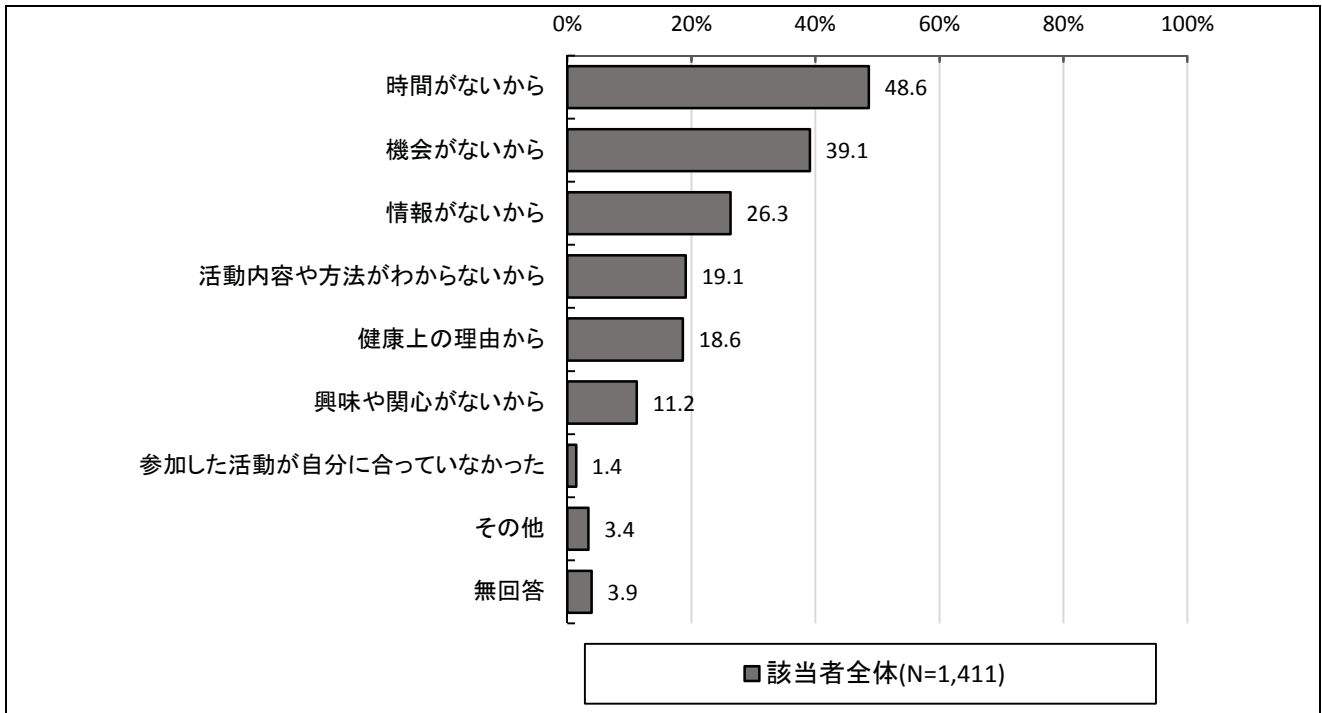


性別で見ると、男性は「地域活動の一環として」が最も高く 59.4%であるのに対し、女性は「社会の役に立ちたい」が最も高く 40.5%となっている。

年代別で見ると、「地域活動の一環として」が最も高いのは 50 代以上の高齢層で、「社会の役に立ちたい」は 20 代から 40 代で最も高くなっている。

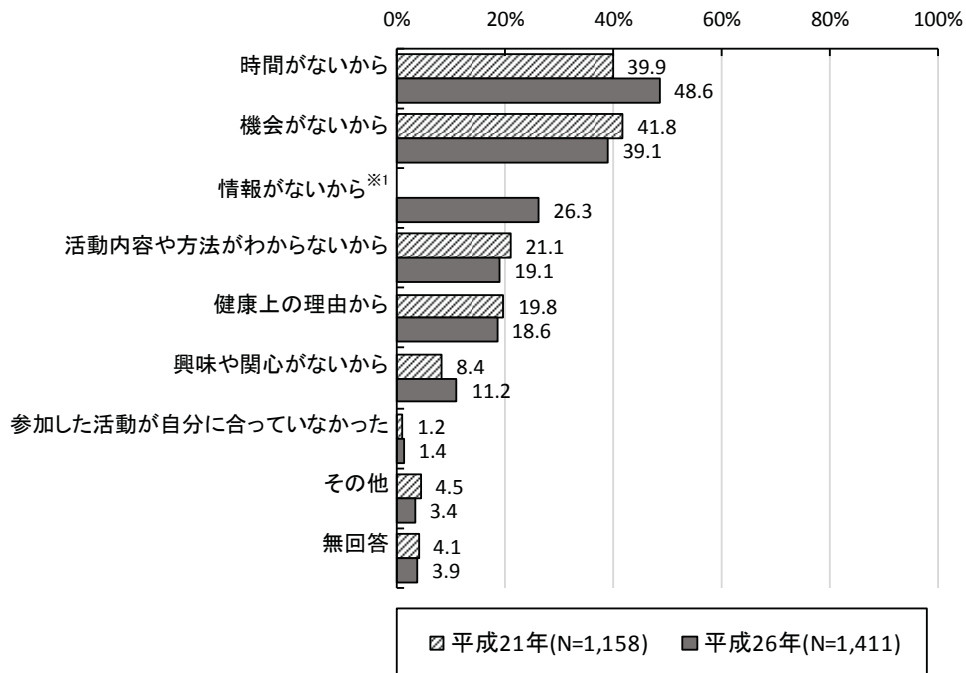
問 15 で「2 過去に参加したことがあるが、今は参加していない」、「3 参加したことはない」と回答した方に伺います。

問 15.2 現在参加していない主な理由をお聞かせください。(あてはまるものすべてに○)



「時間がないから」が最も高く 48.6%、次いで「機会がないから」が 39.1%、「情報がないから」が 26.3%と続いている。

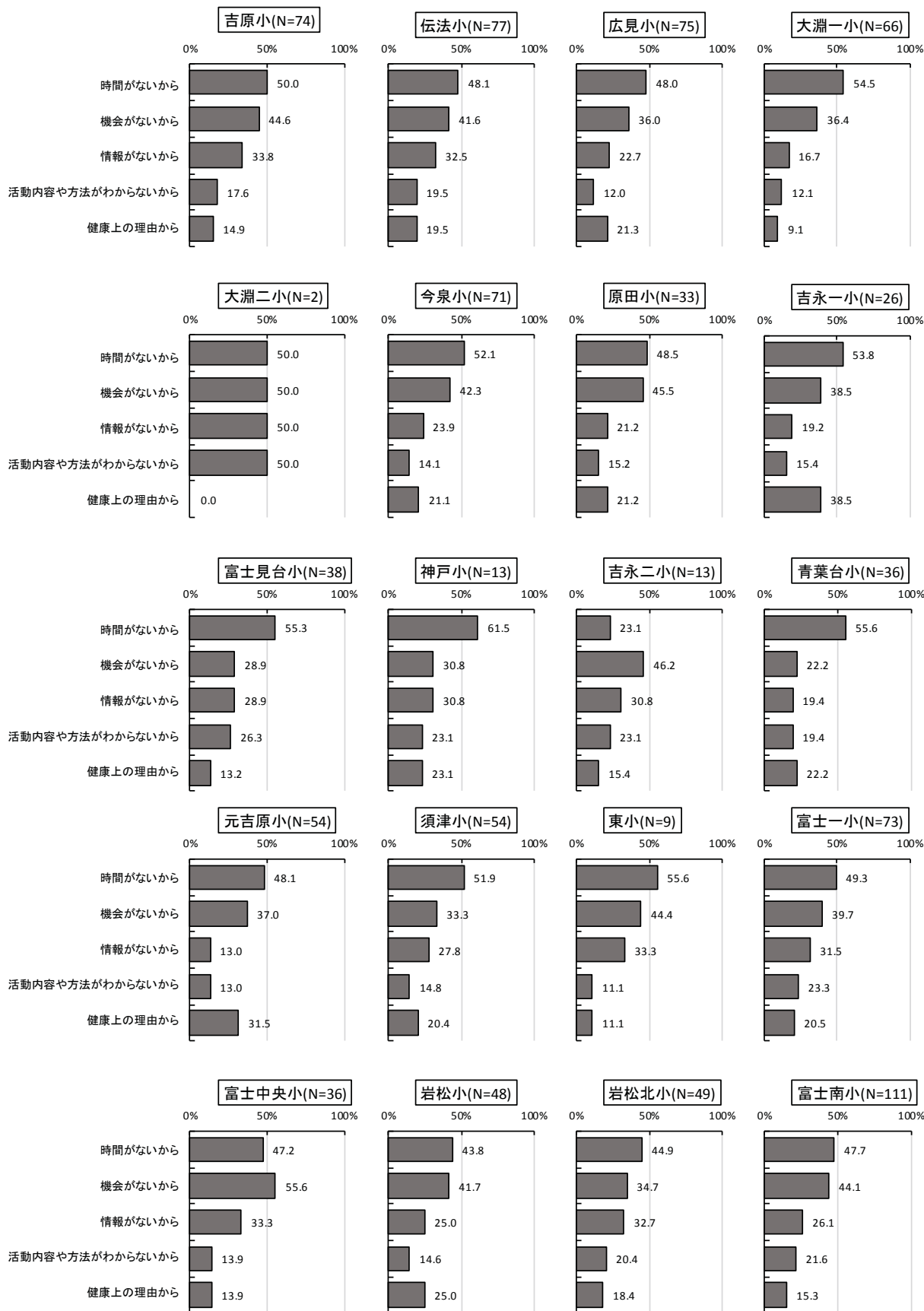
【経年変化】

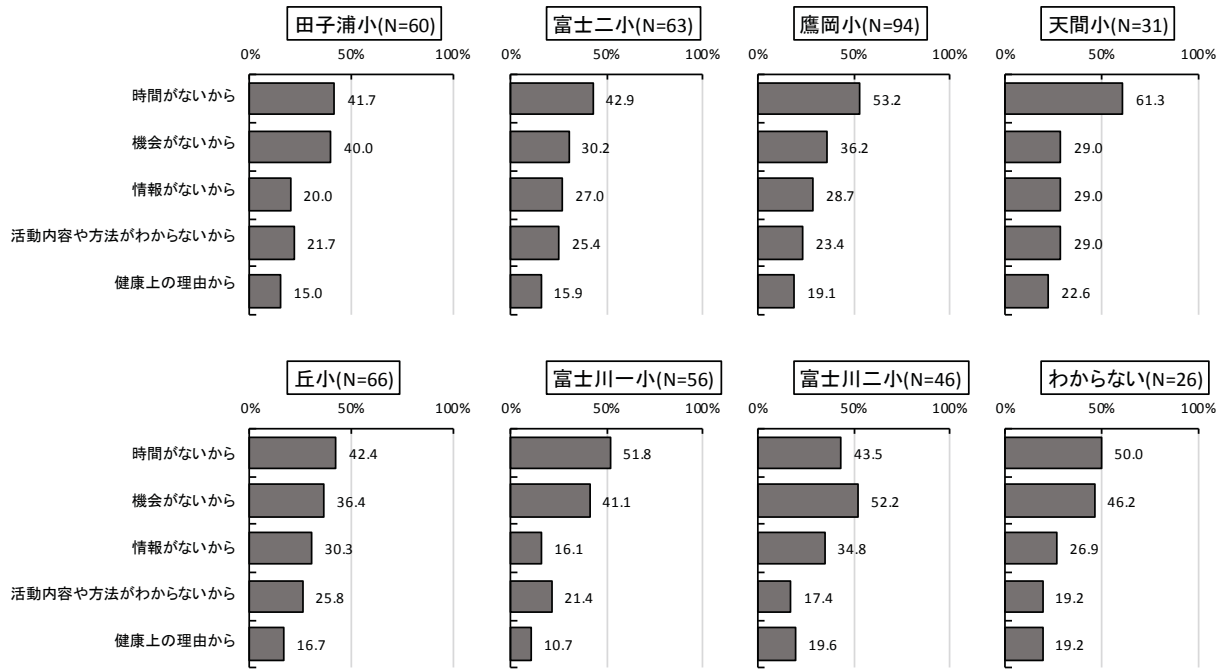


※1「情報がないから」は平成 26 年の新設項目

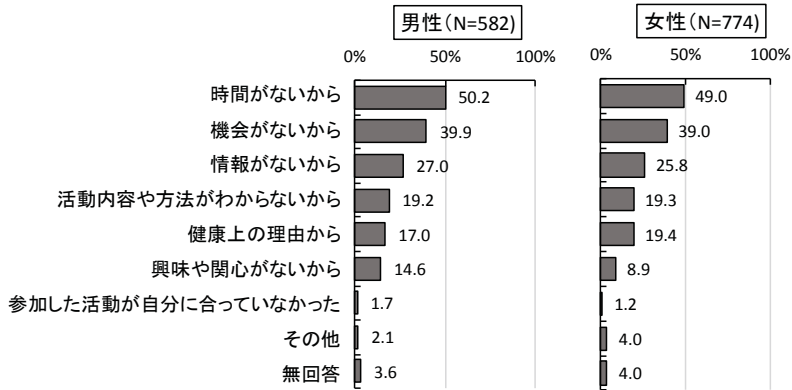
前回の調査結果と比較すると、平成 21 年は「機会がないから」がトップで 41.8%だったが、今回は「時間がないから」がトップになっている。「時間がないから」については、平成 21 年の 39.9%から 8.7 ポイント高くなり平成 26 年では 48.6%となっている。

【小学校区別】

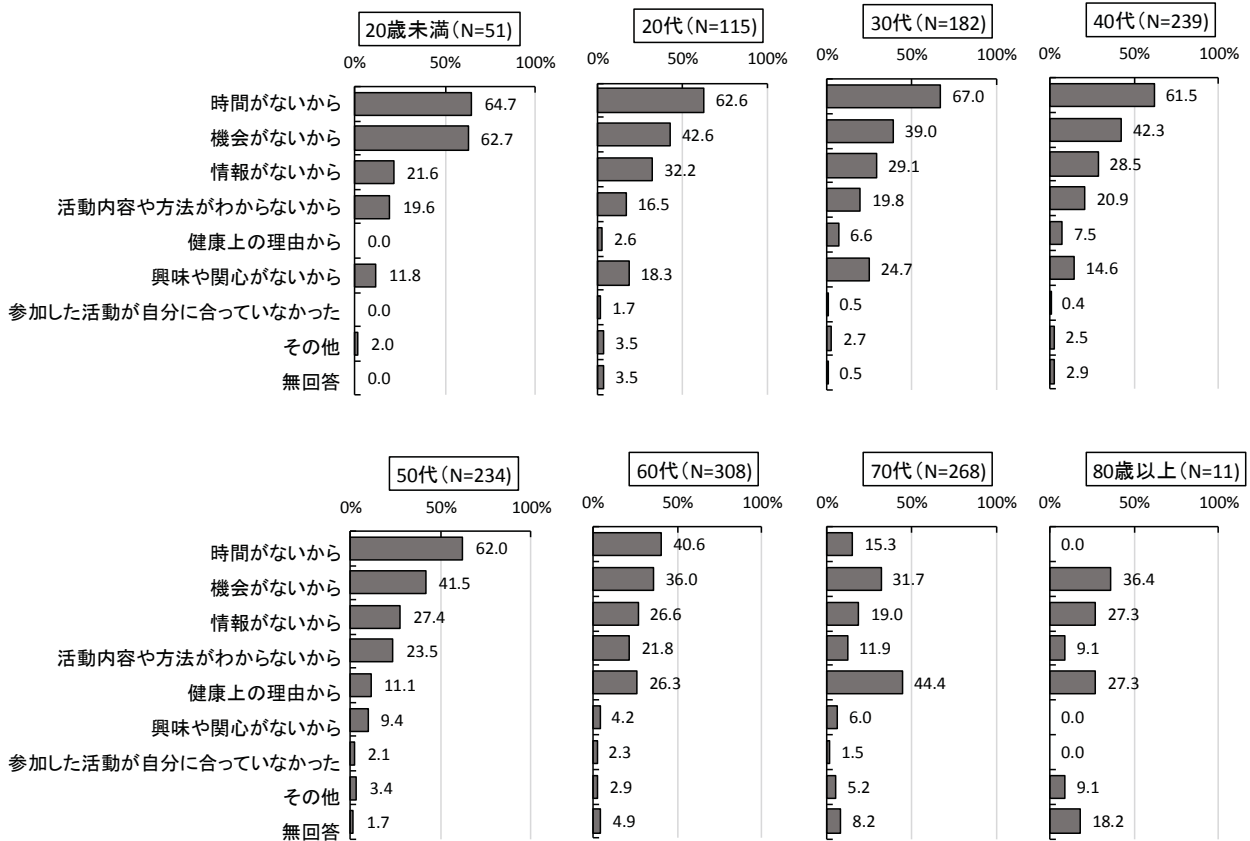




【性別】



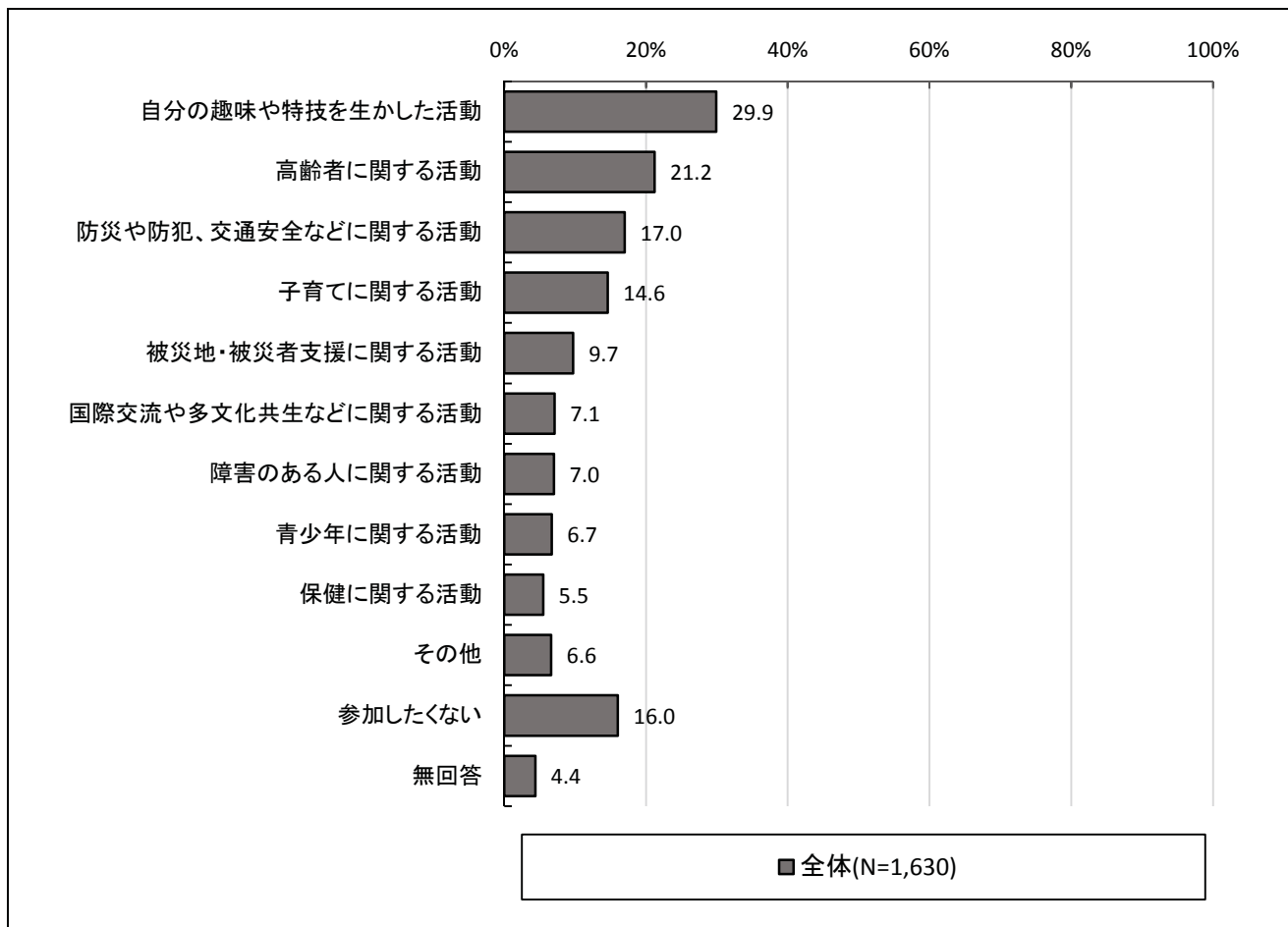
【年代別】



性別で見ると、男性女性ともに「時間がないから」が最も高く、男性が 50.2%、女性が 49.0%となっている。

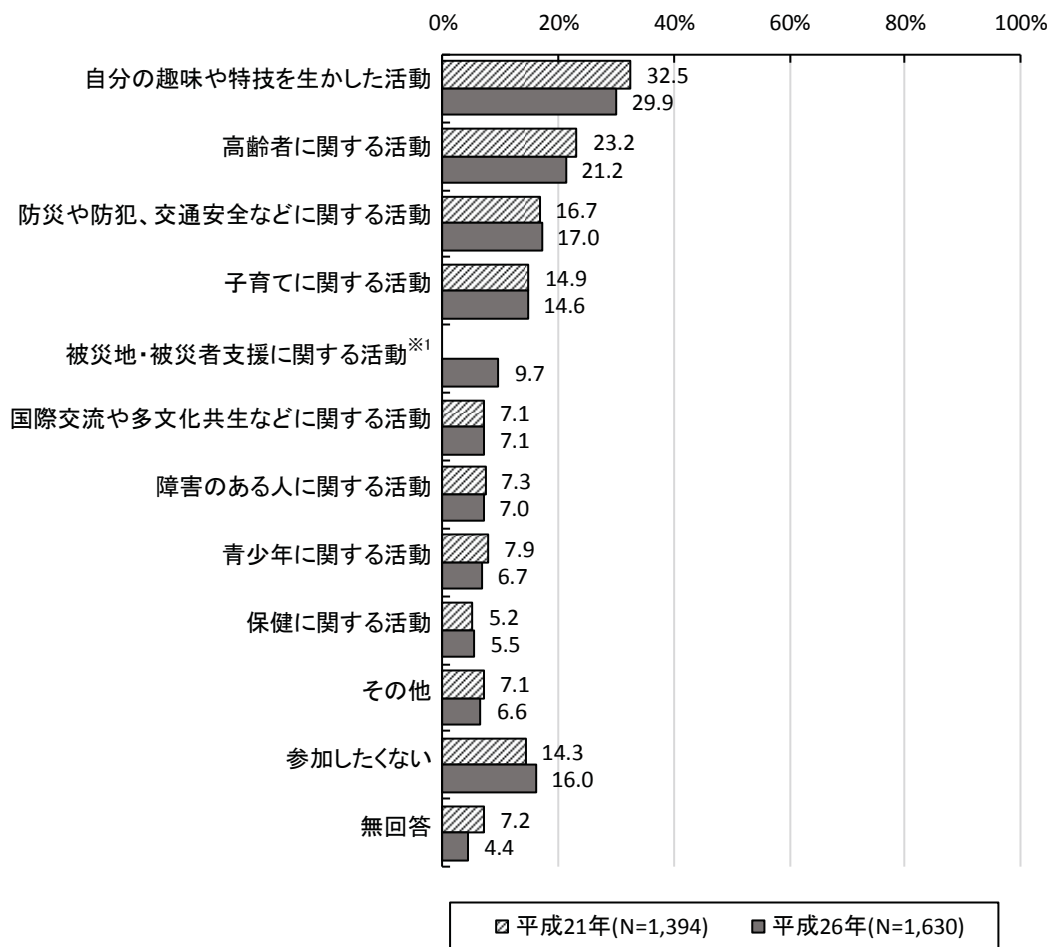
年代別で見ると、20歳未満から50代までは「時間がないから」が最も高く、「機会がないから」は若年層ほど高い傾向となっている。

問 16 あなたは今後、次のようなボランティア活動に参加したいと思いますか。(○は2つまで)



「自分の趣味や特技を生かした活動」が最も高く 29.9%、次いで「高齢者に関する活動」が 21.2%、「防災や防犯、交通安全などに関する活動」が 17.0%と続いている。

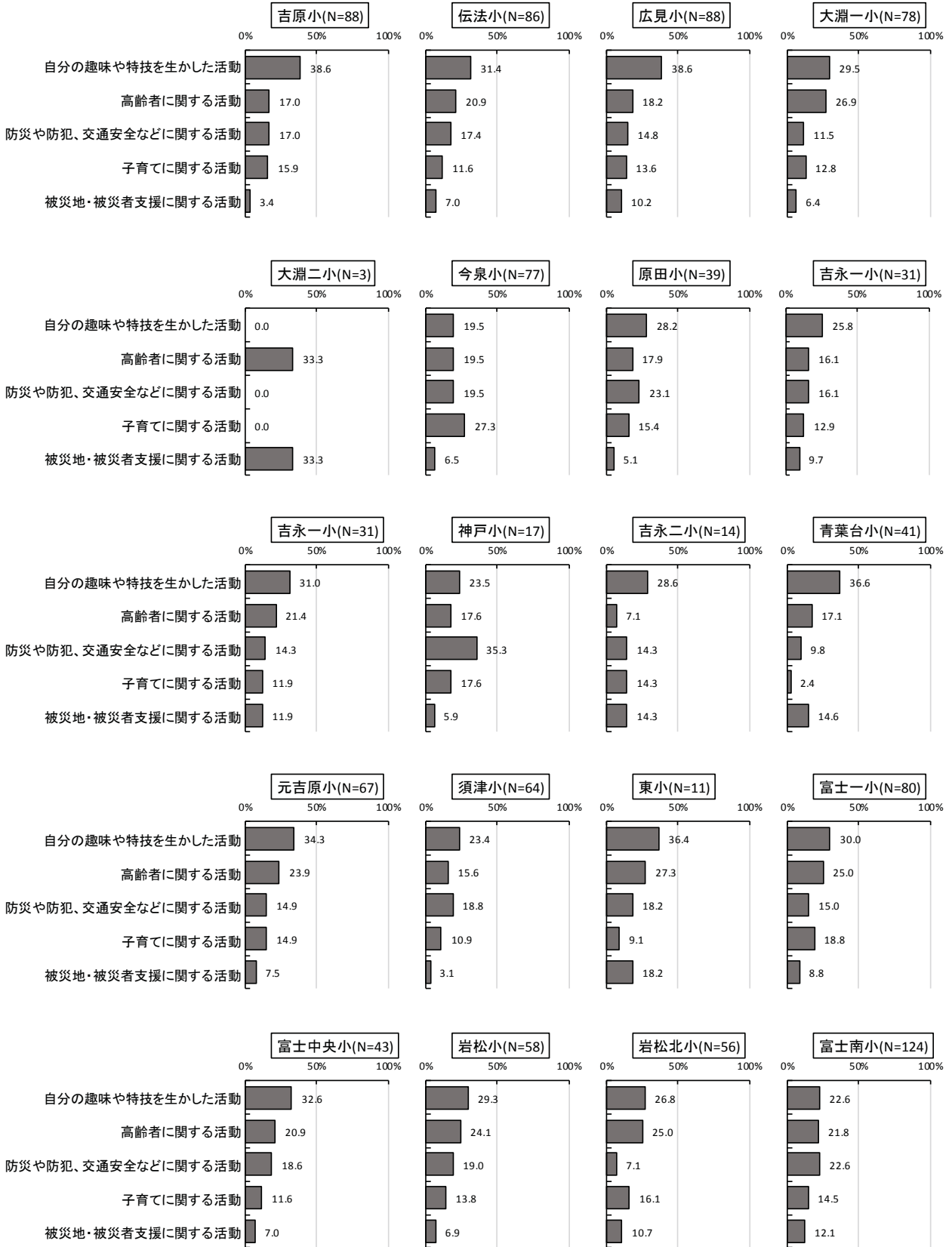
【経年変化】

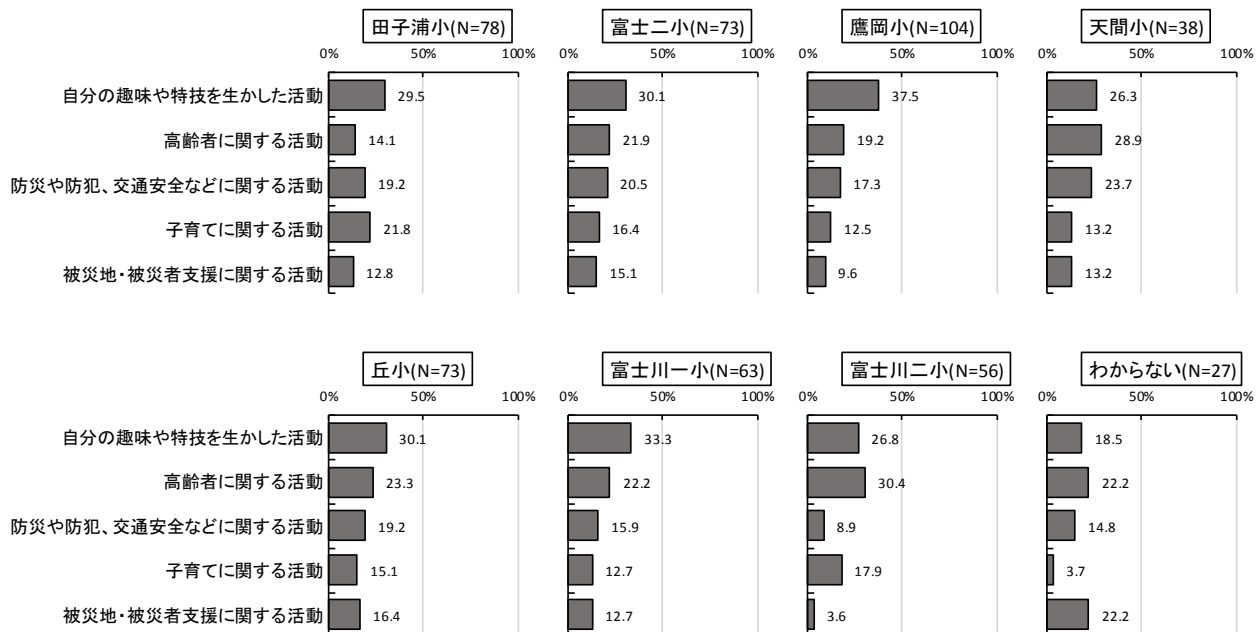


※1「被災地・被災者支援に関する活動」は平成 26 年の新設項目

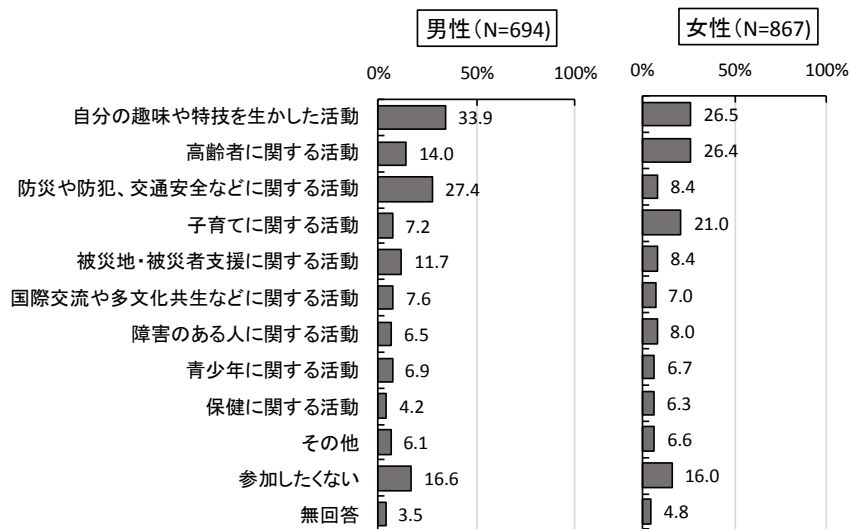
前回の調査結果と比較すると、「参加したくない」以外は、それぞれの項目の数値は平成 21 年より低いか、または同程度となっている。「参加したくない」は平成 21 年が 14.3%、平成 26 年が 16.0%と、1.7 ポイント高くなっている。

【小学校区別】

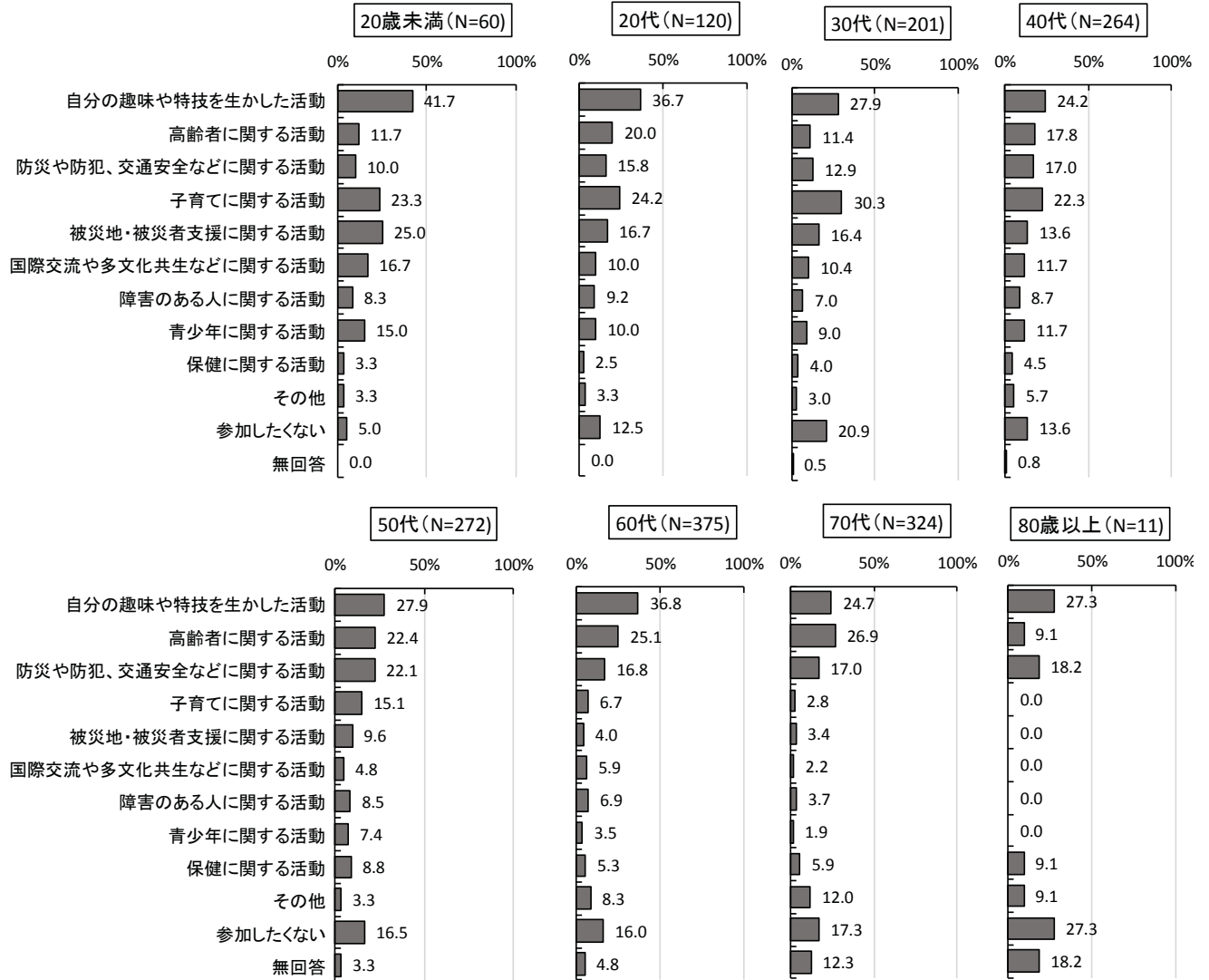




【性別】



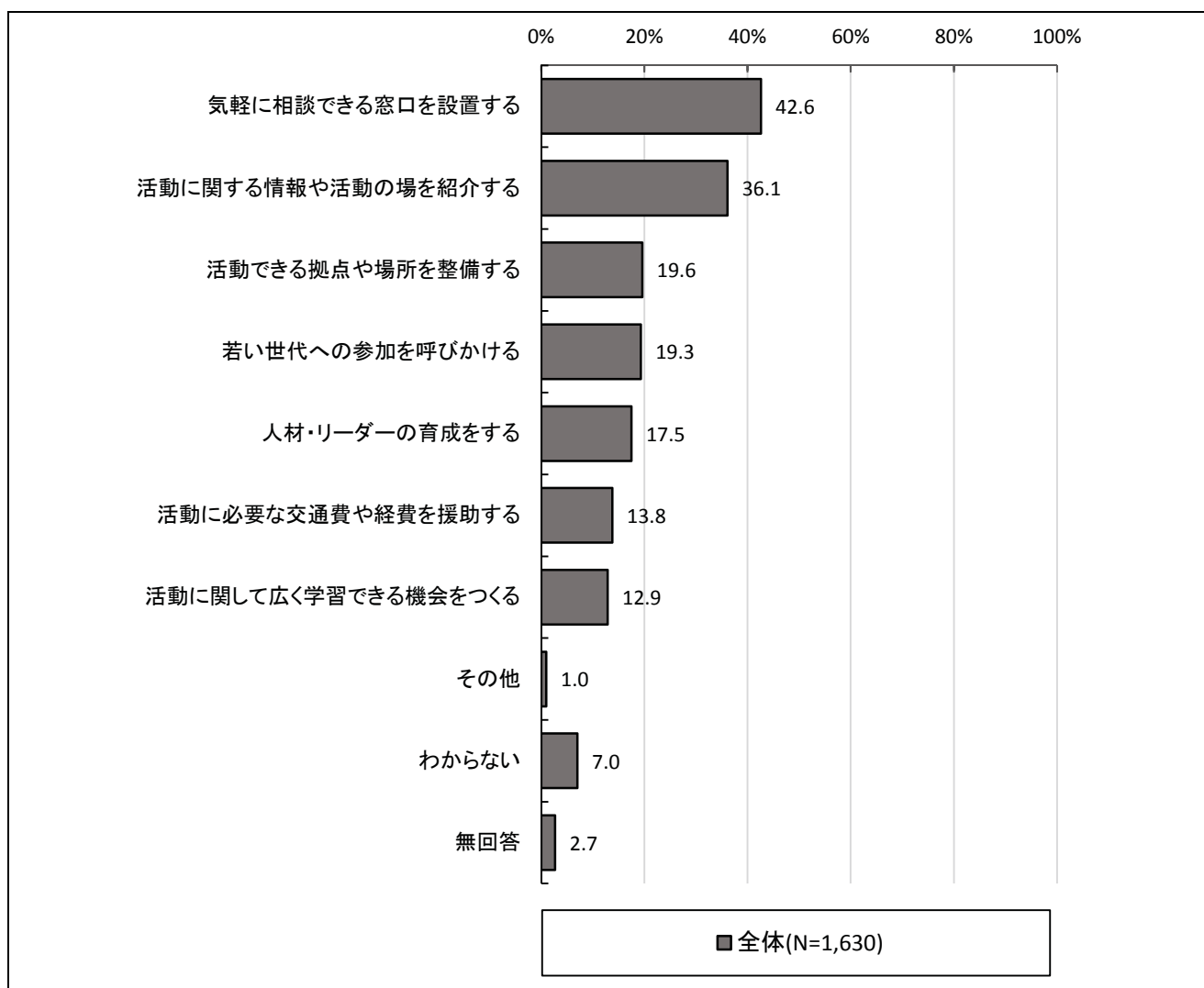
【年代別】



性別でみると、男女ともに「自分の趣味や特技を生かした活動」が最も高く、男性が33.9%、女性が26.5%となっている。2番目に高かった項目は、男性は「防災や防犯、交通安全などに関する活動」、女性は「高齢者に関する活動」となっている。

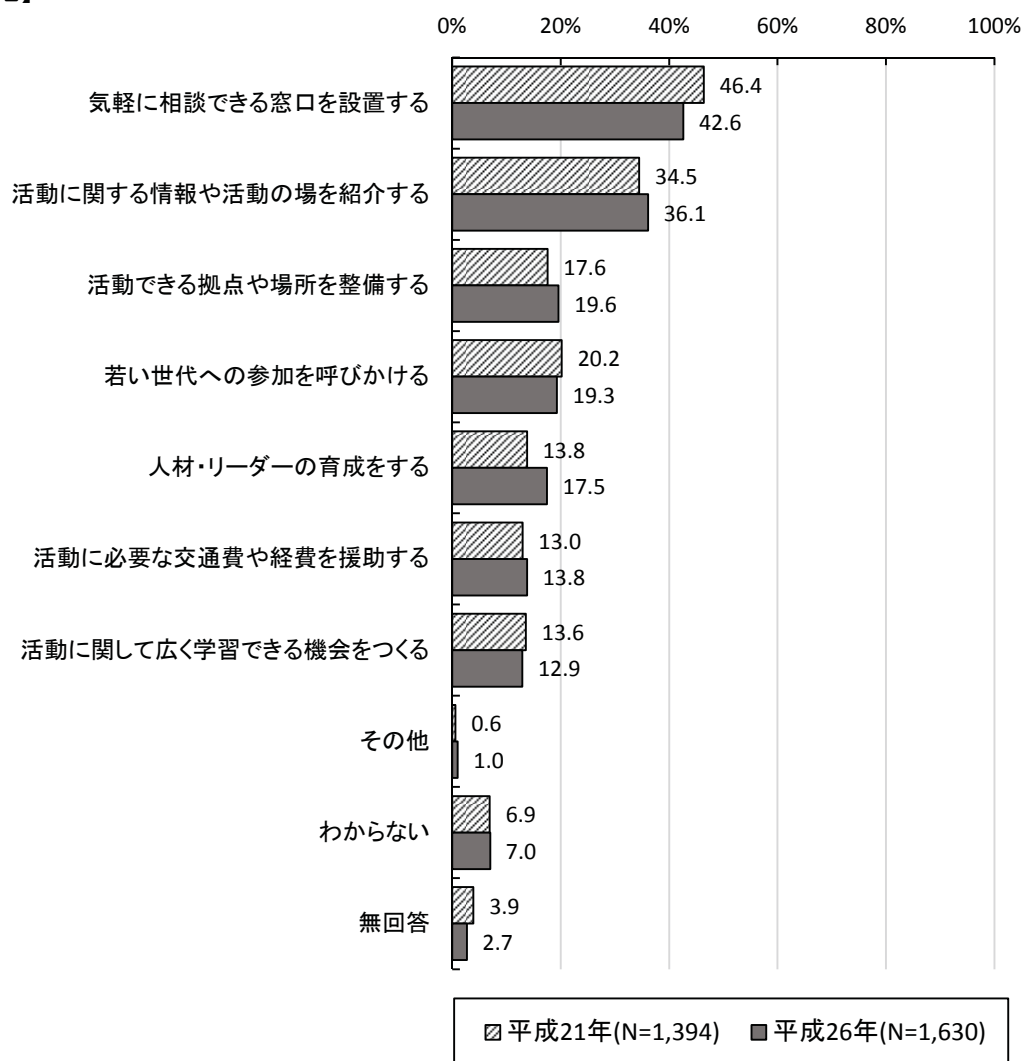
年代別でみると、「自分の趣味や特技を生かした活動」が最も高かったのは、30代と70代以外の世代で、30代では「子育てに関する活動」、70代では「高齢者に関する活動」が最も高くなっている。

問 17 今後、地域の助け合いや福祉活動、ボランティア活動の輪を広げていくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)



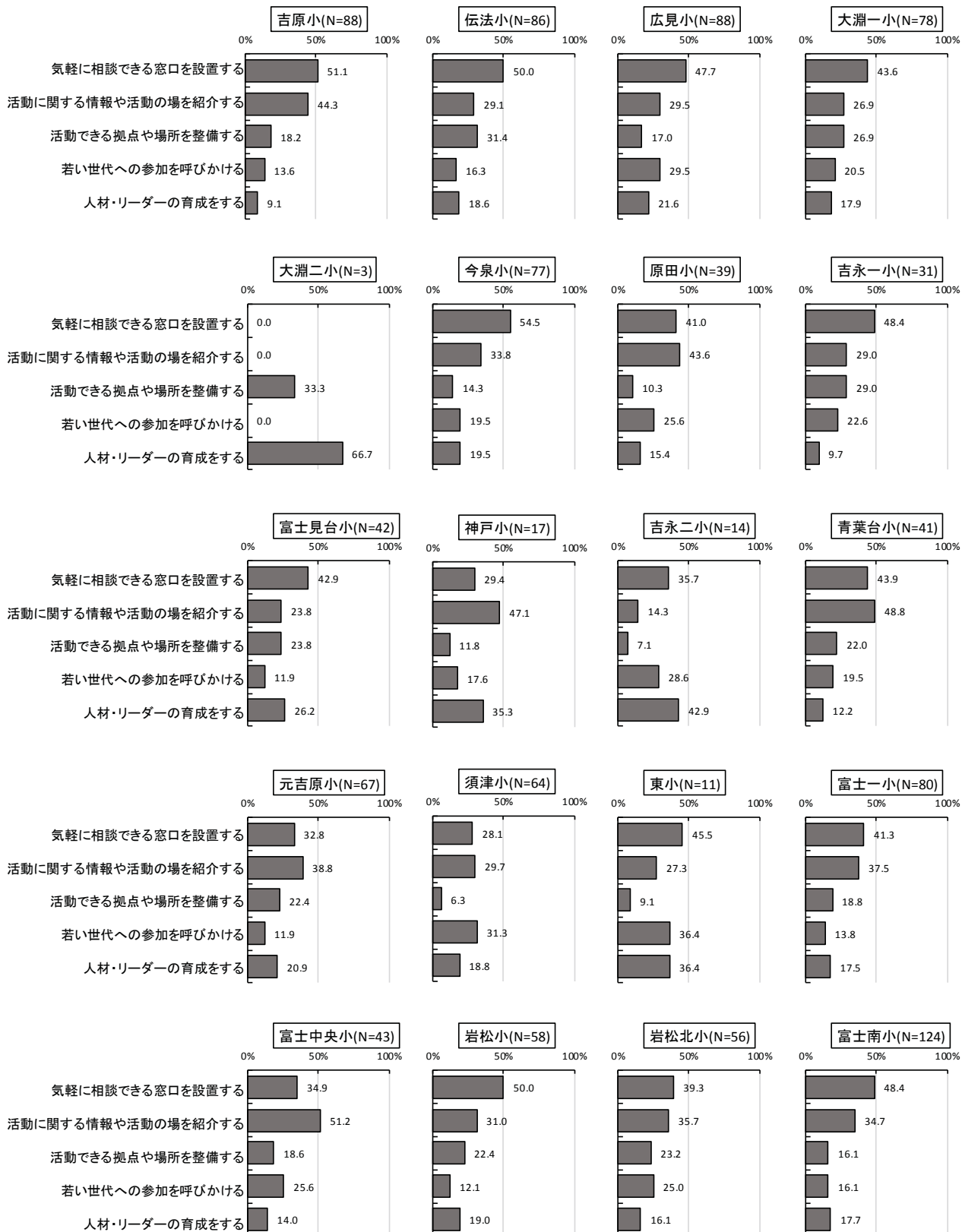
「気軽に相談できる窓口を設置する」が最も高く 42.6%、次いで「活動に関する情報や活動の場を紹介する」が 36.1%、「活動できる拠点や場所を整備する」が 19.6%と続いている。

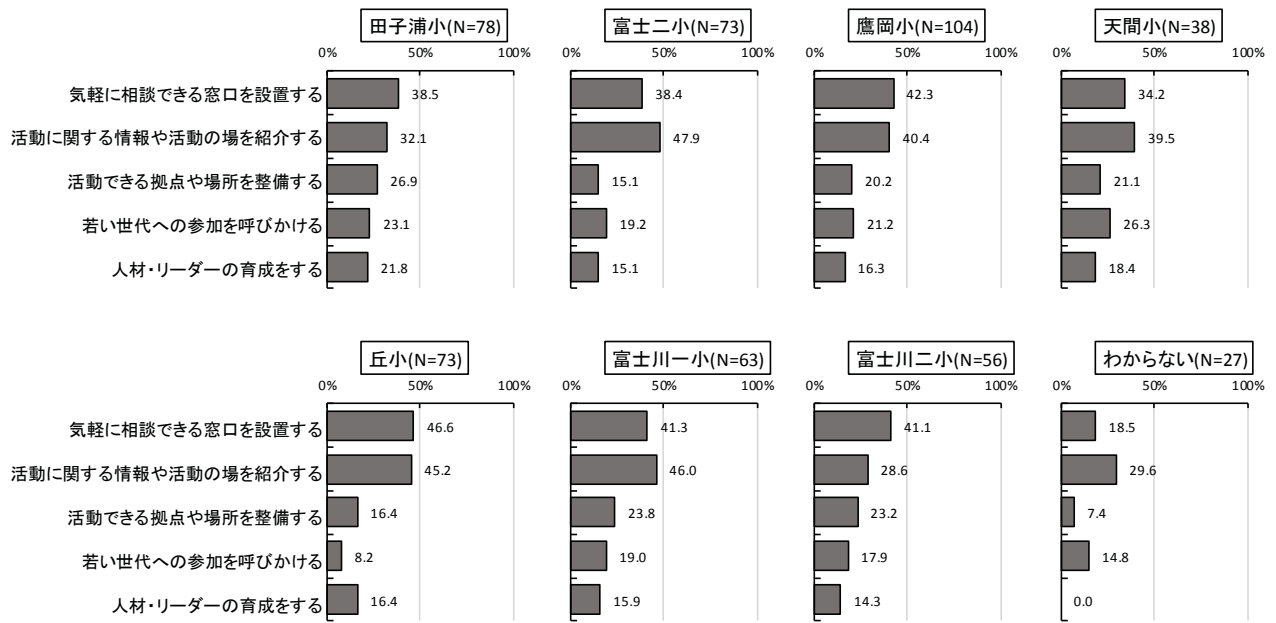
【経年変化】



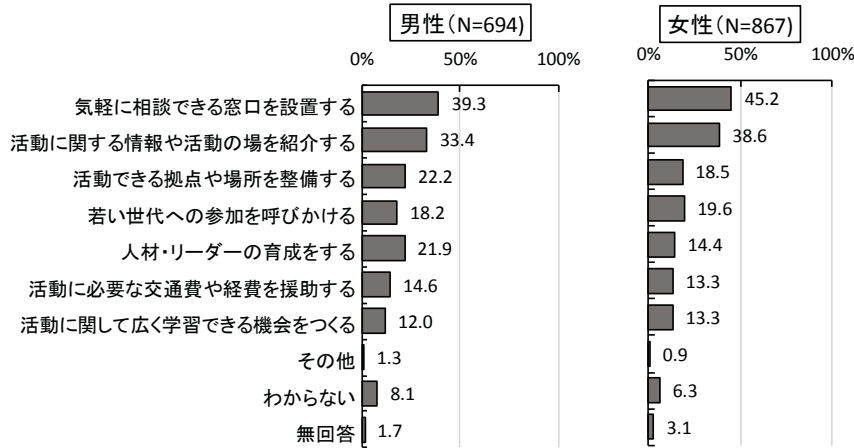
前回の調査結果と比較すると、「気軽に相談できる窓口を設置する」は平成 21 年が 46.4%、平成 26 年が 42.6%と、3.8 ポイント低くなっている。「人材・リーダーの育成をする」は平成 21 年が 13.8%、平成 26 年が 17.5%と、3.7 ポイント高くなっている。

【小学校区別】

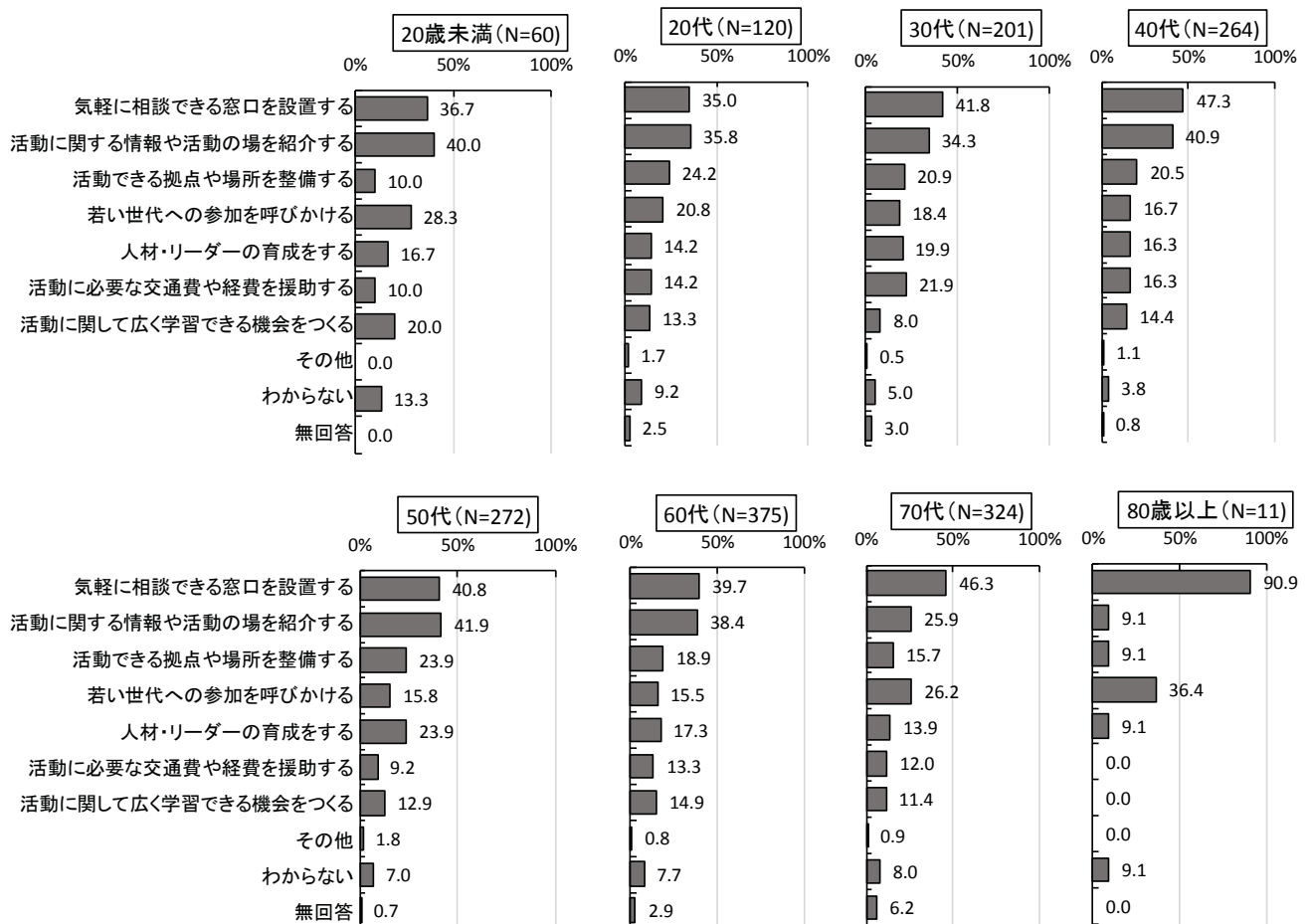




【性別】



【年代別】

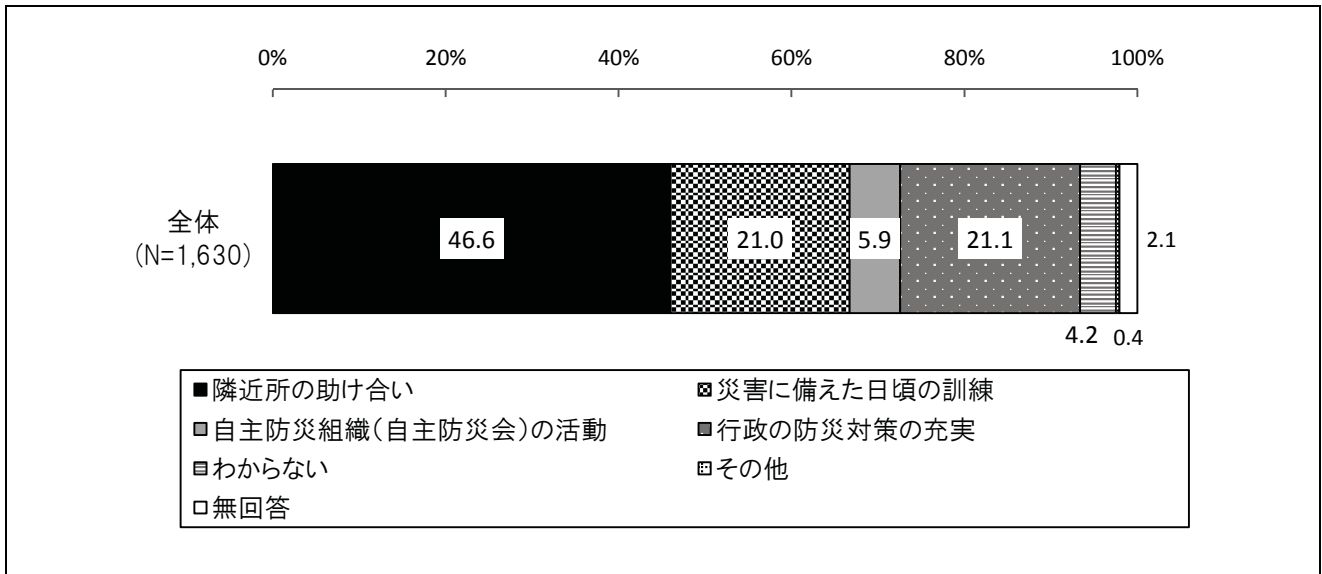


性別でみると、「気軽に相談できる窓口を設置する」は男性が 39.3%、女性が 45.2%と最も高い。また、「人材・リーダーの育成をする」は男性が 21.9%、女性が 14.4%と、7.5ポイント男性の方が高くなっている。

年代別でみると、「気軽に相談できる窓口を設置する」は 30代、40代、60代、70代で最も高くなっている。

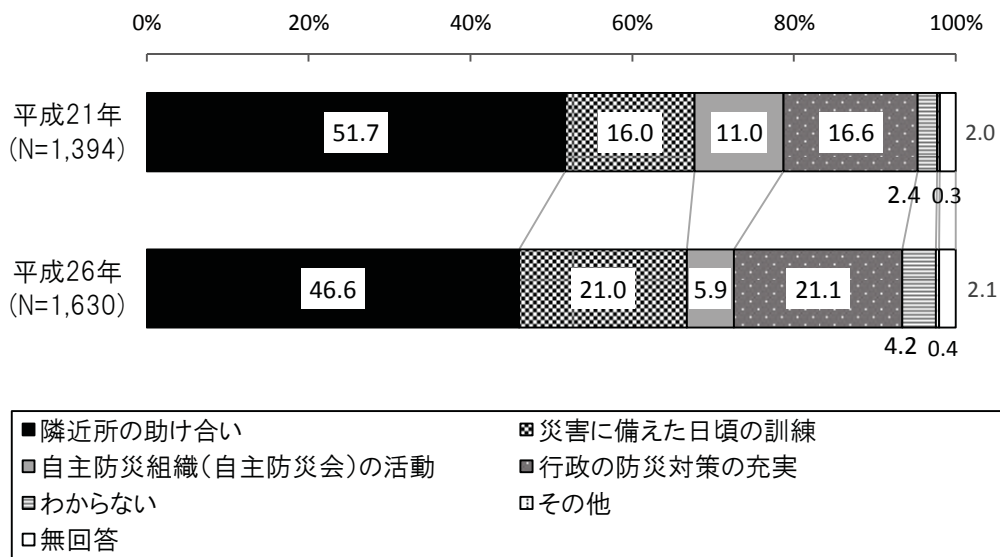
<災害時に関すること>

問 18 あなたは、災害に対して地域で最も重要だと思うものは何ですか。（○は1つだけ）



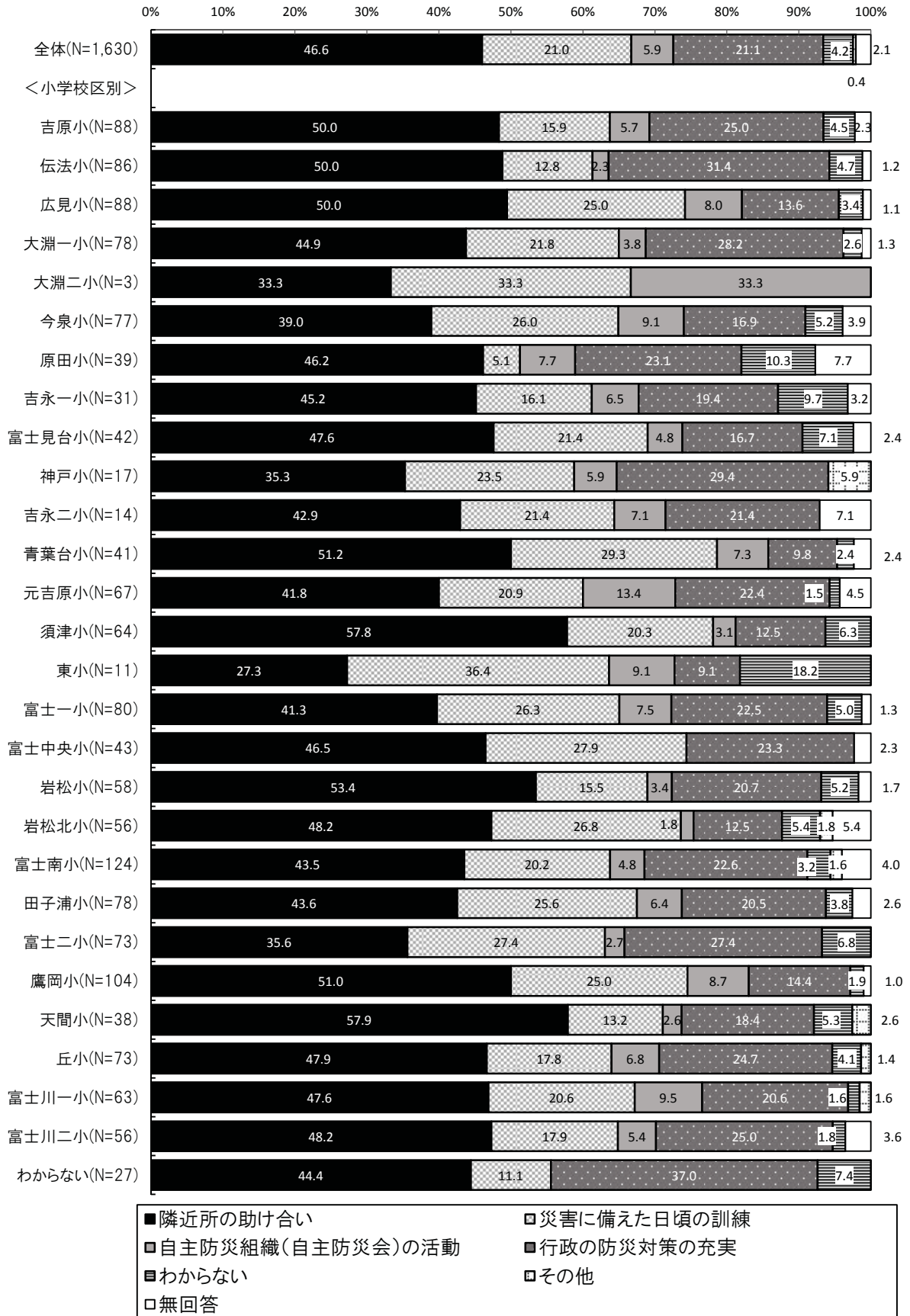
「隣近所の助け合い」が最も高く 46.6%、次いで「行政の防災対策の訓練」が 21.1%、「災害に備えた日頃の訓練」が 21.0%と続いている。

【経年変化】

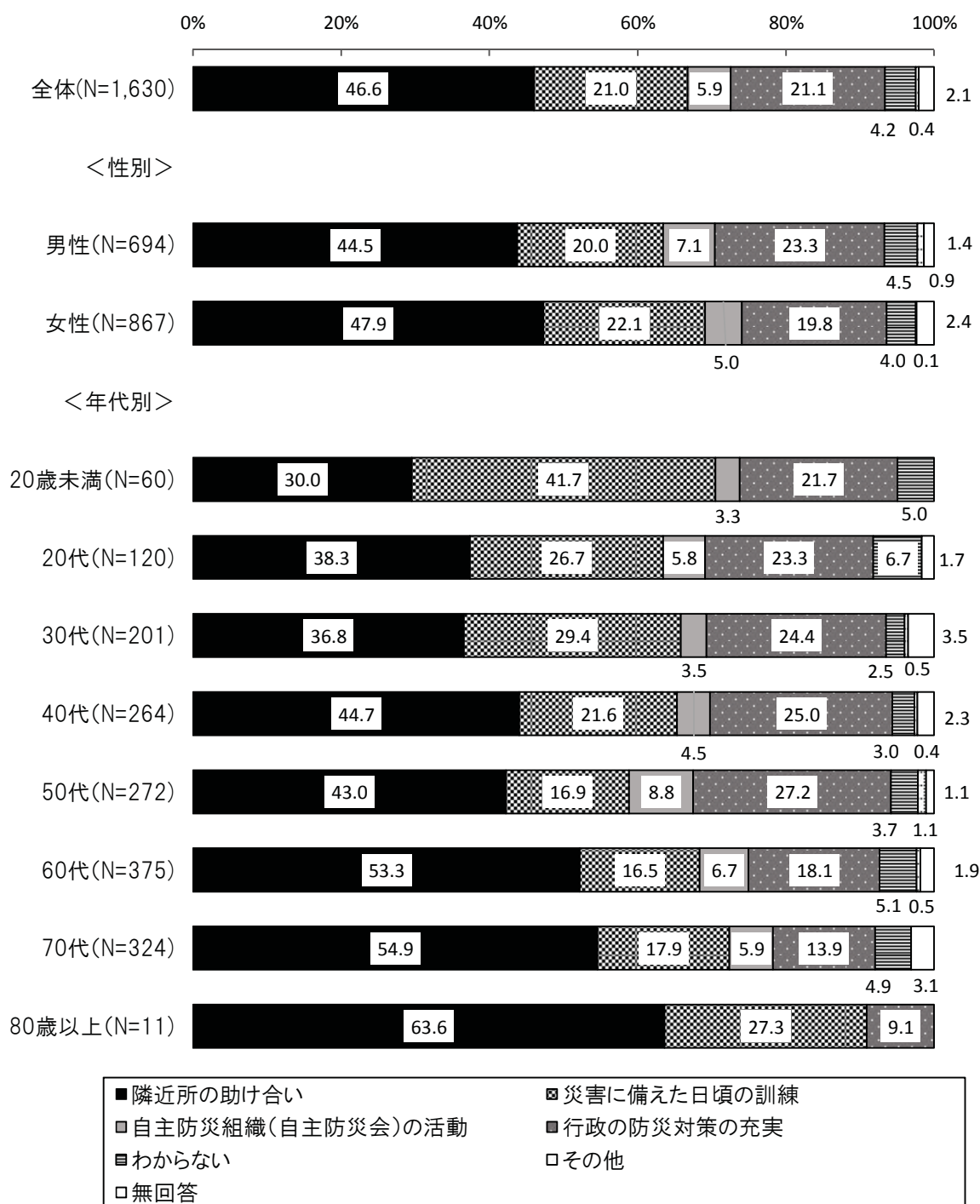


前回の調査結果と比較すると、「隣近所の助け合い」は平成 21 年が 51.7%、平成 26 年が 46.6%と、5.1 ポイント低くなっている。「自主防災組織（自主防災会）の活動」についても、平成 21 年が 11.0%、平成 26 年が 5.9%と、5.1 ポイント低くなっている。

【小学校区別】



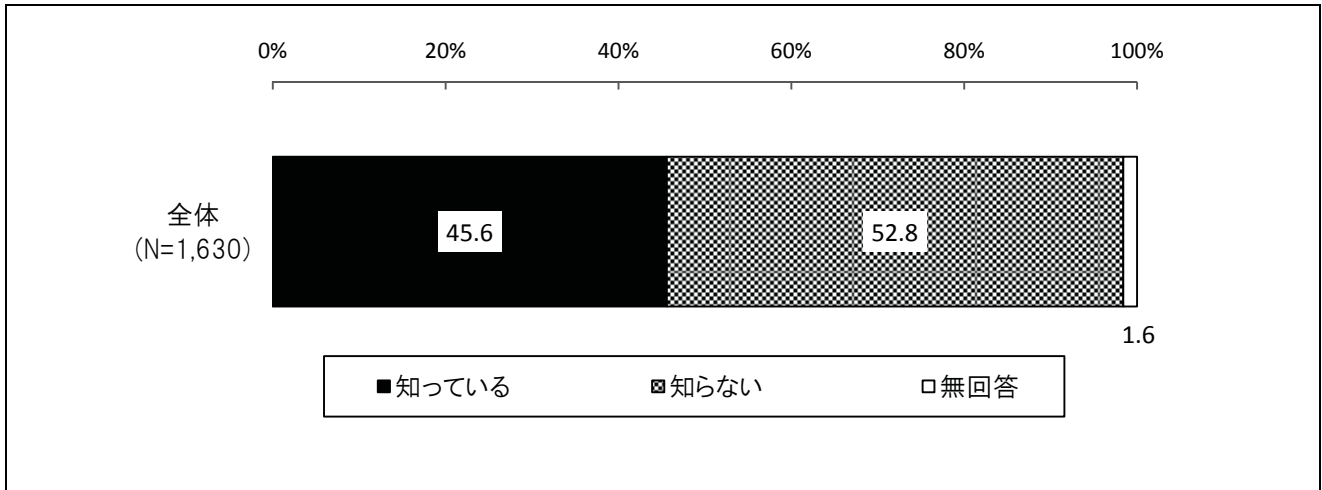
【性別・年代別】



性別で見ると、「隣近所の助け合い」は男女共に最も高く、男性が 44.5%、女性が 47.9%と、女性の方が 3.4 ポイント高い。

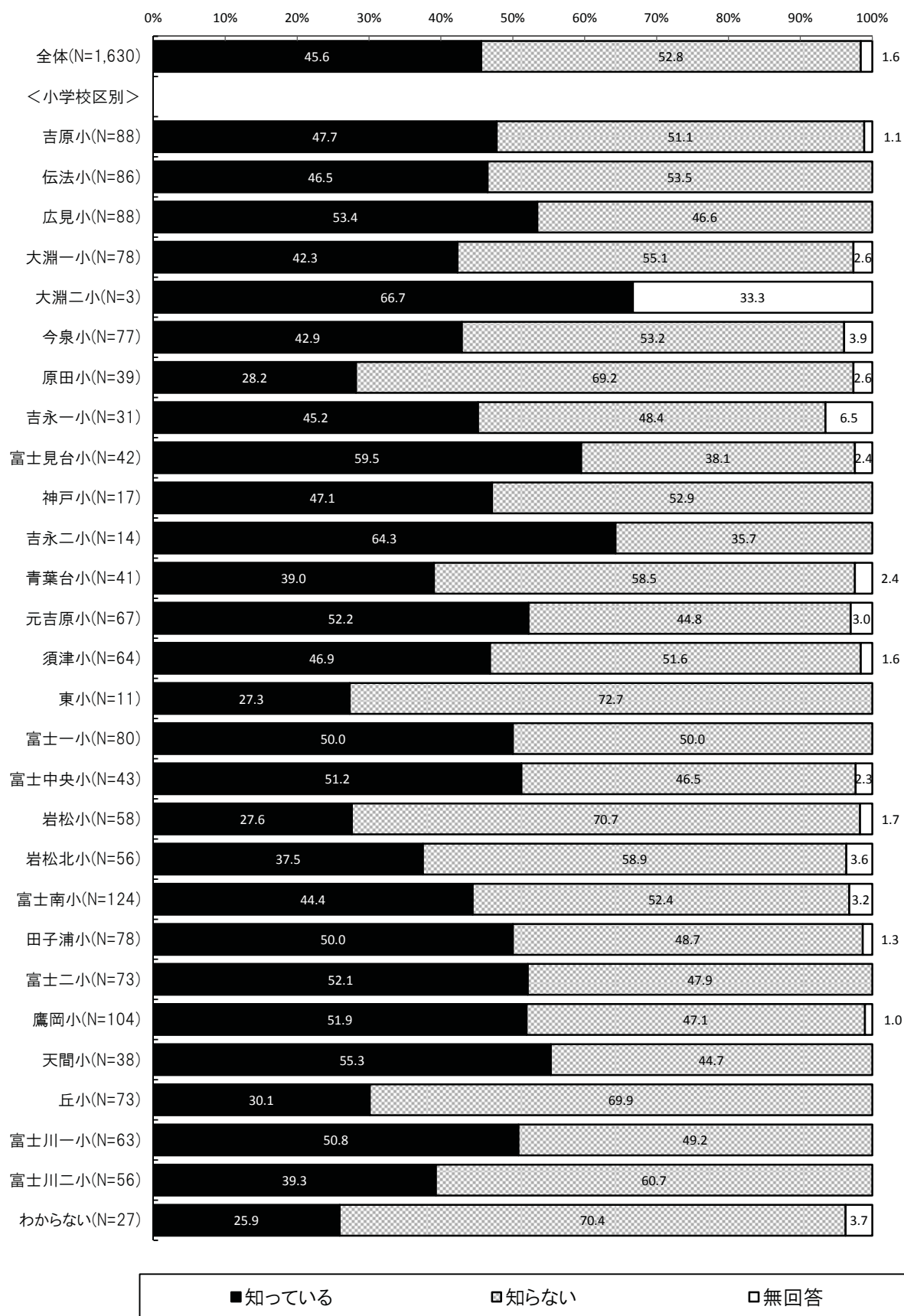
年代別で見ると、年代が高くなるにつれ「隣近所の助け合い」の割合は高くなり、一方「災害に備えた日頃の訓練」は低くなる傾向がある。

問 19-1 あなたは、「災害時要援護者」とは、どんな方が該当するか知っていますか。(○は1つだけ)

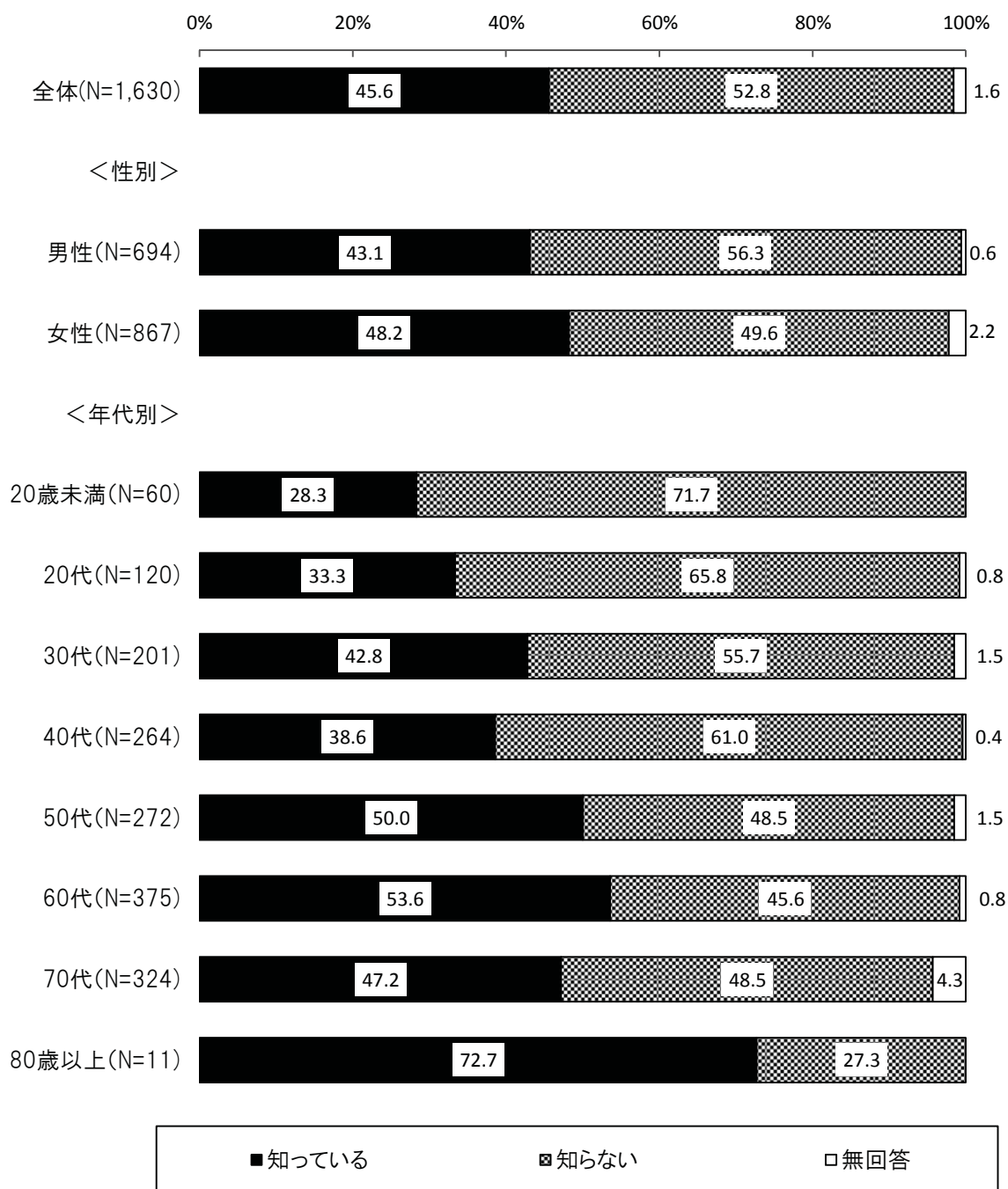


「知っている」は 45.6%、「知らない」は 52.8%となっており、「知らない」の割合が高くなっている。

【小学校区別】



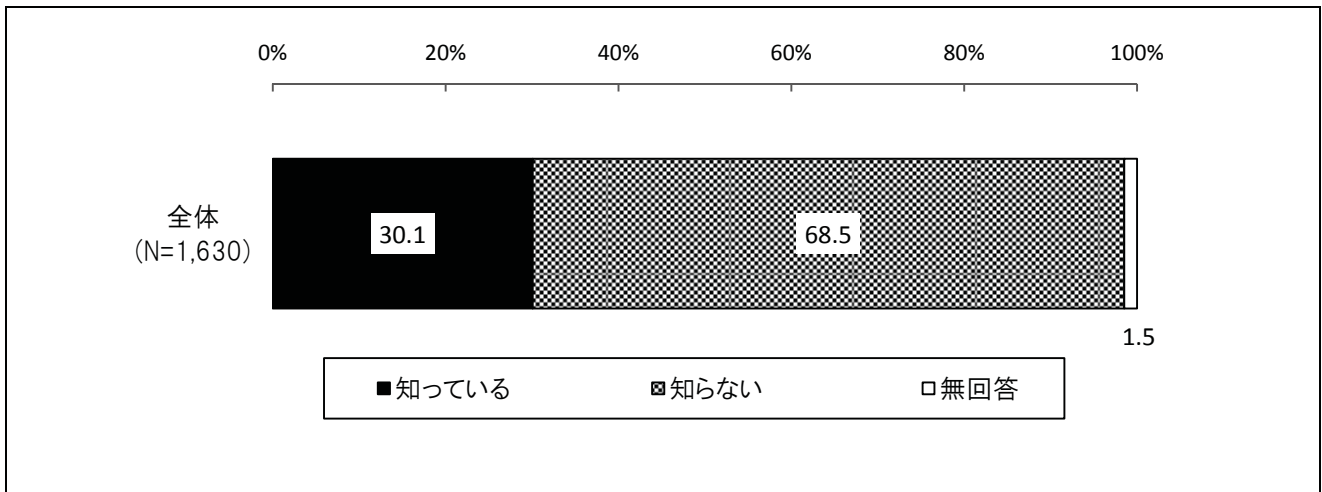
【性別・年代別】



性別で見ると、「知っている」は男性が 43.1%、女性が 48.2%と、女性の方が男性より 5.1 ポイント高くなっている。

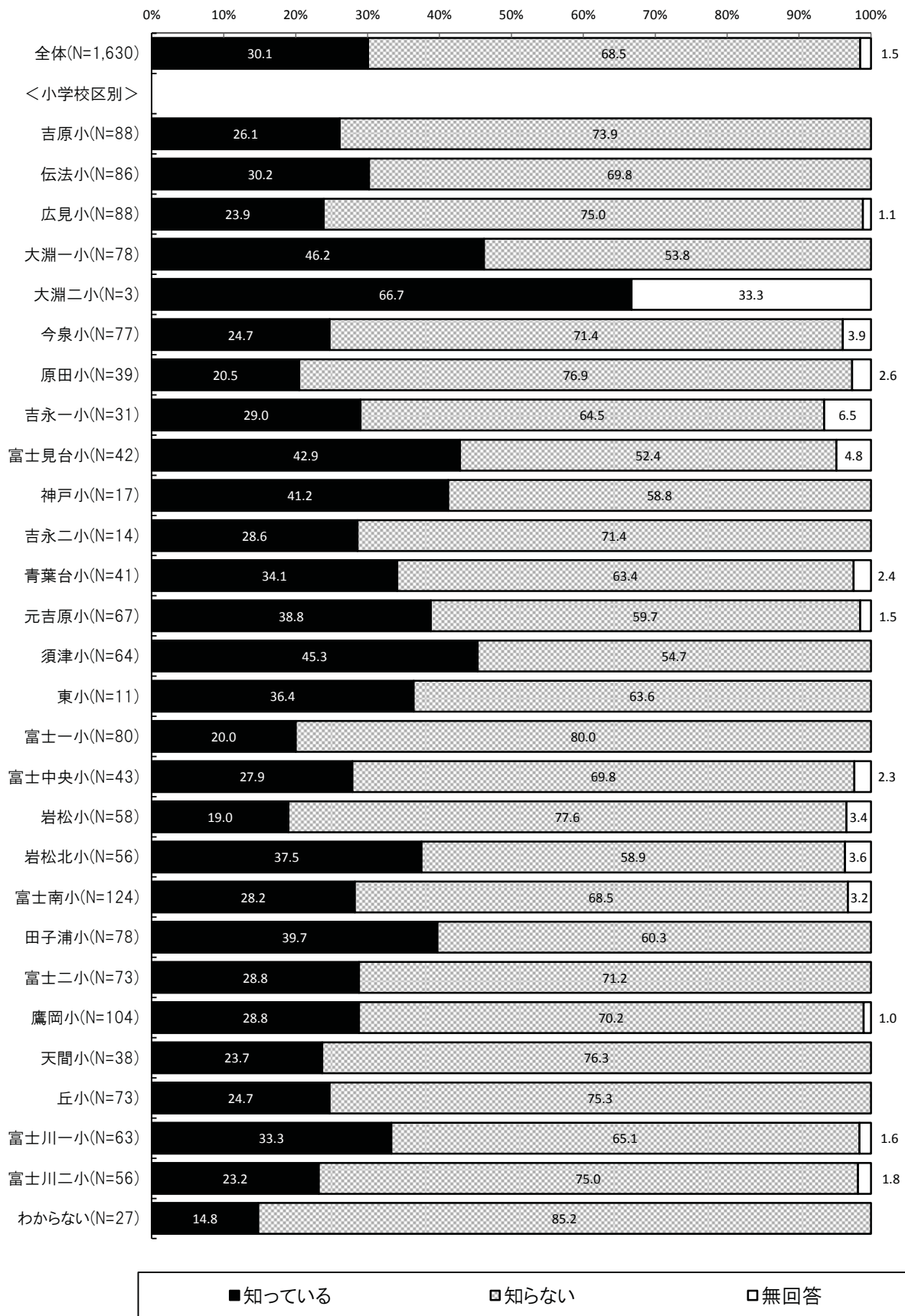
年代別で見ると、「知っている」は 60 代が最も高く 53.6%となっている。若年層より高齢層の方が「知っている」の割合は高い傾向にある。

問 19-2 あなたは、「災害・緊急情報支援キット」を知っていますか。(○は1つだけ)

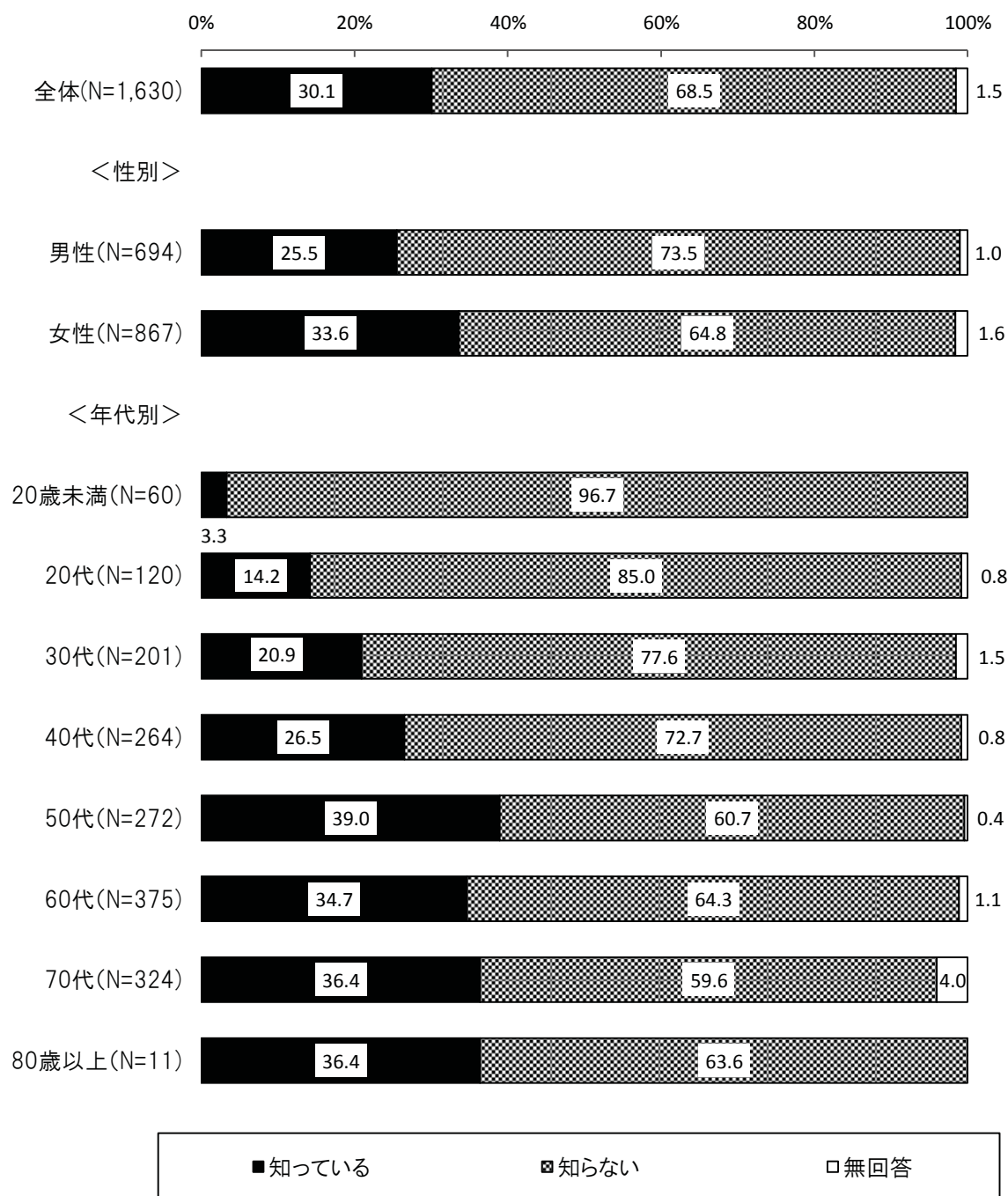


「知っている」は 30.1%、「知らない」は 68.5%となっており、「知らない」の割合が高くなっている。

【小学校区別】



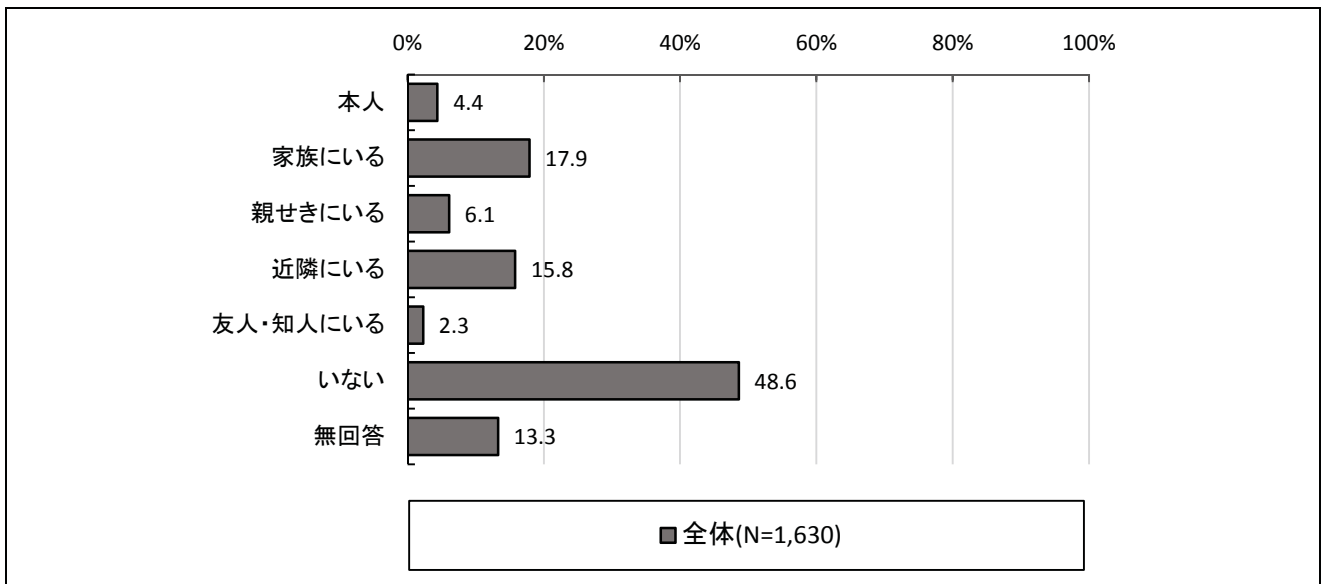
【性別・年代別】



性別で見ると、「知っている」は男性が 25.5%、女性が 33.6%と、女性の方が男性より 8.1 ポイント高くなっている。

年代別で見ると、「知っている」は 50 代が最も高く 39.0%となっている。若年層より高齢層の方が「知っている」の割合は高い傾向にある。

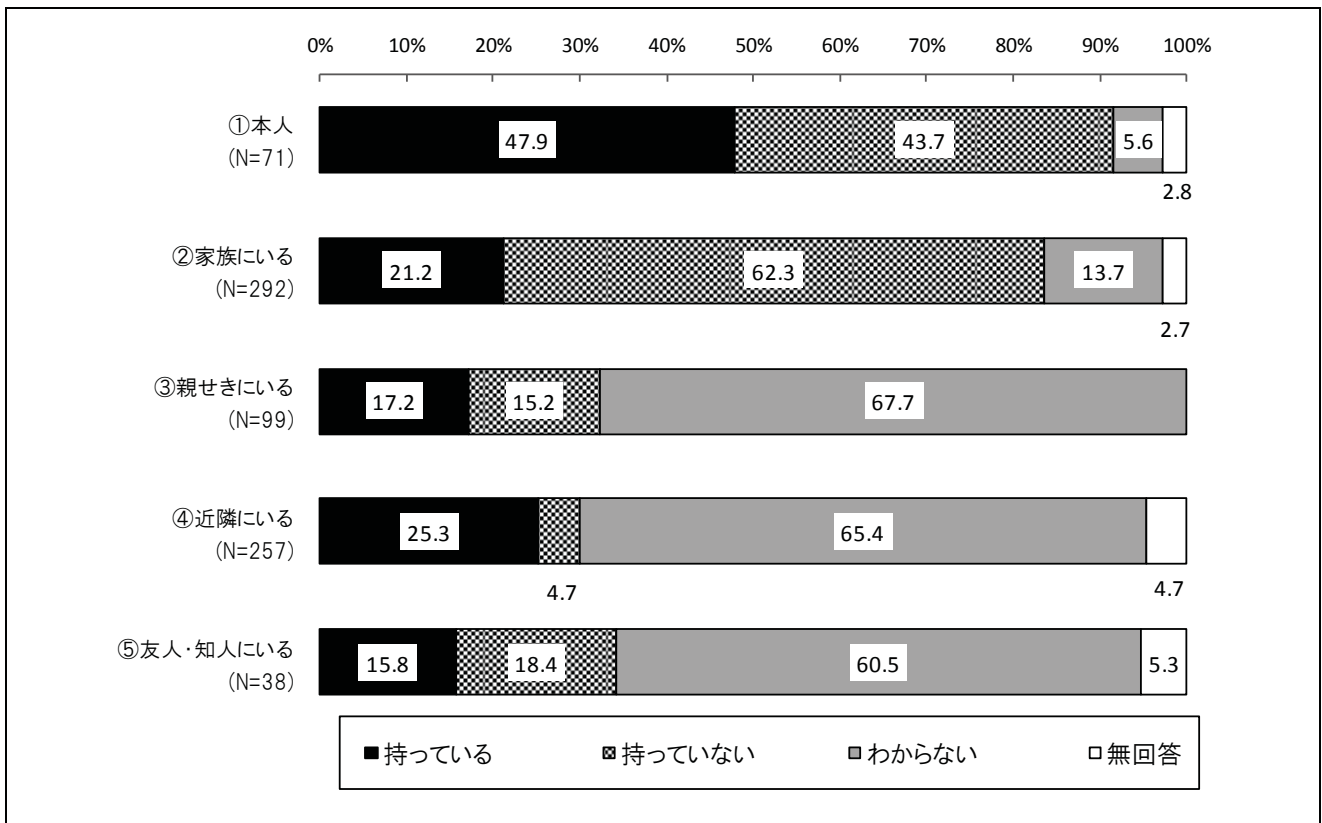
問 20(1) あなたの家族や近隣に、「災害時要援護者」の方はいらっしゃいますか。
 (あてはまるものすべてに○)



「いない」が最も高く 48.6%、「家族にいる」が 17.9%、「近隣にいる」が 15.8%となっている。

問 20(1)で「①本人」、「②家族にいる」、「③親せきにいる」、「④近隣にいる」、「⑤友人・知人にいる」と回答した方に伺います。

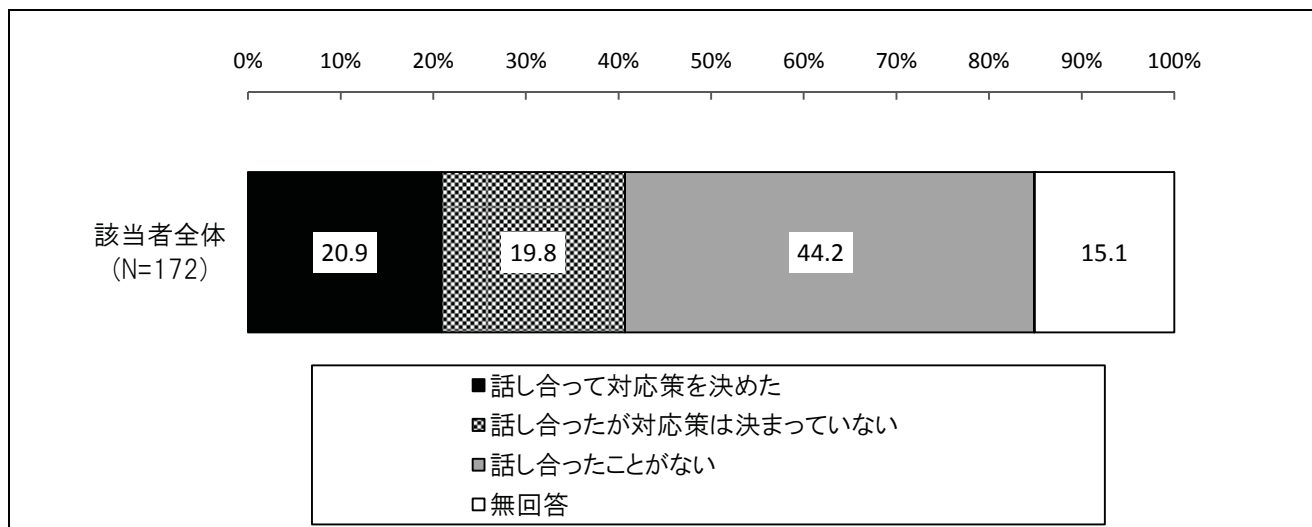
問 20(2) また、その方は「災害支援キット」を持っていますか。(それぞれ○は1つずつ)



災害時要援護者が①本人の場合、所持率は 47.9%と約 5 割に達している。②家族の場合は 21.2%となっている。③親せき、④近隣の方、⑤友人・知人の場合は「わからない」が 6 割以上となっている。

問 20(2)で災害支援キットを「1 持っている」と回答した方に伺います。

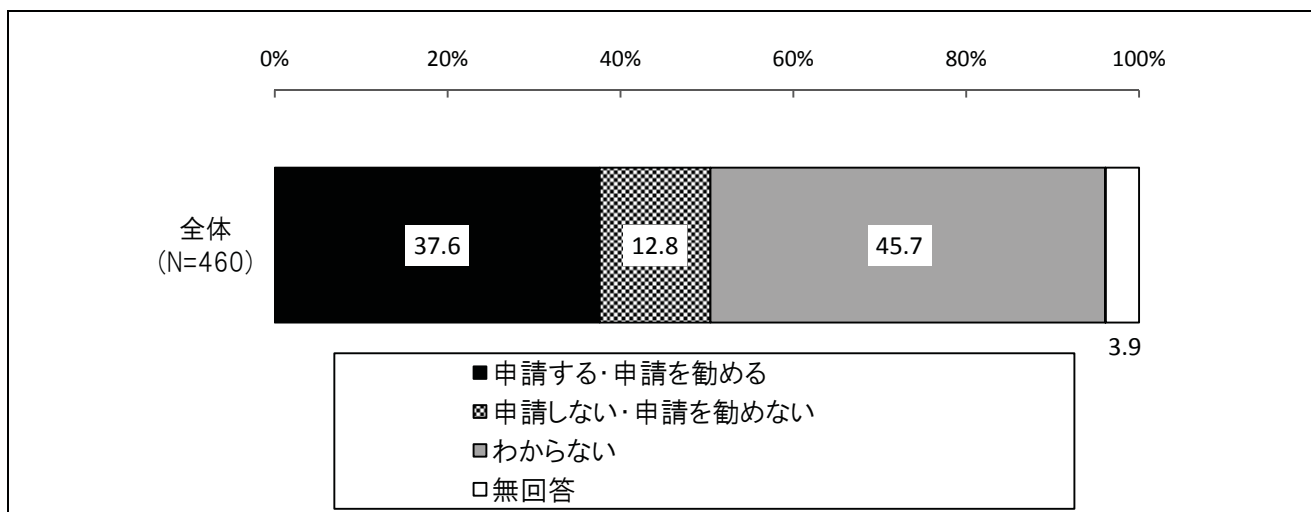
問 21 「災害支援キット」を持っている方と災害時の対応について話し合ったことがありますか。
(○は1つだけ)



「話し合ったことがない」が 44.2%と最も高く、「話し合って対応策を決めた」が 20.9%、「話し合ったが対応策は決まっていない」が 19.8%となっている。

問 20(2)で災害支援キットを「2 持っていない」、「3 わからない」と回答した方に伺います。

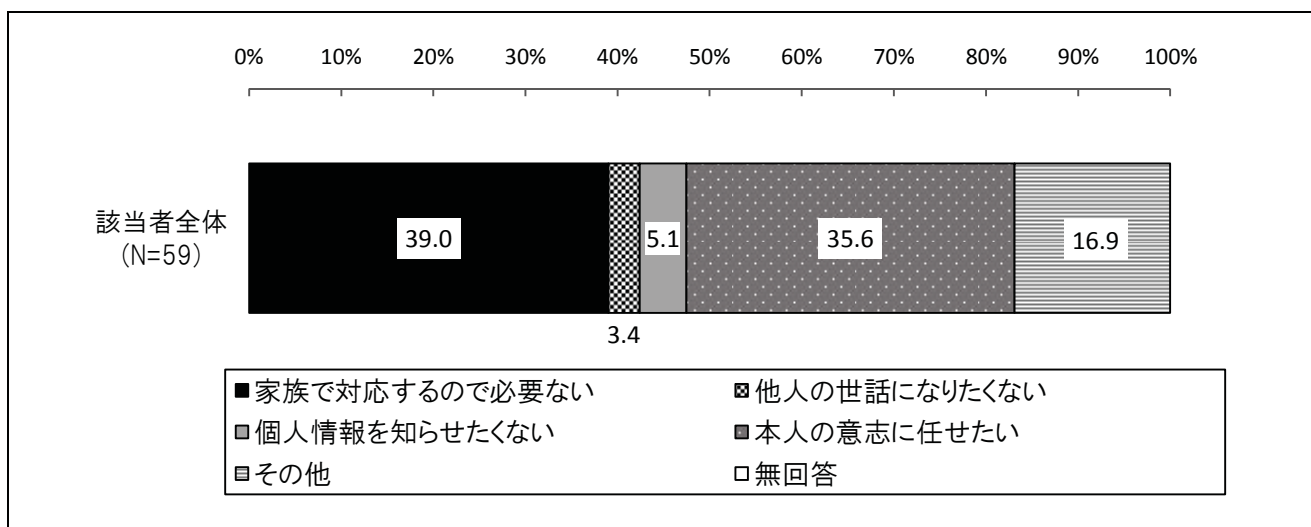
問 22 今後、「災害支援キット」の申請をしよう、または申請を勧めようと思えますか。(○は1つだけ)



「わからない」は 45.7%と最も高く、「申請する・申請を勧める」が 37.6%、「申請しない・申請を勧めない」が 12.8%と、「申請しない・申請を勧めない」より「申請する・申請を勧める」の方が高くなっている。

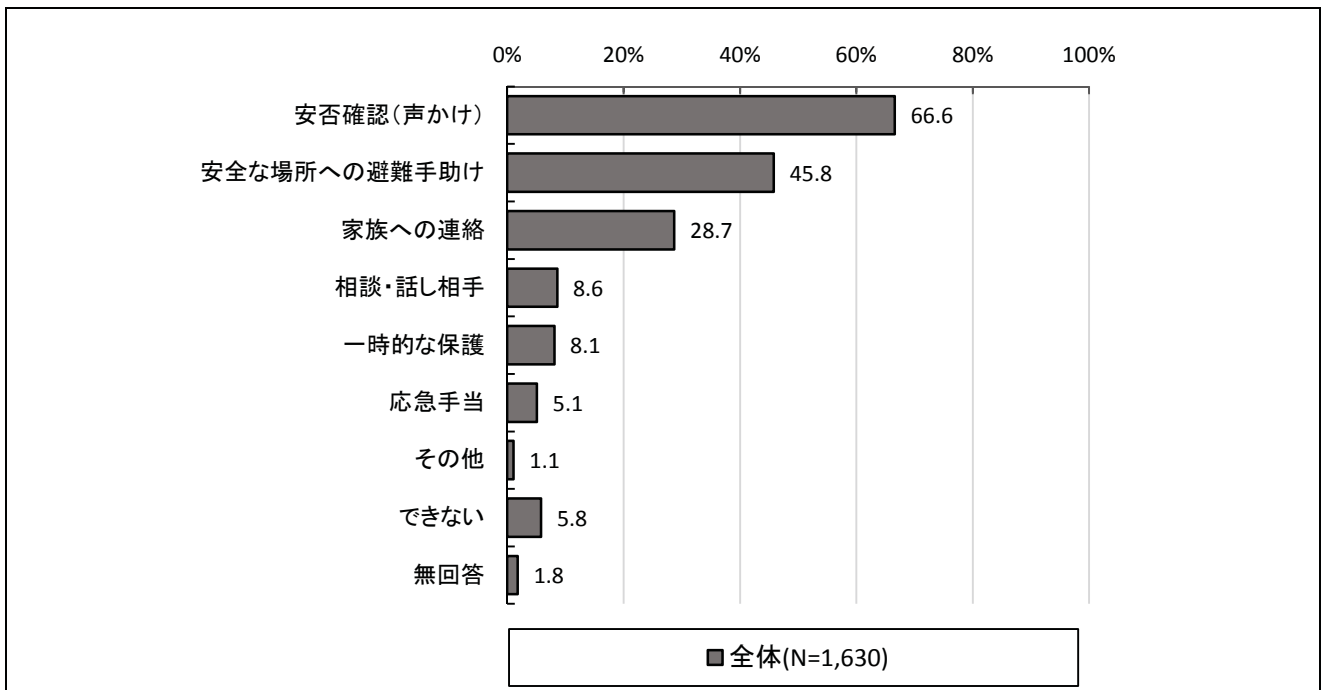
問 22 で災害支援キットの申請を「2 申請しない・申請を勧めない」と回答した方に伺います。

問 22-1 申請しない・申請を勧めない理由をお聞かせ下さい。(○は1つだけ)



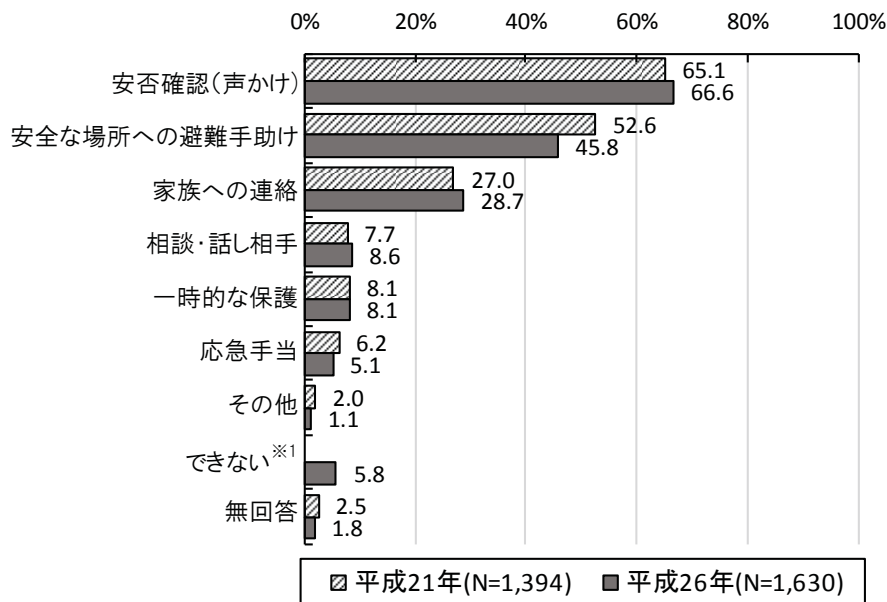
「家族で対応するので必要ない」が最も高く 39.0%、次いで「本人の意思に任せたい」が 35.6%、となっている。

問 23 あなたは、災害が発生したときに、災害時要援護者の方のために、どのような助け合いや協力ができますか。(〇は2つまで)



「安否確認(声かけ)」が最も高く 66.6%、次いで「安全な場所への避難手助け」が 45.8%、「家族への連絡」が 28.7%と続いている。

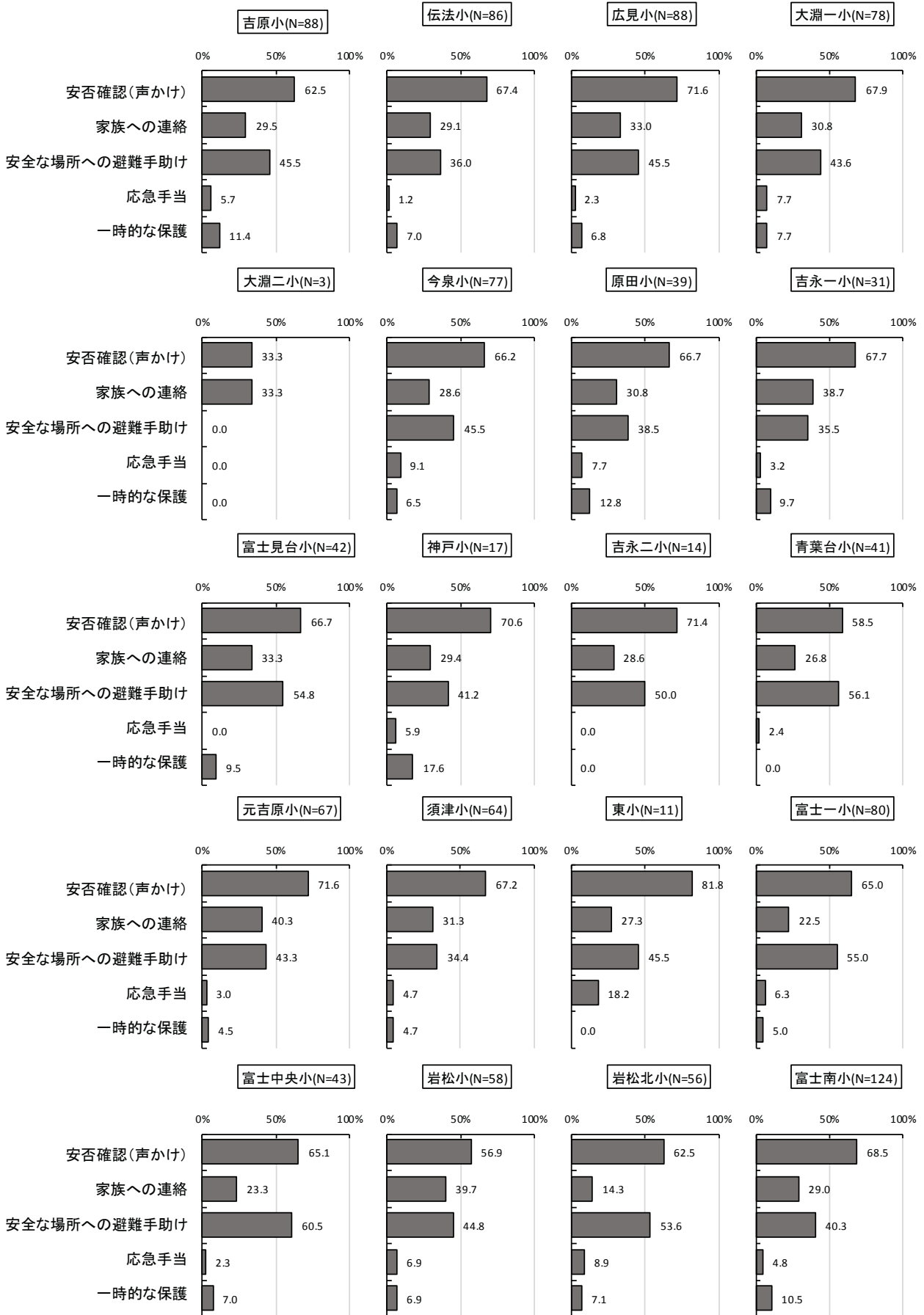
【経年変化】

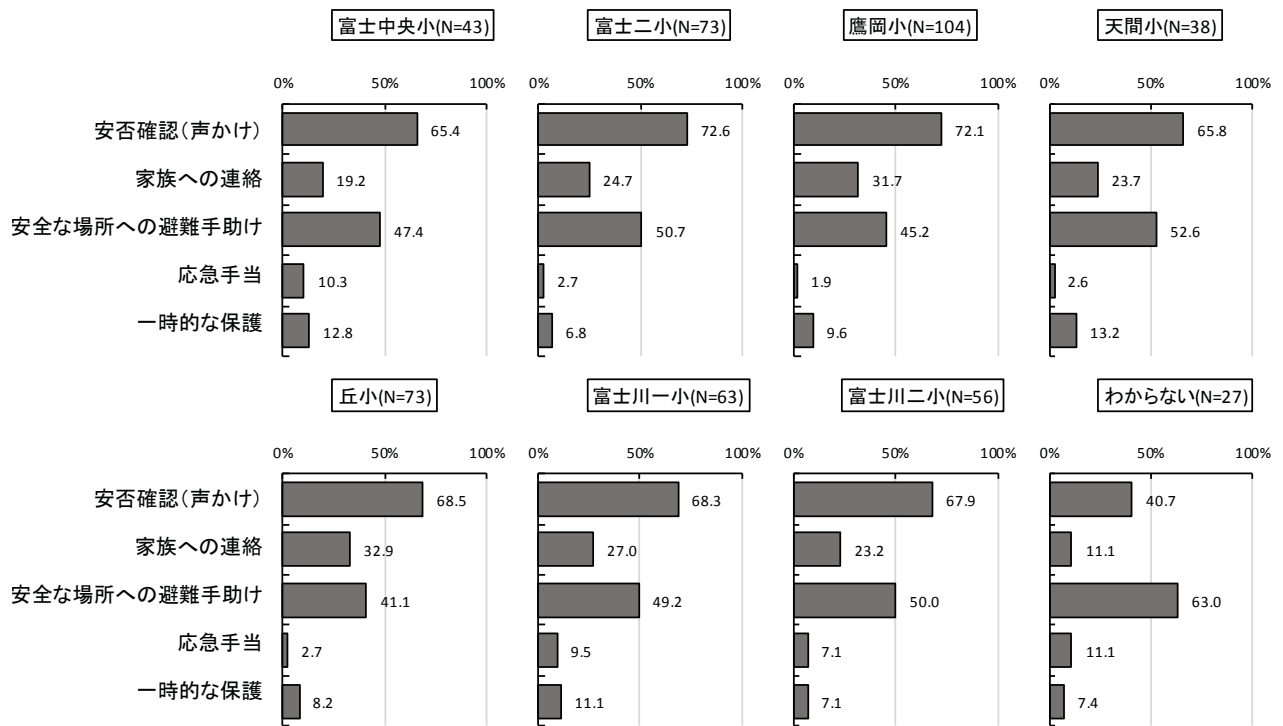


※1「できない」は平成26年の新設項目

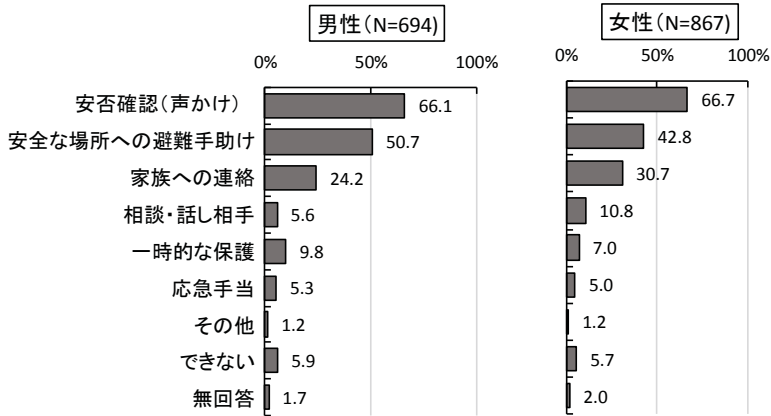
前回の調査結果と比較すると、「安否確認(声かけ)」は平成21年が 65.1%、平成26年が 66.6%と、ほぼ同様の結果になっている。「安全な場所への避難手助け」は、平成21年が 52.6%、平成26年が 45.8%と、6.8ポイント低くなっている。

【小学校区】

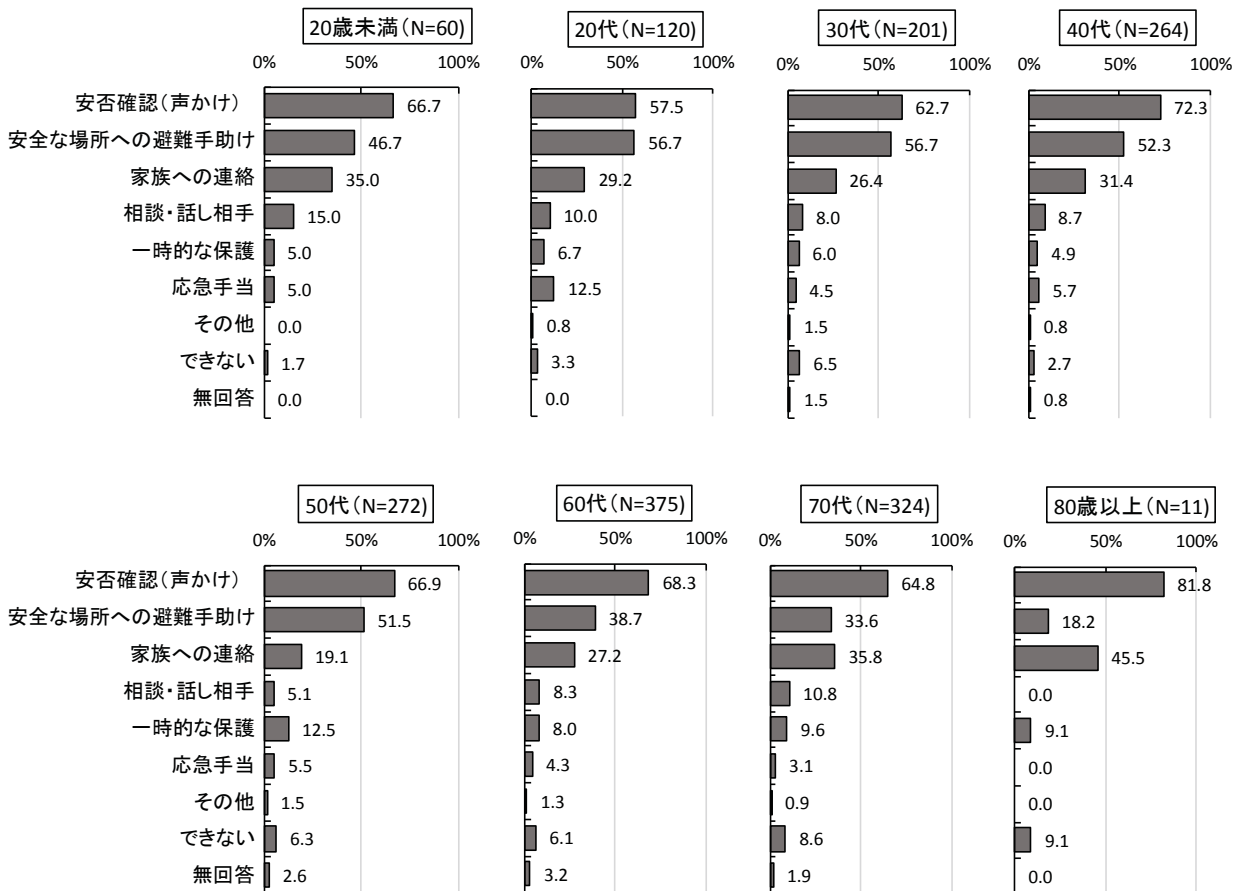




【性別】



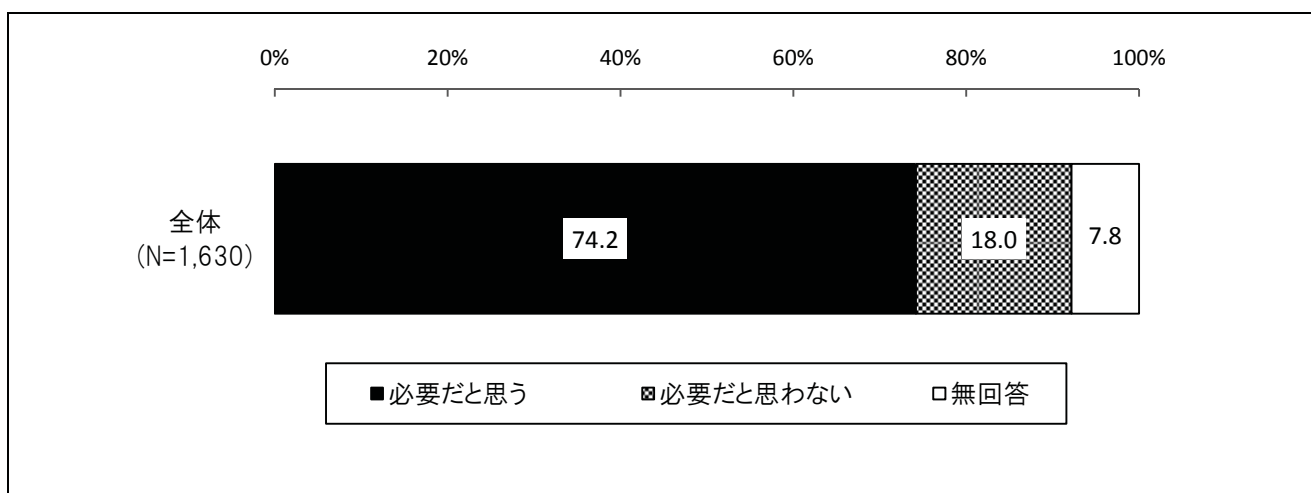
【年代別】



性別でみると、「安否確認(声かけ)」は男性が 66.1%、女性が 66.7%と、ほぼ同様になっている。「相談・話し相手」は、男性が 5.6%、女性が 10.8%と、女性は男性の約 2 倍となっている。

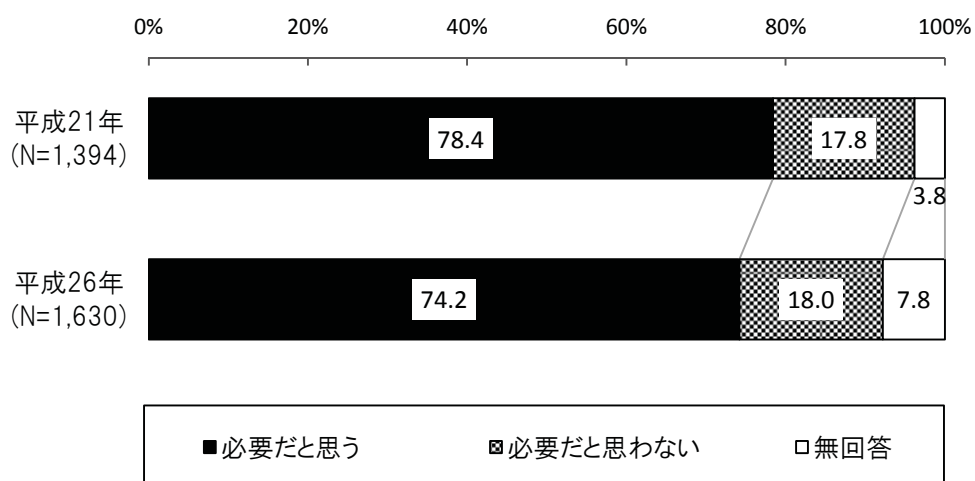
年代別でみると、「安否確認(声かけ)」はいずれの年代も高く、40代では 72.3%と最も高くなっている。

問 24 あなたは、災害時要援護者を手助けする際に、必要だと思われる個人情報を地域で共有しておく必要があると思いますか。(〇は1つだけ)



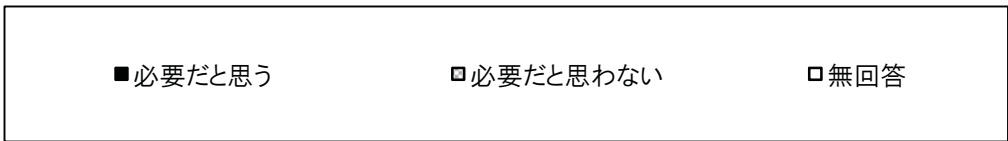
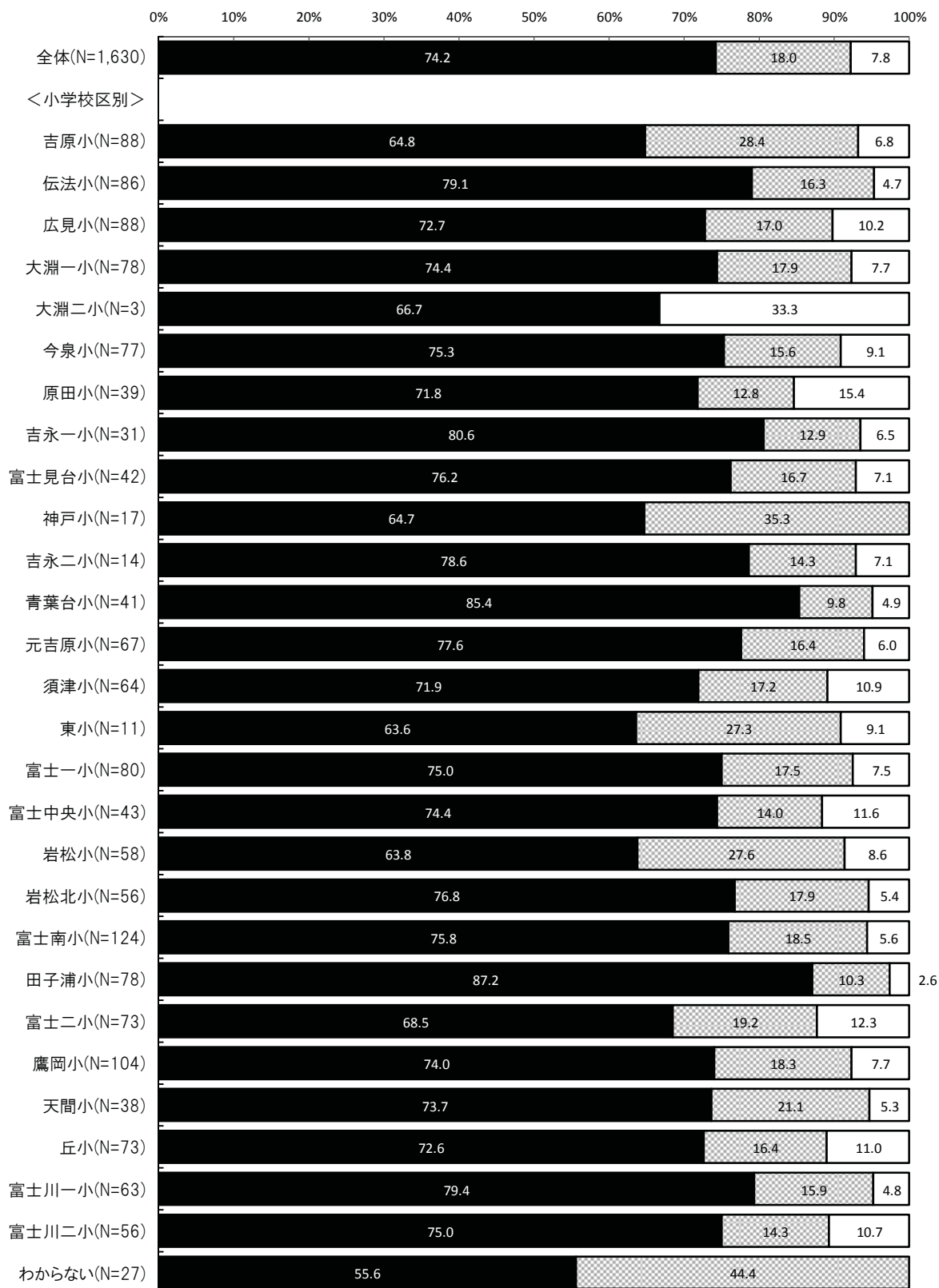
「必要だと思う」が 74.2%、「必要だと思わない」が 18.0%となっている。

【経年変化】

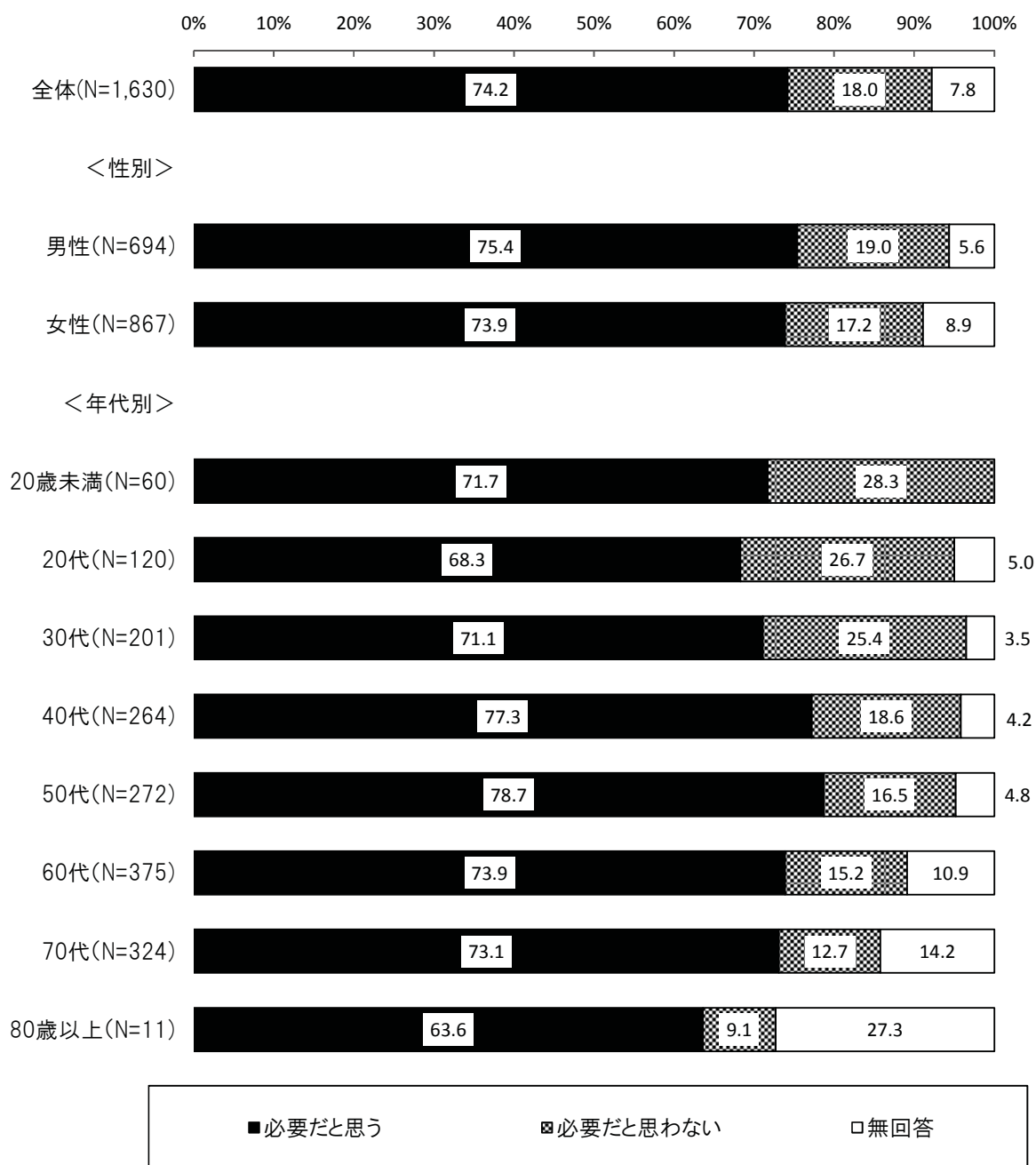


前回の調査結果と比較すると、「必要だと思う」は平成 21 年が 78.4%、平成 26 年が 74.2%と、4.2 ポイント低くなっている。

【小学校区別】



【性別・年代別】

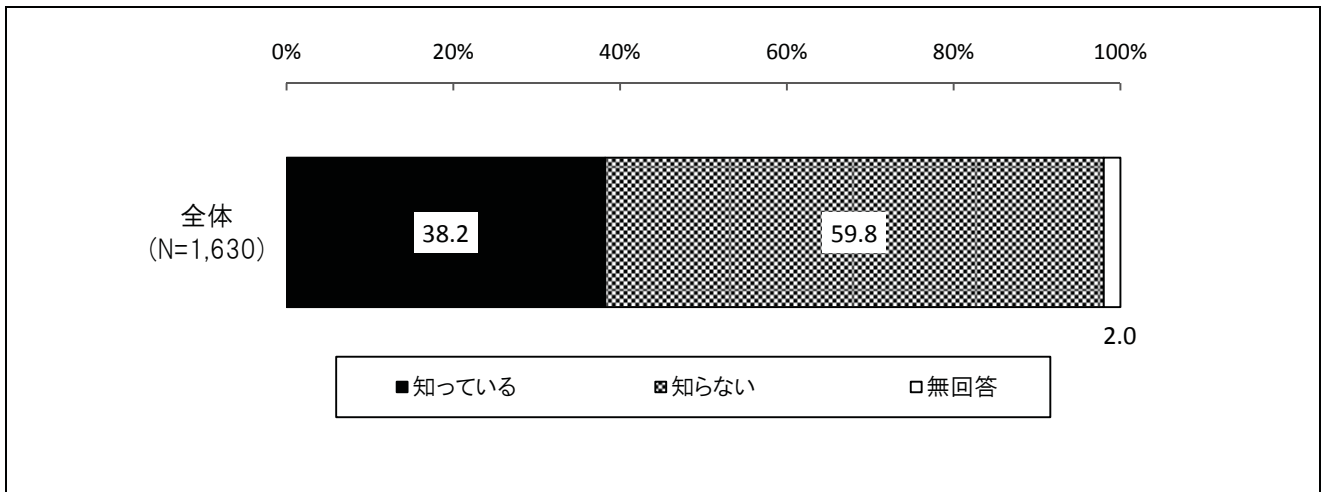


性別でみると、「必要だと思う」は男女ともに7割を超えている。

年代別でみると、「必要だと思う」はいずれの年代でも7割程度となっている。

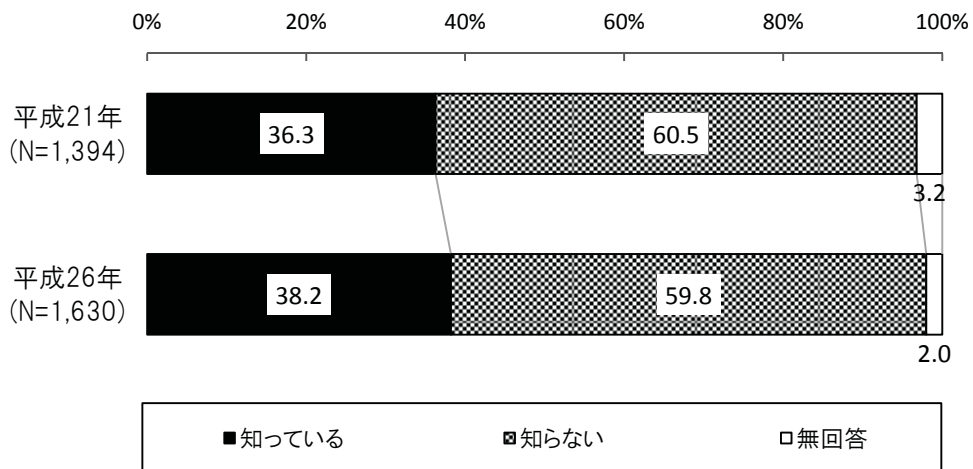
<富士市社会福祉協議会に関すること>

問 25 あなたは、富士市フィランセに、富士市社会福祉協議会（通称社協）があるのを知っていますか。
 (○は1つだけ)



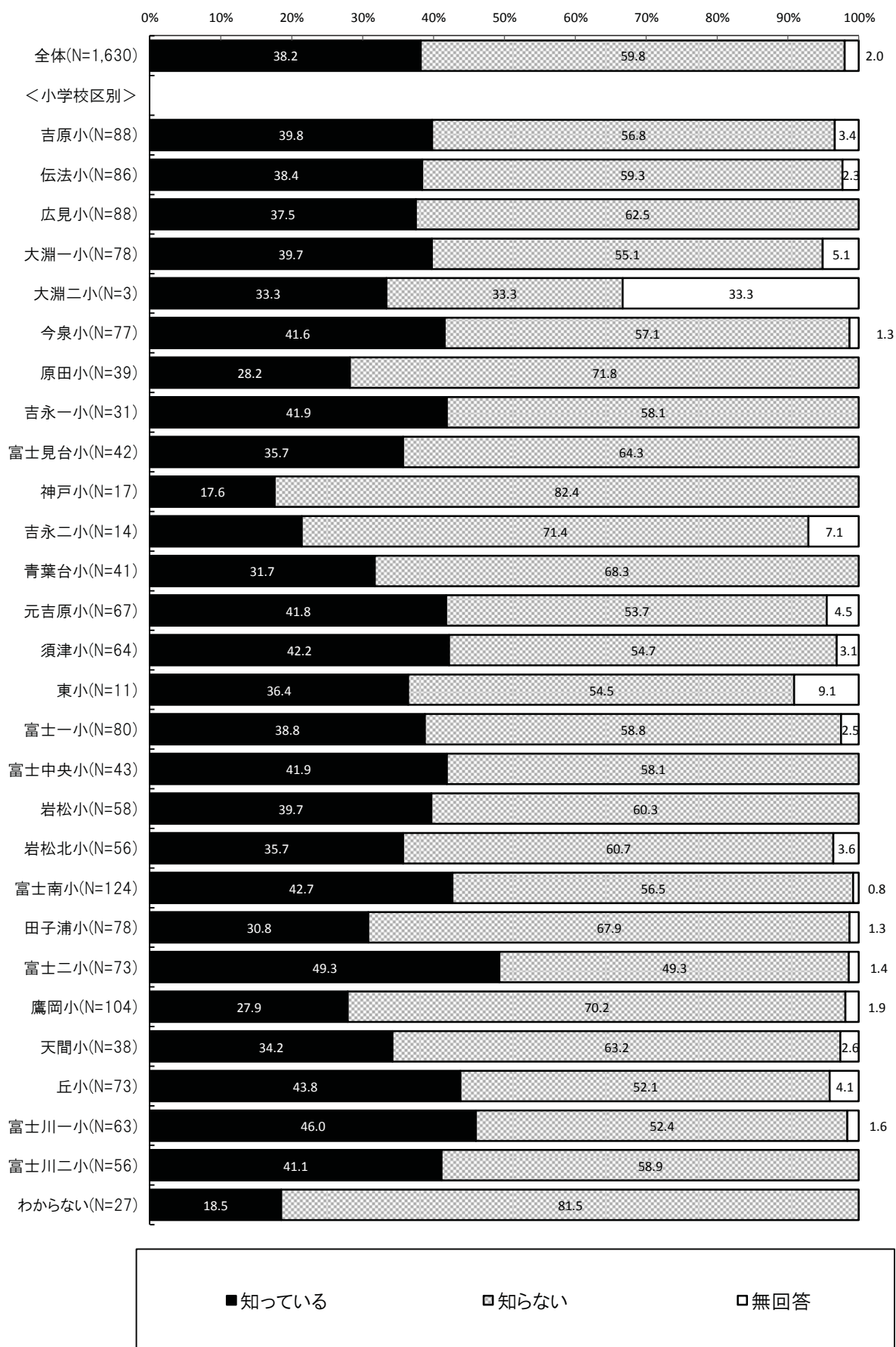
「知っている」が 38.2%、「知らない」が 59.8%となっている。

【経年変化】

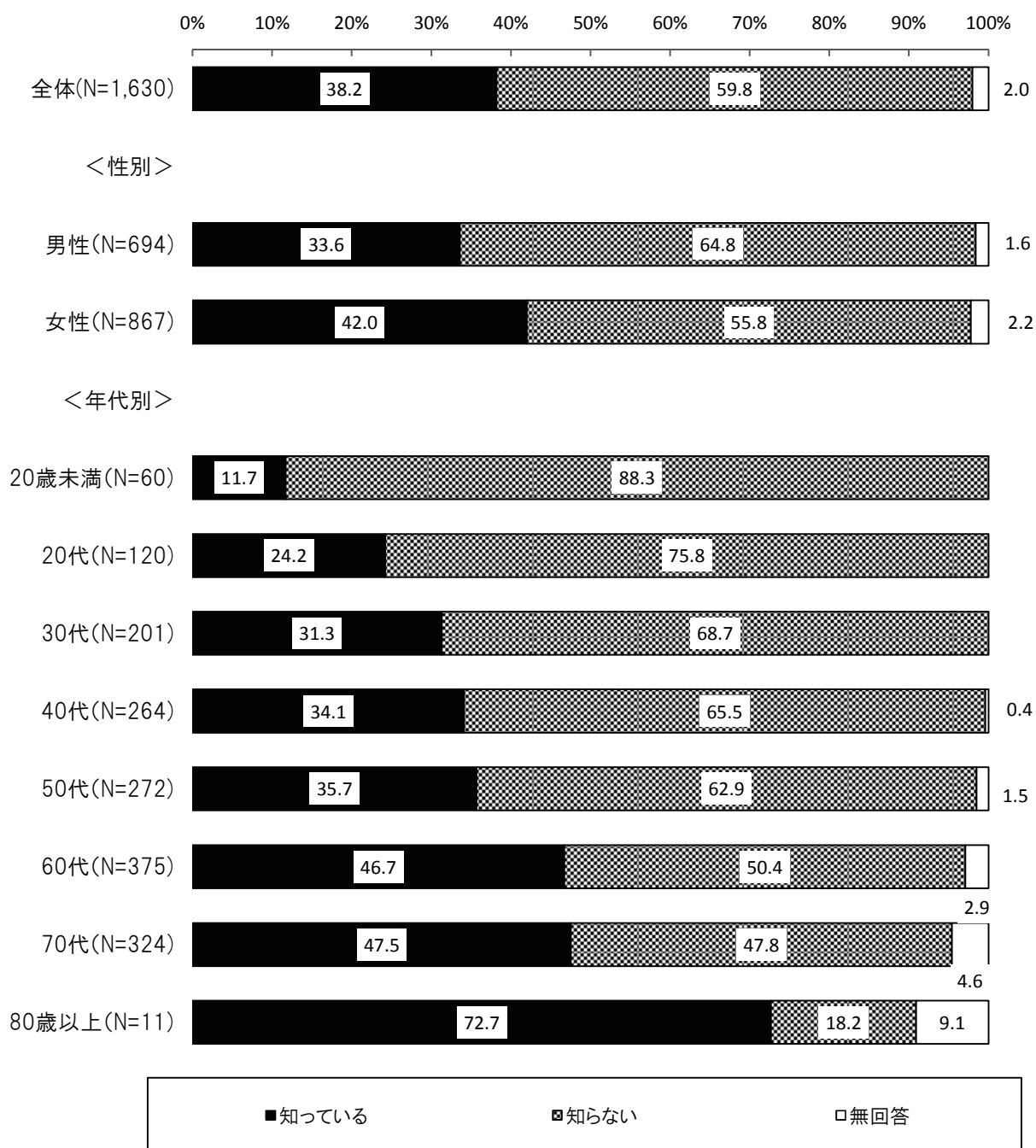


前回の調査結果と比較すると、「知っている」は平成 21 年が 36.3%、平成 26 年が 38.2%と、1.9 ポイント高くなっている。

【小学校区別】



【性別・年代別】

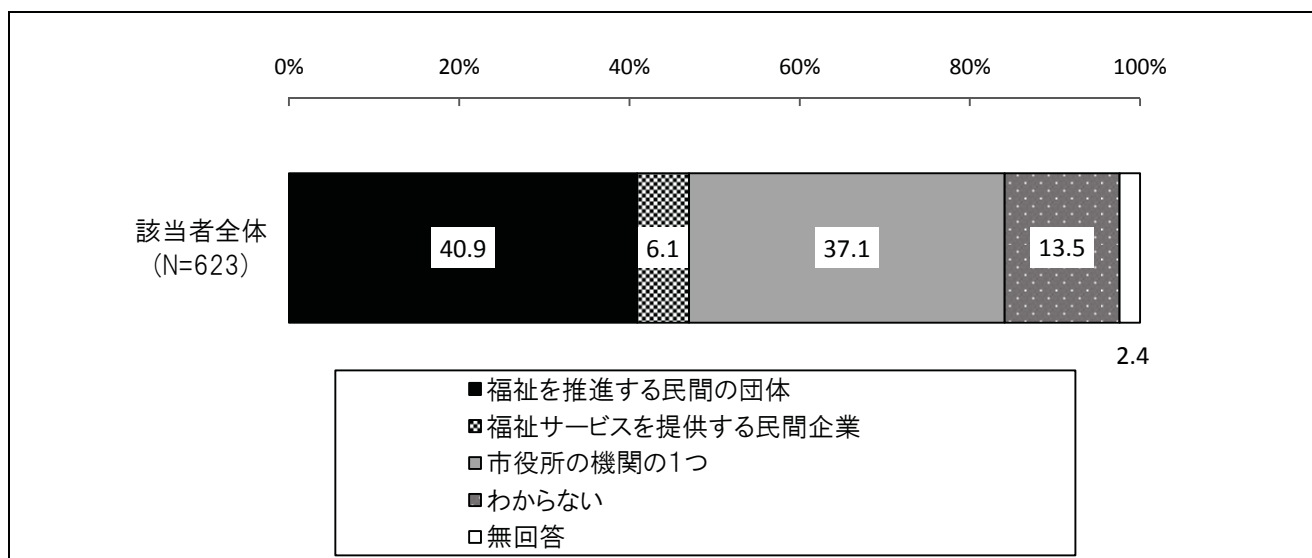


性別で見ると、「知っている」は男性が 33.6%、女性が 42.0%となっており、女性の方が高い。

年代別で見ると、「知っている」は年齢が高くなるに連れ、割合が高くなっており、 70代では 47.5%となっている。

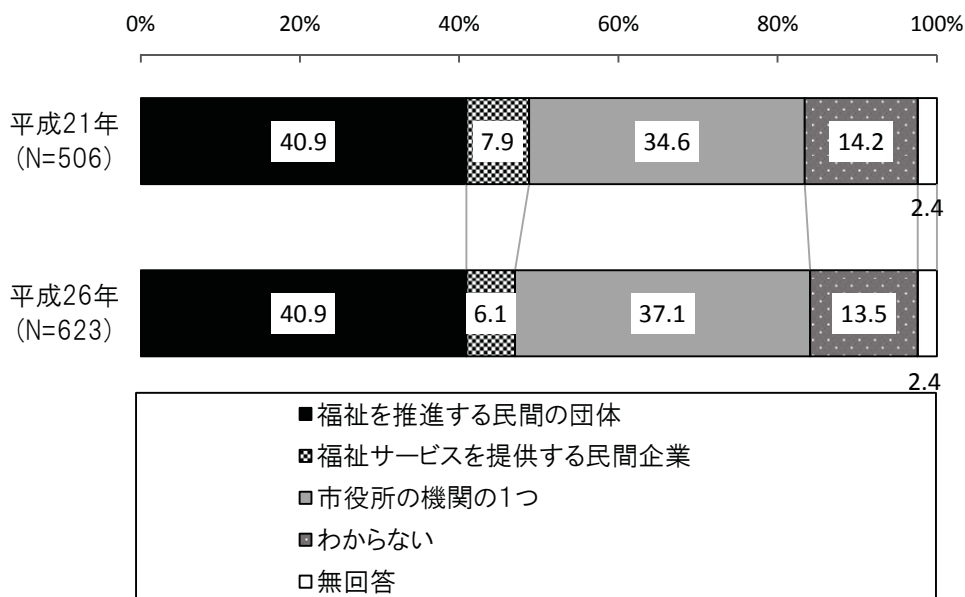
問 25 で「1 知っている」と回答した方に伺います。

問 25-1 あなたは、富士市社会福祉協議会がどんなところだと思いますか。(〇は1つだけ)



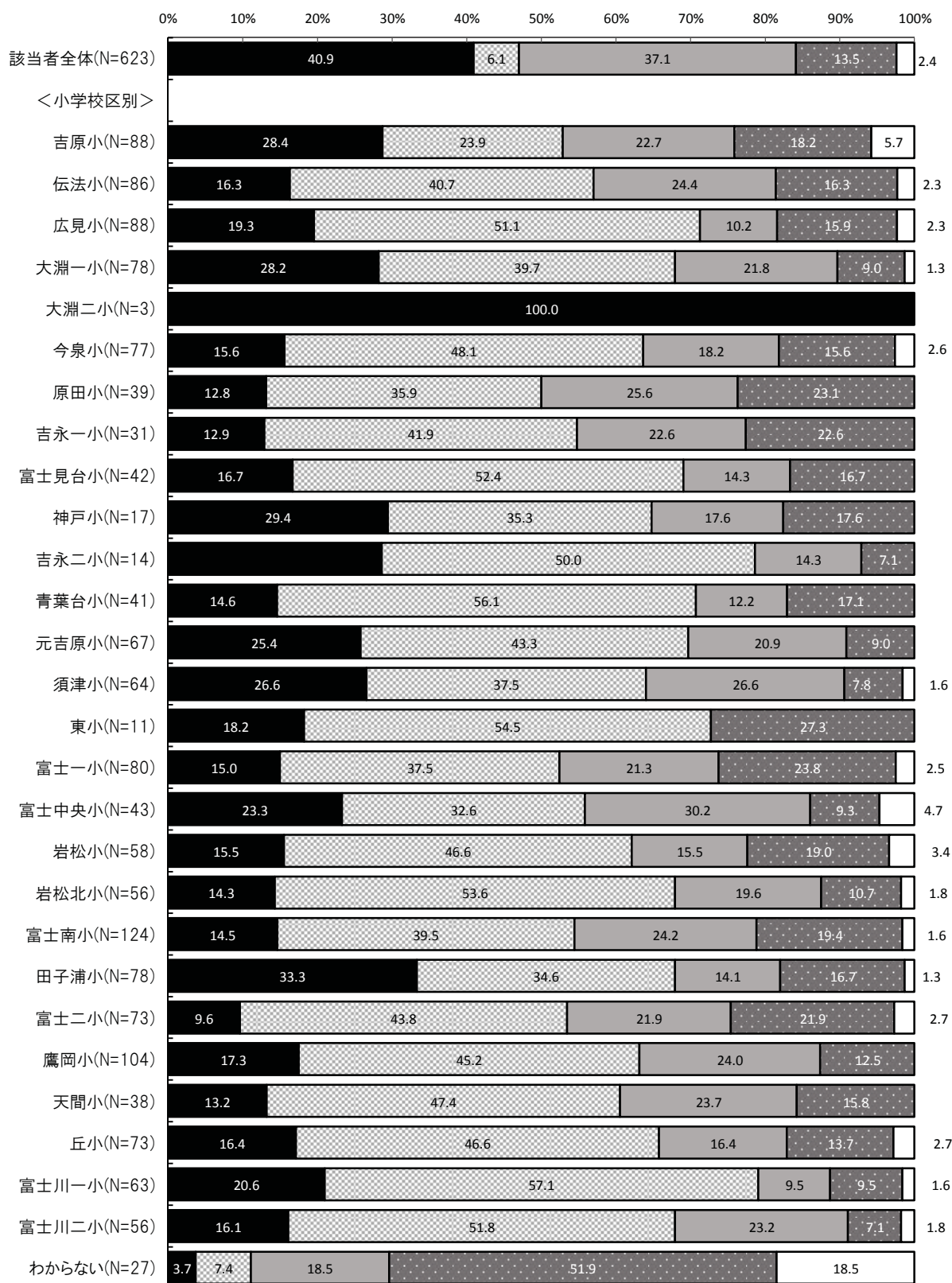
「福祉を推進する民間の団体」が 40.9%と最も高く、次いで「市役所の機関の1つ」が 37.1%、「わからない」が 13.5%となっている。

【経年変化】



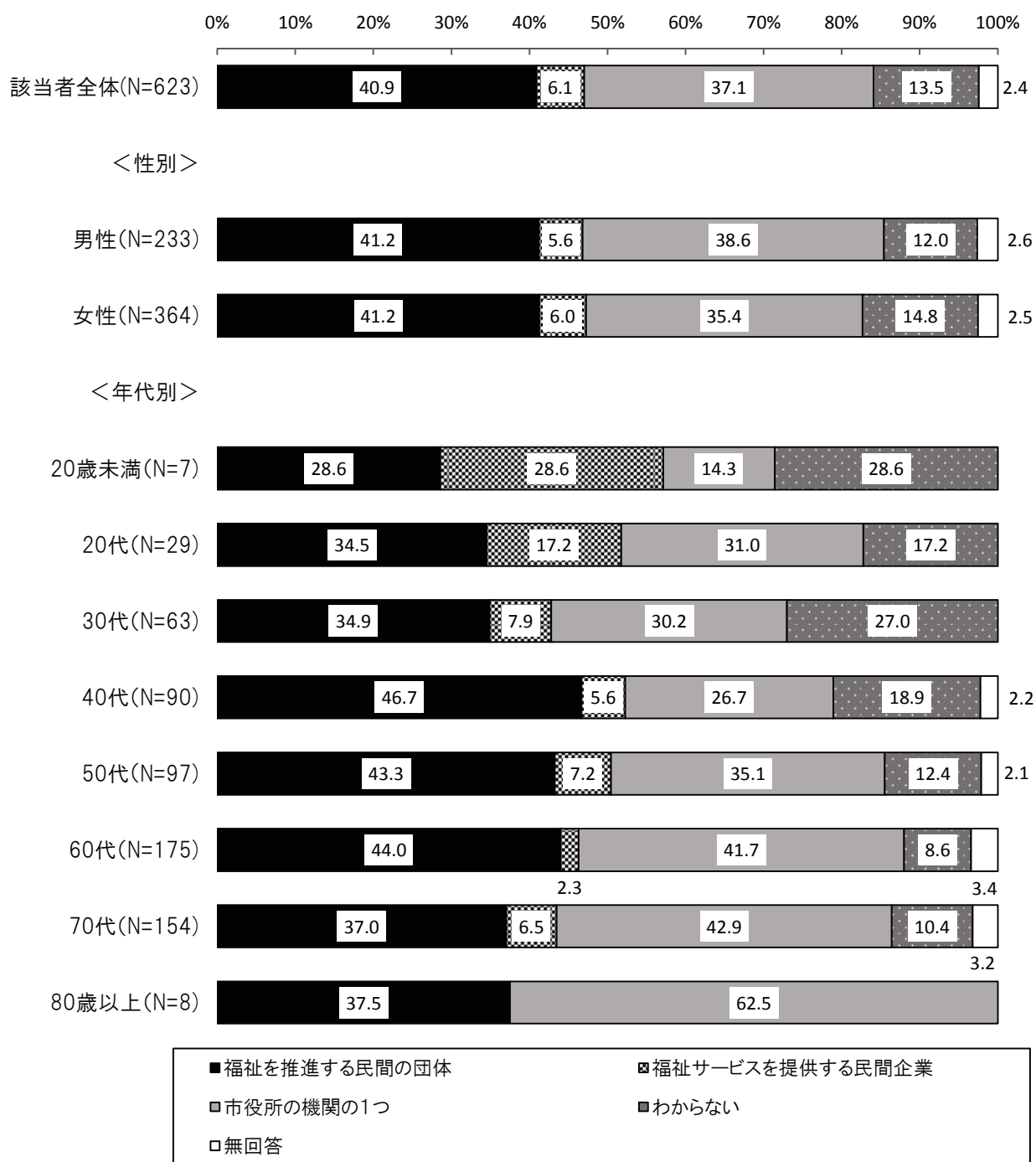
前回の調査結果と比較すると、「福祉を推進する民間の団体」は平成 21 年と平成 26 年は 40.9%と、同数値になっている。

【小学校区別】



■ 福祉を推進する民間の団体 □ 福祉サービスを提供する民間企業
 ■ 市役所の機関の1つ □ わからない
 □ 無回答

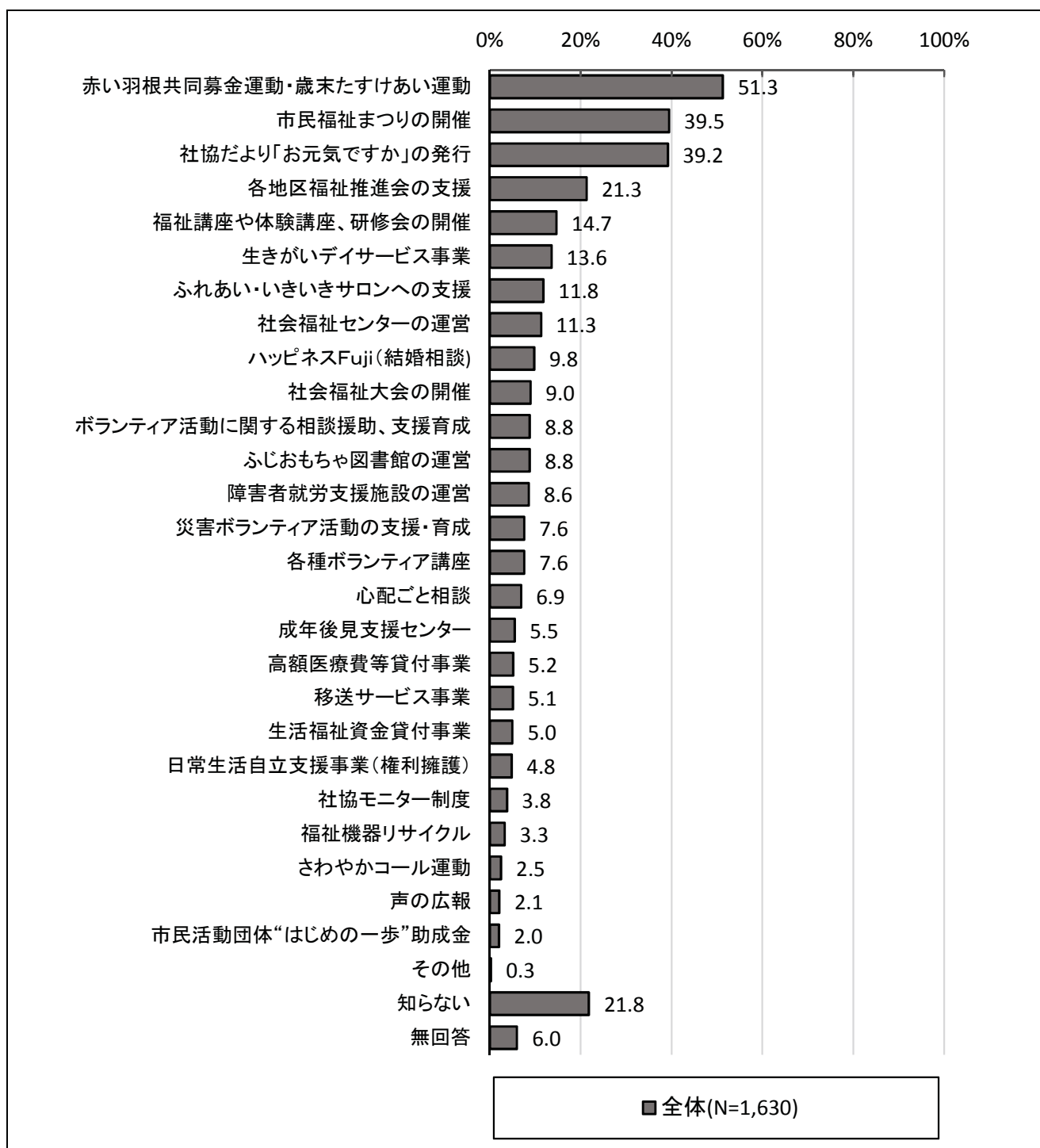
【性別・年代別】



性別で見ると、「福祉を推進する民間の団体」が最も高く、男女共に 41.2%となっている。

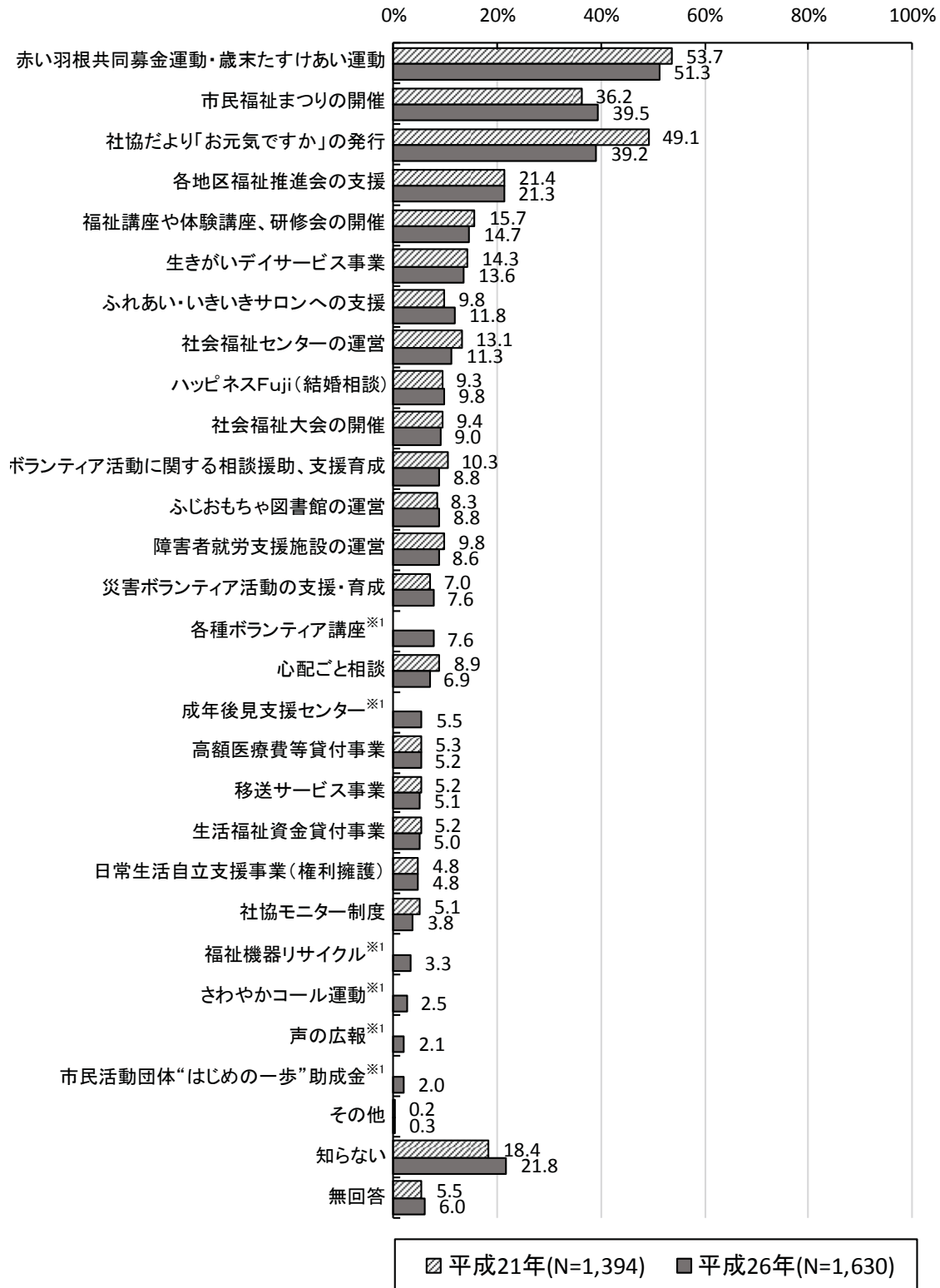
年代別で見ると、「福祉を推進する民間の団体」は、70代以外の年代で最も高い割合となっており、3割から4割を占める。70代では「市役所の機関の1つ」が最も高く 42.9%となっている。

問 26 あなたは、富士市社会福祉協議会の次の事業のうち、どの事業を知っていますか。
 (あてはまるものすべてに○)



「赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動」が最も高く 51.3%、次いで「市民福祉まつりの開催」が 39.5%、「社協だより「お元気ですか」の発行」が 39.2%となっている。

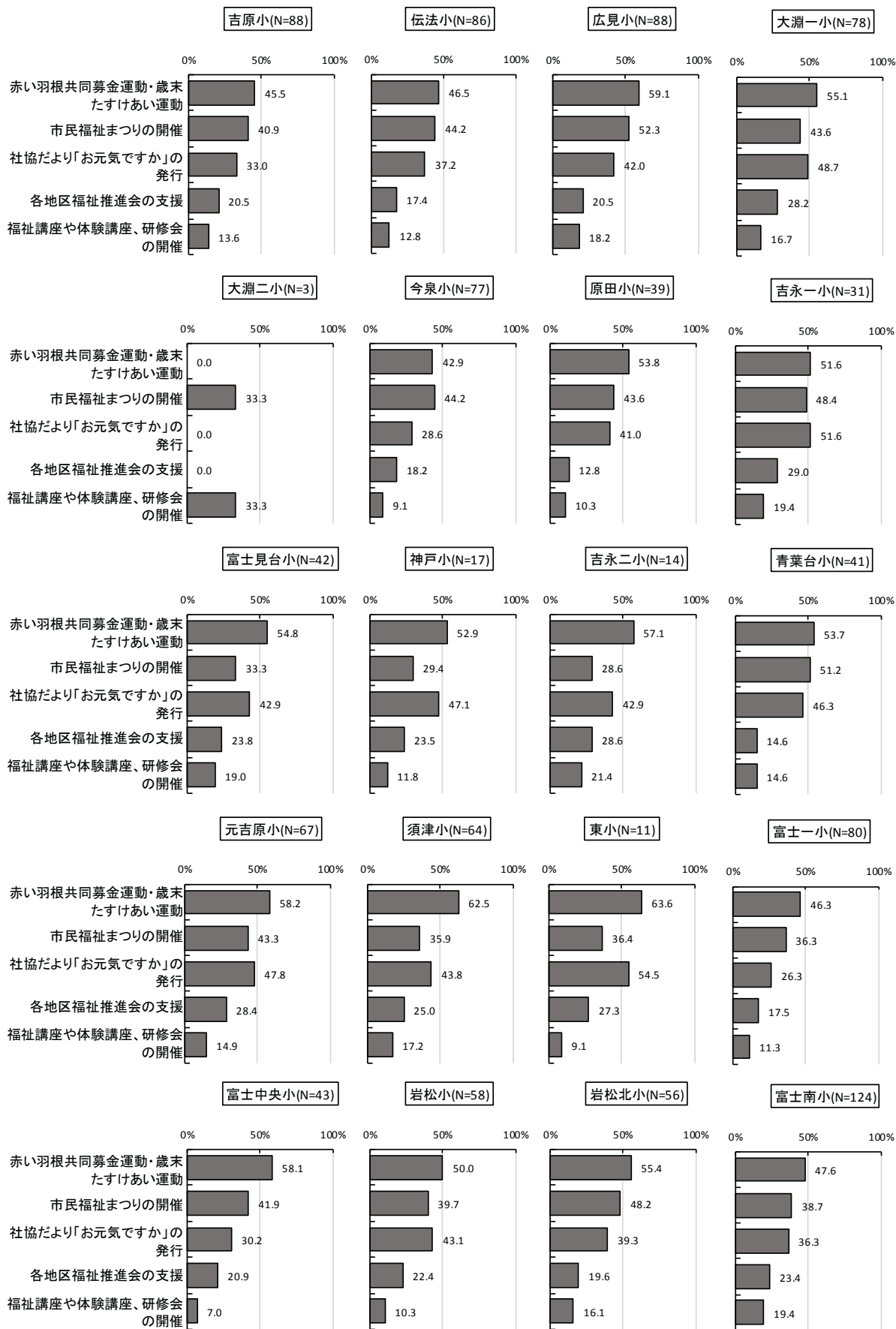
【経年変化】

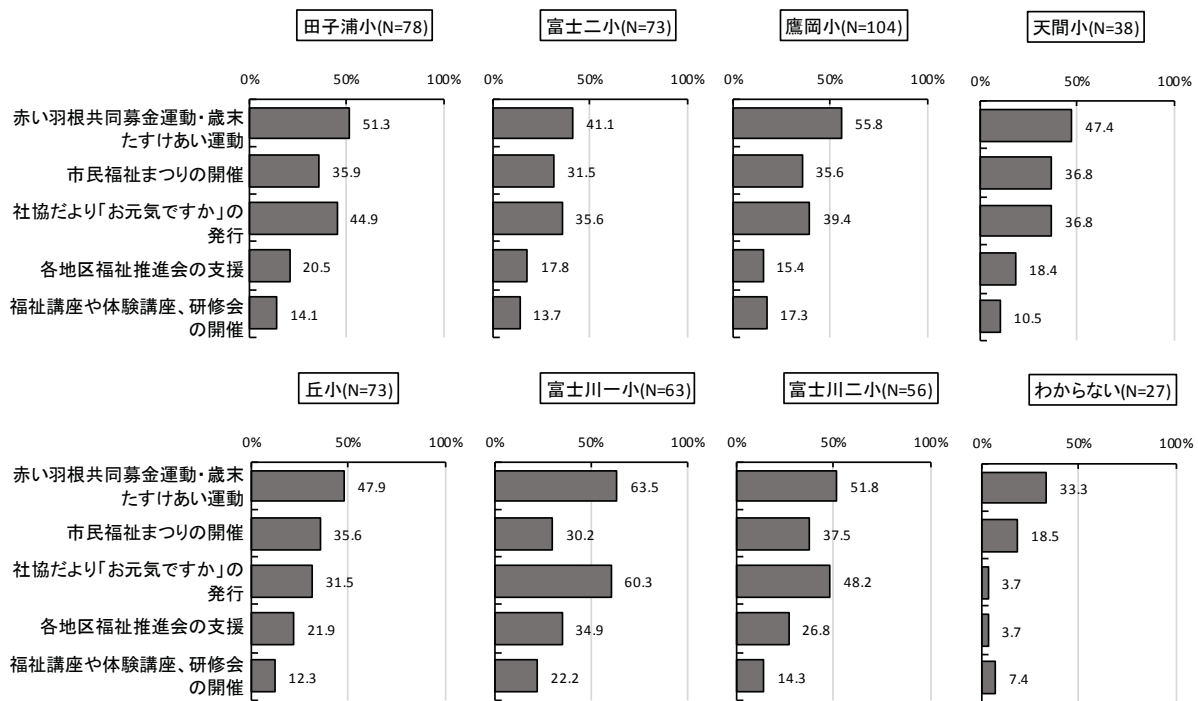


※1:平成 26 年の新設項目

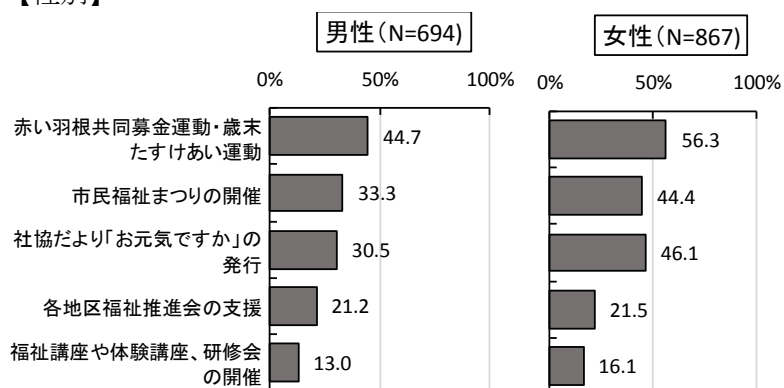
前回の調査結果と比較すると、「赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動」は平成 21 年が 53.7%、平成 26 年が 51.3%と、2.4 ポイント低くなっている。「社協だより「お元気ですか」の発行」は平成 21 年が 49.1%、平成 26 年が 39.2%と、9.9 ポイント低くなっている。

【小学校区別】

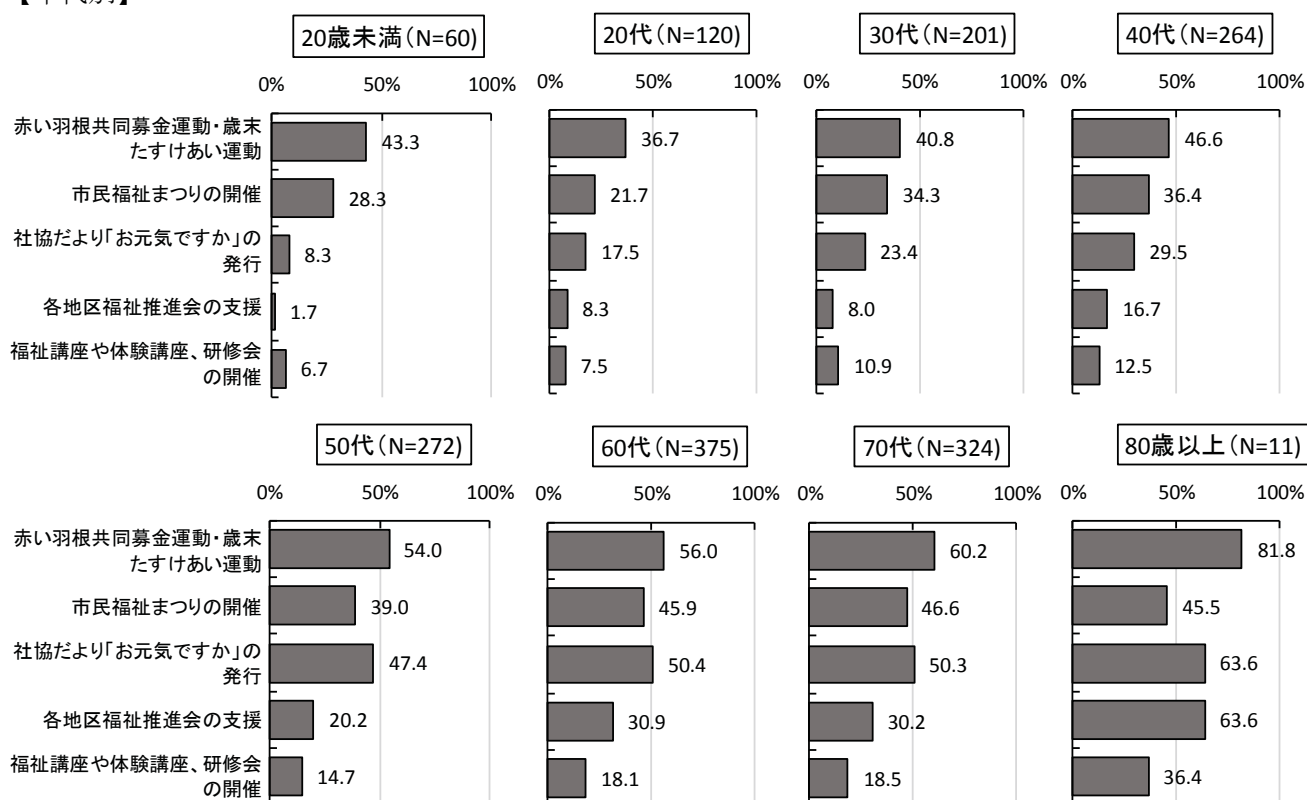




【性別】



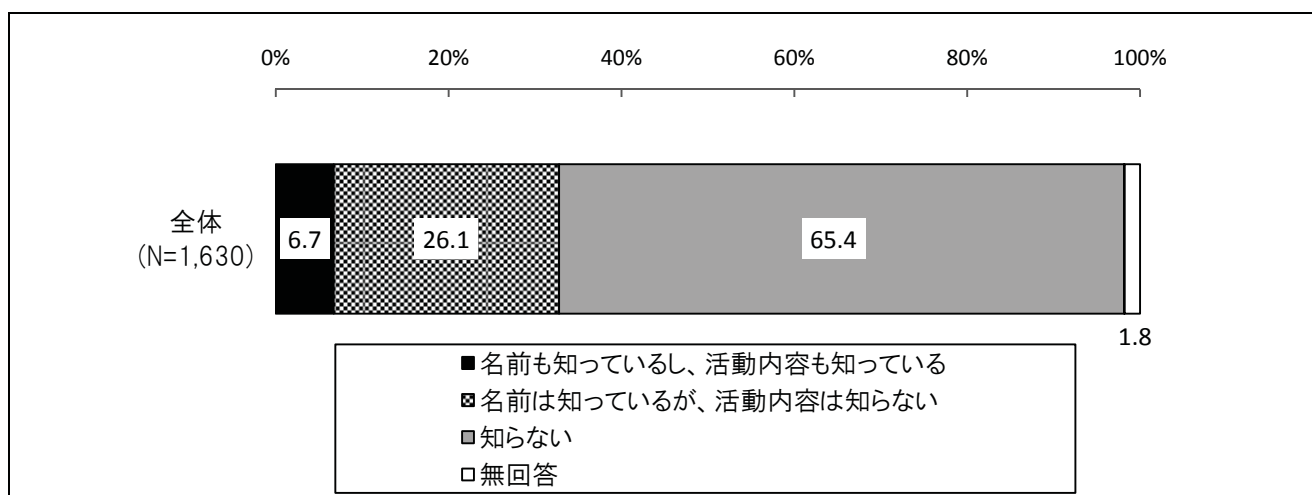
【年代別】



性別でみると、「赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動」は男性が 44.7%、女性が 56.3%となっている。「市民福祉まつりの開催」は男性が 33.3%、女性が 44.4%となっている。「社協だより「お元気ですか」の発行」は男性が 30.5%、女性が 46.1%となっている。いずれの項目も男性より女性の方が高い。

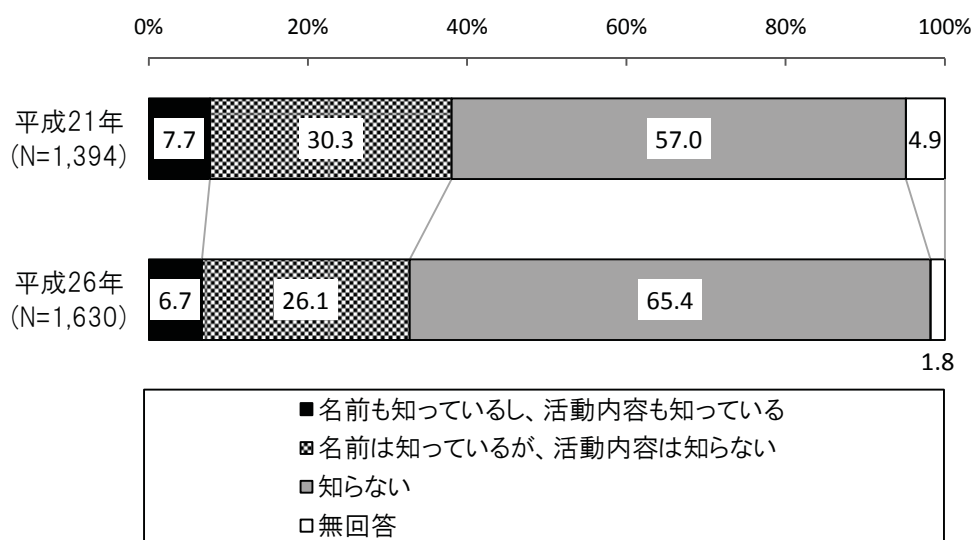
年代別でみると、「赤い羽根共同募金・歳末たすけあい運動」は 50 代以上の年代では 5 割を超え、70 代では 6 割に達している。

問 27 市内小学校区にそれぞれ「地区福祉推進会」が組織されています。あなたのお住まいの地区の「地区福祉推進会」をご存知ですか。(〇は1つだけ)



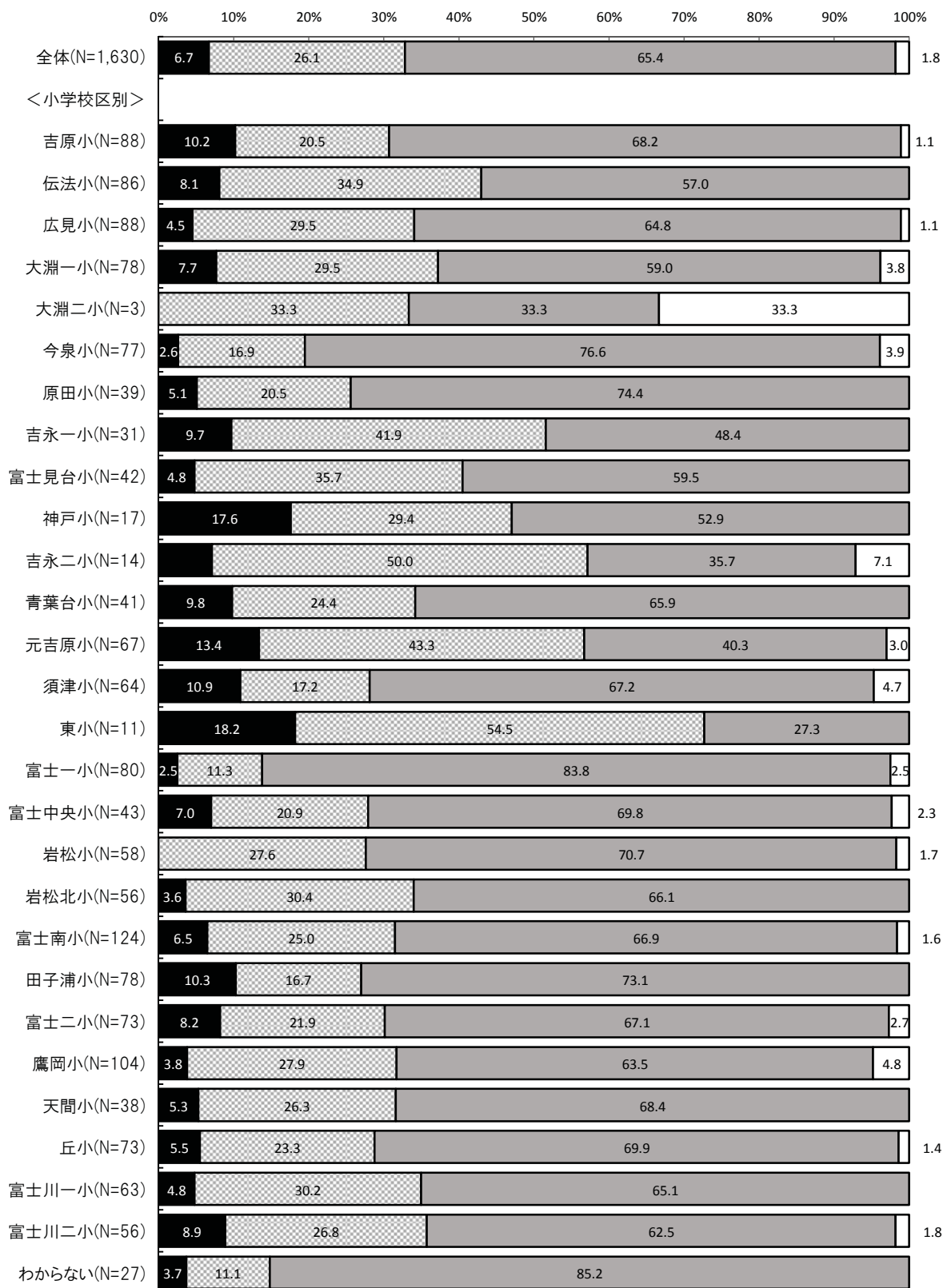
「知らない」が最も高く 65.4%、「名前は知っているが、活動内容は知らない」は 26.1%、「名前も知っているし、活動内容も知っている」は 6.7%にとどまっている。

【経年変化】



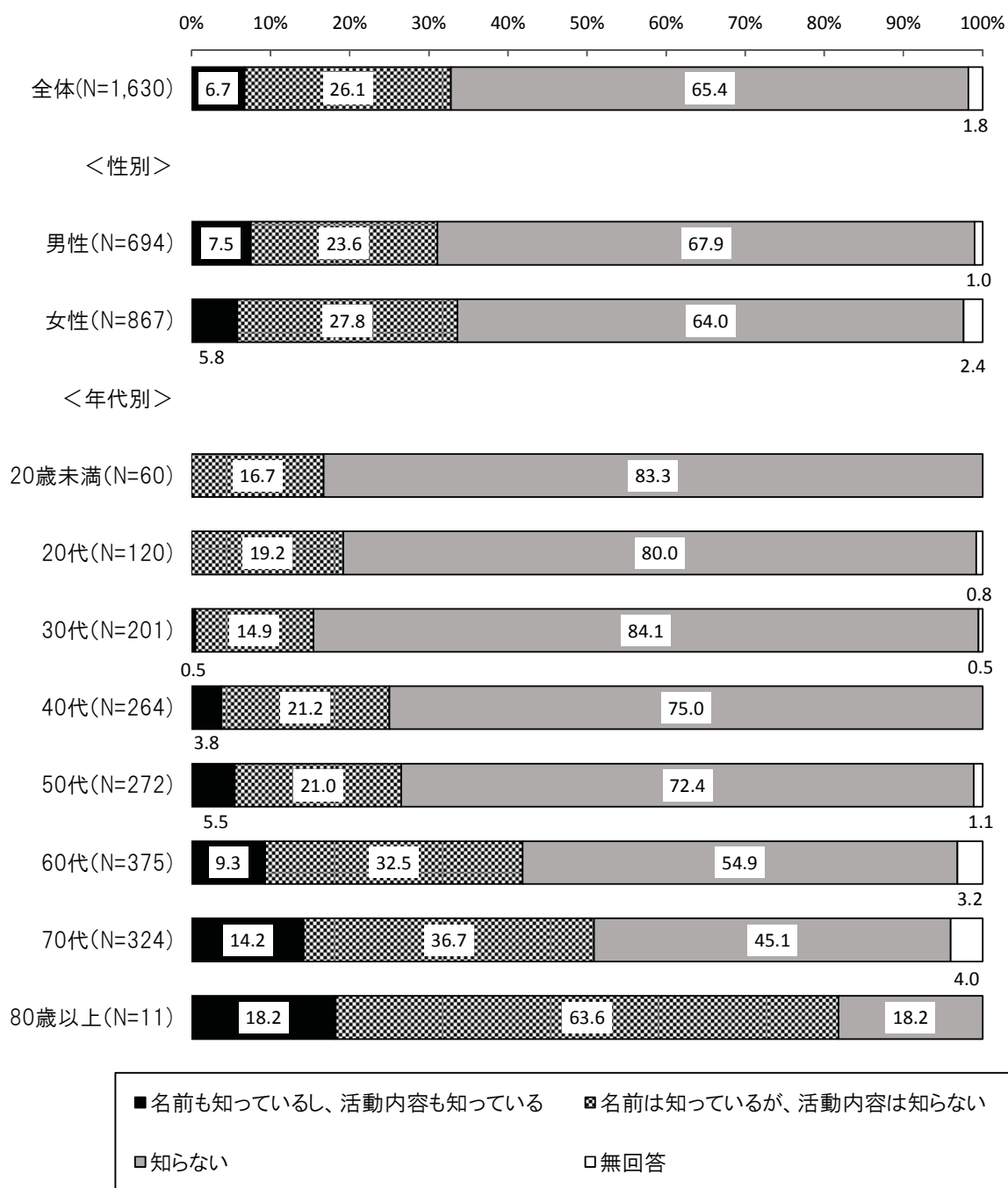
前回の調査結果と比較すると、「知らない」は平成 21 年が 57.0%、平成 26 年が 65.4%と、8.4 ポイント高くなっている。

【小学校区別】



■ 名前も知っているし、活動内容も知っている
 □ 名前は知っているが、活動内容は知らない
 ■ 知らない
 □ 無回答

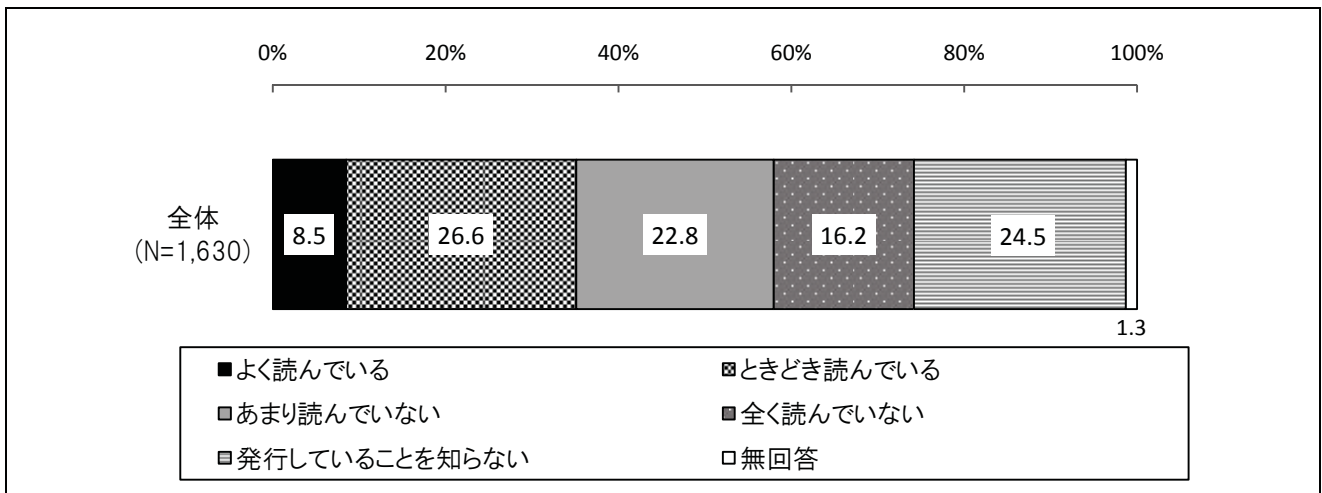
【性別・年代別】



性別で見ると、「知らない」は男性が 67.9%、女性が 64.0%と 6 割を超えている。

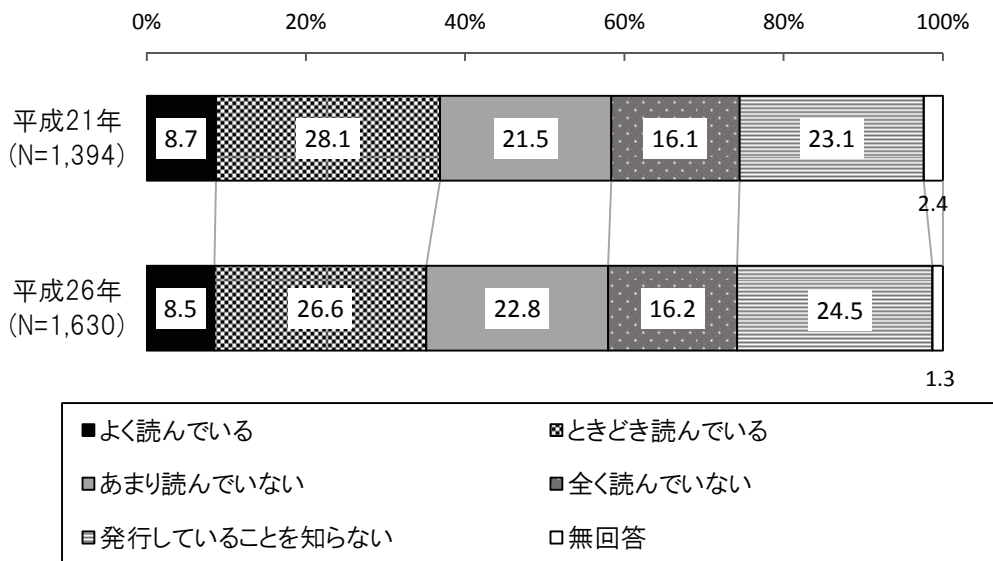
年代別で見ると、「知らない」は若年層ほど高い傾向にあり、「名前も知っているし、活動内容も知っている」は 20 歳未満と 20 代では 0.0%となっている。

問 28 あなたは、富士市社会福祉協議会で発行している情報誌「社協だより（お元気ですか）」を読んでいますか。（○は1つだけ）



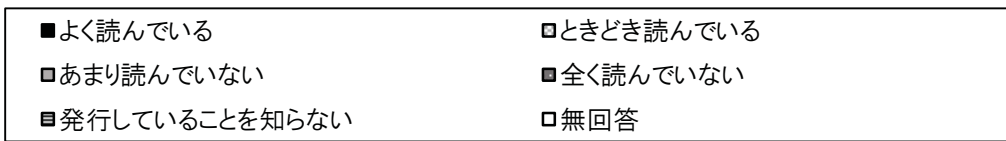
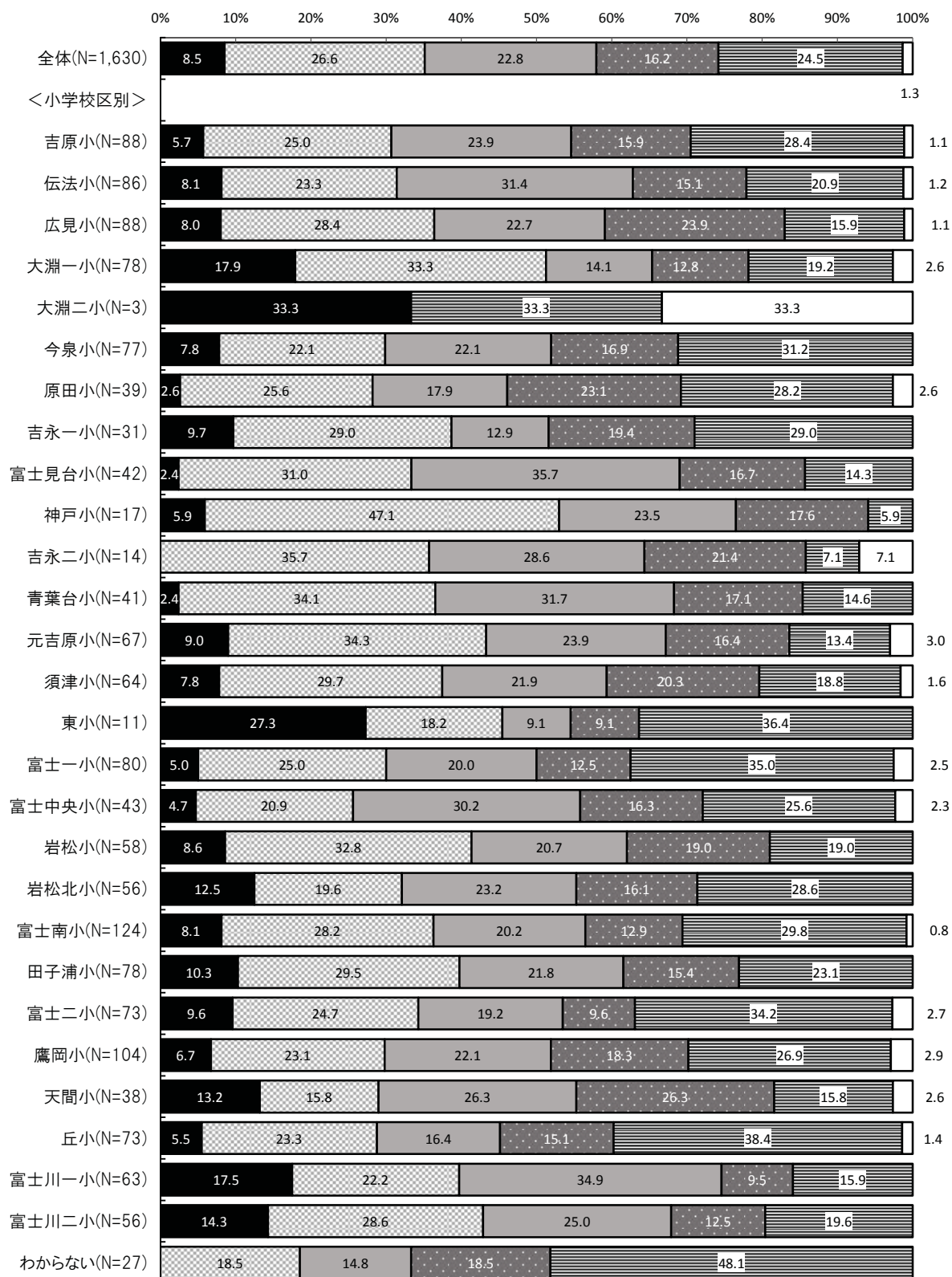
「よく読んでいる」は8.5%、「ときどき読んでいる」は26.6%となっており、これらを合わせた「読んでいる」は35.1%となっている。「あまり読んでいない」は22.8%、「全く読んでいない」は16.2%となっており、これらを合わせた「読んでいない」は39.0%となっている。「読んでいない」の方が「読んでいる」より高い。

【経年変化】

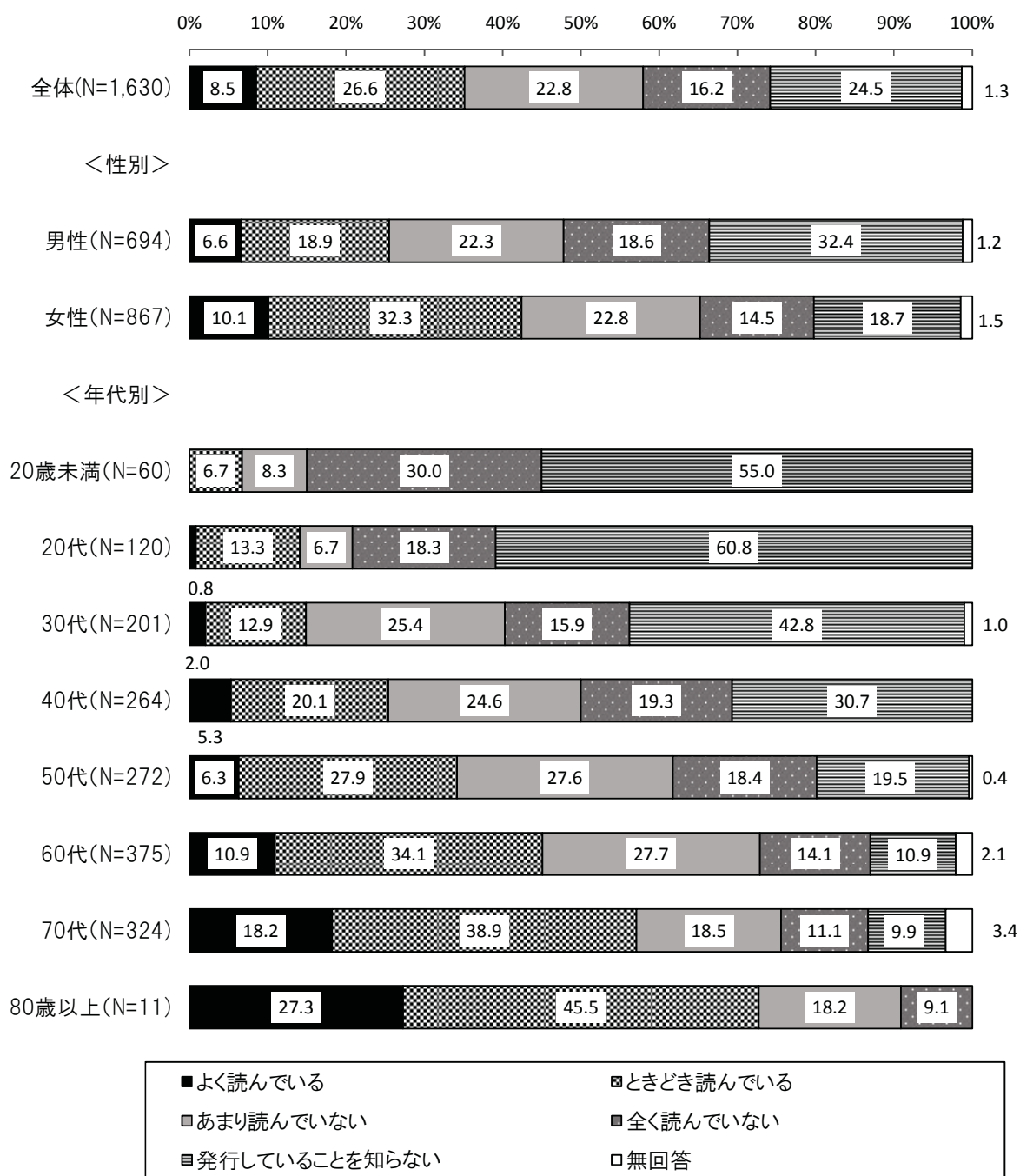


前回の調査結果と比較すると、平成21年は「よく読んでいる」と「ときどき読んでいる」を合わせた「読んでいる」が36.8%、「あまり読んでいない」と「全く読んでいない」を合わせた「読んでいない」が37.6%となっており、平成26年は「読んでいる」が35.1%、「読んでいない」が39.0%となったため、平成21年より平成26年は「読んでいる」が低くなり、「読んでいない」が高くなっている。

【小学校区別】



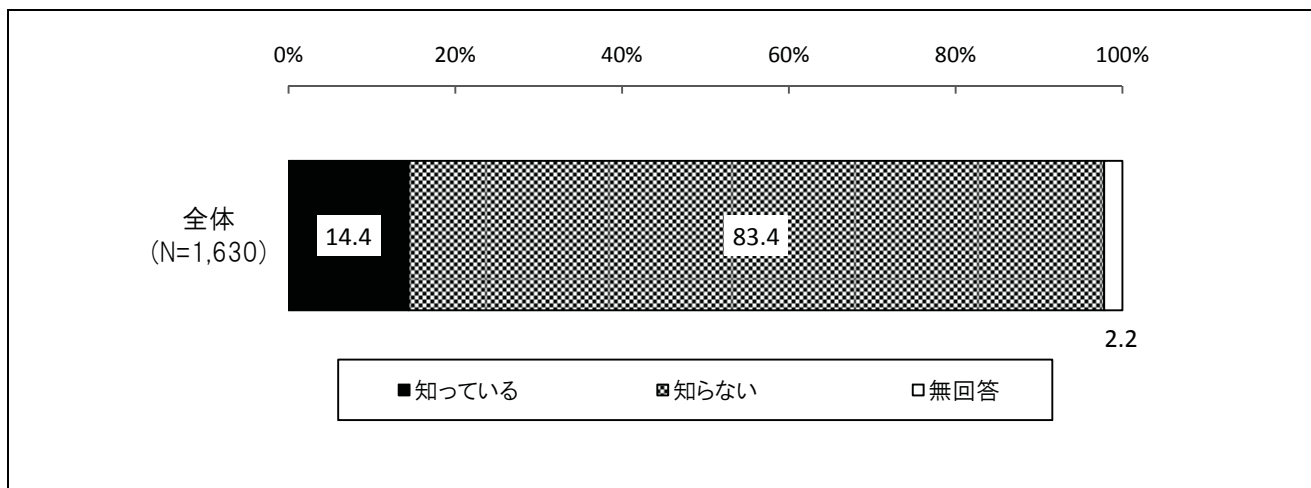
【性別・年代別】



性別でみると、「よく読んでいる」と「ときどき読んでいる」を合わせた”読んでいる”は、男性が 25.5%、女性が 42.4%と、女性の方が高くなっている。

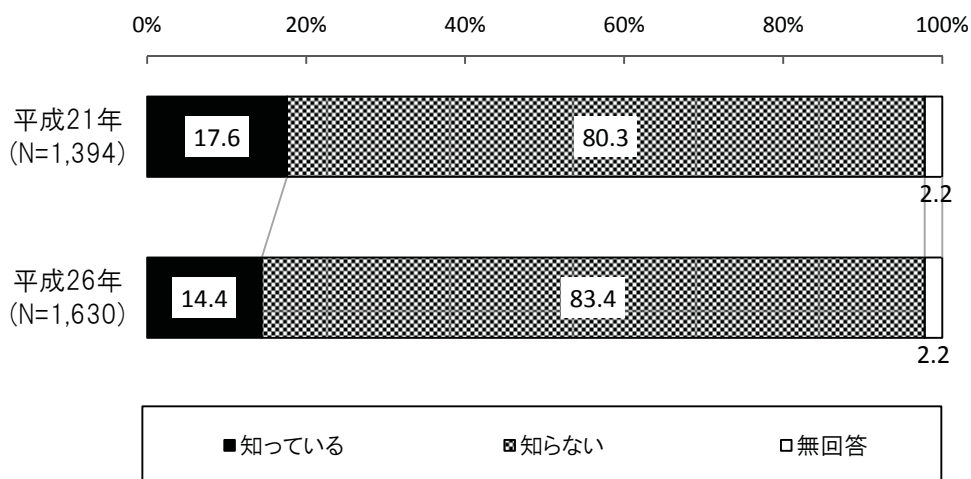
年代別でみると、”読んでいる”は高齢層ほど高くなる傾向があり、70代では 57.1%となっている。

問 29 あなたは、全世帯が富士市社会福祉協議会の会員であることを知っていますか。(○は1つだけ)



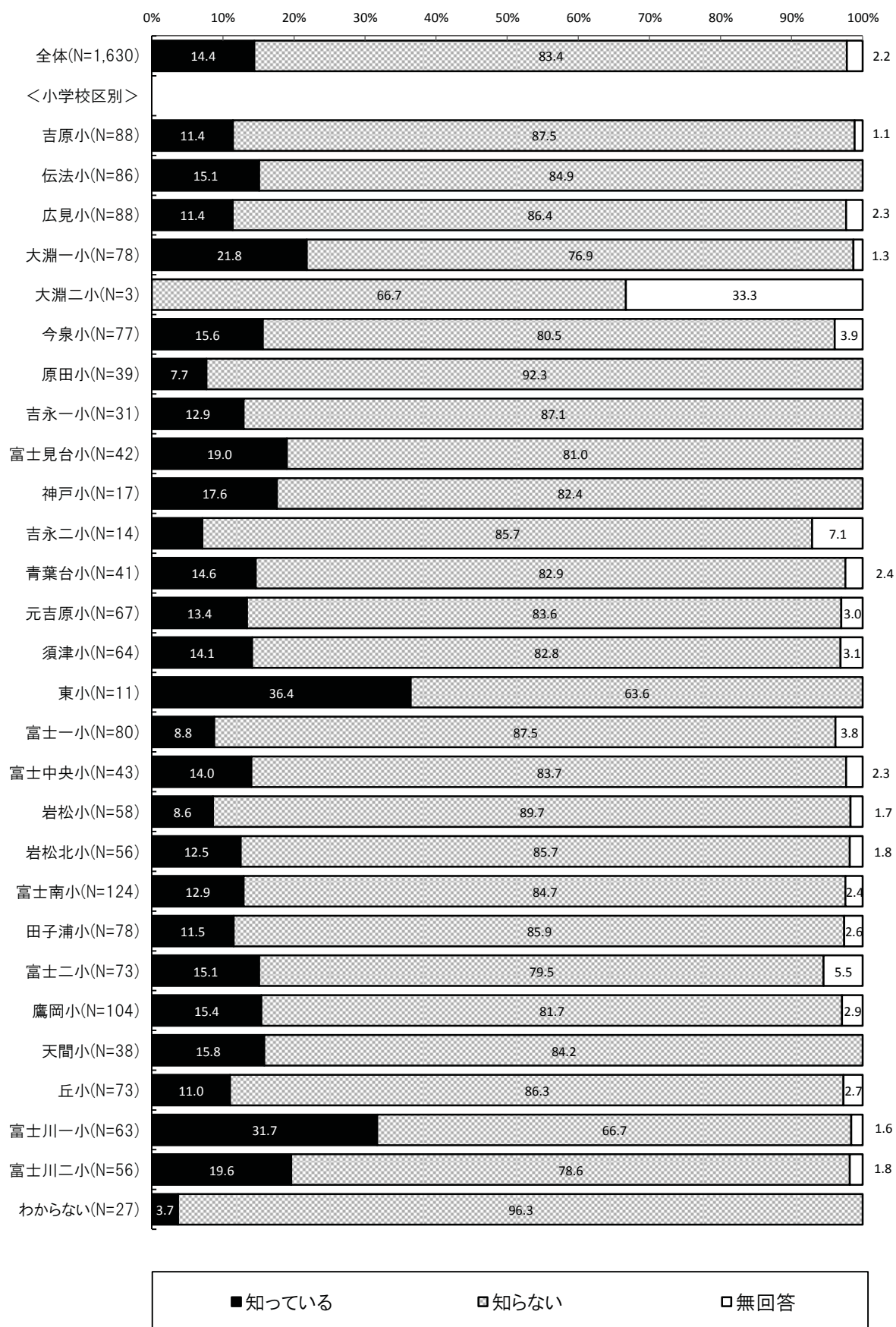
「知っている」は14.4%、「知らない」は83.4%となっている。

【経年変化】

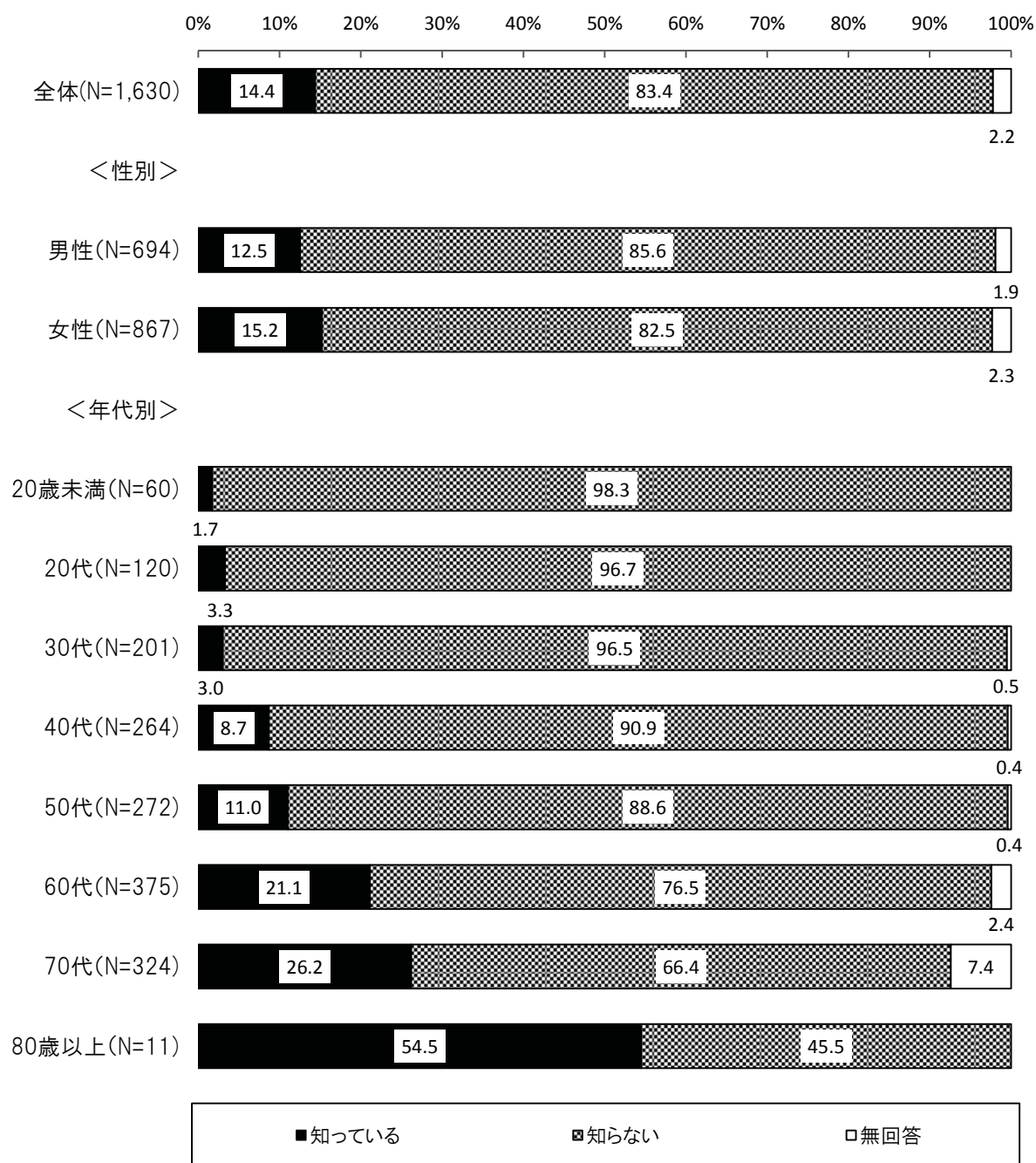


前回の調査結果と比較すると、「知っている」は平成21年が17.6%、平成26年が14.4%となっており、3.2ポイント低くなっている。

【小学校区別】

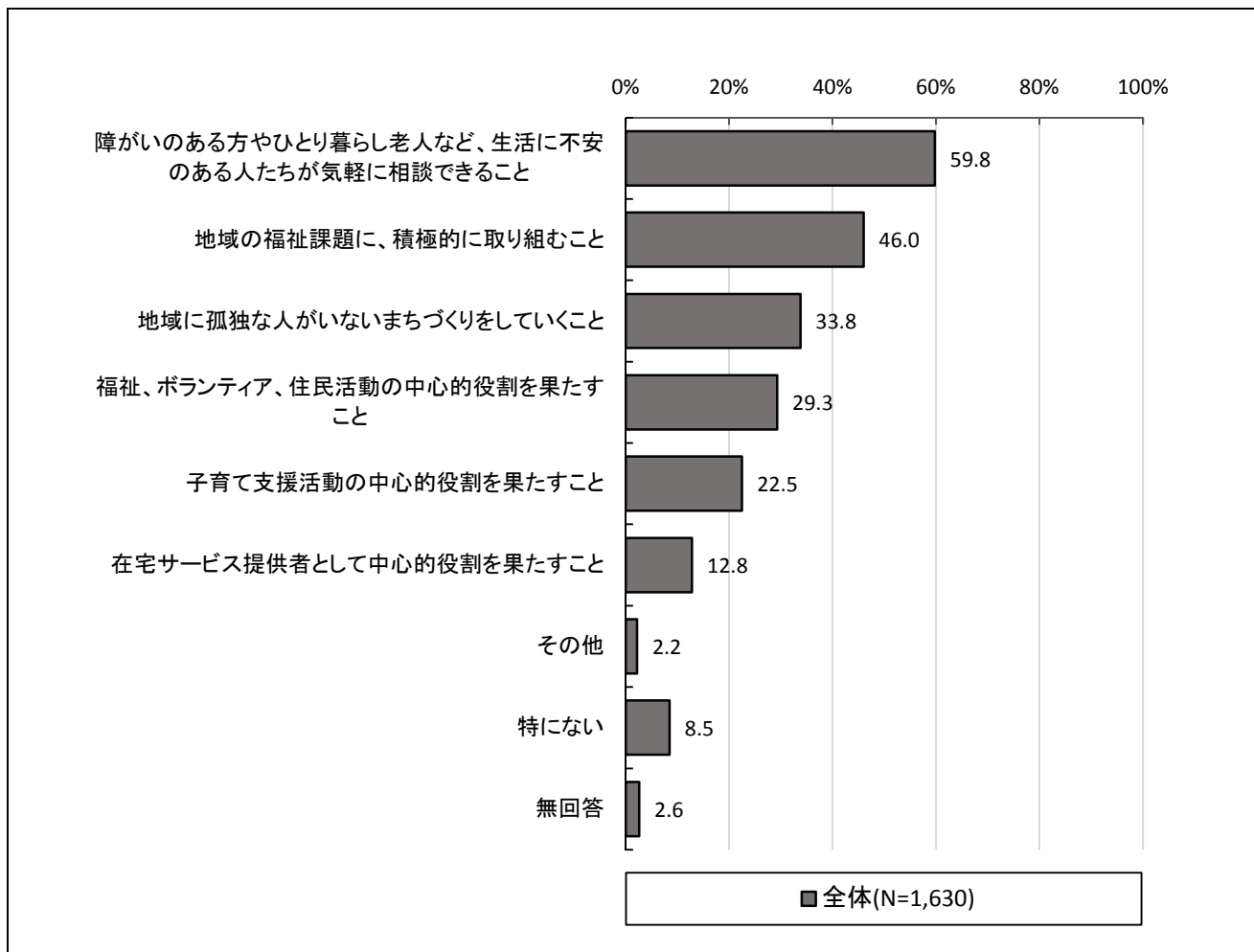


【性別・年代別】



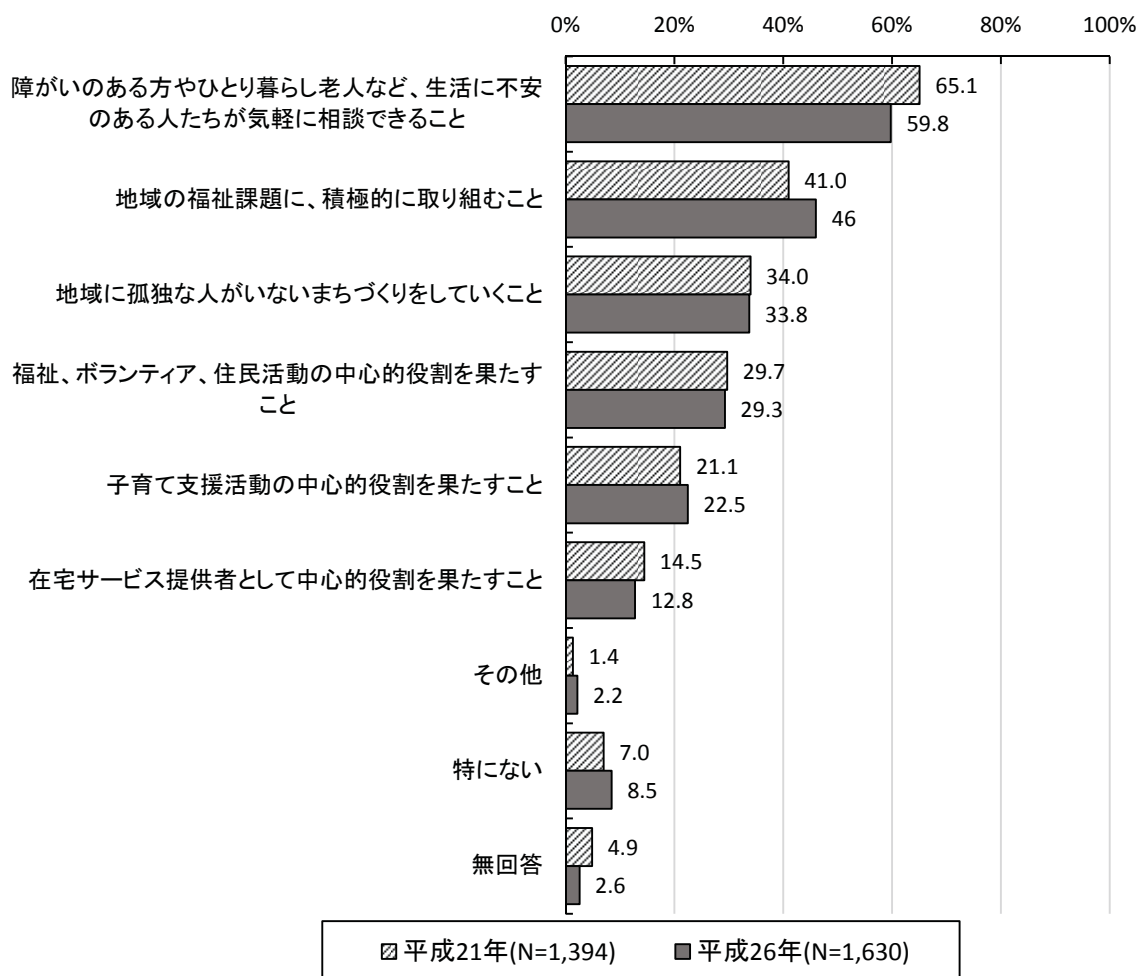
性別で見ると、「知っている」は男性が 12.5%、女性が 15.2%と女性の方が男性より高くなっている。
 年代別で見ると、「知っている」は高齢層ほど高くなる傾向があり、70代では 26.2%となっている。

問 30 社会福祉協議会に期待することは、次のうちのどれですか。(〇は3つまで)



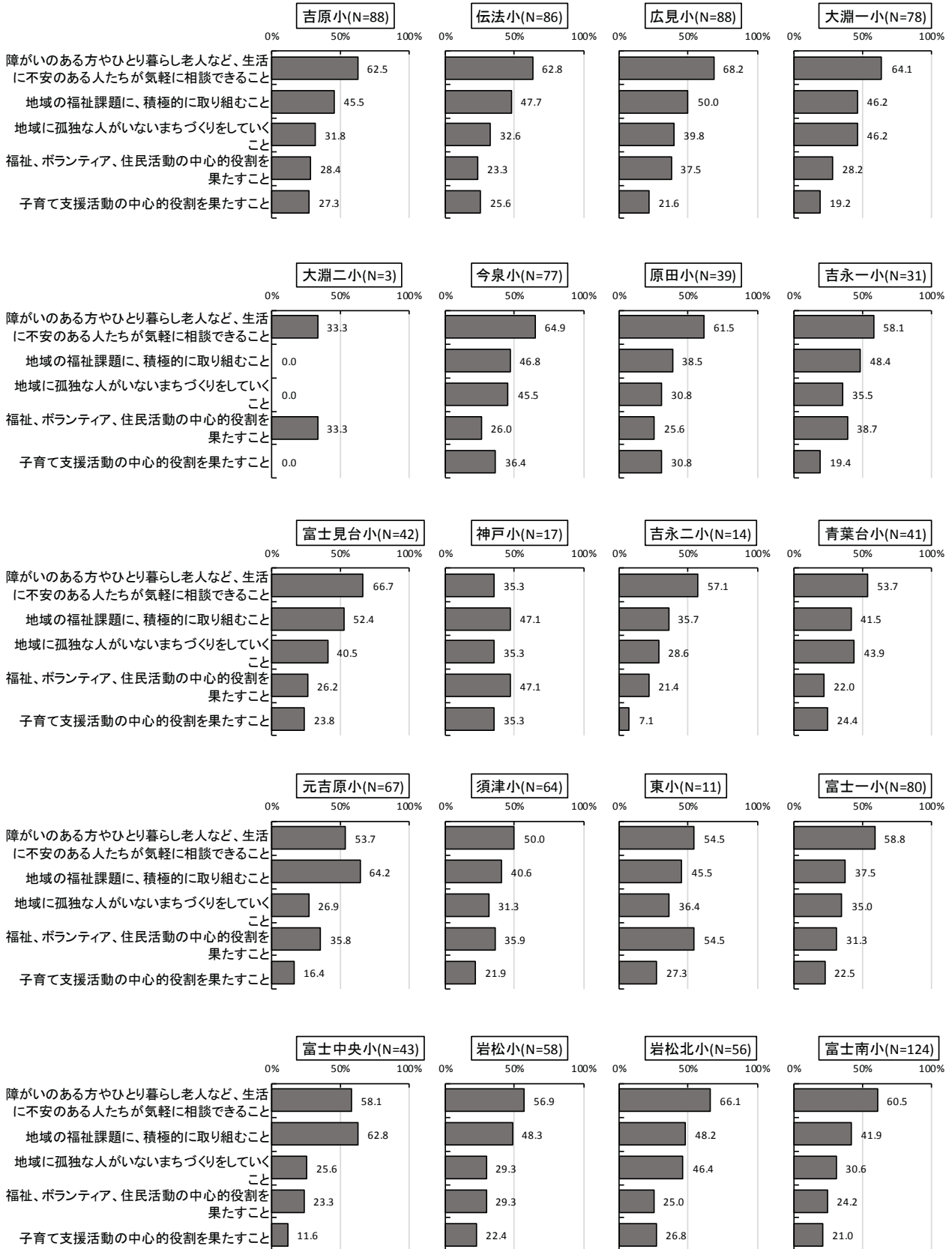
「障がいのある方やひとり暮らし老人など、生活に不安のある人たちが気軽に相談できること」が最も高く 59.8%、「地域の福祉活動に、積極的に取り組むこと」は 46.0%、「地域に孤独な人がいないまちづくりをしていくこと」は 33.8%と続いている。

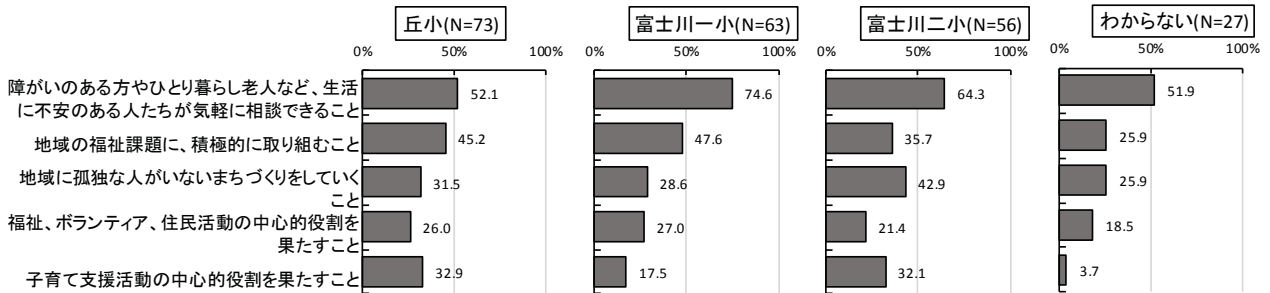
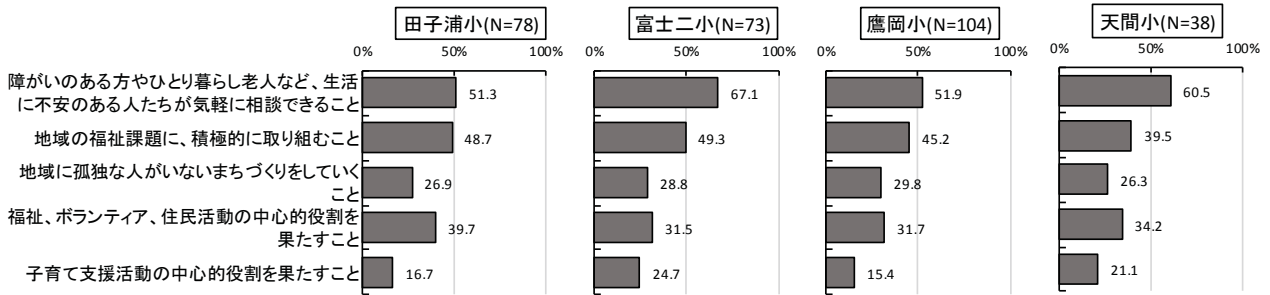
【経年変化】



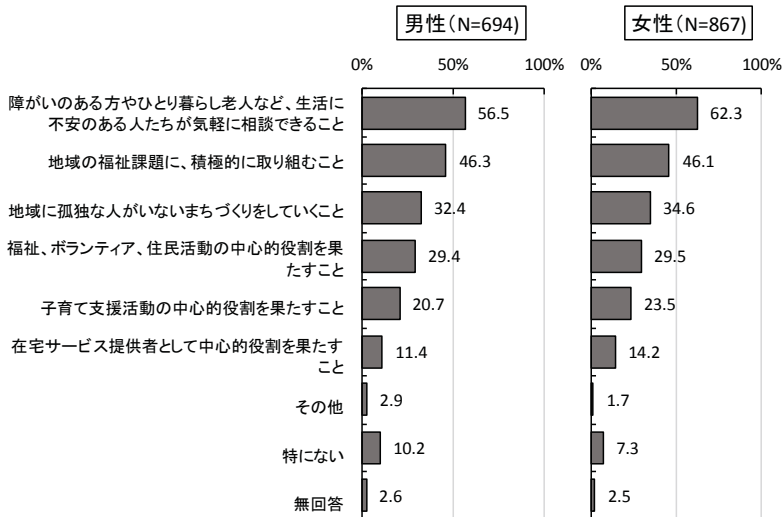
前回の調査結果と比較すると、「障がいのある方やひとり暮らし老人など、生活に不安のある人たちが気軽に相談できること」は平成21年が65.1%、平成26年が59.8%と、5.3ポイント低くなっている。

【小学校区】

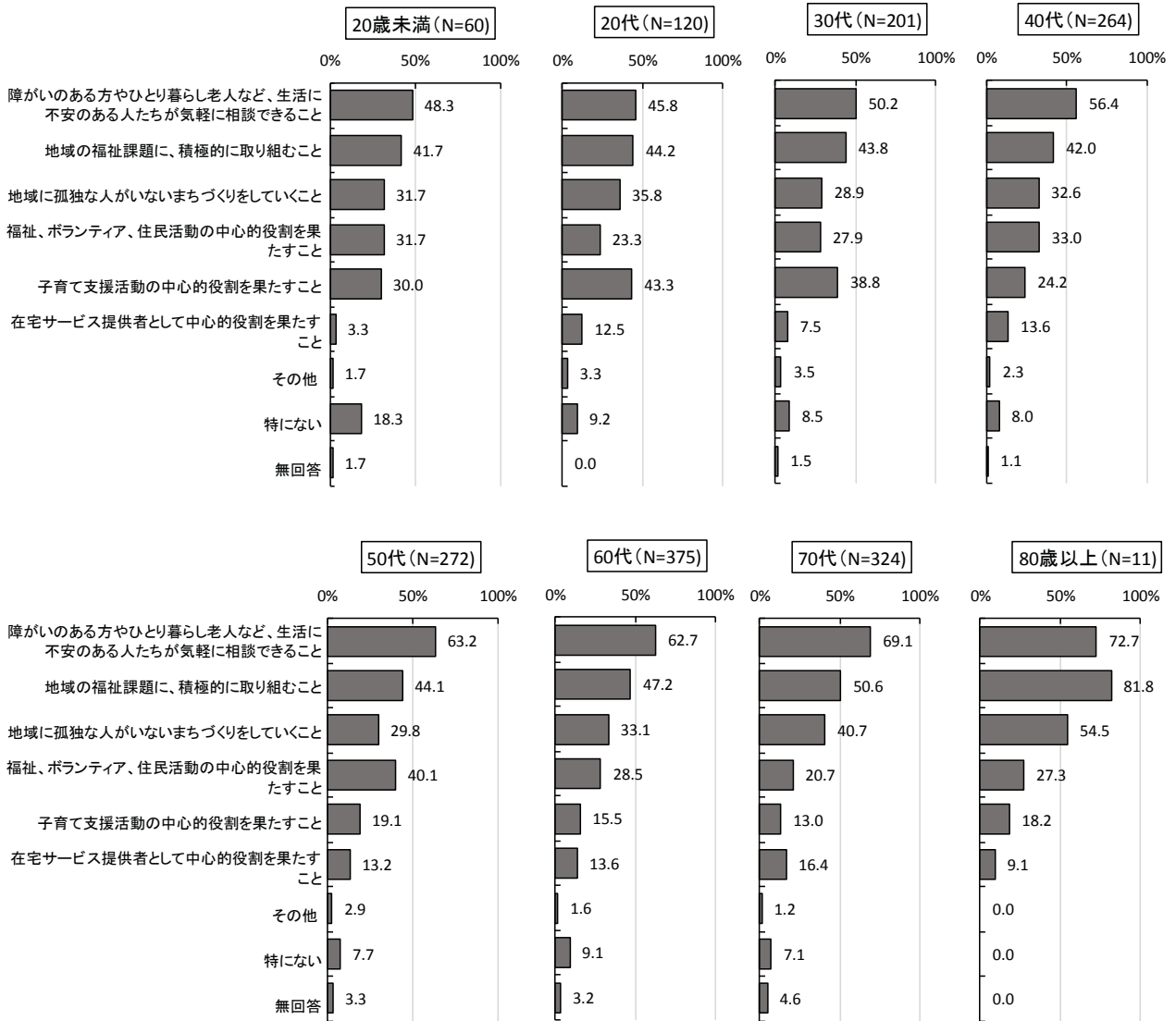




【性別】



【年代別】



性別でみると、「障がいのある方やひとり暮らし老人など、生活に不安のある人たちが気軽に相談できること」は男性が 56.5%、女性が 62.3%と、女性の方が高い。

年代別でみると、「障がいのある方やひとり暮らし老人など、生活に不安のある人たちが気軽に相談できること」は高齢層ほど高くなる傾向があり、70代では 69.1%となっている。

V 自由意見

V 自由意見

1.近所づきあい・地域のつながり …………… 76 件

- 近所の方との交流をもっと活発にしたい。(24 件)
- 個人情報壁になって、住民同士が助け合うのが、難しくなりつつある。(11 件)
- 日頃から、隣近所の助け合いが必要。(9 件)
- 挨拶のあるまちにしたい。(9 件)
- 地域住民がお互いに助け合って暮らし、声をかける事が大切だと思う。(4 件)
- 近所付き合いは難しい。(4 件)
- 地域の方が集まって気軽に話せる場所があったら良い。(3 件)
- 時代に合った地域福祉が必要だと思う。(3 件)
- 老人や病気の人が、一人で暮らしても安心出来るまちにしてほしい。(2 件)
- 昔から住んでいる方々と転居してきた者との壁がどうしてもある。転居してきた者はなかなかその地域住民として暮らすことが出来ない。(2 件)
- 近所とどう付き合い合えばいいのかわからない。(2 件)
- 行政主導でなく、家庭、地域主導となって取り組むべきことが多いと思う。(2 件)
- 地域の家庭状況を知らなければ、「共に助け合い支え合い」が出来ないと思う。
- 町内行事に参加してくれていた方で、お金の余裕が無いのでお付き合いが出来ないと遠ざかってしまうことがあった。このような理由で、顔を合わせる機会が減ってしまうのは残念。
- 子供がいれば学校などを通じて地域と関われるが、子供も老人もいない家では、どうやって地域と関わればよいのか分からない。

2.行政、政策への期待 …………… 66 件

- 子供・高齢者・障害者が安心して暮らせるまちにしてほしい。(16 件)
- 個人情報保護のもと、本当に支援が必要な人を見落とさないようにしてほしい。(7 件)
- 気軽に相談できる窓口が、近くにあるといいと思う。(6 件)
- 若者や定年者の雇用機会を増やしてほしい。(6 件)
- 地域内でのつながりが薄くなっている現代では、自治体の強いリードが不可欠だと感じる。(5 件)
- 税金を適切に利用してほしい。(4 件)
- 待機児童の問題を解消し、子育て支援を充実してほしい。(4 件)
- 各地区で出前講座を定期的で開催してほしい。(3 件)
- 認知症の人が増えているので、市として対応を考えてほしい。
- 相談員の人の豊富な知識も必要だと思う。
- 地域福祉に「結婚相談」は必要ないと思う。
- 母子家庭の子供を一時的に預けられるボランティアがあればいいと思う。
- 空き家対策を早急にしてほしい。
- 富士市ができる少子化対策に取り組んでほしい。

- 行政面で隣近所がもめる様な条例等を作らない様に配慮してほしい。
- もっと情報発信をしてほしい。
- 福祉相談窓口を土曜日に開いてほしい。
- 避難訓練の場所や時期を見直してほしい。
- 手広く福祉活動をするのではなく、何点かピックアップし重点的に活動を行ってほしい。
- 市民の意見を吸い上げて、それによりいつ、どのように改善されたのかが分からない。
- 国道1号線の清掃を行政で行ってほしい。
- 女性が子育てをしながら働く所を増やしてもらいたい。
- 学区が分かりづらい。

3.福祉について知ることができる体制づくり 55 件

- 社会福祉協議会というもの自体を知らなかった。困った時、どこで相談するか、どういうサービスが受けられるかよくわからない。もっと社協の活動 PR や活性化への取り組みを市と共に市民に見せていく必要があるのではないか。(37 件)
- 若者向けには Web を利用、年配の人向けにはチラシを利用などし、ターゲットに合わせた情報発信方法を工夫してほしい。(11 件)
- 全世代に興味をもってもらうような取り組みをお願いしたい。(2 件)
- 情報がなかった事でボランティアに参加したくても出来なかった。(2 件)
- 他の自治体での福祉活動の成功例や紹介を広報誌などに載せてほしい。
- 町内単位での活動内容を詳しく知れる機関がほしい。
- 誰が役員又は地域福祉の推進委員なのか分からない。

4 地域内の体制づくり 23 件

- 町内会、役員の組織改革が必要。(7 件)
- 福祉を必要とする方や障害者の方の把握が困難。災害時要援護者が自宅にいることが、誰が見ても分かるようなものがあれば良いと思うが、逆に色々な被害にあってしまう危険も高まるとして、実現が難しい。支援キットについても、あるのかないのかは判断ができない。(5 件)
- 行政と近隣等、縦、横、のつながりが大切。(3 件)
- 地域ごとに説明会や意見を聞く場を設けてほしい。(3 件)
- 地域活動の機会を頻繁に設けるべき。(2 件)
- お年寄り若い人が互いに助け合うような地域活動があると良い。(2 件)
- まず1軒1軒まわったほうがいいと思う。

5まちづくり …………… 29 件

- 交通機関が不便。過疎地域へも整備してほしい。高齢者の足になってくれる交通機関が必要。(14 件)
- 歩道や夜間の防犯灯が少なく、子供やお年寄りが独りで夜間歩くのは道も狭く、暗い為怖い。豪華な遊歩道を作るよりも、通学路を安全なものにしてほしい。歩道の整備にも気を配ってほしい。(7 件)
- コミュニティバスのバス座席と、本数を増やしてほしい。(2 件)
- 小さい子供が、外で遊びたくなるような環境づくりが必要。そうすれば、自然と高齢者と触れ合う機会が多少なりとも増えてくると思う。(2 件)
- 高齢者でも車を運転している人が多く、自分の運転が危ないと思いはじめている人でも車の運転をせざるを得ない人が多く見受けられる。
- 富士市には福祉タクシーの台数が少ないので増やしてほしい。
- ひまわりバスのパスポート券を作ってほしい。
- 道路のカーブミラーを、曇らない様に対応してほしい。

6.子どもに対する福祉教育 …………… 18 件

- 学校での教育・地域での福祉行事など取り組む必要がある。(5 件)
- 福祉に対して言えるのは、思いやりの心を各々が持つことが基本だと思う。その為には、各家庭での会話、子供達への教育が一番大切ではないか。(5 件)
- 地域で子供や老人、障害を持った人達を守り助け合える様な地域を作れる様、教育も含めて進めていく事。(5 件)
- 子供の頃からみんながボランティアに参加出来るような企画を多くすると良いと思う。(2 件)
- 小学校中学校に福祉の授業を加える、高校に福祉科を設ける。

7.活動の基盤整備 …………… 16 件

- 老人が一ヶ月に一度でもよいので、集まっておしゃべりや、お茶をするような場所が出来ると嬉しい。(11 件)
- まちづくりセンターなどをもっと使いやすくしてほしい。(2 件)
- 困った時に相談出来る場所が、もっと増えると良い。
- ハッピーネス f u j i はとてもよい事業だと思う。
- 子育て世代の誰もが交流し、情報交換が出来るような場所や機会の整備が必要。

8.ボランティアに参加するための環境整備…………… 15 件

- 自分の出来ること、得意分野である事なら手伝いできる。(5 件)
- 「地域の役に就く」ことが「貧乏くじをひいた」ことにならぬ様、適当な謝礼やお礼を渡し、無償のボランティアという考えや仕組みを改めることも必要。(4 件)
- 点字や手話などの講座を教える機会、教えてもらえる機会がほしい。(1 件)
- 企業主体でボランティアにも取り組むと良い。(2 件)
- 講習などは平日の昼間の開催が多く、参加しにくい。
- シルバー人材の登録先を増やしたり、出張したりすることなどはムリでしょうか。
- ボランティアの人は意志を強く、心を強く、自尊心を持つことが大事だと思っている。

9.お年寄りへの声かけ…………… 13 件

- 地域での見回りや声かけ活動を実施してみてもどうか。(10 件)
- 一人暮らしの老人などが生活に困らないような、ネットワーク作りをしてほしい。急に介護が必要になったときに頼れるシステムがあると良い。(2 件)
- 近所での声かけをするように心がけている。

10.啓発…………… 11 件

- 若い方にもっと福祉に参加して頂き、共に協力出来たらいいと思う。(5 件)
- 一般市民の福祉に対する意識を高める必要があると思う。(2 件)
- 団塊の世代が退職し、世の中に溢れている。この世代をターゲットに生きがいや、社会的役割をもつことがより豊かな人生となるように研修等、啓発活動に期待したい。
- 地域全体で子供を育てるという意識を向上させていくことが必要。

11.人材育成、専門職のレベル向上…………… 10 件

- これからの福祉従事者の育成に力を入れてほしい。(4 件)
- 人望のある行動力のあるリーダーが必要である。(2 件)
- リーダーシップをとる人及び職員が、専門家である熱意のある人を採用しないと、活動が滞る。(2 件)
- 法律やサービス内容、提供の仕方が、どんどん変更していくので、理解する(つい前はこうだった。とってしまう)のが大変。
- 福祉の仕事をしている人の給料をもう少し上げてほしい。

12.市の職員・社会福祉協議会の職員について ……9件

- 市の職員の方には、相談をしに行った際に案内だけではなく具体的な解決方法への手助けをしてほしい。(4件)
- 市の職員の方に福祉の現場を体験し、行政に活かしてほしい。(2件)
- 市の職員の方には、あまりマニュアル化しないで、柔軟な対応をしてほしい。(2件)
- 社協の方々は、忙しい中でも、電話での対応や窓口での相談は、親切丁寧で納得するまで付きあって下さるので、とても感謝している。(2件)
- 社協の方々はもっと積極的に地域に出て、リーダー役を担ってほしい。

13.施設整備、施設への入居について ……8件

- 市のホームを設立してほしい。(4件)
- 老人向けの福祉サービスを充実させてほしい。(2件)
- ケアマネージャーさんには、急な病院通い等の介護タクシーの利用等でも、素早く手配して下さって大変助かっている。
- 家族不在時にお年寄りを病院に連れていってくれれば、家族にとって非常に助かる為、そのような活動も取り入れてほしい。

14.障害者福祉 ……8件

- 障害者のいる家族に対してもう少しでいいので、暖かい目を向けてほしい。(3件)
- 高齢者への理解や高齢者施設の建設はスムーズですが、障害者・児の受け皿や理解はまだまだ厳しい。障害を持つ我が子の行く末が、親としてはとても不安、心配。(3件)
- 体や足の不自由な人や障害者の為の、移動の散髪屋さんや八百屋さんを1ヶ月に1回～2回ぐらいお願いしたい。
- 障害がある方が自主生活できるような、住宅対策や移動手段の確保をお願いしたい。

15.費用 ……7件

- 介護福祉施設はたくさんできたが、費用の関係で利用出来ない人がたくさんいる。もっと安く利用出来るようにしてほしい。(3件)
- 福祉目的の為、敬老会の食事会、金券等を頂くのはありがたいが、それらの資金を本当に困っている方々に使って頂くのが良いと思う。(2件)
- 公共施設で興味ある講座に行き始めて7年目。昨年迄は補助金が出ていたようだが、今年からはゼロとのこと。
- 放課後児童クラブへの援助金額をもっと増やして、女性の社会進出をしやすくしてほしい。

16.防犯（安全）対策 ……………6件

- 災害時の備え、対策に力を入れてほしい。(2件)
- 小学校の通学時、交通事故など起こらないように気を付けてほしい。
- 子供が防犯ブザーをならしても誰も出てこない現状をなんとかしてほしい。
- 災害時の情報共有の仕方を工夫してほしい。
- 災害が起こった時、動物（特に犬や猫などのペット）のことを考えた取り組みをしてほしい。

17 その他 ……………35件

- アンケートを通じて、今まで自分が知らなかった事が、たくさんあることに気付いた。(8件)
- 日常生活の現状意識を今回のアンケート調査から吸い上げ、地域福祉全般に生かしてほしい。(2件)
- 自分の家族の事で、精一杯で周囲にまで中々気配りできないのが現状。(5件)
- 地域住民が助け合ったり地域福祉に携わっている方には感謝している。(4件)
- 誰もが一生安心して暮らすことは無理。(2件)
- これからは福祉について考える機会が増えそう。まずは、自らの意識を変えていきたい。(2件)
- 行政が過度に介入しない。NPO 協働をすすめる。
- NPO 法人に対する寄付金が寄付金控除の対象になれば良いと思う。
- 薬物使用者がいらないまちにしてほしい。
- 障害者は、どうしてそんなに障害者ぶって多くを要求してくるか理解できない。
- 救急車をタクシー代わりに使わないでほしい。
- スーパーとコンビニを増やしてほしい。郵便カードが使える機械を入れてほしい。
- 自身の事で精一杯な社会なので、淋しい世の中になったと感じる。
- 地域福祉会はあるがメンバーをどのようにして決めたのか不明。
- 各地域にある福祉協議会が本来の役割を果たしていない。町内会のイベントの手助けになっている。
- 女性はあちこちに顔を出しているが、男性は案外引きこもりになっている。こういう男性を大いに活用してほしい。
- 高齢者には暖かい富士市はとても生活しやすいし、雪が降らない事がありがたい。
- 難しい面が多いと思うが基本的には、共存共栄の精神が必要だと思う。